松本市文化財調査報告　No.142

長野県松本市

HIRASE

平瀬遺跡 II

—緊急発掘調査報告書—

2000.3

松本市教育委員会

長野県松本市

HIRASE

平瀬遺跡 Ⅱ

—緊急発掘調査報告書—

2000.3

松本市教育委員会

序

平瀬遺跡は松本市北西部の島内地区に位置します。本遺跡は埋蔵文化財の包蔵地として知られており、平成８年に第１次調査が行われています。

このたび当地に国道147号線のバイパス築造が計画されたため、松本市では松本建設事務所から発掘調査の委託を受け、埋蔵文化財を記録する目的で緊急発掘調査を実施することとなりました。

発掘調査は市教育委員会によって平成10年６月29日から平成11年１月25日にかけて行われました。長期にわたる調査となりましたが関係の皆様のご尽力により無事終了することができました。発掘調査の結果、古墳時代から中世にかけての集落址を発見することができました。これは、今後地域の歴史解明に大変役立つ資料になることと思われます。

しかしながら、開発事業に先立って行われる発掘調査は、記録保存という遺跡の破壊を前提とする側面があることも事実です。開発により私たちの生活が豊かになる一方、それにともない歴史遺産が失われてしまうのは残念なことですが、発掘調査により当時の生活が明らかとなり、私たちの郷土松本が歩んできた歴史が一つずつでも解き明かされることは大変貴重なことだと考えます。

最後になりましたが、発掘調査に多大なご理解とご協力をいただいた松本建設事務所の皆様、地元関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

平成12年３月

松本市教育委員会　教育長　竹 淵 公 章

例　言

1　本書は、平成10年6月29日から平成11年1月25日にかけておこなわれた、松本市大字島内7214番地他に所在する平瀬遺跡の発掘調査報告書である。

2　本調査は長野県松本建設事務所が一般国道147号線高家バイパス及び新島橋を建設するのに伴って松本市教育委員会がおこなったものである。

3　本遺跡は平成8年度、9年度に第1次の発掘調査を行っているため、今回を第2次調査とした。またその中で調査日程が3期に分かれており、それぞれ2次A、2次B、2次Cとした。なお遺構番号は先の調査の連番としている。

4　本書の執筆分担は次の通りである。

第1章：事務局
第2章第1節：森　義直
第3章第3節：澤柳秀利、荒木　龍、太田圭郁、竹原　学
第4章第2節：パリノ サーヴェイ株式会社
上記以外：澤柳秀利

5　本書の作成・編集にあたっての作業分担は次の通りである。

遺物洗浄接合：五十嵐周子、内澤紀代子、百瀬二三子
土器・陶磁器実測：竹内直美、竹平悦子、松尾明恵、横山真理
土器・陶磁器トレース：開嶋八重子、櫻井　了
石器実測：太田圭郁、加島泰祐、堀　久士
石器トレース：太田圭郁
金属製品保存処理：洞澤文江
金属製品実測：洞澤文江
金属製品トレース：洞澤文江
自然遺物分析：森　義直、パリノ サーヴェイ株式会社
遺構図調整・整理：石合英子、林　和子、加島泰祐、堀　久士
遺構図トレース：開嶋八重子、櫻井　了
図版組み：石合英子、澤柳秀利、林　和子、加島泰祐、堀　久士
写真撮影：（現場写真）荒木　龍、稲川大輔、太田圭郁、澤柳秀利
（遺物写真）宮嶋洋一
（航空写真）エアーテック
総括・編集：澤柳秀利

6　本書の中で使用した遺構名の呼称は次の通りである。

第1号住居址→1住　第1号掘立柱建物址→1建　第1号土坑→1土　第1号ピット→Ｐ1
第1号竪穴状遺構→1竪　第1号溝址→1溝　第1号流路址→流路1　第1号土器集中域→土集1
第1号石列→石列1
遺物包含層調査におけるグリッド番号の呼称は、そのグリッド北東隅の座標を用いている。

7　土器・陶磁器の実測図において断面図の白抜きは土師器で、（古）は古墳時代土器を表わす。スミ塗りは須恵器、陶器、磁器で、（緑）は緑釉陶器、（青）は青磁、（白）は白磁、（青白）は青白磁、（須）は須恵器、（陶）は陶器を表わし、表示のないものは灰釉陶器である。

8　本遺跡の調査及び本書の執筆・作成にあたって次の方々のご教示、ご協力をいただいた。記して感謝申し上げる。
大久保知己、倉澤正幸、佐々木明、佐野　元、西沢寿晃、野村一寿

9　本調査における出土遺物及び現場で作成した測量図、写真等の諸記録は松本市教育委員会が管理し、松本市立考古博物館に保管・収蔵されている。（松本市立考古博物館 〒390-0823　長野県松本市大字中山3738番地1
TEL 0263-86-4710）

目　次

序
例言
目次
図・表目次

第１章　調査の経緯……5
　１．調査に至る経過……5
　２．調査体制……5
第２章　遺跡の環境……6
　第１節　遺跡の立地と地形・地質……6
　第２節　歴史的環境……8
　第３節　第１次調査の概要……11
第３章　調査結果……13
　第１節　調査の概要……13
　第２節　遺構……16
　１．概観……16
　２．竪穴住居址……16
　３．掘立柱建物址……24
　４．土坑……24
　５．ピット……25
　６．竪穴状遺構……25
　７．溝・流路址……25
　８．土器集中域……26
　９．石列……26
　第３節　遺物……50
　１．土器・陶磁器……50
　２．瓦……88
　３．金属製品……88
　４．石器……93
第４章　自然遺物分析……123
　第１節　出土炭化材・炭化物……123
　第２節　出土炭化材放射性炭素年代測定結果……125
第５章　調査のまとめ……127
写真図版

図目次

第 1 図　平瀬遺跡Ⅱ土層柱状断面 …… 7
第 2 図　遺跡の位置と周辺遺跡 …… 9
第 3 図　調査範囲 …… 10
第 4 図　第1次調査A・B全体図 …… 12
第 5 図　平瀬遺跡Ⅱ全体図北半部 …… 14
第 6 図　平瀬遺跡Ⅱ全体図南半部 …… 15
第 7 図　第5～7・10号住居址 …… 31
第 8 図　第8・9・13号住居址 …… 32
第 9 図　第11・14・15号住居址 …… 33
第10図　第12・17・18・20号住居址 …… 34
第11図　第16・19・21・23号住居址 …… 35
第12図　第22・24・25・28号住居址 …… 36
第13図　第26・27・29・30・32・33号住居址 … 37
第14図　第31・34～37号住居址 …… 38
第15図　第38～45号住居址 …… 39
第16図　第47～51・53・66号住居址 …… 40
第17図　第52・55号住居址 …… 41
第18図　第54・56～58・60・64・78号住居址　42
第19図　第61・63・65・68・77号住居址 …… 43
第20図　第67・73～76号住居址 …… 44
第21図　第69・79・80号住居址 …… 45
第22図　第81～86号住居址 …… 46
第23図　建物址、竪穴状遺構、土器集中域　47
第24図　土坑(1) …… 48
第25図　土坑(2)、溝址 …… 49
第26図　土器器種・器形一覧 …… 58
第27図　土器・陶磁器(1) …… 72
第28図　土器・陶磁器(2) …… 73
第29図　土器・陶磁器(3) …… 74
第30図　土器・陶磁器(4) …… 75
第31図　土器・陶磁器(5) …… 76
第32図　土器・陶磁器(6) …… 77
第33図　土器・陶磁器(7) …… 78
第34図　土器・陶磁器(8) …… 79
第35図　土器・陶磁器(9) …… 80
第36図　土器・陶磁器(10) …… 81
第37図　土器・陶磁器(11) …… 82
第38図　土器・陶磁器(12) …… 83
第39図　土器・陶磁器(13) …… 84
第40図　土器・陶磁器(14) …… 85
第41図　土器・陶磁器(15) …… 86
第42図　土器・陶磁器(16) …… 87
第43図　瓦拓影・実測図 …… 90
第44図　銅製三尊仏略測図(参考資料) …… 90
第45図　金属製品銭拓影 …… 90
第46図　金属製品(1) …… 91
第47図　金属製品(2) …… 92
第48図　平瀬遺跡ⅡC遺構間接合・同一母岩資料分布図 103
第49図　平瀬遺跡ⅡC遺物出土状況図(1)　104
第50図　平瀬遺跡ⅡC遺物出土状況図(2)　105
第51図　平瀬遺跡ⅡC遺物出土状況図(3)　106
第52図　平瀬遺跡ⅡC遺物出土状況図(4)　107
第53図　平瀬遺跡ⅡC遺物出土状況図(5)　108
第54図　平瀬遺跡ⅡC遺物出土状況図(6)　109
第55図　平瀬遺跡ⅡC出土石器(1) …… 110
第56図　平瀬遺跡ⅡC出土石器(2) …… 111
第57図　平瀬遺跡ⅡC出土石器(3) …… 112
第58図　平瀬遺跡ⅡC出土石器(4) …… 113
第59図　平瀬遺跡ⅡC出土石器(5) …… 114
第60図　平瀬遺跡ⅡC出土石器(6) …… 115
第61図　平瀬遺跡ⅡC出土石器(7) …… 116
第62図　平瀬遺跡ⅡC出土石器(8)、ⅡA、ⅡB出土石器 117
第63図　平瀬遺跡ⅡC遺構間土層対比模式図 119

表目次

第 1 表　住居址一覧表 …… 27
第 2 表　掘立柱建物址一覧表 …… 29
第 3 表　竪穴状遺構一覧表 …… 29
第 4 表　溝・流路址一覧表 …… 29
第 5 表　土坑一覧表 …… 30
第 6 表　土器観察表 …… 59
第 7 表　金属製品一覧表 …… 89
第 8 表　器種一覧 …… 100
第 9 表　石材一覧 …… 100
第10表　平瀬遺跡ⅡAB遺構単位器種組成101
第11表　平瀬遺跡ⅡAB遺構単位石材組成101
第12表　平瀬遺跡ⅡC遺構単位器種組成　101
第13表　平瀬遺跡ⅡC遺構単位石材組成　101
第14表　平瀬遺跡ⅡAB石材単位器種組成101
第15表　平瀬遺跡ⅡC石材単位器種組成　101
第16表　平瀬遺跡ⅡC母岩別資料一覧 … 102
第17表　平瀬遺跡ⅡC遺構・土層単位集計 118
第18表　平瀬遺跡ⅡC出土石器属性一覧　120
第19表　平瀬遺跡ⅡAB実測図掲載個体属性一覧122
第20表　出土炭化物・炭化材一覧表 …… 123
第21表　樹種一覧表 …… 124
第22表　放射性炭素年代測定表 …… 125

第１章　調査の経緯

１　調査に至る経緯

平成 10 年 4 月 17 日　松本建設事務所において試掘調査、本調査の日程調整

5 月 27 日

～6 月 2 日　道路予定地のうち、南東部分について試掘調査を実施。遺物を確認する。

6 月 9 日　松本建設事務所と保護協議。道路部分のうち、新島橋橋梁建設部分、本線南東部分について埋蔵文化財発掘調査を行い、記録保存を行うこととした。

6 月 10 日　道路予定地のうち、北西部分について再度試掘調査を実施。遺構・遺物の確認はなし。

6 月 29 日　松本建設事務所と発掘調査委託契約を締結。発掘調査を開始する。

２　調査体制

(1)　調査団

調 査 団 長　松本市教育長　守屋立秋(～H10.6.30)　舟田智理(H10.7.1～H10.10.15)　竹淵公章 (H10.11.1～)

調査担当者　澤柳秀利、荒木龍、太田圭郁、稲川大輔 (松本市立考古博物館)

調　査　員　松尾明恵

協　力　者　麻和角弥、麻和一男、浅輪敬二、麻和元重、荒井留美子、飯田三男、五十嵐周子、石合英子、石川三男、入山正男、内沢紀代子、太田万喜子、大月八十喜、岡村行夫、開島八重子、加島泰祐、上條道代、菊池直哉、北坂実恵、久保田登子、窪田瑞恵、輿喜義、小松正子、近藤忠美、齋藤政雄、清水陽子、鈴木幸子、諏訪部有紀、瀬古雅大、高橋登喜男、滝沢喜美代、竹平悦子、田崎真理、田中一雄、鶴川登、中村恵子、中村地香子、中谷高志、中村自子、林和子、林武佐、廣田早和子、藤井道明、二木一男、布野行雄、布山洋、洞澤文江、堀久士、堀内早苗、待井敏夫、丸山喜和子、道浦久美子、宮坂ふみ、宮田美智子、村山牧枝、百瀬二三子、森山亮、矢﨑寛子、山崎照友、吉田勝、横山清、横山尚澄、横山喜治、横山真理、渡邉順子

(2)　事務局

（平成10年度）

松本市教育委員会　木下雅文 (文化課長)、熊谷康治 (文化課長補佐)、村田正幸 (文化財担当係長)、久保田剛、近藤　潔、上条まゆみ

（平成11年度）

松本市教育委員会　木下雅文 (文化課長)、熊谷康治 (文化課長補佐)、松井敬治 (文化財担当係長)、久保田剛、武井義正、酒井まゆみ(旧姓上条)

第２章　遺跡の環境

第１節　平瀬遺跡の地形・地質

本平瀬遺跡は松本市の北西、城山から北へ延びる筑摩山地の西麓を洗って流れる奈良井川が、梓川と合流して犀川となる地点のすぐ南側で、標高575m前後の両河川にはさまれた氾濫原にある。

１　本遺跡に直接関係ある両河川について

梓川は松本盆地を形成した主河川で、源を北アルプス槍ケ岳に発し、南安曇郡島々付近を扇頂として南安曇・東筑摩両郡にわたる広大な扇状地を形成している。扇状地形成後右岸に四段、左岸に三段の河岸段丘を形成した。右岸の上位二面と左岸の一面にはローム層が載っているので、洪積世のものとみられ、それ以下は沖積世のものである。

本遺跡に直接関係のあるのは最下段の面であり、右岸でいえば波田町押出付近から広がる押出面、左岸でいえば梓川村岩岡付近で代表される岩岡面である。本遺跡は岩岡面の一部と考えられ、現梓川の氾濫原にできた微高地（後述）である。

梓川は河況係数（最少流量に対する最大流量の比）の極めて大きな河川、即ち荒れ川で、安曇ダムができるまでは、しばしば氾濫を繰り返して流路が首を振り、有史以後においても新村付近から城山方向に向かって流れ、そこで奈良井川と合流していた時期もあり、その址が現榑木川として残っている。

その後、中近世には洪水の記録が多く残っており、梓川村岩岡～豊科町上真々部付近でしばしば決壊し、西は上鳥羽～矢原を結ぶ線にまで達したこともある。

したがって、本遺跡付近は榑木川と上鳥羽～矢原線のちょうど中間にあり、洪水の最危険地域ということができる。

奈良井川は源を木曽山脈駒ケ岳の北方に発して北流し、松本盆地に出てからは左岸に小曽部川・鎖川を、右岸に田川、薄川、女鳥羽川を合流し、それらの河川の扇状地と合して洗馬付近を扇頂とする広大な扇状地を作り、西は梓川扇状地と接し、両岸にそれぞれ三段の河岸段丘を形成している。

奈良井川は、河況係数は大きいが梓川ほどの荒れ川ではなく、島立付近より北では常に西から梓川の影響を受けつつ宮渕付近で筑摩山地の西山麓を洗いながら北流している。

２　本遺跡の地形・地質の成因について

発掘地点は、両河川の合流点付近から奈良井川左岸に沿って、約1.5kｍほどの長さに起伏を生じながら延びる自然堤防の北端近くにある。自然堤防の成因は、河川によって運搬される土砂の体積は流速の６乗に比例して増すので、逆に流速が１／２に減少すれば、運搬される土砂の体積は１／64に減少して急速に堆積が起こる。本遺跡は奈良井川に対して梓川が約45°の角度で合流（衝突）しているので、両河川の洪水時には合流点の上流で、両河川にはさまれた所では水がよどみ、勢いの強かった梓川の洪水により、奈良井川左岸沿いに北へ大量の土砂を堆積させ、自然堤防を作りつつ流路が北へ移動し、現在に至ったものとみられる。即ち、梓川自身の作った自然堤防で流路が次第に変わったことになり、今でも自然堤防に沿って西側に、梓川の流れた跡が凹地となっている。

同じことは、遺跡の下流5.5km付近で、高瀬川と犀川が180°反対方向から衝突する合流点の上流側でも、土砂の堆積がみられる。

自然堤防の形成時期ははっきりしないが、弥生時代末から古墳時代前期頃の大洪水で、それまで榑木川方向に流れていた梓川の本流が、下流に向かって最短距離の方向に流路をとったことが認められる。なお、時代推定の根拠は、遺跡付近に弥生時代の遺構がないこと・段丘の年代や地形の変遷・炭化物にコナラが減り、雑木が多いこと、などから推定される。

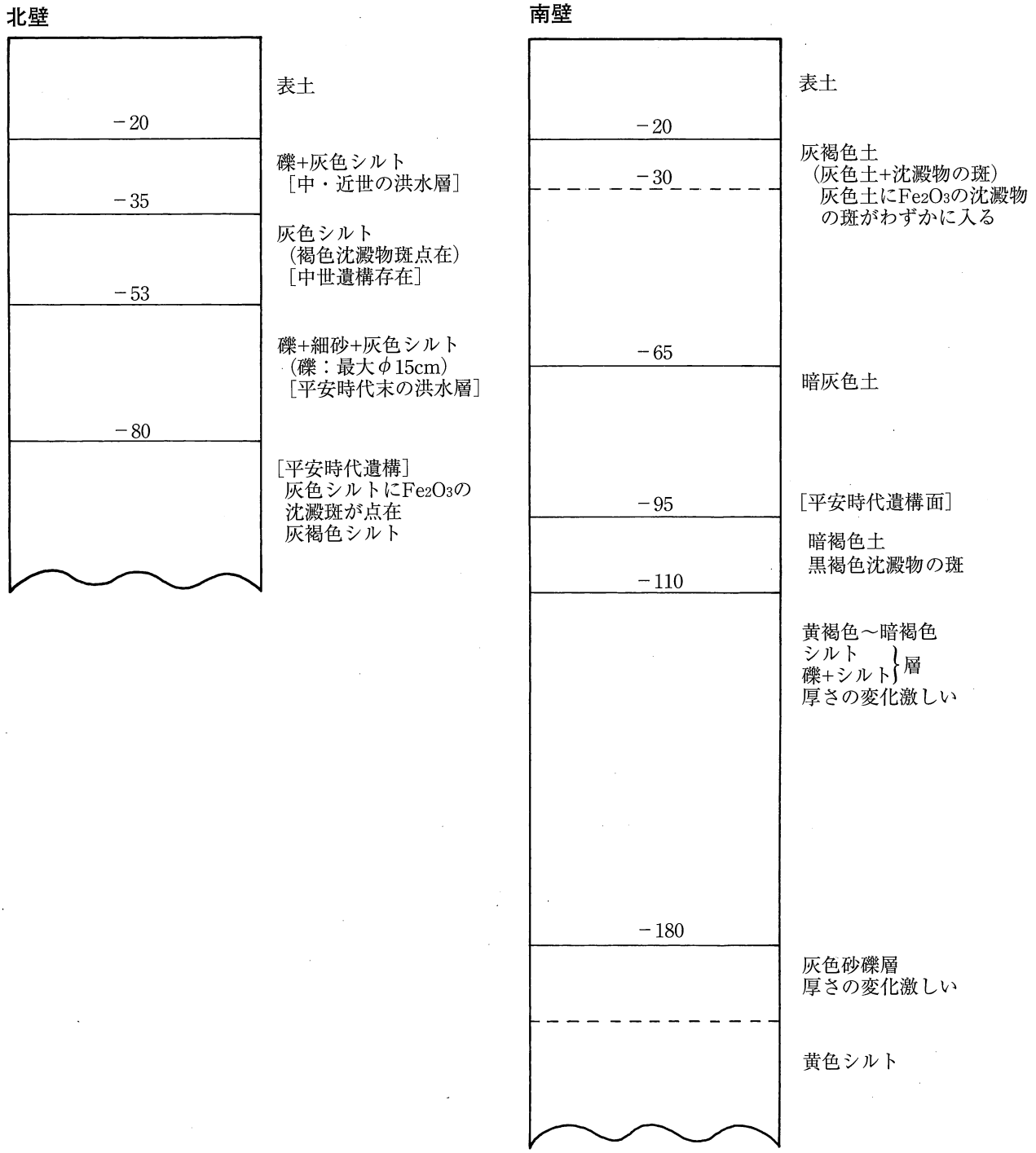
３　自然堤防形成以後について

本遺跡のＡ地区は尾根状に堆積した自然堤防の北の先端近くにあり、Ｂ地区はＡ地区の尾根筋付近に、一番広く発掘したＣ地区は、尾根状堆積の東斜面で尾根筋に沿って南北方向に発掘され、地山は中程が船底状に低くなっている。

尾根状の自然堤防が形成されてから以後についてみると、洪水性堆積物は極めてふるい分けが悪く、堆積後細粒の堆積物は雨水により洗い出されて凹地を埋め、その結果シルトや粘土などはレンズ状に重なって堆積した。このような二次堆積物の上に古墳時代～平安時代の住居が作られ、引き続いて細粒堆積物の洗い出しは続いているため、古い遺構は洗い出された堆積物で次第に埋没していった。

平安時代末頃の松本平一帯を襲った大洪水（北は借馬遺跡・東は岡田町遺跡…を洪水層が覆っている）により、A地区付近から尾根状微高地を越え、B地区の大半を洪水による、ふるい分けの悪い砂礫が堆積した（第１図の北壁参照）。その後尾根筋からの洗い出しでシルト質がその上に堆積し、そこに中世の遺構が存在する。更に、このシルト質を覆って中・近世に起きた洪水で、ふるい分けの悪い砂礫がB地区とC地区の大半に堆積した。

現在の表土は、この洪水層の上に雨水で洗い出されたシルト質が堆積し風化したものである。なおB地区の南端は、洪水の直撃を受けなかったらしく、平安時代住居址より上には、ふるい分けの悪い砂礫層はなく（第１図の南壁参照）、洪水時の濁り水か、以後の洗い出しによるとみられる細粒の堆積物が載っている。



第1図　平瀬遺跡Ⅱ　土層柱状断面（西側）

第２節　歴史的環境

島内地区は、現在の行政区画では松本市大字島内となっているが、近世以前は安曇郡、筑摩郡とその所属が変わっているところで、両地区にまたがる地域であるといえる。

前節でも述べた通り、この地区の歴史を語る上で欠くことの出来ない要素として梓川と奈良井川(木曽川)の両河川がある。特に梓川は、古来より知られる暴れ川で、近代まで氾濫を繰り返してきている。そのため、島内地区の平地部においては、集落は発達せず、遺跡はないと考えられてきた。しかし昭和40年代以降、圃場整備に先立つ発掘調査の増大によって、次第に明らかになってきた。

縄文時代の遺跡は、この周辺ではほとんど確認されていない。奈良井川右岸の下平瀬地区でわずかに土器が採集されている程度である。さらに東の丘陵部分である山田集落の周辺では、旧石器時代から縄文時代にかけての遺構・遺物が確認されている。弥生時代になると、全く遺構・遺物の確認はされない。

古墳時代については、平瀬遺跡は該期の遺跡としては周知されていない。前回の第１次調査において平安時代面の100cm下より確認された古墳時代の土器集中域は、この周囲に該期の集落が存在していたことを示しており、今回の調査で住居址が確認できたことは、それを証明したといえる。奈良井川右岸の坂下(泣坂)古墳群に関連するのではないかとも考えられるが、古墳自体の解明がされていない現在では断言できない。

奈良・平安時代の平瀬は、梓川と奈良井川の合流する部分、三角形の段丘上に広がる集落である。時期についても、第１次調査においては４軒の住居址が確認されただけで詳細は不明であったが、今回の調査によって、平安時代後半の11～12世紀から12世紀以降の中世初頭鎌倉時代にかけて存続した集落であることが判明し、特に11～12世紀には最盛期を迎えていることが確認できた。平瀬の地名は、神奈川県の鎌倉文庫所蔵文書に、養和２年(1182)に源延という僧が平瀬法住寺において『簡素要略』を書写したという記録がある(註１)ことから、古代末には存在したことがわかる。またそれにより、法住寺という寺院が平瀬に存在していたことが明らかとなった。しかしその正確な位置、存続期間は不明で、よって遺構もまた不明である。痕跡として周辺に寺村、寺畑等の小字名を残すのみであり、また、近年まで経塚と思われる塚が存在しており、道路拡幅に際して破壊され、現在は位置も不明となっているが、その周辺での青磁、白磁等の輸入陶磁器片、古瓦の出土が寺の存在を想起させるのみとなっている。

中世の平瀬は、先述の法住寺及び平瀬城の存在が大きな割合を占める。またこの地に居住した犬甘氏の一族平瀬氏との関係を切り離して考えることはできない。とはいえ先述のように法住寺の実体は明らかでなく、鎌倉～室町時代、13～15世紀の平瀬については文献もほとんどない。16世紀の記録では、その初頭に他の小宮、犬甘嶋村とともに穂高神社に奉仕していたことが知られる(註２)。中頃になると、隣国甲斐の戦国大名武田氏が信濃に侵攻し、府中(松本)は天文19年(1550)に武田領となった。それにより信濃守護小笠原氏は没落したが、平瀬城の平瀬氏を含む一部家臣は武田氏に抵抗していた。しかし翌年10月24日、武田軍の攻撃を受けて平瀬城は落城し、城兵204人が討ち取られた。武田氏はすぐに平瀬城を改修して前線基地として使用し、2年後の天文22年に破却している(註３)。平瀬城は、詰めの城(山城)が奈良井川右岸山中に存在し、遺構を残している。しかし平地居館址は不明で、調査地の南、川合鶴宮神社境内が比定されているが、周囲の試掘調査結果では遺構の確認はなく、これもまた詳細は不明である。

近世以降、島内地区は松本藩領となり、他の10ヶ村とともに安曇郡成相組に属する。江戸時代後期の文化13年(1816)、新橋北の木曽川(奈良井川)から取り入れる灌漑用水、拾ヶ堰が開鑿された。梓川左岸の安曇郡10ヶ村の新田開発に供するもので、平瀬川西地籍内を現在も南東から北西へ流れ、豊科町・穂高町等の水田を潤している。

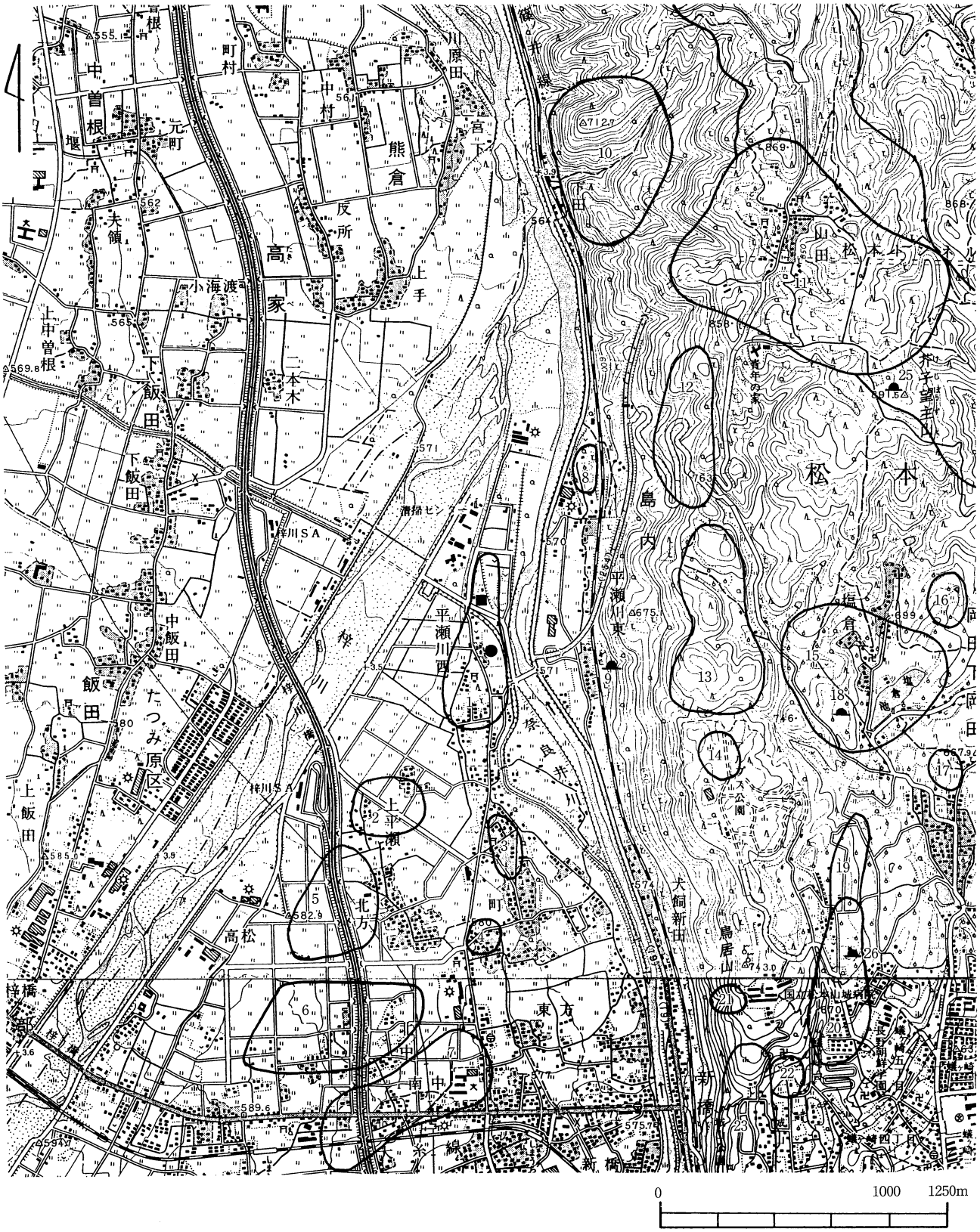
明治７年(1874)、近世の周辺11ヶ村は合併して南安曇郡島内村となる。同12年には東筑摩郡に編入され、昭和29年に、他の東筑摩郡の村村とともに松本市と合併し、松本市大字島内となっている。

参考文献：松本市　1993『　松本市史　―第四巻　旧市町村編Ⅲ―　』

註１：信濃史料補遺巻上　念誦次第 天台　本云、養和二年三月一日、於信州平瀬法住寺、味岡御房奉受了、　源延廿七
簡素要略　養和二年三月廿日、於信州平瀬法住寺、賜味岡御房御本書了、　源延廿七
交了　尊延

註２：信濃史料叢書二十四　三宮穂高社御造営定日記　明応十年、永正四年、天文十八年、天文二十四年、永禄四年、永禄十年、元亀四年、天正七年、天正十三年の条に記録がある。

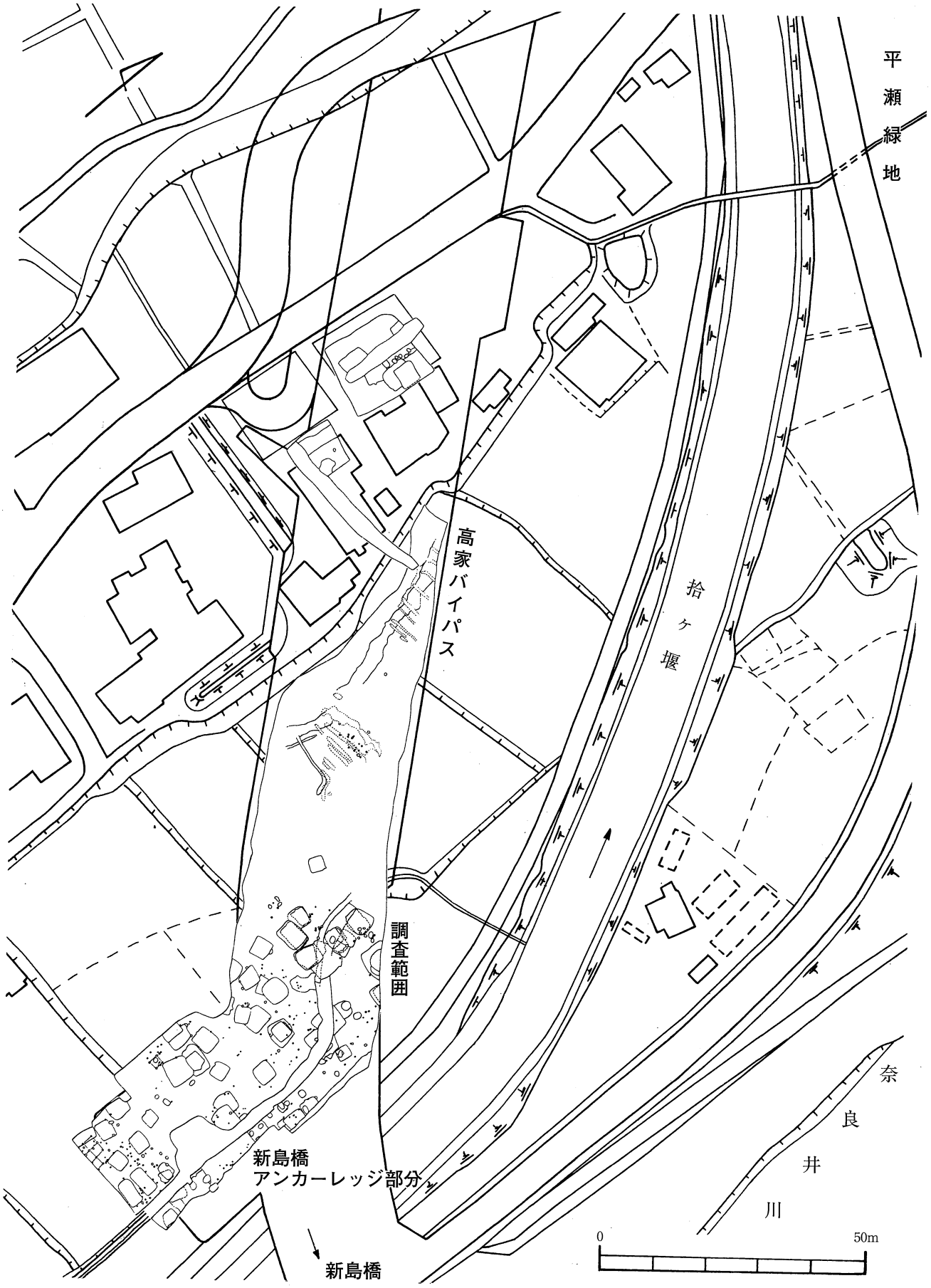
註３：武田史料集　高白斎記　天文二十年辛亥年。（前略）十月大朔日乙卯節。（中略）廿四日戊寅平瀬ヲ攻敗ル。敵二百四人被為討取候。終日細雨。酉刻ヨリ大雨。（中略）廿八日壬午午刻巳ノ方ニ向テ平瀬城割其上鍬立。十一月小朔日乙酉。（中略）十日甲午原美濃守平瀬ニ在城被仰付。（後略）
天文二十二年癸丑年。（前略）五月八日癸丑平瀬ノ城破却御覧、スグニ深志へ被納御馬（後略）



●印：今回調査地点、■印：第１次調査地点

1: 平瀬遺跡 2: 島内上平瀬遺跡 3: 島内八幡原遺跡 4: 犬甘館址 5: 島内北方遺跡 6: 島内北中遺跡 7: 島内南中遺跡
8: 坂下(泣坂)古墳群 9: 下平瀬権現堂古墳 10: 平瀬城址 11: 島内山田遺跡 12: 平瀬川東古窯址群 13: 御殿山城址
14: 老根田古墳 15: 塩倉池遺跡 16: 御宝殿遺跡 17: 土田遺跡 18: 塚山古墳 19: 神沢遺跡 20: 峰の平遺跡
21: 鳥居山古墳 22: 放光寺遺跡 23: 犬飼城址 24: 北部古窯址群 25: 芥子望主山古墳 26: 峰の平１号古墳

第2図　遺跡の位置と周辺遺跡



第3図　調査範囲

第３節　第１次調査の概要

１　概要

平瀬遺跡の調査は、平成８年度、９年度に第１次調査Ａ、Ｂが行われており、今回は第２次の調査となった。本節では第１次調査についてその概要を記しておく。

第１次調査Ａ、Ｂともに新焼却プラントに伴う平瀬緑地建設に先立ち、Ａ：平成８年５月30日から９月３日、Ｂ：平成９年６月11日から12日に実施された。位置的には遺跡の北側隣接地（当時は遺跡北側の隣接地、この調査結果により遺跡の範囲は北へ広がることが明らかになった）の奈良井川左岸段丘上で、すぐ東側が段丘崖となっている場所である。面積は延べ3,191㎡を測る。この部分では、現地表下70cmからは平安時代中期～鎌倉時代の面（２・１面）で、竪穴住居址・掘立柱建物址などの遺構が確認された。また平安～鎌倉面の下約１ｍからは古墳時代前～中期の土器集中域が２ヶ所・流路址１条がそれぞれ確認された(３面)。遺物も１・２面からは土師器・須恵器などの土器の他、輸入陶磁である白磁片も若干みられた。また特殊遺物として銅椀片、銅製三尊仏像、布目瓦といった仏教関連遺物が出土する遺構もみられた。これは、この辺りに存在したとされる法住寺が、文献上だけでなく、考古学上発見される可能性があることを示す資料となりうるものであると考えた。また、島内地区では古墳時代の遺構（古墳を除く）は発見されていなかったが、３面で確認した２ヶ所の土器集中域及びその遺物は、この周辺に古墳時代前期末～中期の集落が存在したことを示唆するものであると考えた。

２　遺構

第１次調査で検出した遺構のうち、平安～中世のものは竪穴住居址４棟、掘立柱建物址11棟、土坑41基、ピット380個、溝状遺構10条で、古墳時代のものは土器集中域２ヶ所と、流路址１条である。これらの遺構は、調査区の東～北部分に集中して広がり、西側部分では、ほとんど遺構はみられず、密度は希薄となっている。

４棟の竪穴住居址のうち１住、４住が中世Ⅰ期に属するとみられ、２住、３住が古代14～15期に想定されるため、両者の間に時間的差はあまりないとみられる。２住からは、銅製三尊仏像、銅椀が出土している。

11棟の建物址のうち１･8･10建は総柱式で他は側柱式である。また１～４建は、内側に土坑を取込むものである。平成７年度に実施した試掘調査の際、３建のＰ2底部から3/5程度残存する土師器皿が１点逆位で出土している。

土坑は多くみられた。これらのうち7･8･10･11土は建物址に取り込まれるものである。また1～6土は大型で、竪穴状遺構ともいえるもので、底部は平坦である。

ピットは多くみられたが、建物址を構成するもの以外の用途は分からない。

溝状遺構は、用途を明らかにできるものはなかった。流路は、南から北へ流れたと考えられ、第２章第１節で述べた弥生時代末～古墳時代前期にあったとされる梓川洪水の痕跡かもしれない。

２ヶ所確認された土器集中域は、いずれも流路右岸で検出したもので、規模は大きくないが、古墳時代前期に属する甕類片を中心に多くの遺物出土がみられる。出土状況からみて、流れ込みなどの自然によるものではなく、人為的に置かれたものと考えられる。いわゆる「水辺の祭祀」的なものではないだろうか。おそらく近傍に該期の集落が存在していたものと考える。出土遺物は２ヶ所合わせて整理用テンバコで３箱を数える。

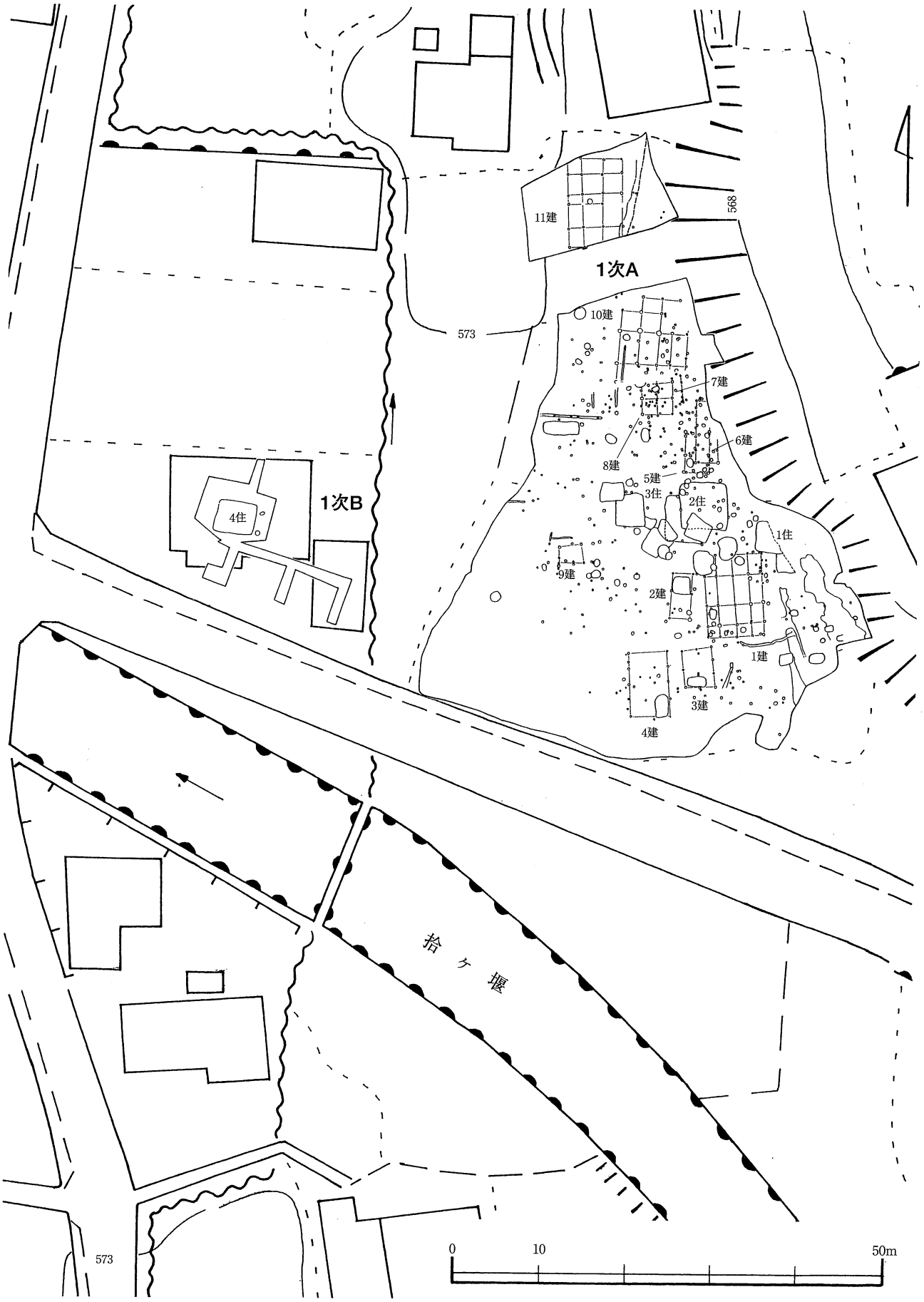
調査区西側の空白地帯の理由は不明である。しかしその更に西側にあたる１次Ｂ調査において、住居址他の遺構を確認しているため、集落内においてこのエリアに何らかの規制が存在し、そのため遺構が少ないと考える。

３　遺物

第１次調査での遺物は、古墳時代の土器がテンバコ３箱、平安～中世の土器・陶磁器がテンバコ５箱、特殊遺物として銅製三尊仏像１体、銅椀、鉄製品若干が出土している。

古墳時代前期末（４世紀末～５世紀）の土器は、３検の第１号及び第２号土器集中域から出土している。多くは甕片であり、纏まった形で出土している。接合できるものもあるが、多くは摩耗している。

平安～中世の遺物は、土師器・須恵器・黒色土器・灰釉陶器がみられる。ほとんどが住居址等の遺構内からの出土である。白磁片も５点出土している。特殊遺物として銅製三尊仏、銅椀、布目瓦といったものがみられ、いずれも住居址内から出土している。平瀬の地に法住寺と呼ばれる寺院があったとされることは前述のとおりであるが、これらの遺物は、その存在を示唆するものと考える。



第4図　第1次調査 A・B全体図

第３章　調査結果

第１節　調査の概要

１　調査地

今回の調査地は松本市大字島内7214番地他の水田、住宅地である。平瀬遺跡は、前述のとおり平瀬緑地造成に伴う第１次調査が平成８年、９年におこなわれており、今回が第２次調査となる。遺跡内のうち国道の対象面積は6000㎡で、そのうち試掘調査によって遺構の存在が確認された部分を中心に4255㎡について調査を実施した。

２　調査方法

今回の調査は、道路本体工事の都合上３回に分けて行った。調査を行った順に２次Ａ、２次Ｂ、２次Ｃとした。それぞれについて、２次Ａ調査は、新島橋橋梁アンカーレッジ部分、２次Ｂ調査は堰によって囲まれた水田で、橋梁アンカーレッジ部分の残り及び国道本線の一部、２次Ｃ調査は国道本線部分となる。調査にあたっては、重機を使用して整地層を除去している。２次Ａ調査区の中央に任意の基準点を設け、磁北を基軸として調査区内に３ｍの方眼を設定し、測量を行った。また、２次Ｃ調査については、平安時代の面的調査終了後に、重機によって再度掘り下げをし、遺物包含層のグリッド調査を行った。調査区の区分及び略称は、２次Ａ＝Ａ調査区（Ａ地区）、２次Ｂ＝Ｂ調査区（Ｂ地区）、２次Ｃ＝Ｃ調査区（Ｃ地区）、Ｃ調査区台上北地区（Ｃ台上北区）、Ｃ調査区台上南地区（Ｃ台上南区）とした。なお、全体図(北半部：第５図、南半部：第６図) のＮ、Ｓ、Ｅ、Ｗは方位を表し、数字は基準点からの距離を示している。遺構番号は、第１次調査の番号を継いでいる。

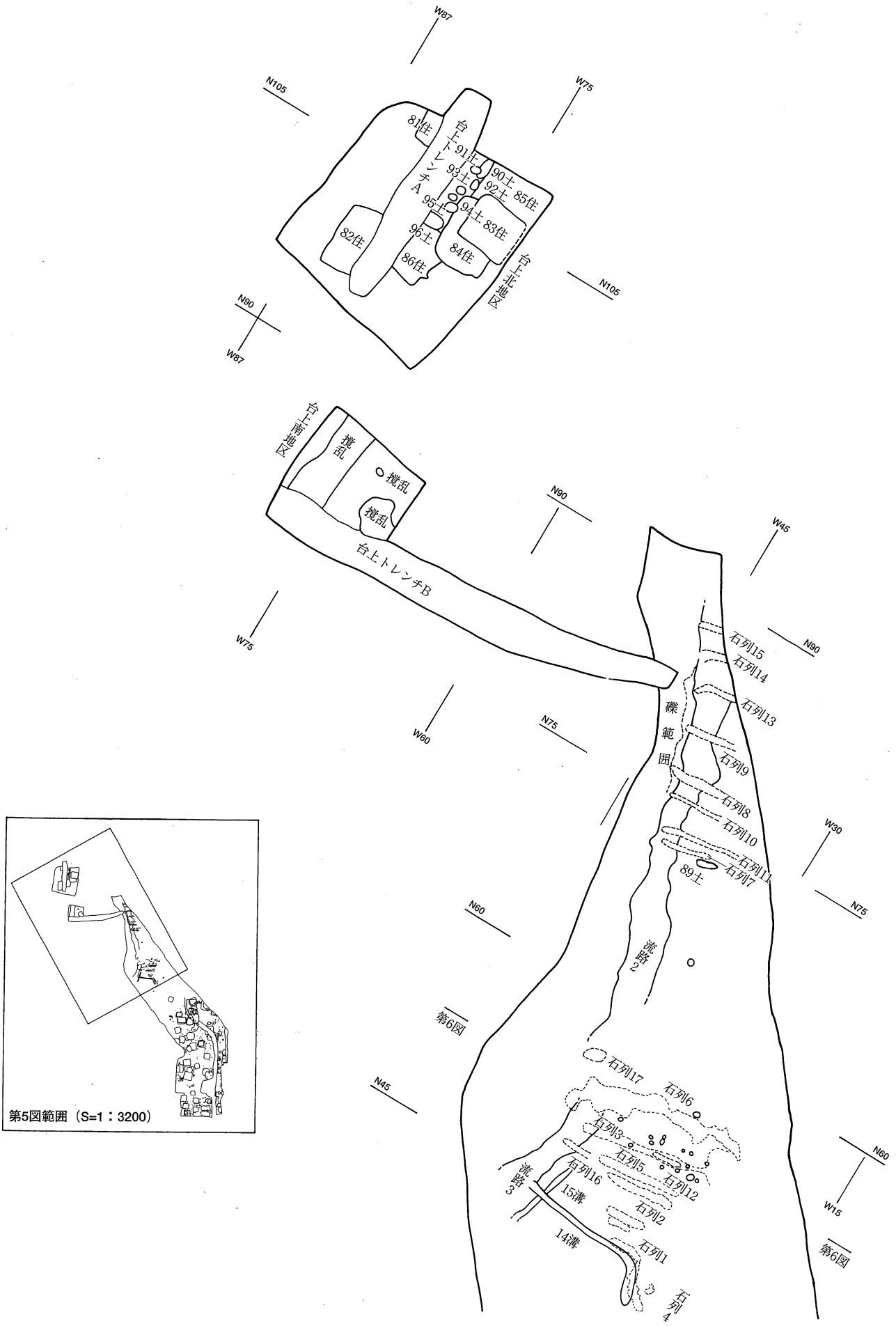
３　遺構

住居址76軒、土坑52基、ピット262個、建物址２棟、竪穴状遺構３基、溝址４条、流路址２条、土器集中域1ヶ所、石列17本。

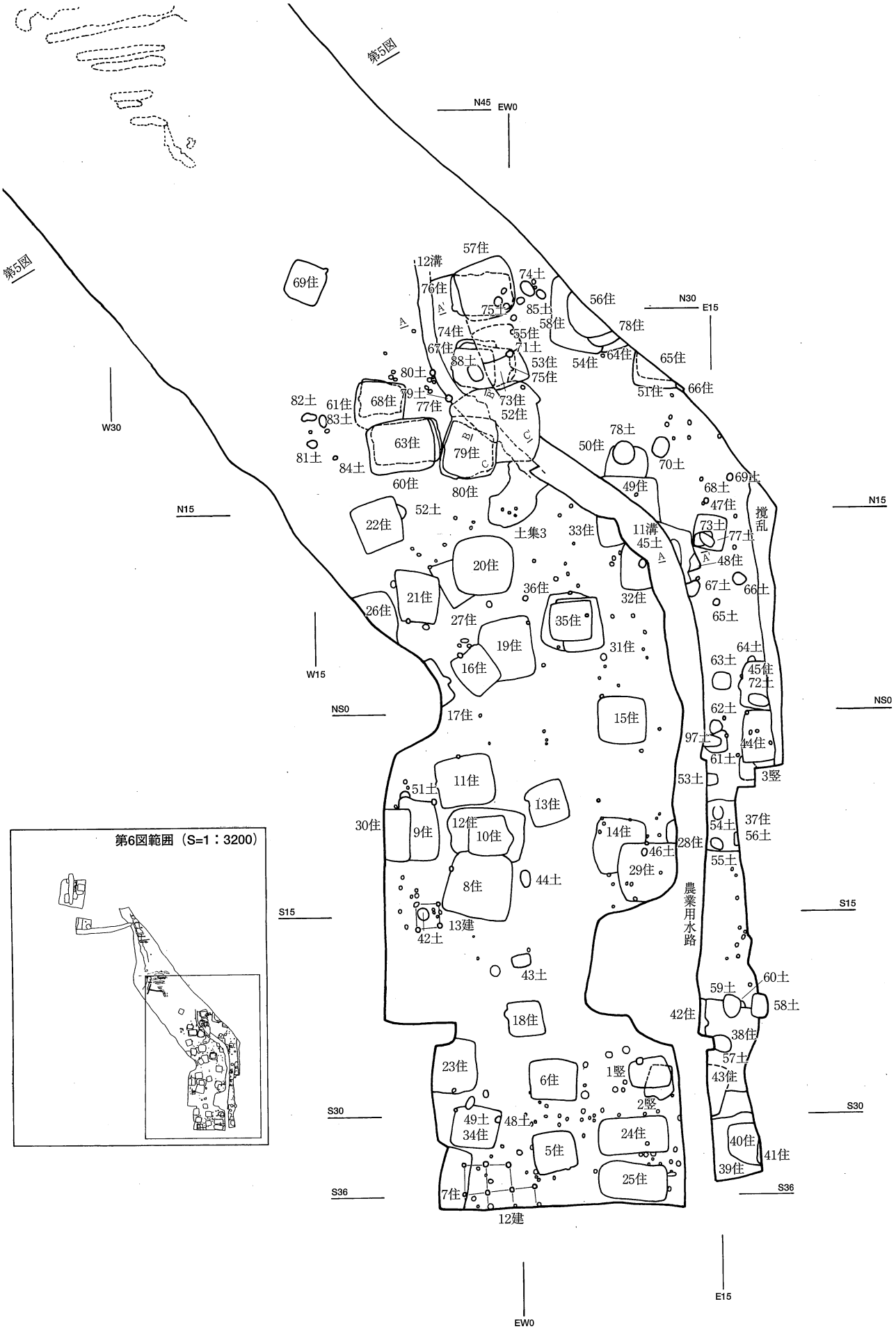
住居址を含む多くの遺構が平安時代後期に属すると考えられるが、古墳時代中期及び中世に属する住居址も確認されている。土坑はいくつかが墓址とみられるが、残りについては用途不明である。ピットは、掘立柱建物址を構成するもの以外についての用途は不明である。

４　遺物

古墳時代から平安時代、中世にかけての遺物が出土している。古墳時代の遺物は、土師器の高杯、小形丸底壷などを中心に、38住、土集３より出土がみられ、前期末から中期にかけての良好な資料となりうるものである。平安時代以降の遺物は、土師器、黒色土器、灰釉陶器の杯、椀といった食膳具を中心に多量の出土がみられる。また緑釉陶器、青磁、白磁といった高級陶磁器片も多く出土している。金属製品では銭貨の他、鋤・鍬、鎌等の農具、また刀子、釘が多量に出土している。特殊遺物としては布目瓦や塼仏型を転用した石製硯といった寺院関連遺物、また用途不明の海星型の石製品がみられる。



第5図　平瀬遺跡Ⅱ　全体図　北半部　　S＝1：400



第6図　平瀬遺跡Ⅱ　全体図　南半部

第2節　遺構

1　概観

現在まで島内地区では古墳時代の遺構、遺物はほとんど知られていない。平瀬遺跡の、奈良井川を挟んで対岸の平瀬川東地籍には坂下(泣坂)古墳群・下平瀬権現堂古墳が、高松地籍には高松立石古墳が存在する(した)ことが知られているが、詳細については不明な点も多く、また集落址に至っては全く確認されていない。今回の調査及び第1次調査において、古墳時代前期から中期にかけての3ヶ所の土器集中域、1軒の竪穴住居址等を確認することができた。

平安時代になると、梓川の氾濫原を避けるように集落が形成されはじめ、当遺跡をはじめ北方、北中など多くの遺跡が確認されている。また古代末には、法住寺がこの付近に建立されていたことが知られている。今回の調査では寺院に直接関連する遺構は確認できず、一般的な集落址が検出され、竪穴住居址数は71軒にのぼる。この中には、塼仏の型を転用したものとみられる石製硯や布目瓦といった寺院関係遺物が出土している遺構もあり、近傍における寺院の存在を想起させてはいる。

中世では、この地を領していた平瀬氏の館が存在していたとされるが、これもまた、今回の調査ではそれに関連すると思われる遺構の確認はできなかった。鎌倉時代に属すると考えられる竪穴住居址が4軒、掘立柱建物址が2棟、その他竪穴状遺構といった遺構が検出されている。

なお、各遺構の規模については、第1～5表の一覧表を参照していただきたい。

2　竪穴住居址(第7～22図、第1表)

第5号住居址（第7図）

A地区南部で検出した。ピットは6個確認し、その内P_1、P_3、P_4、P_5が主柱穴とみられる。カマドは確認できなかった。床面は黄褐色砂質土であまり硬くない。壁はよく残存し、やや緩やかに立ち上がる。覆土中に多くみられた礫は、住居廃絶時に投げ込まれたものであろう。遺物は多くみられず、土師器杯・皿、黒色土器椀、灰釉陶器椀等が出土した。本址の時期は、古墳～中世の遺物が混在するため明らかにすることはできない。

第6号住居址（第7図）

A地区南部で検出した。ピット、カマドは確認できなかった。床面は黄褐色砂質土であまり硬くない。壁はよく残存し、やや緩やかに立ち上がる。遺物は灰釉陶器椀等で出土量はあまり多くない。本址の時期は、平安～中世の遺物が混在するため明らかにすることはできない。

第7号住居址（第7図）

A地区南端で検出した。西側及び南側は調査区外にかかる。ピットは2個確認したがいずれも掘り込みは浅く、柱穴とは考えない。カマドは不明である。床面は黄褐色砂質土であまり硬くない。壁はよく残存し、やや緩やかに立ち上がる。遺物は食膳具、貯蔵具ともに多くの出土がみられた。本址の時期は、遺物から判断して古代11期、10世紀後半の平安時代中期に属すると考える。

第8号住居址（第8図）

A地区中央部で検出した。ピットは7個確認したが、いずれも柱穴と判断できない。カマドは南西隅の焼土範囲と思われるが不明である。床面は黄褐色砂質土であまり硬くない。壁はよく残存し、ほぼ垂直に立ち上がる。遺物は土師器杯・椀・盤・皿、灰釉陶器椀・段皿がみられる。本址の時期は、遺物及び切り合い関係から判断して古代14期、11世紀後半の平安時代後期に属すると考える。

第9号住居址（第8図）

A地区西部で検出した。ピットは1個確認したが柱穴と判断できない。カマドは東壁北隅の焼土範囲を想定する。床面は黄褐色砂質土であまり硬くなく、床下から土坑が3基確認された。壁はよく残存し、やや緩やかに立ち上がる。遺物は土師器皿・杯、黒色土器杯・椀、灰釉陶器椀・皿がみられ、また鉄製の鋤先が1点出土している。本址の時期は、遺物及び切り合い関係から判断して古代14期、11世紀後半の平安時代後期に属すると考える。

第10号住居址（第7図）

A地区中央部で検出した。ピットは2個確認したが、いずれも柱穴と判断できない。カマドは東側中央の突出部にあったとみられるが不明である。床面は黄褐色砂質土であまり硬くなく、北東部に焼土、炭化物の広がりが見られる。壁はよく残存し、ほぼ垂直に立ち上がる。覆土中に多く含まれる礫は、住居廃絶時に投げ込まれたものと考える。遺物は土師器杯・椀等の食膳具を中心に多くの出土がみられた。本址の時期は、遺物及び切り合い関係から判断して古代14期、11世紀後半の平安時代後期に属すると考える。

第11号住居址（第9図）

Ａ地区中央部で検出した。ピットは1個確認したが柱穴と判断できない。カマドは西壁中央より検出した粘土カマドで、火床前面に焼土及び炭化物の広がりがみられる。床面は、東側中央付近に炭化物範囲がみられ、その壁際に食込んで柱或いは壁材と思われる炭化材が出土している。さらに覆土下層からは焼土及び炭化物が多く含まれていることから本址は焼失住居である可能性もある。壁はよく残存し、やや緩やかに立ち上がる。遺物としては土師器杯・甕・羽釜、灰釉陶器椀等がみられ、また特殊遺物として用途不明の海星形石製品が1点出土している。本址の時期は、遺物から判断して古代14期、11世紀後半の平安時代後期に属すると考える。

第12号住居址（第10図）

Ａ地区中央部で検出した。ピットは1個確認したが柱穴と判断できない。カマドは確認することはできなかった。床面は黄褐色砂質土でやや硬い。壁はよく残存し、やや緩やかに立ち上がる。遺物は土師器杯・椀等食膳具のみであるが、8・10住に大きく切られながらも図化し得るものだけで33点という多量の出土がみられた。本址の時期は、遺物及び切り合い関係から判断して古代14期、11世紀後半の平安時代後期に属すると考える。

第13号住居址（第8図）

Ａ地区中央部で検出した。ピットは確認できなかった。カマドは西壁北隅の壁を削り込んだ石組粘土カマドでよく残存しており、火床はよく被熱している。床面は小礫混じりの茶褐色砂質土で硬い。壁はよく残存し、やや緩やかに立ち上がる。遺物は土師器杯・椀・小型甕がみられ、またカマド内からは下部を欠失している土師器甕もみられる。本址の時期は、遺物から判断して古代10期、10世紀中頃の平安時代中期に属すると考える。

第14号住居址（第9図）

Ａ地区東部で検出した。床面からピットを確認することはできなかった。柱穴は、本址を切るピットのうちP99・129・130である可能性がある。カマドは西壁中央で確認した石組粘土カマドで、袖石はよく残存している。壁はあまり残存せず緩やかに立ち上がる。覆土中に多くみられる礫は、住居廃絶時に投げ込まれたものと考える。遺物としては土師器杯・椀、灰釉陶器椀等の食膳具を中心に多くの出土がみられた。本址の時期は、遺物から判断して古代9期、10世紀前半の平安時代前期に属すると考える。

第15号住居址（第9図）

Ａ地区東部で検出した。ピットは4個確認したが、いずれも柱穴と判断できない。カマドは西壁中央で確認した石組粘土カマドで袖石はよく残存している。床面は黄褐色砂質土であまり硬くない。壁はよく残存し、ほぼ垂直に立ち上がる。遺物は土師器杯、黒色土器椀等多くの出土がみられた。本址の時期は、遺物から判断して古代10期、10世紀中頃の平安時代中期に属すると考える。

第16号住居址（第11図）

Ａ地区北部で検出した。ピットは4個確認したが、いずれも柱穴と判断できない。カマドは確認することはできなかった。床下より土坑が2基確認されたが、用途は不明である。壁はよく残存し、ほぼ垂直に立ち上がる。遺物は多く、土師器杯、黒色土器椀、灰釉陶器椀等食膳具を中心に出土がみられた。本址の時期は、遺物から判断して古代10期、10世紀中頃の平安時代中期に属すると考える。

第17号住居址（第10図）

Ａ地区中央部で検出した。西側の大部分が調査区外にかかり、東側のカマド部分周辺のみを調査し得た。ピットは確認できなかった。カマドは東壁中央で確認した石組粘土カマドで袖石はよく残存している。床面は黄褐色砂質土の地山でやや硬く、南壁際がテラス状になっている。遺物は、カマド周辺部の出土のみながら図化し得るものだけで16点を数え、土師器皿・小型甕、黒色土器椀・杯等がみられた。本址の時期は、遺物から判断して古代13～14期、11世紀後半の平安時代後期に属すると考える。

第18号住居址（第10図）

Ａ地区中央部で検出した。壁はほとんど残存せずカマドの痕跡及び床面の範囲のみを確認したにとどまる。ピットは1個のみ確認されており、柱痕がみられることから柱穴であると考える。本址の時期は、遺物がほとんどみられないため不明である。

第19号住居址（第11図）

Ａ地区北部で検出した。ピットは1個確認したのみで、柱穴と判断できない。カマドは確認できなかったが、床面西壁際に炭化物の広がりがみられるため、この部分に存在した可能性はある。床面は黄褐色砂質土でやや硬く、床下から土坑2基を検出した。壁はよく残存し、ほぼ垂直に立ち上がる。遺物は土師器杯・椀・羽釜、黒色土器椀等多くの出土がみられた。本址の時期は、遺物から判断して古代12期、11世紀前半の平安時代中期に属すると考える。

第20号住居址（第10図）

Ａ地区北部で検出した。ピットは6個確認したが、いずれも柱穴と判断できない。カマドは西壁北隅から被熱した石が纏まって出土したため判断したが、火床からは焼土が若干みられたのみで、残存状況は良好ではない。覆土に含まれる礫は、住居廃絶時に投げ込んだものとみられる。床面は黄褐色砂質土であまり硬くない。壁はよく残存し、やや緩やかに立ち上がる。遺物は土師器杯・皿・羽釜、黒色土器椀等多くの出土がみられた。本址の時期は、遺物から判断して古代14期、11世紀後半の平安時代後期に属すると考える。

第21号住居址（第11図）

Ａ地区北部で検出した。ピットは確認できなかった。カマドも確認することはできなかったが、床下土坑1内の覆土に焼土、炭化物が多く含まれるため、それがカマド残痕である可能性もある。床面は黄褐色砂質土であまり硬くない。壁はよく残存し、ほぼ垂直に立ち上がる。遺物は土師器杯・盤等食膳具を中心に多くの出土がみられ、これらは古代8期、11期と2時期のものがみられた。このことから、本址は古代11期、10世紀後半の平安時代中期に属すると考えるが、それ以前に古代8期、9世紀後半の平安時代前期の遺構が存在していた可能性がある。

第22号住居址（第12図）

Ａ地区北部で検出した。ピット、カマドは確認できなかった。壁はよく残存し、ほぼ垂直に立ちあがる。床面は黄褐色砂質土であまり硬くなく、北西隅部分がテラス状になっている。また床下から遺物の出土がみられたため、床下土坑として調査した。その結果土坑部分西壁中央にカマド址とみられる焼土範囲が確認されたことから、本址が貼る住居址があった可能性を想定した。しかし時間的制約により詳細な調査をし得なかったため、今回はそのまま床下土坑として扱うこととした。遺物は、覆土上層部分のものと床下土坑部分合わせて、図化し得るものだけでも土師器杯・甕、黒色土器杯・椀等27点がみられた。それらは、覆土の上下による時期の峻別はできなかったが、大きくは古代8期と9期の2時期に分かれることがわかった。よって本址の時期は古代9期、10世紀前半の平安時代前期に属し、下層の床下土坑として扱った部分が古代8期、9世紀後半の平安時代前期の住居址であった可能性がある。

第23号住居址（第11図）

Ａ地区南部で検出した。ピットは9個確認したが、いずれも柱穴と判断できない。カマドは確認できなかった。床面は黄褐色砂質土の地山で硬い。壁はよく残存し、やや緩やかに立ち上がる。遺物は、食膳具、煮炊具、貯蔵具が揃っており、図化し得るものだけで24点を数える。それらは、古代8期、11期と2つの様相を呈しているが、本址の時期は古代8期、9世紀後半の平安時代前期に属すると考えられ、11期の遺物は後に混入したものとみられる。

第24号住居址（第12図）

Ａ地区南部で検出した。床面のピットは18個確認できた。柱痕を確認できたものはないが、いくつかは柱穴であったとみられる。また周囲に多くのピットが見られ、これらも本址に伴うものである可能性がある。カマドは確認されていない。床面は小礫混じりの暗褐色砂質土で硬く、叩き締められている。壁はほとんど残存しない。遺物は非常に少ない。本址の性格は、隣接する25住を工房跡と考えた場合、その居住空間であると考えられる。本址の時期は、形状から判断して中世1期、13～14世紀の鎌倉時代に属すると考える。

第25号住居址（第12図）

Ａ地区南部で検出した。床面からピットは確認できなかったが、周囲に多くのピットが見られ、これらが本址に伴う可能性はある。カマドは確認できなかった。床面は小礫混じりの黄褐色砂質土で硬いが平坦ではなく、西側部分の約1／3が緩やかに落ち込む凹部になっている。底部はほぼ平坦であるが、中央部がやや高い。3方は住居壁となり、ほぼ垂直に立ちあがる。本址壁は凹部分をのぞいてあまり残存せず、やや緩やかに立ち上がる。遺物はあまり多くないが、土師器器台、灰釉陶器椀等の他、中世陶器片、青白磁瓶片がみられ、覆土上層部からは皇宋通寶、紹聖元寶各1点が出土した。また東側床面部分の直上からは被熱した石が多く出土しており、その床面の小礫も被熱を受けていた。本址の性格について、今回は住居址として捉えたが、床面の状況等から考えると居住施設ではなく、何らかの工房跡と考えた方がよいかもしれない。北に隣接する25住が、本址に関わる居住空間であると考えられる。本址の時期は、遺物及び形状から判断して中世1期、13～14世紀の鎌倉時代に属すると考える。

第26号住居址（第13図）

Ａ地区北部で検出した。西側の一部が調査区外にかかる。ピット、カマドは確認できなかった。床面は黄褐色砂質土であまり硬くなく、また平坦ではない。床下からは土坑2基が確認され、内部から遺物が出土している。壁はよく残存し、緩やかに立ち上がる。遺物は、床下土坑のものを含め、土師器杯、黒色土器椀、灰釉陶器椀等食膳具を中心に多くの出土がみられた。本址の時期は、遺物から判断して古代14期、11世紀後半の平安時代中期に属すると考える。

第27号住居址（第13図）

A地区北部で検出した。ピットは2個確認したが、いずれも柱穴と判断できない。カマドも確認できなかった。床面は黄褐色砂質土の地山であまり硬くない。壁はよく残存し、やや緩やかに立ち上がる。遺物の量は少なく、土師器椀他若干の出土があったにとどまる。本址の時期は、遺物から判断して古代8期、9世紀後半の平安時代前期に属すると考える。

第28号住居址（第12図）

A地区東部で検出した。東側のほとんどが調査区外にかかる。ピット、カマドは確認できなかった。床面は黄褐色砂質土であまり硬くない。壁はあまり残存せず、緩やかに立ち上がる。遺物は土師器杯、黒色土器椀等がみられた。本址の時期は判然とせず、遺物から判断して古代8期以降であるとしかわからない。

第29号住居址（第13図）

A地区東部で検出した。東側の一部は調査区外にかかる。ピットは1個確認され、柱穴の可能性がある。カマドは西壁北隅で確認された石組カマドで袖石もよく残存し、覆土下層に焼土を含んでいる。床面は黄褐色砂質土の地山でやや硬い。壁はあまり残存せず、緩やかに立ち上がる。遺物は土師器杯・椀・甕、黒色土器椀等がみられる。本址の時期は、遺物から判断して古代14期、11世紀後半の平安時代後期に属すると考える。

第30号住居址（第13図）

A地区西部で検出した。西側の一部は調査区外にかかる。ピットは1個確認したが、柱穴と判断できない。カマドは確認できなかった。床面は黄褐色砂質土の地山でやや硬い。壁はよく残存し、ほぼ垂直に立ち上がる。遺物は土師器杯等食膳具の他、完形の鉄製鋤先が1点出土している。本址の時期は、遺物から判断して古代14期、11世紀後半の平安時代後期に属すると考える。

第31号住居址（第14図）

A地区北部で検出した。西側の一部は調査区外にかかる。ピットは1個確認し、柱穴であると考える。カマドは東壁中央で検出した石組粘土カマドで、袖石の一部は失われている。床面は小礫混じりの暗褐色土で硬い。壁はよく残存し、ほぼ垂直に立ち上がる。遺物は土師器杯・椀等食膳具を中心に出土している。本址は36住を切り、35住に切られるが、時期については、遺物から判断して古代10期、10世紀中頃の平安時代中期に属すると考える。よって切り合い関係にある35・36住との時期差はほとんどないとみられる。

第32号住居址（第13図）

A地区北東部で検出した。東側の一部が調査区外にかかる。ピット、カマドは確認できなかった。床面は黄褐色砂質土の地山であまり硬くない。壁はあまり残存せず、やや緩やかに立ち上がる。遺物の出土量は少なく、土師器甕の他若干の土器片が出土したのみである。本址の時期は、遺物から判断することはできず不明である。

第33号住居址（第13図）

A地区北東部で検出した。東側の一部が調査区外にかかる。ピット、カマドは確認できなかった。床面は黄褐色砂質土の地山であまり硬くない。壁はあまり残存せず、緩やかに立ち上がる。遺物は土師器杯・皿、黒色土器杯等食膳具を中心に若干の出土がみられた。本址の時期は、遺物から判断して、古代14～15期、11世紀後半～12世紀の平安時代後期に属すると考える。

第34号住居址（第14図）

A地区南部で検出した。ピットは6個確認され、その内P_1・P_3・P_4・P_6の4個が柱穴であるとみられる。カマドは確認できない。床面は暗黄褐色砂質土の地山であまり硬くない。壁はあまり残存せず、緩やかな立ち上がりである。遺物もほとんどみられず、本址の時期を明らかにすることはできない。

第35号住居址（第14図）

A地区北部で検出した。ピットは4個確認したが、いずれも柱穴と判断できない。カマドは不明である。東壁際にある焼土は、31住カマドの残存部分であると考える。床面は小礫混じりの暗褐色土で硬い。壁はよく残存し、ほぼ垂直に立ち上がる。遺物は多く、図化できるものだけで27点を数え、食膳具を中心に出土がみられる。本址は31・36住を切り、3軒の切り合いの中では一番新しいが、時期については遺物から判断すると古代10期、10世紀中頃の平安時代中期に属するとみられ、切り合い関係にある31・36住との時期差はほとんどないと考える。

第36号住居址（第14図）

A地区北部で検出した。ピットは3個確認したが、いずれも柱穴と判断できない。カマドは不明である。床面は小礫混じりの暗褐色土で硬い。壁はよく残存し、やや緩やかに立ち上がる。遺物は土師器杯、黒色土器杯等の食膳具を中心に出土がみられる。本址の時期は、遺物から判断して古代10期、10世紀中頃の平安時代中期に属すると考える。

3軒の切り合いの中では一番古いが、時期的な差はほとんどない。

第37号住居址（第14図）

B地区北部で検出した。東側及び西側は調査区外にかかる。ピット、カマドは確認できなかった。床面は黄褐色砂質土の地山であまり硬くない。壁はよく残存し、やや緩やかに立ち上がる。遺物としては土師器杯・羽釜、黒色土器椀、灰釉陶器皿・椀等がみられる。本址の時期は、遺物から判断して古代11期、10世紀後半の平安時代中期に属すると考える。

第38号住居址（第15図）

B地区中央部で検出した。東側と西側は調査区外にかかる。覆土は黒褐色土で、この遺跡全般でみられる灰褐色土の覆土を有さない。壁はよく残存し、ほぼ垂直に立ちあがる。床は黄褐色砂質土でやや軟弱である。ピットは2個確認したが、いずれも掘り方は浅く柱穴と断定できない。カマドは調査区外にあるとみられ不明である。また炉も確認されない。遺物は床面直上から土師器高杯・壷・小形丸底壷等が出土している。本址の時期は、遺物から判断して5世紀前半の古墳時代中期に属すると考える。

第39号住居址（第15図）

B地区南端で検出した。西側及び南側の一部が調査区外にかかる。覆土内には5～20cm大の礫がみられ、住居廃絶後投げ込まれたものとみられる。床は黄褐色砂質土でやや軟弱である。ピットは4個確認され、柱穴とみられる。壁はよく残存し、ほぼ垂直に立ちあがる。カマドは調査区外にあるとみられ不明である。遺物の量は少なく、図化し得るものはなかった。本址の時期は、遺物から判断できず不明である。

第40号住居址（第15図）

B地区南部で検出した。ピット、カマドは確認できなかった。床面は黄褐色砂質土で非常に硬い。壁も39住覆土部分より下部はよく残存し、ほぼ垂直に立ち上がる。出土遺物は中世土師器皿等の他、青磁瓶・椀・不明品が各1点みられる。本址の時期は、遺物の量が少ないので判然としないが、中世1期、13世紀以降の鎌倉時代に属すると考える。

第41号住居址（第15図）

B地区南東隅で検出した。調査区東壁のセクションのみで確認した遺構であるが、西側壁及び南西隅を確認したため住居址と判断した。ピットは不明である。カマドは、西壁際で焼土が多量にみられるため、そこにあった可能性はあるが、面的な調査を行っていないため不明である。壁は、残存部ではしっかりとした垂直な立ち上がりを確認した。遺物の出土はみられなかったため時期は判然としないが、切り合い関係から判断して40住より新しい時期、すなわち中世1期以降、13世紀以降の鎌倉時代に属すると考える。

第42号住居址（第15図）

B地区中央部で検出した。西側の大部分は調査区外（水路下）にかかる。ピット、カマドは確認できない。床面は黄褐色砂質土でやや硬い。壁の立ち上がりはあまり明瞭ではない。遺物は非常に少なく、本址の時期は不明である。

第43号住居址（第15図）

B地区中央部で検出した。西側の大部分は調査区外（水路下）にかかる。ピットは1個確認したが柱穴と判断できない。カマドも確認できない。床面は黄褐色砂質土の地山でやや硬い。壁はよく残存し、ほぼ垂直に立ちあがる。遺物は非常に少なく、図化し得たものは古墳時代の高杯が1点のみであるが、本址に伴う遺物であるとは考えない。本址の時期は不明である。

第44号住居址（第15図）

C地区南部で検出した。ピットは7個確認したが、いずれも掘り方は浅く柱穴と判断できない。カマドも不明である。床面は黄褐色砂質土の地山でやや硬く、南西部に焼土の広がりがみられる。壁はよく残存し、ほぼ垂直に立ちあがる。遺物は土師器杯・皿・盤、黒色土器杯、灰釉陶器椀等多量の出土がみられた。土師器のうち1点には墨書もみられる。その他には高杯の脚部が1点出土しているが、これは周囲の古墳時代の遺構からの流入品であると考える。本址の時期は遺物の量の割に判然としないが、古代9期、10世紀前半の平安時代前期に属すると考える。

第45号住居址（第15図）

C地区南部で検出した。ピット、カマドは確認できなかった。床面は黄褐色砂質土の地山でやや硬く、中央部に焼土の広がりがみられる。壁はよく残存し、ほぼ垂直に立ちあがる。遺物の量はそれほど多くないが、食膳具、貯蔵具、煮炊具が揃って出土している。本址の時期は、遺物から判断して古代11期以降、10世紀後半以降の平安時代中期に属すると考える。

第47号住居址（第16図）

C地区南部で検出した。ピットは3個確認したがいずれも柱穴と判断できない。カマドは東壁中央で確認した石組

粘土カマドであるが、土坑に切られる。床面は黄褐色砂質土の地山でやや硬く、北東隅に周溝がみられる。壁はよく残存し、やや緩やかに立ち上がる。遺物は土師器羽釜・小型甕、灰釉陶器皿・段皿がみられる。本址の時期は、遺物から判断して古代11～12期、10世紀末～11世紀初頭の平安時代中期に属すると考える。

第48号住居址（第16図）

C地区南部で検出した。西側の一部が調査区外（水路下）にかかる。ピットは1個確認し、柱穴と考える。カマドは確認できない。床面はほとんどが11溝に切られて残存しないが、黄褐色砂質土の地山でやや硬い。壁はあまり残存せず、やや緩やかに立ち上がる。遺物は少なく、図化し得るものはない。本址の時期は、遺物から判断できず不明である。

第49号住居址（第16図）

C地区南部で検出した。西側の一部が調査区外（水路下）にかかる。ピットは2個確認したがいずれも柱穴と判断できない。カマドも確認できなかった。その他の施設は床下土坑が2基、北及び東壁沿いに周溝がみられる。床面は黄褐色砂質土地山でやや硬い。壁はよく残存し、やや緩やかに立ち上がる。遺物は土師器杯・皿、灰釉陶器椀がみられる。本址の時期は、遺物から判断して古代15期、12世紀の平安時代後期に属すると考える。

第50号住居址（第16図）

C地区南部で検出した。ピットは3個確認したがいずれも柱穴と判断できない。カマドは東壁中央で確認した石組粘土カマドであるが残存状況は良好ではない。床面は黄褐色砂質土であまり硬くない。壁はあまり残存せずやや緩やかに立ち上がる。遺物は土師器杯・椀・盤、灰釉陶器椀・皿等がみられた。本址の時期は、遺物から判断して古代13期、11世紀の平安時代後期に属すると考える。

第51号住居址（第16図）

C地区南部で検出した。北東部は調査区外にかかる。床面で確認したピットは3個で、いずれも柱穴と断定することはできない。このうちP_3の内部から焼土、鉄滓が出土しており、また本址内からは砥石、フイゴ羽口が出土していることから、P_3は鍛冶炉とみられる。カマドは調査区外にあるとみられ不明である。床面は65住の覆土であり、あまり硬くない。壁はよく残存し、ほぼ垂直に立ちあがる。なお、床下で検出した65住は、本址に先行する住居址の可能性がある。遺物として土師器杯、灰釉陶器広口壷・短頸壷等がみられる。本址の時期は遺物から判断して古代14期、11世紀後半の平安時代後期に属すると考える。

第52号住居址（第17図）

C地区南部で検出した。本址内を南から北へ流れる農業用水路が切るため検出は困難であった。ピットは14個確認したがいずれも柱穴と判断できない。カマドは東壁北隅の壁を削り込んだ石組粘土カマドで袖石もよく残存する。床面は暗褐色粘質土であまり硬くない。壁は比較的よく残存し、やや緩やかに立ち上がる。遺物は土師器杯・盤、黒色土器椀、灰釉陶器壷等が出土し、また青白磁瓶が1点みられた。本址の時期は、遺物から判断して古代13～15期、11世紀後半～12世紀の平安時代後期に属すると考える。

第53号住居址（第16図）

C地区南部で検出した。西側は調査区外にかかる。本址内からはピット、カマドを検出することはできなかった。床面は黄褐色砂質土であまり硬くない。壁はやや緩やかに立ち上がる。遺物として土師器椀等食膳具が数点みられる。本址の時期は、遺物から判断して古代12～14期、11世紀の平安時代後期に属すると考える。

第54号住居址（第18図）

C地区南部で検出した。北東部は調査区外にかかる。ピットは1個確認したが柱穴と判断できない。カマドは確認できない。床面は黄褐色砂質土でやや硬い。壁は比較的よく残存し、やや緩やかに立ち上がる。遺物はそれほど多くはないが食膳具、貯蔵具、煮炊具が確認された。本址の時期は、遺物から判断して古代15期、12世紀の平安時代後期に属すると考える。

第55号住居址（第17図）

C地区南部で検出した。ピット、カマドは確認できない。床面は小礫混じりの暗褐色粘質土で硬い。壁はよく残存し、やや緩やかに立ち上がる。遺物は土師器椀、黒色土器椀等食膳具を中心に出土がみられた。本址の性格について、今回は住居址として扱ったが、規模・形状から判断すれば竪穴状遺構とすべきものかも知れない。時期については、遺物から判断して古代12期、11世紀前半の平安時代中期に属すると考える。

第56号住居址（第18図）

C地区南部で検出した。北西部は調査区外にかかる。ピットは8個確認したがいずれも柱穴と判断できない。カマドは不明である。床面は黄褐色砂質土でやや硬い。壁は比較的よく残存し、ほぼ垂直に立ち上がる。遺物は土師器杯・

椀、灰釉陶器椀といった食膳具を中心に出土がみられた。本址の時期は、遺物から判断して古代15期、12世紀の平安時代後期に属すると考える。

第57号住居址（第18図）

C地区南部で検出した。ピットは6個確認したがいずれも柱穴と判断できない。カマドは不明である。東壁の北隅に若干の焼土、炭化物範囲を確認したため調査したが、痕跡を明らかにすることはできなかった。床面は小礫混じりの暗褐色土で硬く、床下から土坑を検出した。壁はよく残存し、やや緩やかに立ち上がる。遺物は土師器杯・椀・皿、黒色土器杯・椀、灰釉陶器椀等食膳具が多く出土している。本址の時期は、遺物から判断して古代14期、11世紀後半の平安時代後期に属すると考える。なお本址は、76住の上面にあたる部分で検出されていること、また西側部分が水路のため未調査であったことから考えると、76住の覆土上層部分である可能性もある。

第58号住居址（第18図）

C地区南部で検出した。54・56住の調査中、床面と思しき面を確認したが、54・56住の覆土の変化と捉えて調査をした。しかし両住居址の土層確認の際、それが上面に存在した住居址の床面であったことが判明したため、58住とした。そのため、本址の規模・形状については全く明らかにできず、またピット、カマドも確認できない。床面は暗灰褐色土で硬い。本址床面直上まで表土が載るため、壁もほとんど残存しない。遺物の量も少なく、本址の時期は不明である。

第60号住居址（第18図）

C地区南部で検出した。ピットは7個確認したがいずれも柱穴と判断できない。カマドは西壁北隅の石組粘土カマドであるが、袖石の多くは失われている。床面は黄褐色砂質土でやや硬い。壁は比較的よく残存し、ほぼ垂直に立ち上がる。遺物は土師器杯・椀・羽釜・甕、黒色土器椀、灰釉陶器椀がみられ、食膳具、煮炊具、貯蔵具が揃っている。本址の時期は、遺物から判断して古代15期、12世紀の平安時代後期に属すると考える。

第61号住居址（第19図）

C地区南部で検出した。ピットは11個確認された。このうちP_2、P_6、P_8が主柱穴とみられ、P_8の底から石が確認された。カマドは確認できなかった。床面は黄褐色砂質土でやや硬い。壁はよく残存し、ほぼ垂直に立ち上がる。遺物は土師器杯・椀・盤、黒色土器椀等の食膳具を中心に出土がみられた。本址の時期は、遺物から判断して古代9期、10世紀前半の平安時代前期に属すると考える。

第62号住居址

欠番とした。後に79住として扱っている。

第63号住居址（第19図）

C地区南部で検出した。ピットは33個確認され、P_{13}・P_{14}・P_{15}は柱穴とみられる。カマドは東壁北隅で確認された粘土カマドである。床面は黄褐色砂質土でやや硬い。壁はよく残存し、ほぼ垂直に立ち上がる。遺物はあまりみられない。本址の時期は不明である。

第64号住居址（第18図）

C地区南部で検出した。ピットは1個確認したのみで、柱穴と判断できない。カマドは不明である。床面は黄褐色砂質土でやや硬い。壁はよく残存し、ほぼ垂直に立ち上がる。遺物の量は少なく、本址の時期は不明である。

第65号住居址（第19図）

C地区南部で検出した。北東部は調査区外にかかる。ピットは2個確認したが、いずれも柱穴と判断できない。カマドも確認できなかった。床面は黄褐色砂質土でやや硬い。本址を貼る51住は、本址を拡張したものである可能性がある。遺物は少なく、土師器杯等が若干出土したにとどまる。本址の時期は判然とせず、切り合い関係から判断して古代14期以前であるとしかわからない。

第66号住居址（第16図）

C地区南部で検出した。ほとんどが調査区外であるため、住居内施設の確認はできない。床面は黄褐色土の地山で硬いこと、壁もほぼ垂直にしっかりと立ち上がることから、本址を住居址と判断した。遺物は図化し得るものはみられなかったが、若干の出土はみられた。本址の時期は判然としないが、切り合い関係から判断して古代13期以降、11世紀後半以降の平安時代後期に属すると考える。

第67号住居址（第20図）

C地区南部で検出した。ピットは2個確認したがいずれも柱穴と断定できない。壁はほぼ垂直に立ちあがる。カマドははっきりしないが、西壁中央から焼土・炭化物がみられたため、この部分がカマドの痕跡である可能性がある。壁はよく残存し、ほぼ垂直に立ち上がる。遺物は土師器杯・盤、黒色土器椀、灰釉陶器段皿等がみられる。本址の時期

は、遺物から判断して古代13～14期、11世紀後半の平安時代後期に属すると考える。

第68号住居址（第19図）

C地区南部で検出した。ピットは4個確認し、このうちP_4は柱穴とみられる。カマドは確認できなかった。床面は黄褐色砂質土でやや硬い。壁はあまり残存せず緩やかに立ち上がる。遺物量は少なく、土師器杯等若干の出土がみられたにとどまる。本址の時期は遺物が少ないため不明である。

第69号住居址（第21図）

C地区中央部で検出した。ピットは3個確認されたが、いずれも柱穴と判断できない。カマドは東壁北隅で検出した石組粘土カマドで、残存状況は良好である。床面は茶褐色粘質土の地山で硬い。壁はよく残存し、垂直に立ち上がる。遺物は土師器甕・椀、黒色土器杯等が出土した。本址の時期は判然としないが、遺物から判断して古代の11～15期、10世紀後半～12世紀の平安時代後半期に収まると考える。

第73号住居址（第20図）

C地区南部で検出した。遺構自体の残存部分が少なく、ピットは確認できなかった。カマドは東壁中央で検出した石組粘土カマドで、天井石の一部も残存し、良好な状態である。床面は黄褐色砂質土で硬い。壁はよく残存し、ほぼ垂直に立ち上がる。遺物はカマド周辺を中心に多く出土し、食膳具、貯蔵具、煮炊具が揃ってみられる。本址の時期は遺物から判断して古代11～12期、10世紀後半～11世紀前半の平安時代中期に属すると考える。

第74号住居址（第20図）

C地区南部で検出した。遺構自体の残存部分が少なく、ピット、カマドは確認できなかった。壁はよく残存し、ほぼ垂直に立ち上がる。遺物の量は少ない。本址の時期は判然としないが、遺物から判断して古代11～12期、10世紀後半～11世紀前半の平安時代中期に属すると考える。

第75号住居址（第20図）

C地区南部で検出した。遺構自体の残存部分が少なく、ピット、カマドは確認できなかった。壁はよく残存し、ほぼ垂直に立ち上がる。遺物は少なく、土師器椀等若干の出土をみたのみである。本址の時期は判然とせず、遺物から判断して古代8期以降であるとしかわからない。

第76号住居址（第20図）

C地区南部で検出した。ピットは5個確認したがいずれも柱穴と断定できない。カマドは西壁南寄りで検出した石組粘土カマドで、上面は廃棄に伴う投石によって壊されていたが、袖石はよく残存していた。床面は黄褐色砂質土で硬い。壁はあまり残存せず、やや緩やかに立ち上がる。遺物は土師器皿・椀、黒色土器椀、灰釉陶器椀等が出土した。本址の時期は、遺物から判断して古代14期、11世紀後半の平安時代後期に属すると考える。上面で検出した57住は、本址の上層覆土である可能性がある。

第77号住居址（第19図）

C地区南部で検出した。63住に切られ、ほとんど残存しないため、柱穴、カマドは不明である。床面は黄褐色砂質土でやや硬い。壁はよく残存し、ほぼ垂直に立ち上がる。遺物量も少なく、土師器皿等若干の出土をみたのみである。本址の時期は、遺物から判断できず不明である。

第78号住居址（第18図）

C地区南東部で検出した。ピットは5個確認したがいずれも柱穴と断定できない。カマドは確認できない。床面は黄褐色砂質土でやや硬い。壁はよく残存し、垂直に立ち上がる。遺物量は少なく、食膳具の土師器椀等若干量が出土したにとどまる。本址の時期は、遺物から判断して古代15期、12世紀の平安時代後期に属すると考える。

第79号住居址（第21図）

C地区南部で検出した。当初は62住として掘り下げたが不明瞭のため一旦欠番としたものが後に住居址であることが判明したもので、本来ならば62住とするところであるが、整理の都合上79住とした。ピットは床面では確認できなかった。カマドは西壁中央で確認した石組粘土カマドで、袖石はかなり崩れている。床面全体に焼土・炭化物が散乱し、中央部付近では炭化材がみられることから本址は焼失住居であると考える。壁はよく残存し、ほぼ垂直に立ち上がる。遺物は土師器杯・盤、黒色土器椀、灰釉陶器椀等がみられた。本址の時期は、遺物から判断して古代15期、12世紀の平安時代後期に属すると考える。

第80号住居址（第21図）

C地区南部で検出した。ピットは7個確認したがいずれも柱穴と断定できない。カマドは西壁中央部で確認したが、火床が残存するのみで良好ではない。床面は黄褐色砂質土であまり硬くない。壁はよく残存し、やや緩やかに立ち上がる。遺物は土師器杯・椀・坏、黒色土器椀、灰釉陶器椀等食膳具を中心に、図化できるものだけで27点を数える。

本址の時期は、遺物から判断して古代14～15期、11世紀後半～12世紀の平安時代後期に属すると考える。

第81号住居址（第22図）

C台上北区、遺構確認トレンチによって確認した。北側の一部が調査区外にかかる。ピットは2個確認したがいずれも柱穴と判断できない。カマドは確認できない。床面は砂礫混じり黄褐色土で硬い。壁はほとんど残存しない。出土遺物は非常に少ないため、本址の時期は不明である。

第82号住居址（第22図）

C台上北区、遺構確認トレンチによって確認した。東側の一部は調査区外にかかる。ピット、カマドは確認できない。床面は砂礫混じり黄褐色土で硬い。壁はほとんど残存しない。出土遺物は非常に少ないため、本址の時期は不明である。

第83号住居址（第22図）

C台上北区で確認した。東側の一部が攪乱により失われている。ピット、カマドは確認できない。床面は砂礫混じり黄褐色土で硬い。壁はほとんど残存しない。出土遺物は非常に少ないため、本址の時期は不明である。

第84号住居址（第22図）

C台上北区で確認した。ピットは5個確認したがいずれも柱穴とは考えない。カマドは確認できない。床面は砂礫混じり黄褐色土で硬い。壁はほとんど残存しない。遺物としては土師器杯等がみられ、また白磁不明品底部が1点出土している。本址の時期は、遺物から判断して古代14～15期、11世紀後半～12世紀の平安時代後期に属すると考える。

第85号住居址（第22図）

C台上北区北端で確認した。北側及び東側の一部が調査区外にかかる。ピットは6個確認したがいずれも柱穴とは考えない。カマドは確認できない。床面は砂礫混じり黄褐色土で硬い。壁はほとんど残存しない。出土遺物は非常に少ないため、本址の時期は不明である。

第86号住居址（第22図）

C台上北区、遺構確認トレンチによって確認した。ピットは6個確認したがいずれも柱穴とは考えない。カマドは確認できない。床面は砂礫混じり黄褐色土で硬い。壁はほとんど残存しない。出土遺物は非常に少ないため、本址の時期は不明である。

3　掘立柱建物址（第23図、第2表）

第12号掘立柱建物址（第23図）

A地区南端で検出した。南側の一部は調査区外にかかるため、全体の規模は不明である。黄褐色砂質土の地山を掘り込む。切り合い関係は7住を切る。東西2間乃至3間×南北1間以上の総柱式建物址である。柱痕はP_1のみから検出された。遺物の出土はみられないため本址の時期は判然としないが、形状及び切り合い関係から中世1期、13世紀の鎌倉時代に属すると思われる。

第13号掘立柱建物址（第23図）

A地区西部で検出した。黄褐色砂質土の地山を掘り込む。他遺構との切り合い関係はない。東西、南北ともに1間四方の、内側に土坑を取込む側柱式の建物址である。柱痕はいずれのピットからも検出されない。ピット、土坑ともに遺物の出土はみられないため、本址の時期は判然としないが、形状等から中世2期、14世紀以降の室町時代に属すると思われる。

4　土坑　（第24･25図、第5表）

今回の調査では52基の土坑を検出した。しかし、用途、時期の判明できるものは少なく、また遺物の出土も少ない。ここでは、遺物を伴うもの、用途について考えうるものの数個について述べていきたい。

第42号土坑（第24図）

A地区西部で検出した。他遺構との切り合い関係はない。平面形は円形である。本址は13建の4個のピットに囲まれていることから、13建に伴う土坑である可能性がある。遺物の出土はみられなかった。本址の時期は、13建に伴うものであれば中世2期、14世紀以降の室町時代に属すると考えてよいだろう。

第44号土坑（第24図）

A地区中央部で検出した。黄褐色砂質土の地山を掘り込む。他遺構との切り合い関係はない。覆土中より骨粉が若干出土している。人骨の残存状況はあまり良好ではなく、ほとんど風化しつつある。残存部位として確認できるのは

上肢骨のみで、出土状態から横臥屈葬で土葬にされていたとみられる。被葬者の年齢および性別は不明である。遺物として鉄製小刀が1点出土しており、副葬品であると考えられる。本址の時期については遺物が少ないため詳細は不明であるが、覆土より中世1期、13世紀の鎌倉時代に属すると考える。

第54号土坑（第24図）

B地区北部で検出した。他遺構との切り合い関係は37住を切る。平面形は長円形で、黄褐色砂質土の地山を掘り込む。遺物量は少ないが、特殊遺物として、裏面に三尊仏の彫刻を持つ石製硯（石－79）が1点出土している。時期は遺物のみから判断できないが、覆土の状況及び切り合い関係から中世1期、鎌倉時代以降に属すると考える。

第58号土坑（第24図）

B地区東部で検出した。他遺構との切り合い関係は38住を切る。平面形は長円形で、黄褐色砂質土の地山を掘り込む。川原石を数段積んであったようであるが、上段は耕作などによって失われ、底部の2段のみ残存している。石によって囲まれた部分の規模は長軸90㎝、短軸60㎝で、底部は黄褐色砂質土で三和土状に叩き締められている。その下層からは人工的な構築はみられず、また遺物の出土はなかった。本址の性格については、墓址であるとみられるが明確ではない。時期についても、古墳時代及び中世に類似したものがあるが、本址は伴出遺物がないため時期を特定することは難しい。

5　ピット

今回の調査では262個のピットを検出した。しかし、建物址を構成するものの他は用途、時期の判明できるものは少ない。またいくつかからは遺物の出土がみられたものの、意図的に埋設したという感じを受けるものはなく、用途を明らかにはできない。

6　竪穴状遺構　（第23図、第3表）

第1号竪穴状遺構

A地区東部で検出した。黄褐色砂質土の地山を掘り込み、床面は平坦で硬い。ピット等の施設はみられない。壁はよく残存し、やや緩やかに立ち上がる。西側の覆土中に多量の礫がみられ、これらは投げ込まれたものと考える。遺物は須恵器壷が1点出土したのみである。本址の時期、用途は不明である。

第2号竪穴状遺構

A地区東部で検出した。黄褐色砂質土の地山を掘り込み、床面は平坦で硬い。ピット等の施設はみられない。壁はよく残存し、やや緩やかに立ち上がる。遺物は灰釉陶器長頸壷が1点出土したのみである。本址の時期は遺物から判断して7期以降、すなわち9世紀後半以降であるとしかわからない。また用途は不明である。

第3号竪穴状遺構

C地区南部で検出した。黄褐色砂質土の地山を掘り込み、床面は平坦で硬い。ピットが1個検出されたため、当初は住居址である可能性も考えたが、形状及び規模から竪穴状遺構とした。遺物は土師器杯・椀、灰釉陶器皿がみられた。本址の時期は、遺物から判断して古代7期以降、すなわち9世紀後半以降であるとしかわからない。また用途は不明である。

7　溝址・流路址　（第25図、第4表）

第11号溝址（第25図）

C地区南東部用水堰東で検出した。48住、49住を切る。12溝と同一のものである可能性がある。幅は概ね50cm前後で一定しており、両岸とも壁は硬いことから人工の溝と考える。覆土は暗灰褐色砂質土の単層で、底部付近に5～10㎝大の礫を含む。これらの礫は自然礫であるとみられるが、人為的に投げ込まれたものである可能性が高い。用途については特定できないが、流水痕がみられないことから、区画溝等であった可能性はある。遺物としては土師器杯・椀等が混入している。本址の時期は判然としないが、12溝と同一のものである可能性があることから、古代14～15期、11～12世紀の平安時代後期に属すると考える。

第12号溝址（第25図）

C地区南部で検出した。既存の農業用水路にほぼ沿った形で検出された。幅は概ね100㎝前後で一定しており、両岸とも壁は硬いことから人工の溝と考える。覆土は暗灰褐色土で、径10～20cm大の礫を多く含む。これらの礫は、多くが自然礫であるとみられるが、主として底部からまとまってみられるため、人為的に投げ込まれたものである可能性が高い。遺物は土師器杯・椀等が混入している。また特殊遺物として布目瓦の小片が数点みられる。用途について

は特定できないが、11溝同様流水痕がみられないことから、区画溝等であった可能性はある。本址の時期については、遺物及び他遺構との切り合いから判断して古代14～15期、11～12世紀の平安時代後期に属すると考える。11溝と同一のものである可能性がある。

第13号溝址

当初流路2を13溝と考えたが、自然流路と判断したため欠番とした。

第14号溝址

C地区南部で検出した。幅は概ね50cm程度で一定し、両岸とも壁は硬いこと、また意図的に曲げて掘られていることから人工の溝と考える。覆土は上層が暗灰褐色粘質土、中層が暗黄灰色土、下層が暗灰褐色土である。遺物は鉄製品等が若干みられた。本址の用途は不明であるが、東側部分において石列4と一部重なるため、石列に関連した遺構かもしれない。本址の時期は不明である。

第15号溝址

C地区南部で検出した。流路3に沿った形で確認された。幅は概ね40cm程度で一定し、また両岸とも硬いことから人工溝と考えた。覆土は暗灰色砂質土である。遺物はほとんどみられない。本址の用途及び時期は不明である。

第2号流路址

C地区北部で検出した。当初は暗茶褐色の帯を溝と考えたが、幅も一定ではなく、覆土である暗茶褐色砂質土の堆積も極めて浅いことから、人工溝ではなく、比較的短い期間の流路であると判断した。方向としては南から北に向かって緩やかに流れたとみられ、上流にあたる流路3と同一である可能性がある。遺物は土師器杯・椀等の小片を若干含むが、流れ込みによるものとみられる。本址の時期は不明である。

第3号流路址

C地区北部で検出した。流路2の追跡調査によって確認した。中途で流路2と断絶しているため別の流路3としたが、流路2と同じく暗茶褐色土の覆土であり、指向する方向もほぼ同じであるため、同一のものと考えてよいかもしれない。遺物は土師器杯・椀等の小片を若干含むが、流れ込みによるものとみられる。本址の時期は不明である。

8　土器集中域（第23図）

A地区北東部で検出した。平面形は不整形で、北東の一部は調査区外にかかる。他遺構との切り合い関係は、P176、177、178、179に切られる。また52住、12溝にも切られるとみられる。確認された規模は長軸（320）cm×短軸213cmで緩やかに落ち込み、深さは5～21cmである。底部は凸凹がみられ、あまり平坦ではない。覆土は黒褐色粘質土で単層である。当初は、黒色土が堆積した部分が住居址などの遺構であると考えたが、平面形も不定形であること、落ち込みもなだらかで壁が存在せず、底部に凹凸がみられ床面が確認できないこと、しかし覆土中に多量の遺物（土器）が纏まった形で出土しているのがみられるという理由から、第1次調査において確認した2ヶ所の土器集中域と同様の遺構であると考え、本址を第3号土器集中域として扱うこととした。本来ならばグリッドを設定して、出土位置を確認しながら遺物の取り上げをしなければならないのだが、時間的制約により、一部の土器を除き、出土状況を記録することができなかったことを記しておく。ただし、本址において確認された土器はほぼ取り上げることができた。本址より出土した土器については次節において詳述するが、4世紀末から5世紀初頭、古墳時代前期末から中期初頭にかけてのものである。玉類、石製品については、遺構覆土のによる精査(洗浄)ができなかったこともあり、確認することはできなかった。

9　石列

今回の調査で、17本の石列が確認された。いずれもC調査区北部で検出している。当初、検出した石列3及び石列4からそれぞれ緑釉陶器椀片、青磁小片が出土したことから古代の何らかの遺構ではないかと考えた。しかし高い部分から掘り込まれているものもあるため、近世以降の暗渠等である可能性もある。詳細な時期及び用途については明らかにできない。

第１表　住居址一覧表

（）：推定、〈〉：残存

住居No.	地区・図	平面形	規模 長軸×短軸×深さ（cm）	規模 床面積（m²）	主軸方向	カマド形態 種類・位置	時期	備考
5	A 7	隅丸方形	284×284×24	7.46	N－5°－W	不明	不明	P 20・21を切る
6	A 7	隅丸長方形	348×288×58	8.15	N－0°	不明	不明	
7	A 7	方形か	〈450〉×〈216〉×62	〈7.70〉	N－13°－E	不明	10C後 平安中	12建に切られる
8	A 8	隅丸方形	492×468×24	19.95	N－11°－E	西壁南寄りか	11C後 平安後	12住を切る 10住、P92に切られる
9	A 8	隅丸長方形	456×284×30	(11.26)	N－3°－W	西壁北寄りか	11C後 平安後	51土を切る 30住、P141に切られる
10	A 7	隅丸方形	336×280×42	7.36	N－90°－E	東壁中央か	11C後 平安後	8・12住を切る
11	A 9	隅丸長方形	420×376×30	12.94	N－99°－W	西壁中央 粘土	11C後 平安後	P 114に切られる 海星形石製品出土
12	A 10	隅丸長方形	568×372×40	(17.07)	N－5°－E	不明	11C後 平安後	8・10住に切られる
13	A 8	方形	300×280×28	6.95	N－15°－W	西壁北隅 石組粘土	10C中 平安中	
14	A 9	隅丸方形	408×384×32	12.59	N－88°－W	西壁中央 石組粘土	10C前 平安前	29住・46土、P99・129・130・131・132に切られる
15	A 9	隅丸方形	360×340×32	10.46	N－88°－W	西壁中央 石組粘土	10C中 平安中	P173に切られる
16	A 11	隅丸長方形	320×276×48	7.29	N－34°－W	不明	10C中 平安中	19住を切る P175に切られる
17	A 10	不明	356×〈144〉×48	〈2.25〉	N－64°－E	東壁中央 石組粘土	11C後 平安後	西側区域外にかかる
18	A 10	隅丸方形	264×248×－	6.00	N－6°－W	西壁北寄りか	不明	
19	A 11	隅丸長方形	436×392×44	(14.84)	N－11°－W	西壁中央か	11C前 平安中	16住、P137に切られる
20	A 10	隅丸方形	448×424×32	14.79	N－0°	北壁西隅 石組粘土	11C後 平安後	27住を切る
21	A 11	長方形	360×316×40	9.33	N－85°－W	西壁中央か	10C後 平安中	27住を切る P147に切られる 下層に９C後の住居址か
22	A 12	方形	346×332×68	10.00	N－20°－W	不明	10C前 平安前	52土を切る 下層に９C後の住居址か
23	A 11	隅丸方形か	400×〈316〉×60	〈9.95〉	N－1°－E	不明	9C後 平安前	西側区域外にかかる
24	A 12	隅丸長方形	492×256×8	11.97	N－0°	なし	13～14C 鎌倉	P61・188を切る P186に切られる 25住とセットか?
25	A 12	隅丸長方形	520×276×48	11.69	N－8°－E	なし	13～14C 鎌倉	P64を切る 住居ではなく工房か? 24住とセットか?
26	A 13	不明	〈324〉×〈256〉×56	〈6.01〉	N－7°－W	不明	11C後 平安後	西側区域外にかかる
27	A 13	不明	352×〈192〉×24	〈4.14〉	N－30°－W	不明	9C後 平安前	20・21住に切られる
28	A 12	不明	〈168〉×〈70〉×16	〈0.86〉	不明	不明	10C～ 不明	29住に切られる 東側区域外にかかる
29	A 13	隅丸長方形	444×416×26	(15.65)	N－91°－W	西壁北隅 石組粘土	11後 平安後	14住を切る P 127・138・166・167・168に切られる 東側区域外にかかる
30	A 13	不明	360×〈180〉×44	〈5.70〉	N－0°	不明	11C後 平安後	9住を切る 西側区域外にかかる
31	A 14	隅丸長方形	408×328×40	(11.56)	N－84°－E	西壁中央	10C中 平安中	36住を切る 35住に切られる
32	A 13	不明	〈332〉×〈224〉×12	〈5.07〉	N－0°	不明	不明	45土、P116に切られる 東側区域外にかかる
33	A 13	不明	〈220〉×〈160〉×22	〈2.92〉	N－0°	不明	11～12C 平安後	東側区域外にかかる
34	A 14	隅丸方形	336×316×8	9.19	N－11°－E	不明	不明	48・49土に切られる
35	A 14	長方形	316×288×42	7.65	N－0°	不明	10C中 平安中	31・36住を切る P169に切られる
36	A 14	隅丸長方形	428×268×34	(9.83)	N－8°－E	不明	10C中 平安中	31・35住、P143に切られる
37	B 14	不明	384×〈216〉×44	〈7.34〉	不明	不明	11C前 平安中	53・54・55土に切られる 東側西側区域外にかかる
38	B 15	不明	660×〈400〉×44	〈21.03〉	N－8°－E	不明	５C前 古墳中	42・43住、57・58土に切られる 東側西側区域外にかかる
39	B 15	不明	484×〈348〉×32	〈15.88〉	不明	不明	不明	40・41住に切られる 西側南側区域外にかかる

住居No.	地区・図	平面形	規模 長軸×短軸×深さ（cm）	規模 床面積（m²）	主軸方向	カマド形態 種類・位置	時期	備考
40	B 15	不明	348×〈228〉×52	〈4.89〉	不明	不明	13～14C 鎌倉	39住を切る 41住に切られる 東側区域外にかかる
41	B 15	不明	〈184〉×〈20〉×60	〈0.34〉	不明	不明	13～14C 鎌倉	39・40住を切る セクションのみで確認
42	B 15	不明	〈276〉×〈68〉×20	〈0.95〉	不明	不明	不明	38住を切る 西側区域外にかかる
43	B 15	不明	〈380〉×〈180〉×30	〈4.59〉	N－11°－E	不明	不明	38住を切る 西側区域外にかかる
44	C 15	不明	392×〈240〉×40	〈7.57〉	N－0°	不明	10C前 平安前	45住、3竪を切る P203・204・207に切られる 東側区域外にかかる
45	C 15	不明	372×〈204〉×48	〈5.62〉	N－0°	不明	10C後～ 平安中	64土、P 209を切る 44住、72土に切られる 東側区域外にかかる
46		欠番	－	－	－	－	－	欠番
47	C 16	方形	244×236×24	5.15	N－82°－W	東壁中央 石組粘土	10～11C 平安中	73・77土に切られる
48	C 16	不明	〈252〉×〈132〉×18	〈0.60〉	不明	不明	不明	11溝に切られる
49	C 16	隅丸方形か	420×〈342〉×26	〈6.70〉	N－0°	不明	12C 平安後	50住を切る 11溝に切られる
50	C 16	不明	328×〈220〉×12	〈6.21〉	N－90°－E	東壁中央	10C 平安後	49住、78土に切られる
51	C 16	不明	〈308〉×〈248〉×62	〈4.23〉	N－0°	不明	11C後 平安後	66住に切られる 東側区域外にかかる P3は鍛冶炉か
52	C 17	隅丸方形	624×596×24	(32.13)	N－80°－E	東壁北隅 石組粘土	11～12C 平安後	53・80住を切る 79住、12溝に切られる
53	C 16	不明	〈286〉×〈232〉×32	〈5.65〉	N－26°－W	不明	11C 平安後	67・73・74・75住を切る 52・55住、71土に切られる 西側区域外にかかる
54	C 18	隅丸長方形	512×380×44	〈14.26〉	N－10°－E	不明	12C 平安後	56・58・64・78住に切られる 北東側区域外にかかる
55	C 17	不明	〈292〉×〈248〉×62	〈6.07〉	N－24°－W	不明	11C前 平安中	53・67・73・74・75住を切る 71土、P219に切られる 西側区域外にかかる
56	C 18	不明	〈404〉×〈180〉×32	〈4,80〉	不明	不明	12C 平安後	54・58・64・78住を切る 北東側区域外にかかる
57	C 18	方形	428×412×48	13.68	N－17°－W	不明	11C後 平安後	76住を切る 75土、P224に切られる 76住の覆土か
58	C 18	不明	－×－×16	－	不明	不明	不明	54住を切る 56・78住に切られる
59	－	－	－	－	－	－	－	欠番
60	C 18	隅丸長方形	500×388×32	17.10	N－98°－W	北東隅 石組粘土	12C 平安後	61住を切る
61	C 19	隅丸方形	372×372×36	(11.96)	N－4°－E	不明	10C前 平安前	68住を切る 60住に切られる
62	－	－	－	－	－	－	－	欠番
63	C 19	隅丸長方形	500×320×44	13.98	N－7°－W	東壁北隅 粘土	不明 11C後か	77住を切る 60住に切られる
64	C 18	不明	〈204〉×〈52〉×28	〈0.66〉	不明	不明	不明 ～12C	54住を切る 56・78住に切られる 北東側区域外にかかる
65	C 19	不明	〈260〉×〈196〉×16	〈2.82〉	不明	不明	12C 平安後	51住に切られる 北東側区域外にかかる
66	C 16	不明	〈72〉×〈22〉×36	〈0.11〉	不明	不明	不明 11C後か	51住を切る 北東側区域外にかかる
67	C 20	隅丸方形	308×304×34	8.33	N－1°－E	西壁中央か	11C後 平安後	73・74・75住を切る 53・55住、88土に切られる
68	C 19	長方形	292×284×12	6.90	N－0°	不明	不明	61住に切られる
69	C 21	隅丸方形	296×268×36	7.20	N－22°－E	東壁北隅 石組粘土	10～12C 平安後半	
70	－	－	－	－	－	－	－	欠番
71	－	－	－	－	－	－	－	欠番
72	－	－	－	－	－	－	－	欠番
73	C 20	隅丸長方形	376×296×28	(11.03)	N－105°－E	東壁中央 石組粘土	10～11C 平安中	74・75住を切る 52・53・55・67住に切られる
74	C 20	不明	288×〈64〉×26	〈0.90〉	不明	不明	不明 10～11Cか	53・55・67・73住に切られる
75	C 20	不明	240×〈44〉×28	〈0.62〉	不明	不明	10C～ 不明	53・55・67・73住に切られる
76	C 20	隅丸長方形	468×288×20	12.64	N－95°－W	西壁南隅 石組粘土	11C後 平安後	57住に切られる 57住は覆土上層か

住居No.	地区・図	平面形	規模 長軸×短軸×深さ（cm）	規模 床面積（m²）	主軸方向	カマド形態 種類・位置	時期	備考
77	C 19	不明	〈332〉×〈20〉×32	〈0.19〉	不明	不明	不明	60・63住に切られる
78	C 18	不明	〈200〉×〈108〉×36	〈1.87〉	不明	不明	12C 平安後	54・64住を切る 56住に切られる 北東側区域外にかかる
79	C 21	隅丸長方形	460×388×40	14.70	N－82°－W	西壁中央 石組粘土	12C 平安後	52・80住を切る 77住、12溝に切られる
80	C 21	隅丸方形	396×372×44	11.83	N－72°－W	西壁中央	11～12C 平安後	52・79住、12溝に切られる
81	C 22	不明	〈258〉×〈184〉×6	〈3.42〉	不明	不明	不明	確認トレンチに切られる 北側区域外にかかる
82	C 22	不明	520×〈288〉×8	〈12.67〉	N－0°	不明	不明	確認トレンチに切られる
83	C 22	方形	(432)×392×12	(14.91)	N－7°－E	不明	不明	84・85住を切る
84	C 22	長方形	540×420×10	(20.98)	N－0°	不明	11～12C 平安後	85住を切る 83住に切られる
85	C 22	不明	〈500〉×〈300〉×8	〈13.05〉	不明	不明	不明	83・84住に切られる 北側東側区域外にかかる
86	C 22	不明	416×〈284〉×8	〈9.02〉	N－15°－E	不明	不明	84住、96土、確認トレンチに切られる

第2表　掘立柱建物址一覧表

（）：推定、〈〉：残存

No.	地区・図	建物址平面 平面形 柱配り	建物址平面 主軸方向 面積（m²）	建物址平面 規模（間） 規模（cm）	柱間寸法〈cm〉	柱穴 平面形	柱穴 規模〈cm〉	柱穴 柱痕	時期	備考
12	A・23	不明 総柱式	N－0° 〈6.97〉	2間（3間）×1間以上 340（536）×220	桁行 184～220 〈202〉 梁行 164～180 〈172〉	円形	径 32～52 深 16～60	P1 のみ	不明 中世1 (鎌倉)か	7住を切る 12建P7＝P25
13	A・23	方形 側柱式	N－3°－E 2.90	1間×1間 168×184	桁行 184 梁行 168	円形	径 28～48 深 12～24	－	不明 中世2 (室町)か	42土を伴うか

第3表　竪穴状遺構一覧表

（）：推定、〈〉：残存

No.	地区・図	平面形	規模 長軸×短軸×深さ（cm）	規模 床面積（m²）	主軸方向	内部施設	時期	備考
1	A 23	隅丸長方形	312×232×22	5.12	N－2°－E	なし	不明	2竪を切る P52に切られる
2	A 23	隅丸長方形	244×192×44	2.88	N－4°－W	なし	9C～ 不明	1竪に切られる
3	C 23	不明	〈260〉×172×30	〈1.91〉	N－0°	ピット1個	9C～ 不明	44住に切られる 東側区域外にかかる

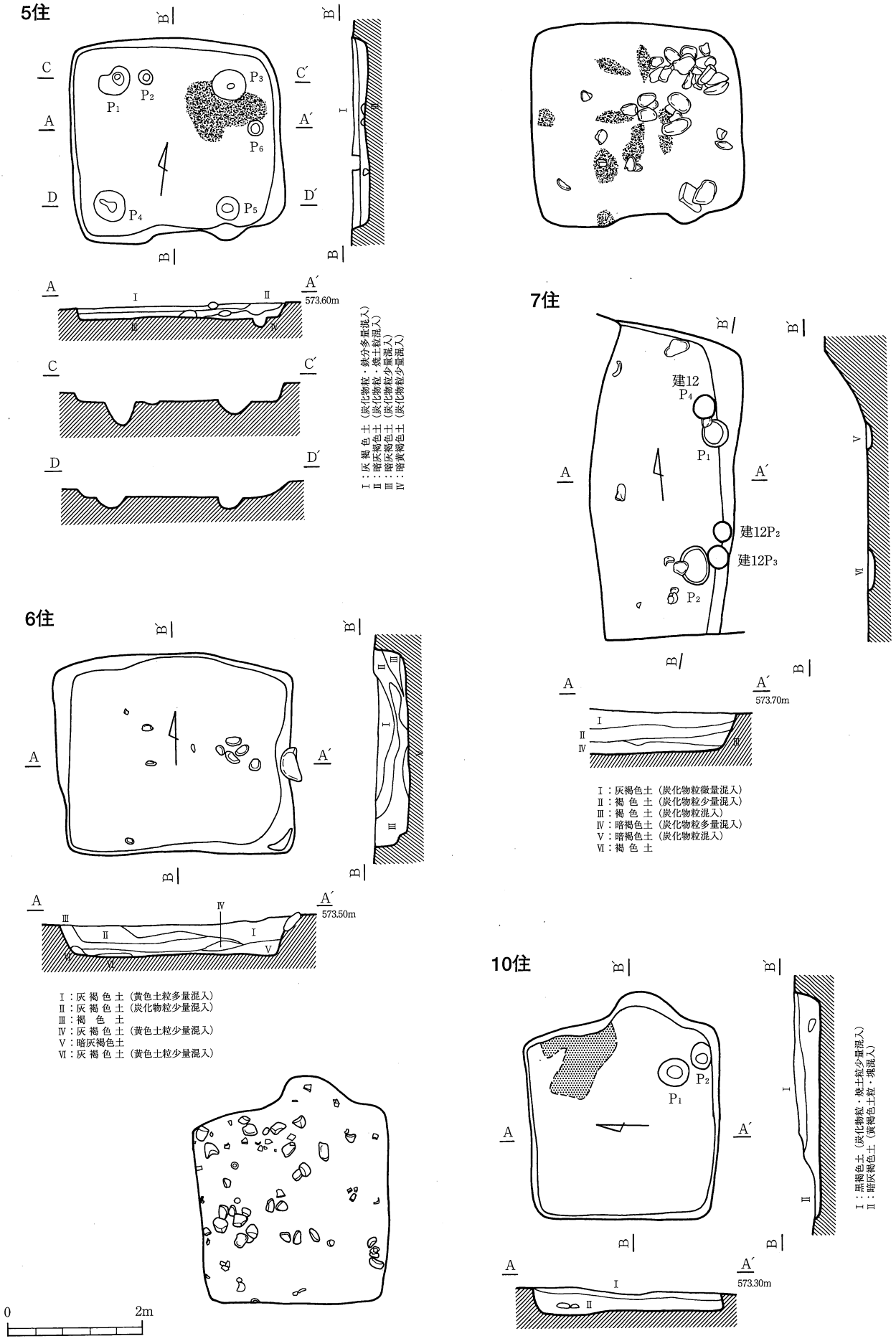
第4表　溝、流路址一覧表

（）：推定、〈〉：残存

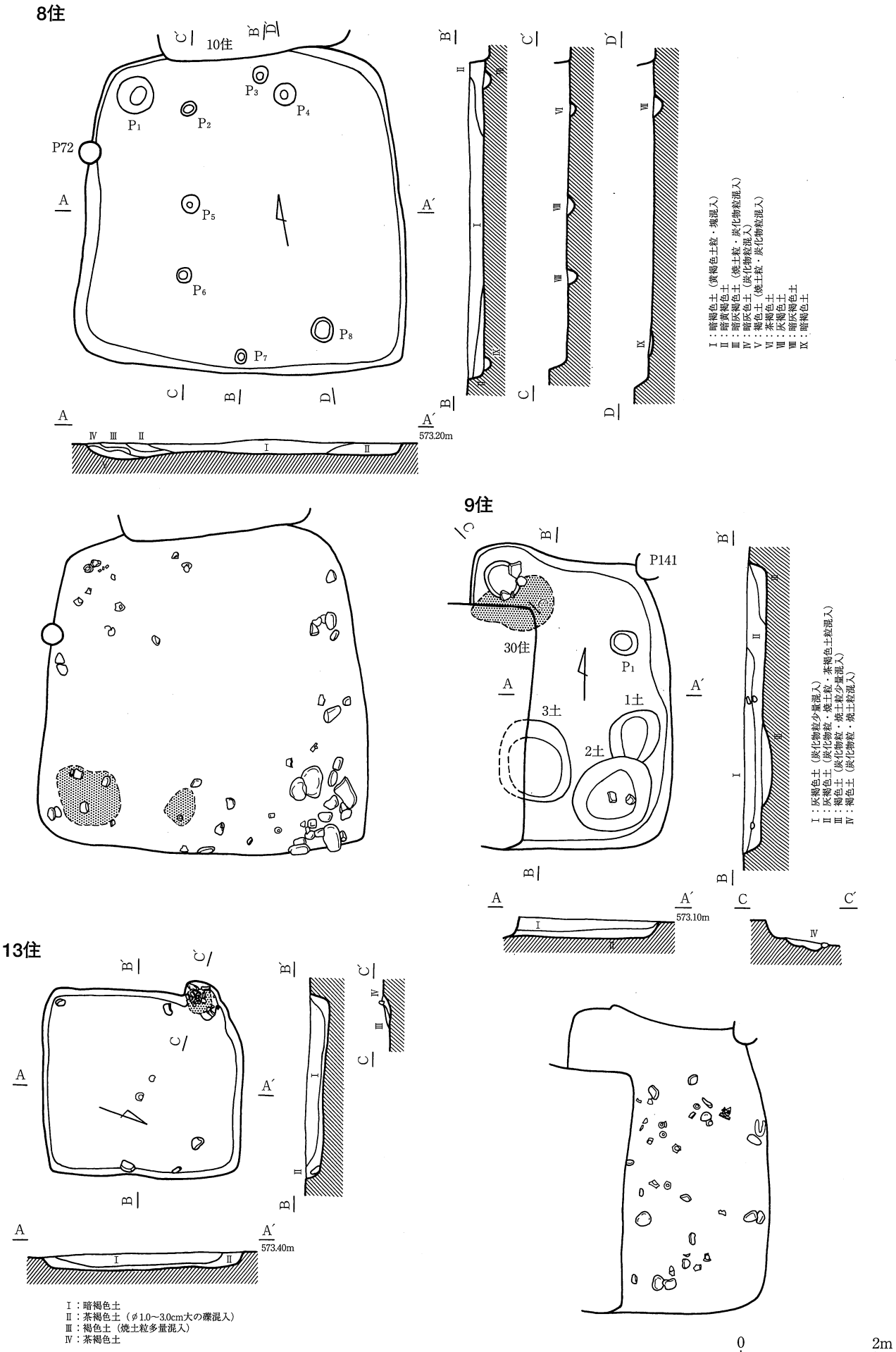
No.	地区	起点	終点	断面形	規模（cm） 長さ	規模（cm） 幅	規模（cm） 深さ	時期	備考
11 溝	C 南	N9・E12 (北西端)	N13・E12 (南端)	半円形	〈540〉	100～110	30～35	不明 11～12Cか	48・49住を切る　第25図 12溝と同一か 両端は区域外にかかる
12 溝	C 南	N15・E1 (南端)	N31・W7 (北端)	半円形	〈3,200〉	100～200	17～22	11～12C 平安後	52・79・80住を切る　第25図 11溝と同一か 両端は区域外にかかる
13 溝									欠番
14 溝	C 南	N38・W25 〈南東端〉	N42・W36 (西端)	逆台形	〈1,280〉	40～60	15～20	不明	N41－E26で約60度曲がる 15溝を切る 石列4に伴うか
15 溝	C 南	N39・W35 〈南端〉	N45・W33 〈北端〉	半円形	〈580〉	40～50	8～10	不明	14溝に切られる
流路 2	C 北	N54・W36 (南端)	N84・W44 (北端)	皿状	〈3,080〉	140～300	2～10	不明	石列7・8・9・10・11・13・14に切られる 流路3と同一か
流路 3	C 南	N42・W38 (南端)	N49・W34 (北端)	皿状	〈740〉	160～240	2～8	不明	14溝、石列16に切られる 流路2と同一か

第５表　土坑一覧表　　（）：推定、〈〉：残存

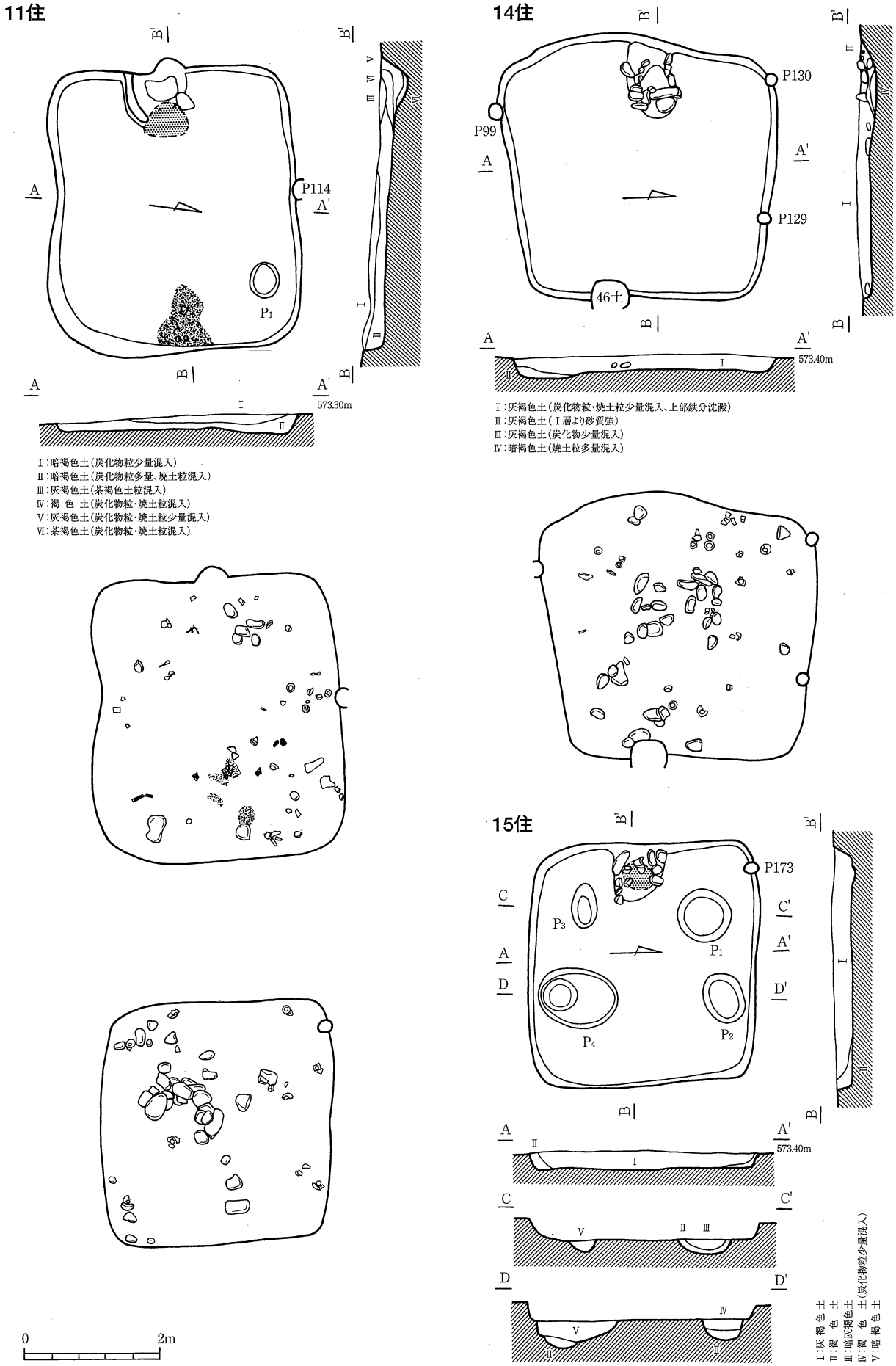
No.	地区	図	平面形	規模 長軸×短軸×深さ（cm）	時期	備考
42	A中	24	円形	88×76×24	中世か	13建に伴うか
43	A中	24	長円形	144×90×16	中世	墓址か
44	A中	24	楕円形	136×68×15	中世	墓址 副葬品刀出土
45	A北	24	楕円形	70×64×8		32住を切る、北東側区域外にかかる
46	A中	24	長円形	58×48×20	10Ｃ中～	14住を切る
47	－		－	－	－	欠番
48	A南	24	楕円形	60×48×10		34住を切る
49	A南	24	長円形	104×56×4		34住を切る
50	A中		不明	48×－×14		28住を切る、20住のセクションでのみ確認
51	A中	24	楕円形	80×68×24	～11Ｃ後	9住に切られる
52	A北	24	不明	126×（56）×52	9～10Ｃ	22住に切られる
53	B北		長円形	〈84〉×82×75	13Ｃ	西側区域外にかかる
54	B北	24	長円形	90×76×36	中世か	37住を切る、遺物として三尊仏彫刻のある石製硯出土
55	B北	24	楕円形	112×92×64	中世か	37住を切る
56	B北	24	不明	104×〈36〉×80	中世か	37住を切る、東側区域外にかかる
57	B南	24	円形	124×（124）×50		38住を切る、西側区域外にかかる
58	B南	24	長円形	152×124×24	古墳或は中世	38住を切る、石組で囲まれている、墓址か
59	B南	24	楕円形	164×132×100		38住、60土を切る
60	B南	24	不明	〈48〉×〈44〉×16		38住、59土に切られる
61	C南	24	不整円形	170×160×20		53･62土、P205に切られる
62	C南	24	不整長円形	100×80×24		61土を切る
63	C南	24	円形	132×132×34		
64	C南	24	不明	60×〈40〉×6	～10Ｃ前	45住に切られる
65	C南	24	円形	54×48×8		
66	C南	24	円形	88×76×12		
67	C南	24	不整楕円形	132×100×34	古代	11溝に切られる、西側区域外にかかる
68	C南	25	円形	40×36×4		P225を切る
69	C南	25	円形	54×44×10		
70	C南	25	長円形	152×116×14		
71	C南	25	円形	52×46×12	中世	53･55土を切る
72	C南	25	楕円形	158×92×56	10Ｃ後～	45住を切る
73	C南	25	長円形	144×102×26	11Ｃ前～	47住を切る、77土に切られる
74	C南	25	楕円形	122×82×18		
75	C南	25	長円形	72×64×8	中世か	57住を切る
76	－		－	－	－	欠番
77	C南	25	不整楕円形	132×84×18	11Ｃ前～	47住、73土を切る
78	C南	25	円形	164×164×26	11Ｃ前～	50住を切る
79	C南	25	円形	52×50×14	中世	12溝を切る
80	C南	25	円形	48×44×12	中世	12溝を切る
81	C南	25	楕円形	82×56×20	11～12Ｃ	
82	C南	25	不整形	104×44×24		
83	C南	25	楕円形	94×60×18		
84	C南	25	楕円形	42×28×12		
85	C南	25	楕円形	76×54×8	古墳	
86	－			－	－	欠番
87	－			－	－	欠番
88	C南	25	長円形	128×100×16	9Ｃ後～	
89	C南	25	長円形	174×32×10		
90	C台		楕円形	〈162〉×〈60〉×－		85住、91土に切られる、未掘
91	C台	25	円形	84×76×12		90土を切る
92	C台	25	楕円形か	68×〈32〉×6		85住に切られる
93	C台	25	楕円形	72×58×12		
94	C台	25	円形	62×62×12		
95	C台	25	楕円形	96×76×16	中世か	84住を切る
96	C台	25	長円形	（156）×112×14		86住を切る、確認トレンチに切られる
97	C南	24	長円形	136×92×76		61土を切る



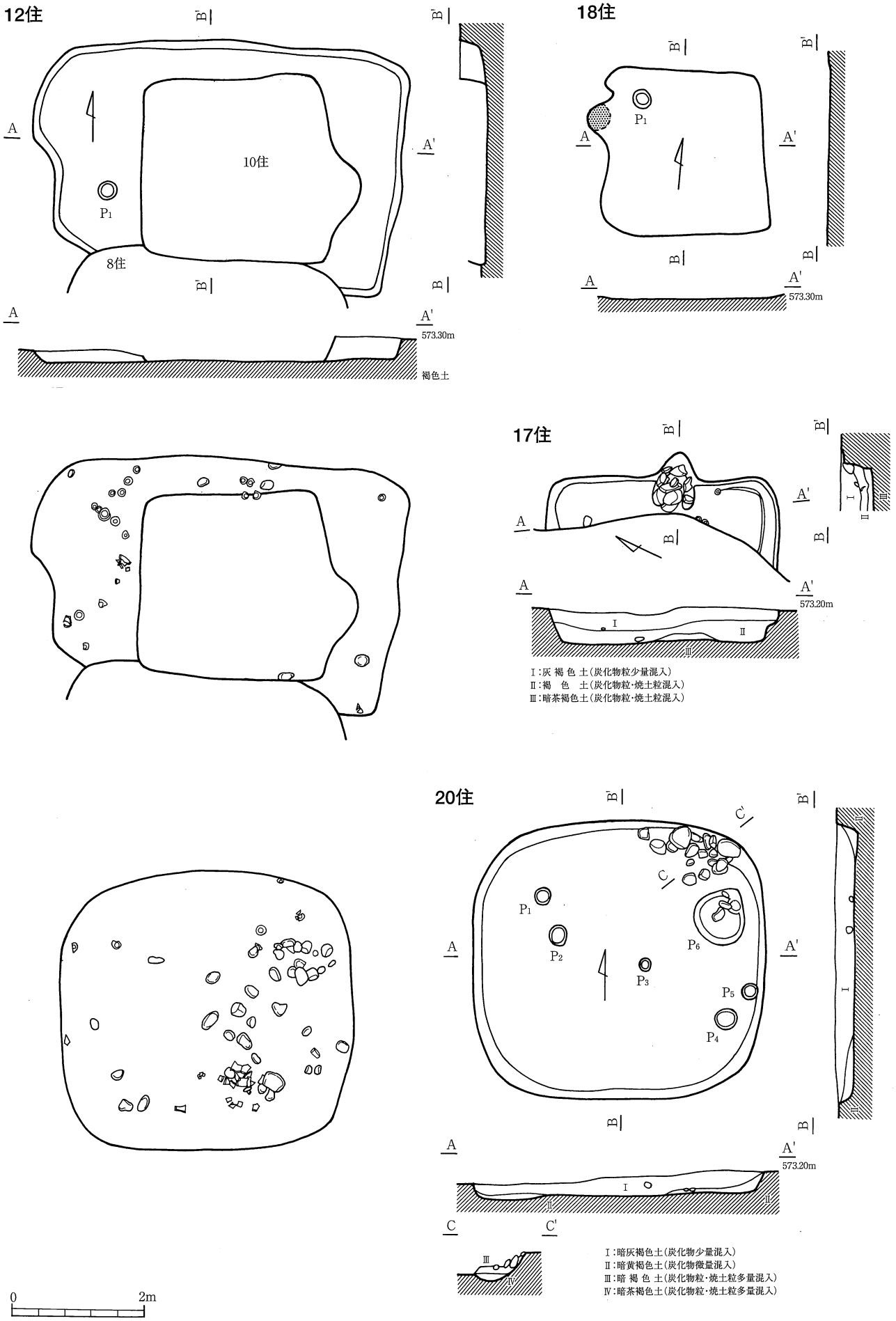
第7図　第5～7・10号住居址



第8図　第8・9・13号住居址

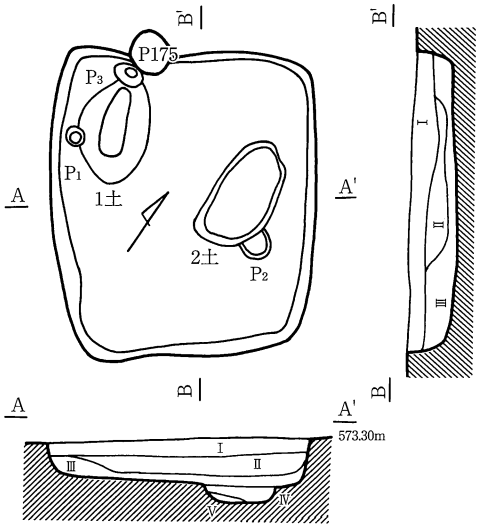


第9図　第11・14・15号住居址

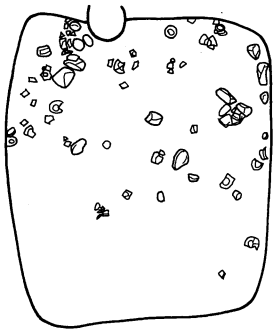


第10図　第12・17・18・20号住居址

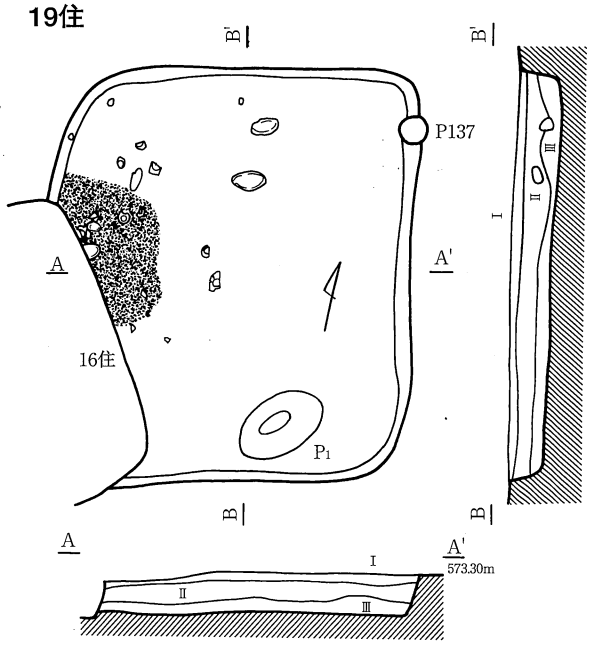
16住



Ⅰ:暗褐色土(鉄分・炭化物多量、焼土粒混入)
Ⅱ:暗褐色土(炭化物粒多量、焼土粒混入)
Ⅲ:暗褐色土
Ⅳ:灰褐色土(炭化物粒少量、焼土粒多量混入)
Ⅴ:明褐色土

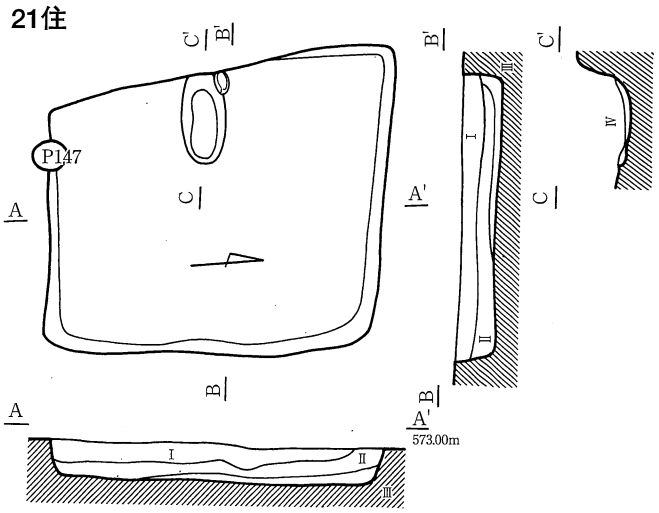


19住

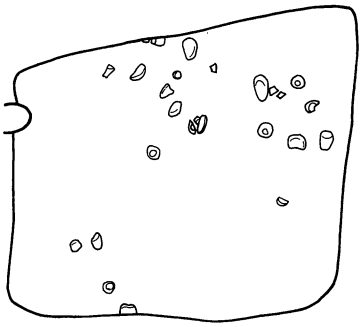


Ⅰ:灰 褐 色 土(茶褐色土粒混入)
Ⅱ:暗灰褐色土(炭化物粒微量混入)
Ⅲ:暗 褐 色 土

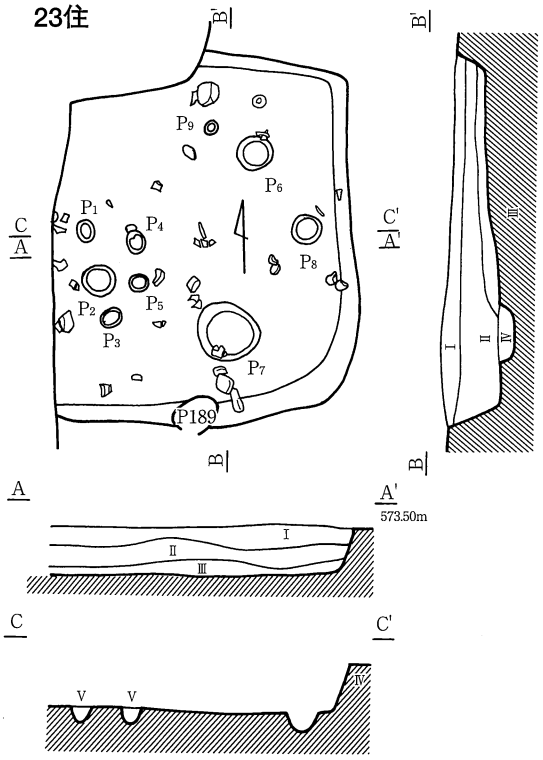
21住



Ⅰ:暗褐色土(鉄分多量混入　やや粘質)
Ⅱ:暗褐色土(焼土粒少量、炭化物粒混入)
Ⅲ:やや砂質の強いⅡ層
Ⅳ:灰褐色土(炭化物粒・焼土粒多量混入)



23住

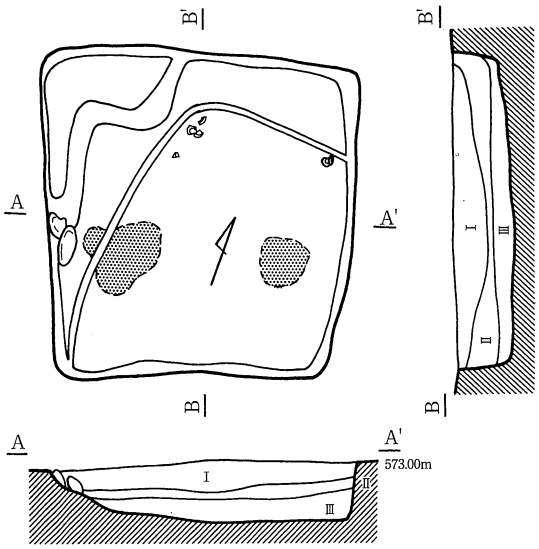


Ⅰ:灰褐色土(鉄分多量混入)
Ⅱ:灰褐色土(焼土少量、鉄分多量、炭化物粒混入)
Ⅲ:灰褐色土(黄色土塊・鉄分多量混入)
Ⅳ:暗褐色土
Ⅴ:灰褐色土
(Ⅰ～Ⅲ層は φ10～20cm大の礫少量混入)

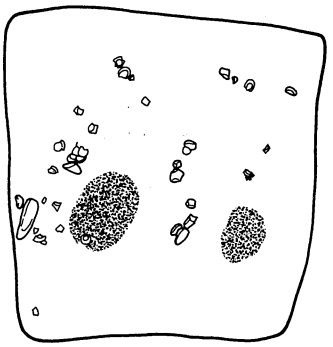
0　2m

第11図　第16・19・21・23号住居址

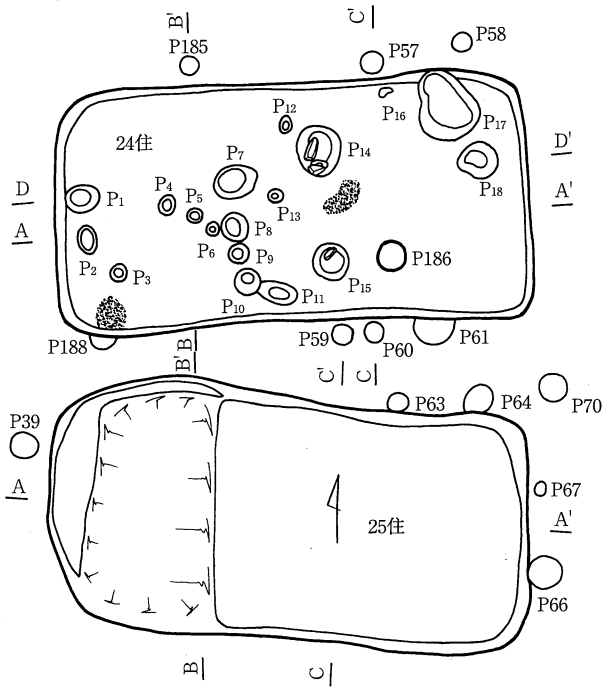
22住

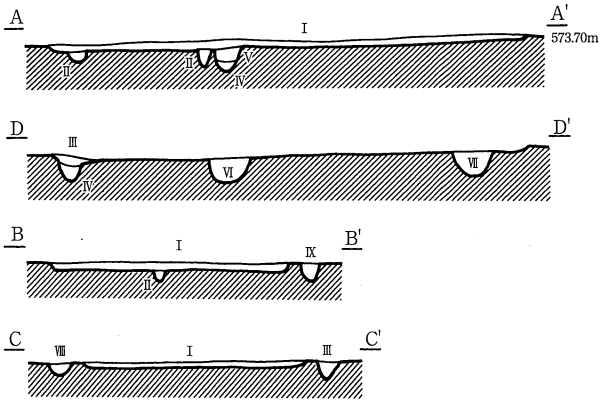


Ⅰ:灰 褐 色 土(茶褐色土粒少量混入)
Ⅱ:褐　色　土
Ⅲ:暗灰褐色土

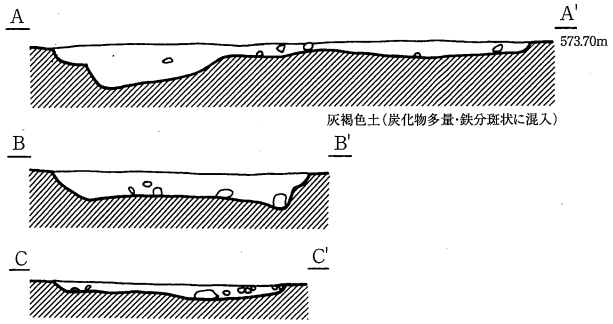


24・25住

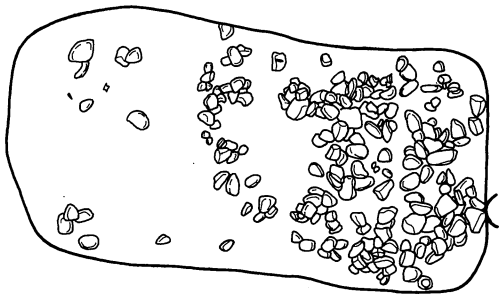




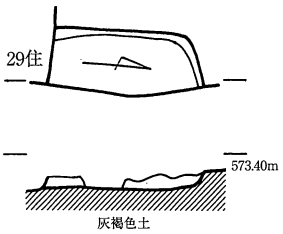
24住
Ⅰ:灰 褐 色 土(炭化物少量、鉄分多量混入)
Ⅱ:暗灰褐色土
Ⅲ:暗灰褐色土(炭化物少量混入)
Ⅳ:褐　色　土
Ⅴ:暗灰褐色土(炭化物粒・焼土粒混入)
Ⅵ:灰 褐 色 土(茶褐色土粒混入)
Ⅶ:暗灰褐色土(炭化物粒混入)
Ⅷ:灰 褐 色 土
Ⅸ:茶 褐 色 土(炭化物粒微量混入)



灰褐色土(炭化物多量・鉄分斑状に混入)



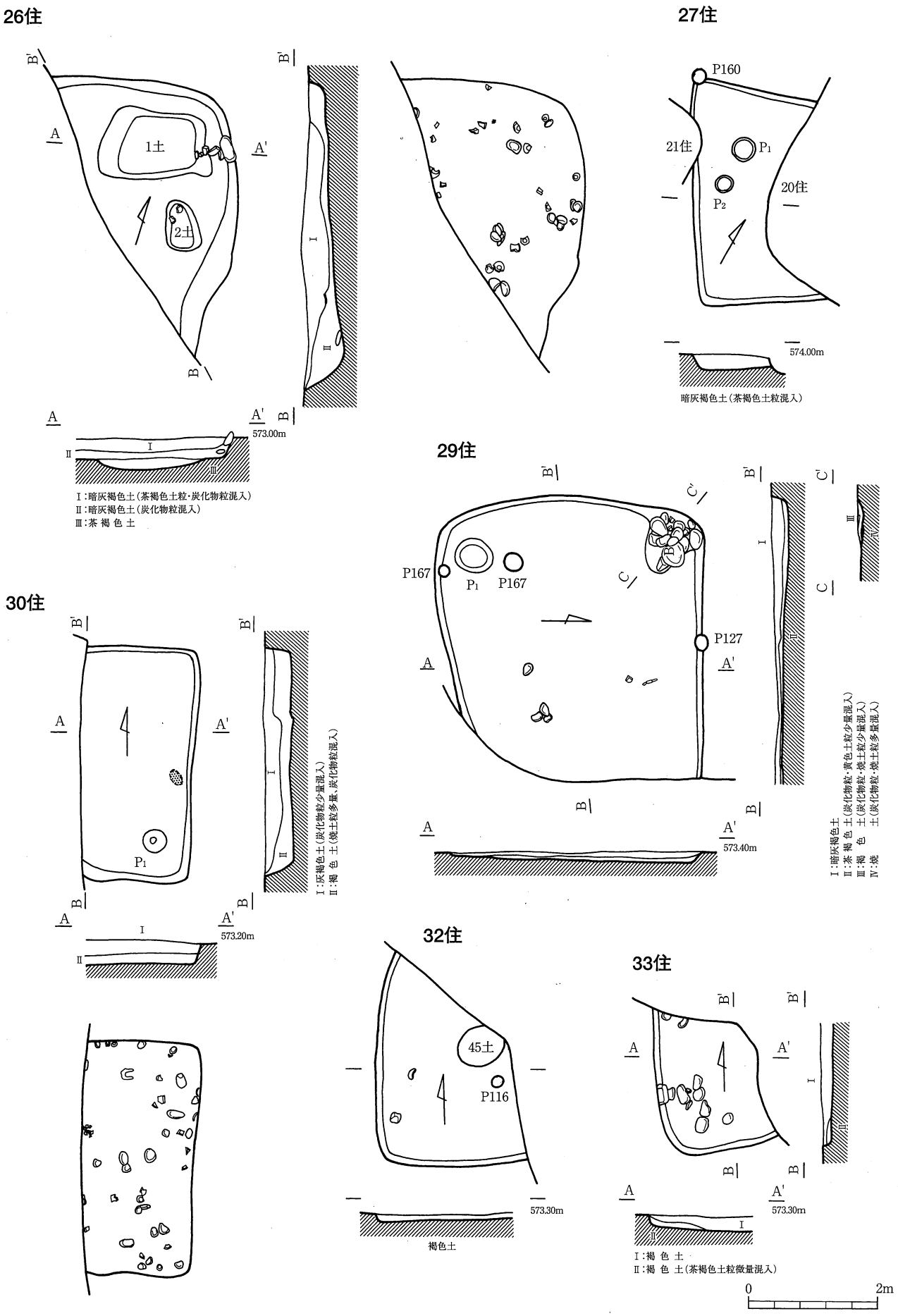
28住



灰褐色土

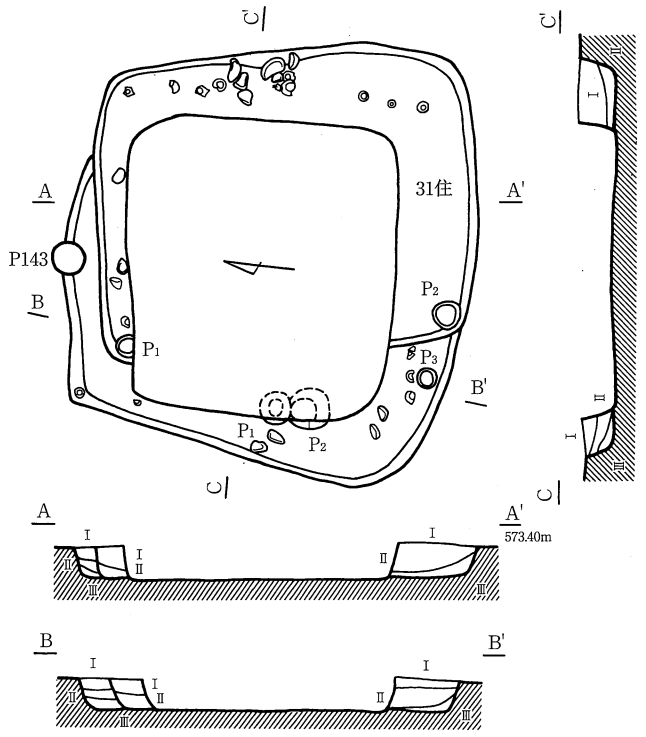
0　2m

第12図　第22・24・25・28号住居址



第13図　第26・27・29・30・32・33号住居址

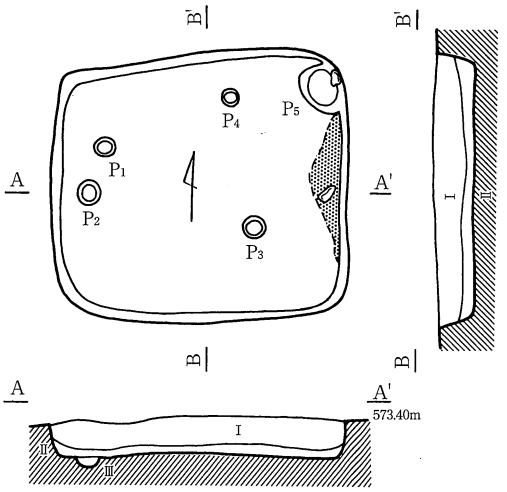
31・36住



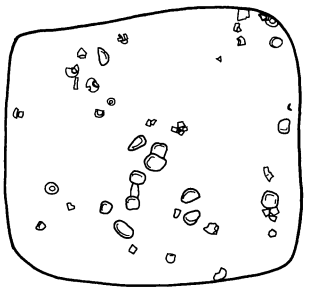
31住
Ⅰ:灰 褐 色 土(茶褐色土粒多量混入)
Ⅱ:茶 褐 色 土(炭化物粒少量混入)

36住
Ⅰ:灰 褐 色 土(茶褐色土粒混入)
Ⅱ:暗 褐 色 土(炭化物粒微量混入)
Ⅲ:茶 褐 色 土(黄色土粒少量混入)

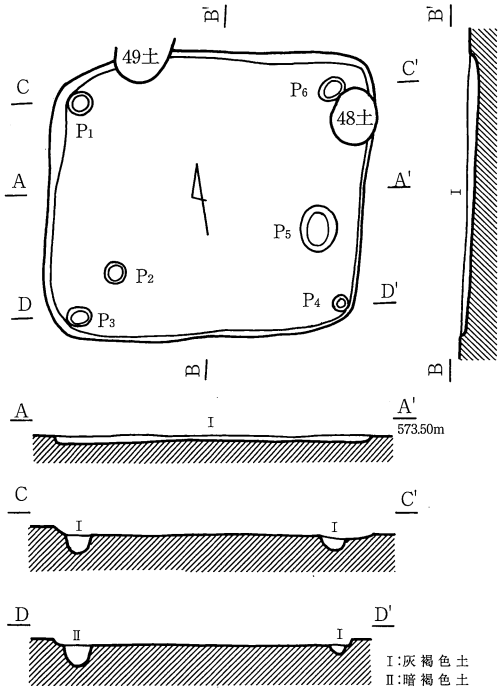
35住



Ⅰ:暗灰褐色土(炭化物粒・焼土粒少量混入)
Ⅱ:暗 褐 色 土(炭化物粒微量混入)
Ⅲ:暗 褐 色 土(炭化物粒少量混入)

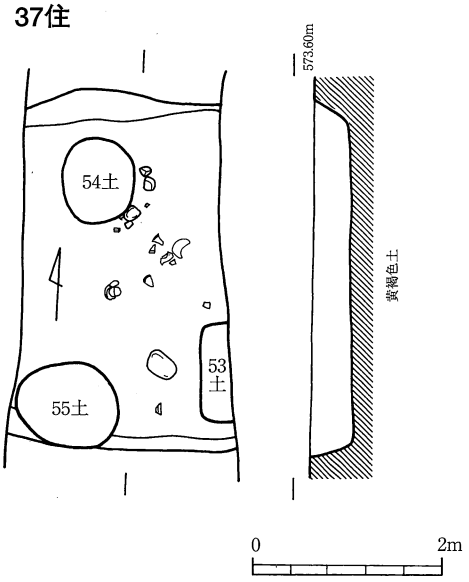


34住



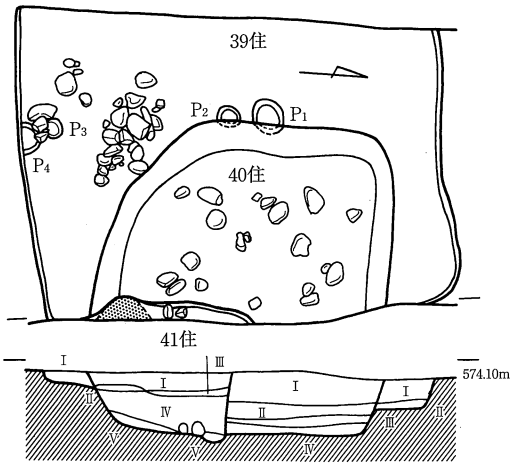
Ⅰ:灰 褐 色 土
Ⅱ:暗 褐 色 土

37住



第14図　第31・34～37号住居址

39・40・41住

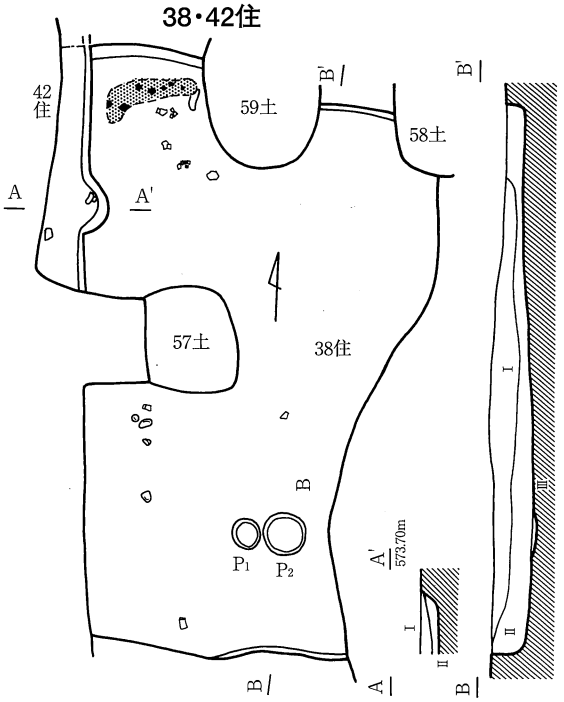


40住
Ⅰ:灰 褐 色 土(茶褐色土粒多量混入)
Ⅱ:灰 褐 色 土(茶褐色土粒少量混入)
Ⅲ:灰 褐 色 土(炭化物粒少量混入)
Ⅳ:灰 褐 色 土(茶褐色土粒少量混入)

39住
Ⅰ:茶 褐 色 土
Ⅱ:灰 褐 色 土

41住
Ⅰ:灰 褐 色 土
Ⅱ:灰 褐 色 土(焼土粒混入)
Ⅲ:灰 褐 色 土(茶褐色土粒少量混入)
Ⅳ:灰 褐 色 土(黄色土粒少量混入)
Ⅴ:暗 褐 色 土(炭化物粒・焼土粒少量混入)

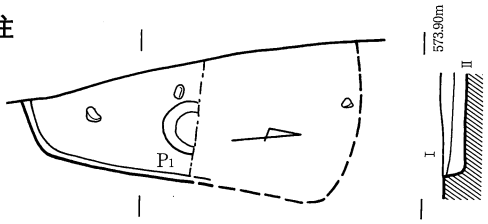
38・42住



42住
Ⅰ:灰 褐 色 土(炭化物粒・焼土粒混入)
Ⅱ:褐　色　土(炭化物粒・焼土粒混入)

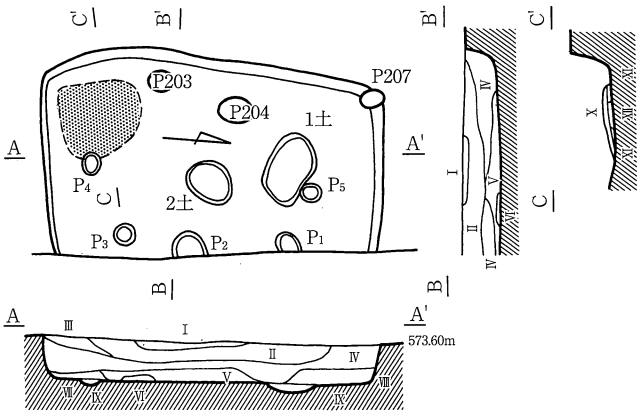
38住
Ⅰ:黒 褐 色 土(褐色土粒混入)
Ⅱ:褐　色　土
Ⅲ:暗 褐 色 土

43住



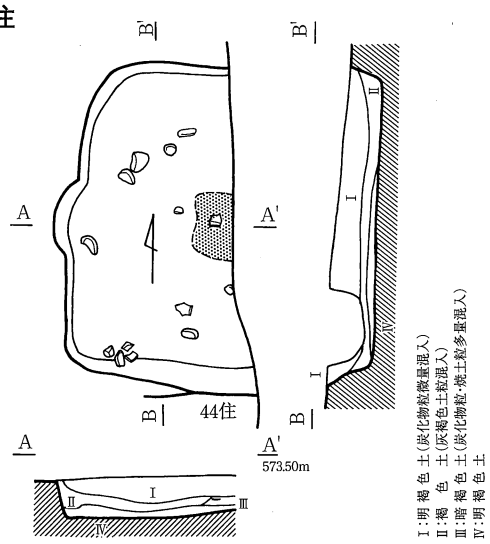
Ⅰ:灰 褐 色 土(茶褐色土粒少量混入)
Ⅱ:褐　色　土

44住

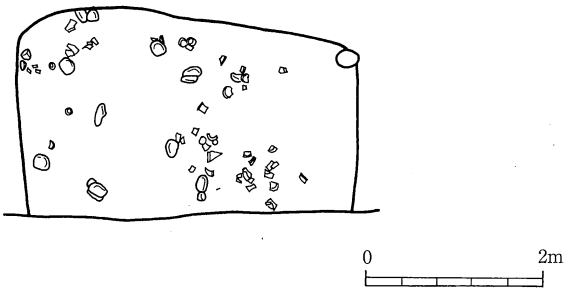


Ⅰ:暗灰褐色土(焼土粒少量、赤褐色土粒多量混入)
Ⅱ:暗灰褐色土(炭化物粒微量、褐色土粒混入)
Ⅲ:暗灰褐色土(炭化物粒少量、赤褐色土粒混入)
Ⅳ:暗灰褐色土(赤褐色土粒少量混入)
Ⅴ:暗灰褐色土(炭化物粒・焼土粒多量混入)
Ⅵ:暗灰褐色土(褐色土粒多量混入)
Ⅶ:暗灰褐色土(炭化物粒少量、焼土塊多量混入)
Ⅷ:暗灰褐色土(灰色土粒多量混入)
Ⅸ:褐　色　土(炭化物粒少量混入)
Ⅹ:赤 褐 色 土
Ⅺ:褐　色　土(焼土粒少量混入)
Ⅻ:砂　　礫(焼土粒混入)

45住

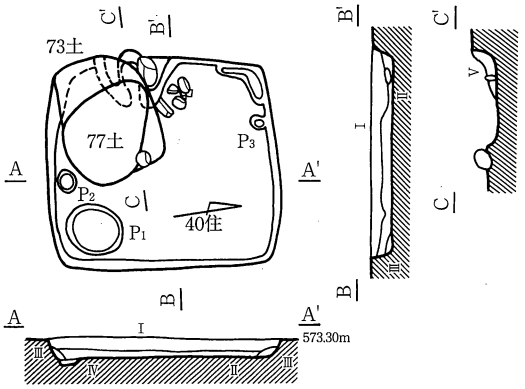


Ⅰ:明 褐 色 土(炭化物粒微量混入)
Ⅱ:褐　色　土(灰褐色土粒混入)
Ⅲ:暗 褐 色 土(炭化物粒・焼土粒多量混入)
Ⅳ:明 褐 色 土



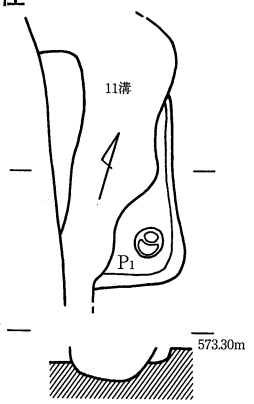
第15図　第38～45号住居址

47住

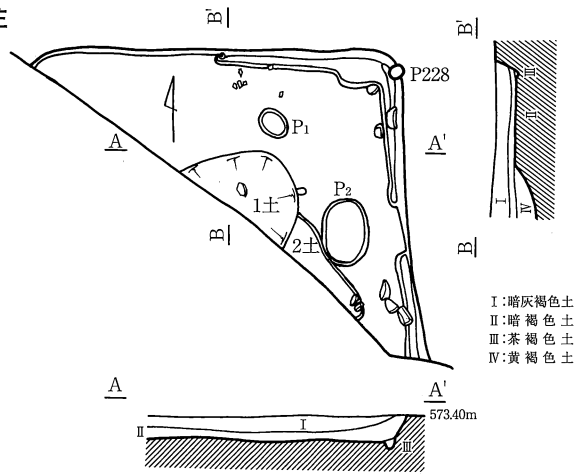


Ⅰ:暗灰褐色土(焼土・褐色土粒少量混入)
Ⅱ:暗灰褐色土(褐色土粒多量混入、西側に炭化物粒・焼土粒多量混入)
Ⅲ:暗灰褐色土(褐色土塊多量混入)
Ⅳ:茶 褐 色 土
Ⅴ:暗 褐 色 土(炭化物粒・焼土粒多量混入)

48住

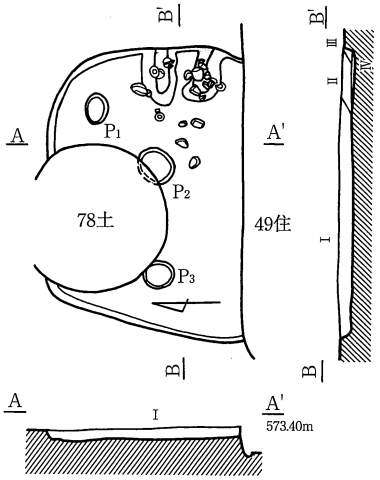


49住



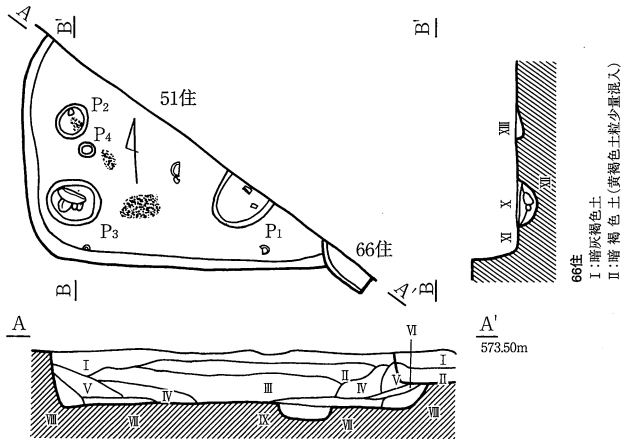
Ⅰ:暗灰褐色土
Ⅱ:暗 褐 色 土
Ⅲ:茶 褐 色 土
Ⅳ:黄 褐 色 土

50住



Ⅰ:茶 褐 色 土
Ⅱ:暗灰褐色土(炭化物粒・焼土粒混入)
Ⅲ:茶 褐 色 土(焼土粒微量混入)
Ⅳ:褐　色　土(焼土粒多量混入)

51・66住

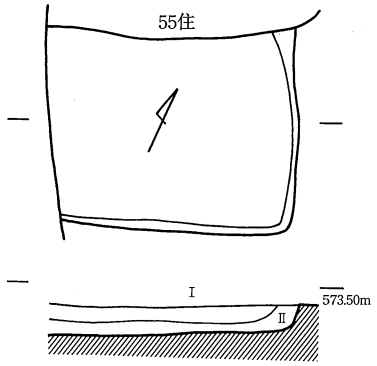


66住
Ⅰ:暗灰褐色土
Ⅱ:暗 褐 色 土(黄褐色土粒少量混入)

51住
Ⅰ:暗 灰 色 土(鉄分混入)
Ⅱ:暗灰褐色土(黄褐色土塊少量混入)
Ⅲ:暗灰褐色土(黄褐色土塊少量混入)
Ⅳ:暗 褐 色 土(黄褐色土塊少量混入)
Ⅴ:暗灰褐色土(黄褐色土塊・鉄分少量混入)
Ⅵ:暗灰褐色土(炭化物粒・塊多量混入)
Ⅶ:暗灰褐色土(焼土塊少量混入)
Ⅷ:暗黄褐色土(灰色土粒少量混入)
Ⅸ:暗 褐 色 土(炭化物粒少量混入)
Ⅹ:茶 褐 色 土(炭化物粒・焼土粒混入)
Ⅺ:暗黄褐色土(炭化物粒・焼土粒混入)
Ⅻ:黄 褐 色 土
XIII:暗茶褐色土(炭化物粒混入)

0　2m

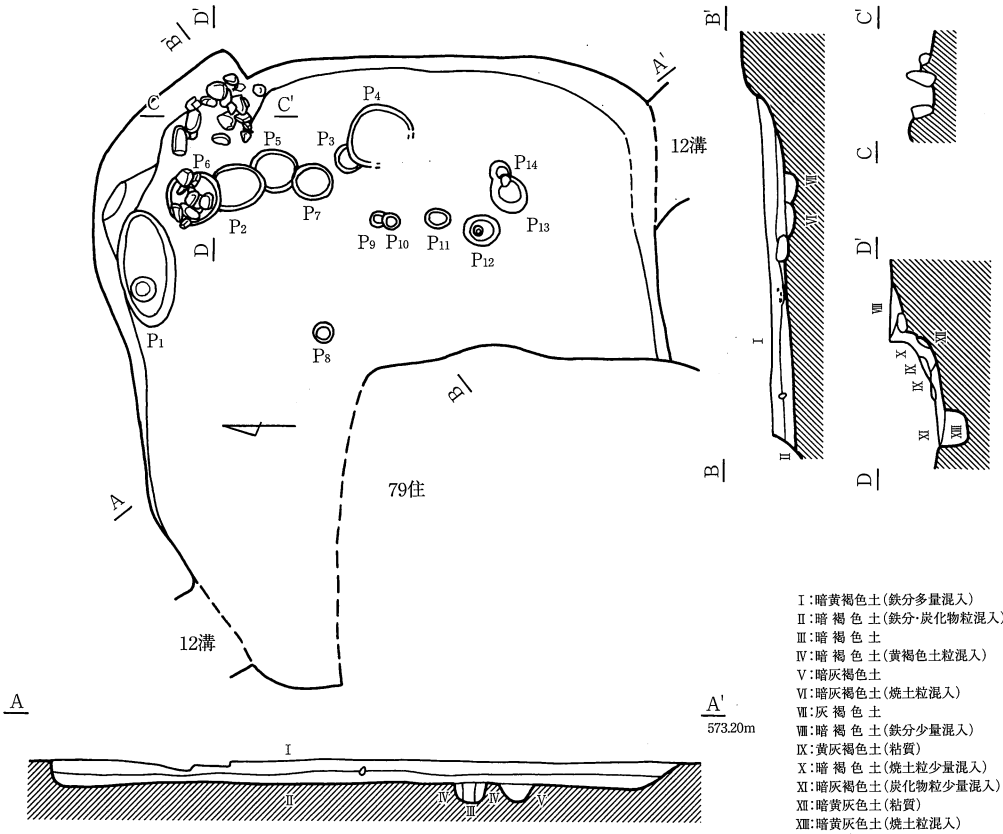
53住



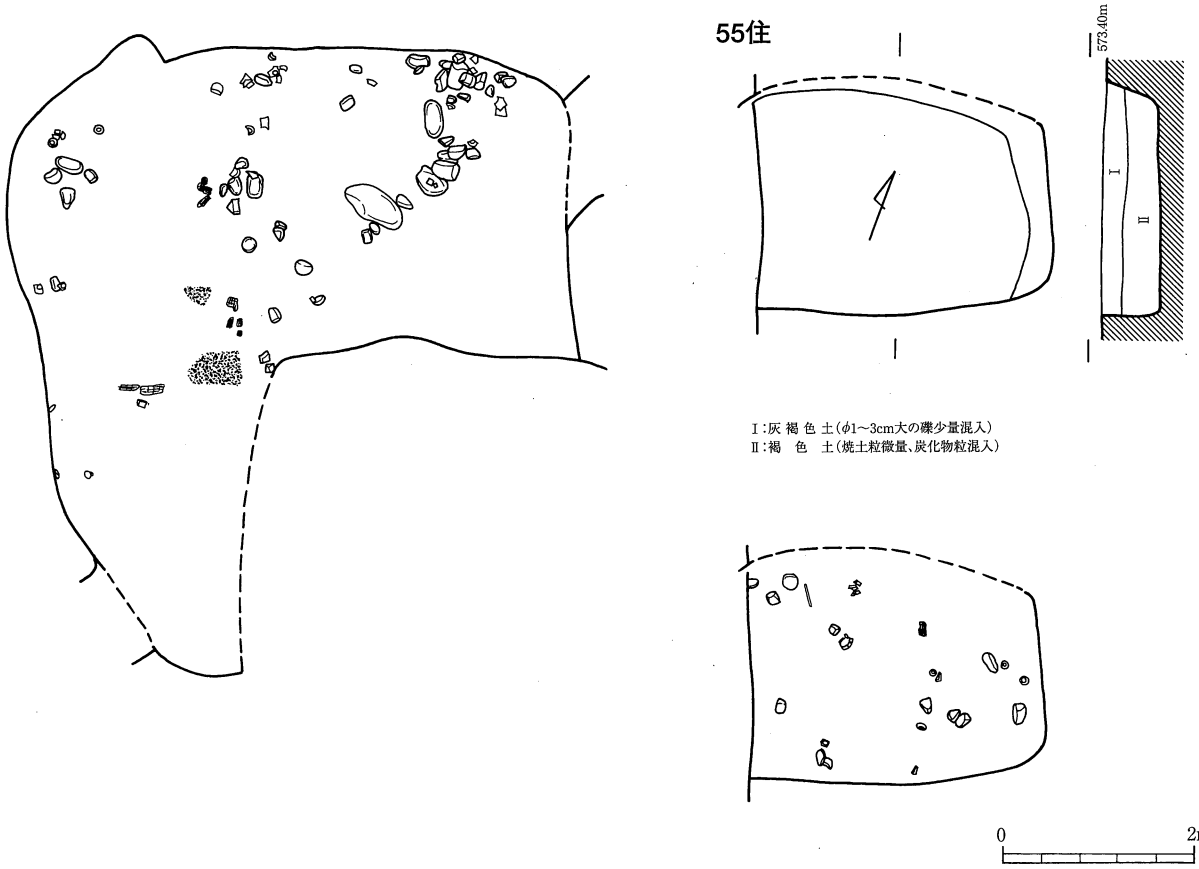
Ⅰ:灰 褐 色 土
Ⅱ:暗灰褐色土(φ1cm大の礫少量混入)

第16図　第47～51・53・66号住居址

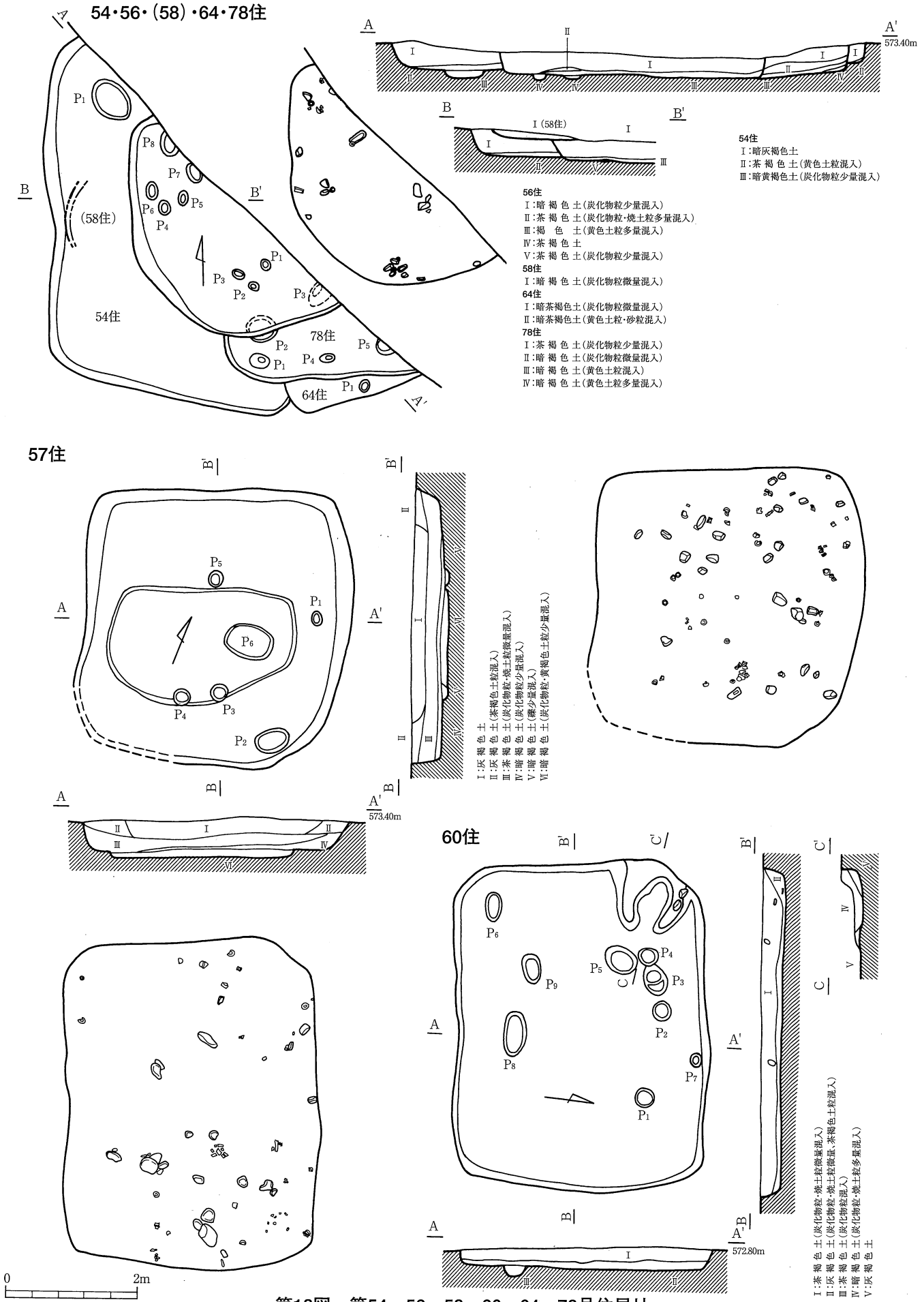
52住



55住

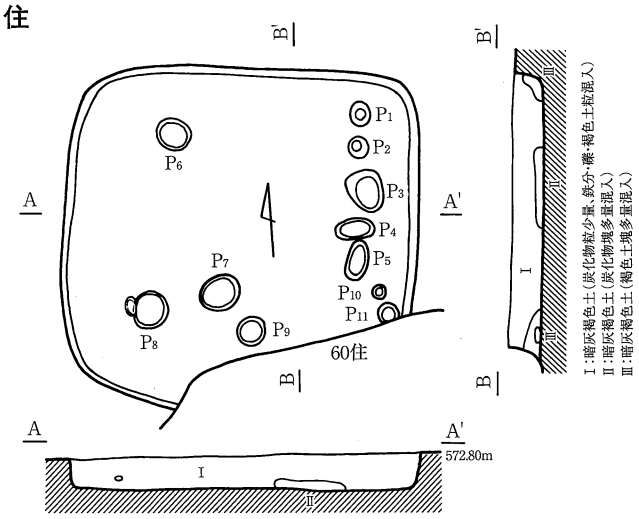


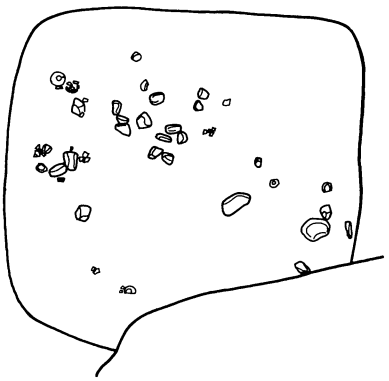
第17図　第52・55号住居址



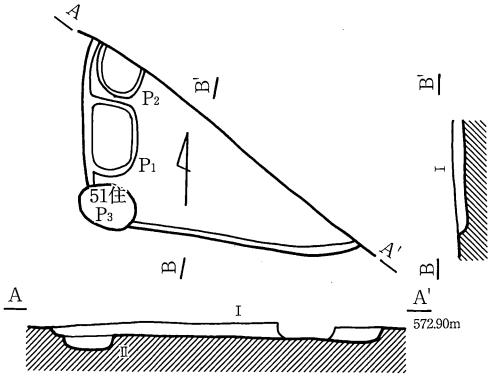
第18図　第54・56～58・60・64・78号住居址

61住

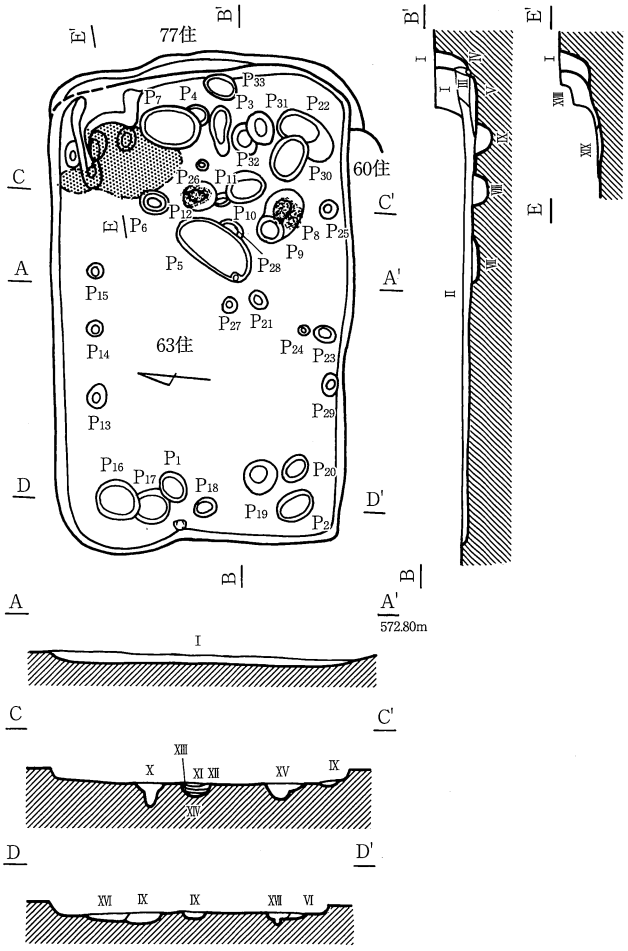




65住



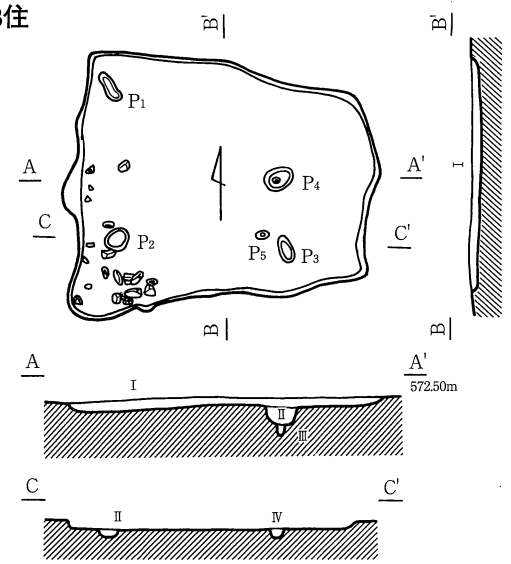
63・77住



63住
I:暗黄灰色土
II:暗灰褐色土(炭化物粒少量、黄褐色土粒・鉄分混入)
III:暗灰褐色土(黄褐色土粒・鉄分少量混入)
IV:暗黄褐色土(黄褐色土粒・鉄分多量混入)
V:暗 褐 色 土
VI:暗黄灰色土(鉄分混入)
VII:暗黄灰色土(鉄分多量混入)
VIII:暗 褐 色 土(黄褐色土粒・炭化物粒少量混入)
IX:暗黄褐色土(黄褐色土粒少量、鉄分混入)
X:暗 褐 色 土(炭化物粒・焼土粒少量混入)
XI:暗 褐 色 土(炭化物粒多量混入)
XII:炭 化 物
XIII:暗黄灰褐色土
XIV:焼 土
XV:暗 褐 色 土(炭化物粒少量混入)
XVI:暗黄褐色土(黄褐色土粒微量、鉄分混入)
XVII:茶 褐 色 土(炭化物粒・焼土粒微量混入)
XVIII:暗 褐 色 土(炭化物粒少量、鉄分混入)
XIX:暗 褐 色 土(焼土粒少量、炭化物粒混入)

77住
I:暗黄灰色土(鉄分混入)

68住

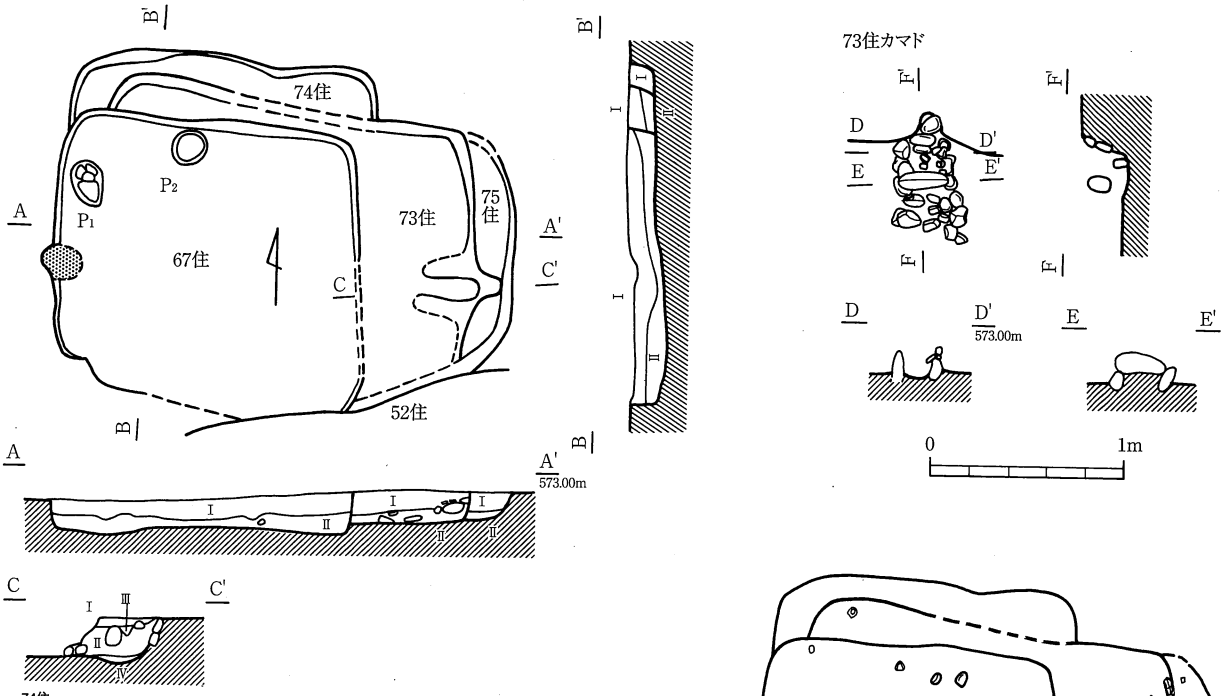


I:褐 色 土(黄色土粒混入)
II:褐 色 土
III:黒 褐 色 土
IV:灰 褐 色 土

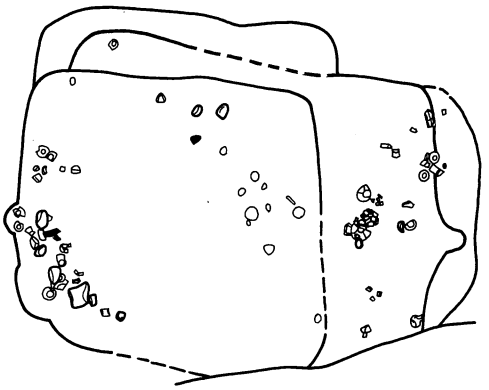
0 2m

第19図 第61・63・65・68・77号住居址

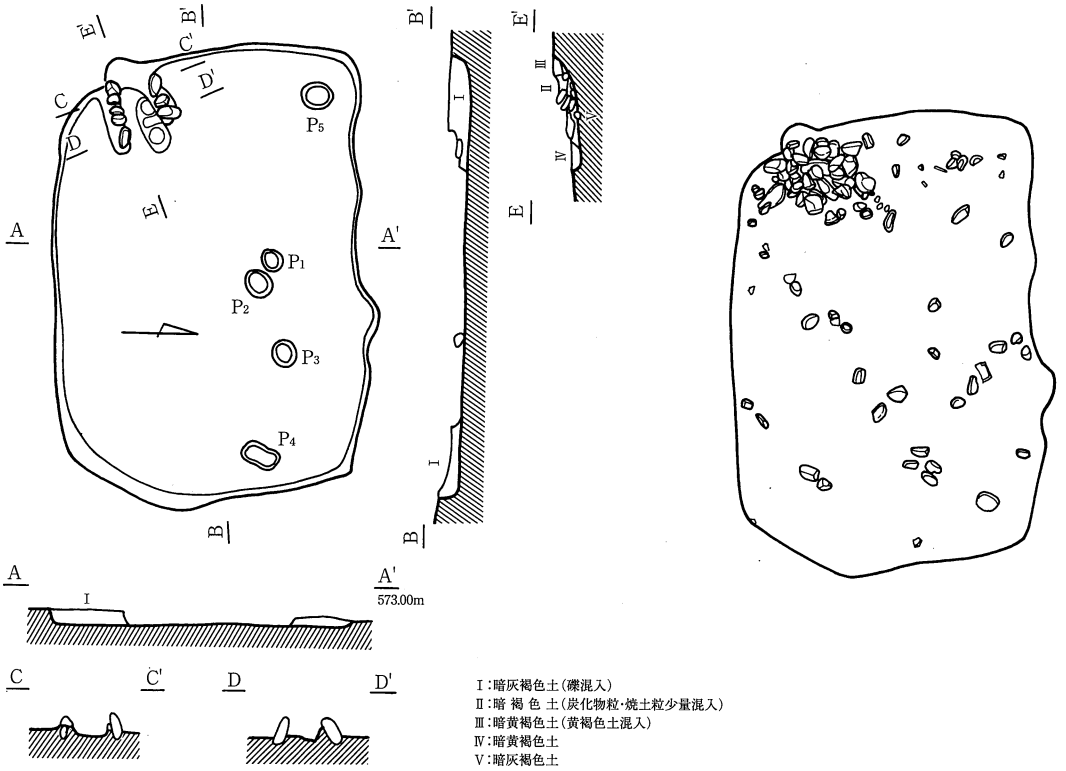
67・73・74・75住



74住
Ⅰ:暗 褐 色 土
67住
Ⅰ:暗黄褐色土(鉄分混入)
Ⅱ:暗 褐 色 土(鉄分少量混入)
73住
Ⅰ:暗灰褐色土(鉄分多量混入)
Ⅱ:暗灰褐色土(Ⅲ層より明黄)
Ⅲ:暗灰褐色土
Ⅳ:暗 褐 色 土(炭化物粒・焼土粒少量混入)
75住
Ⅰ:暗黄褐色土
Ⅱ:黄 褐 色 土(鉄分多量混入)



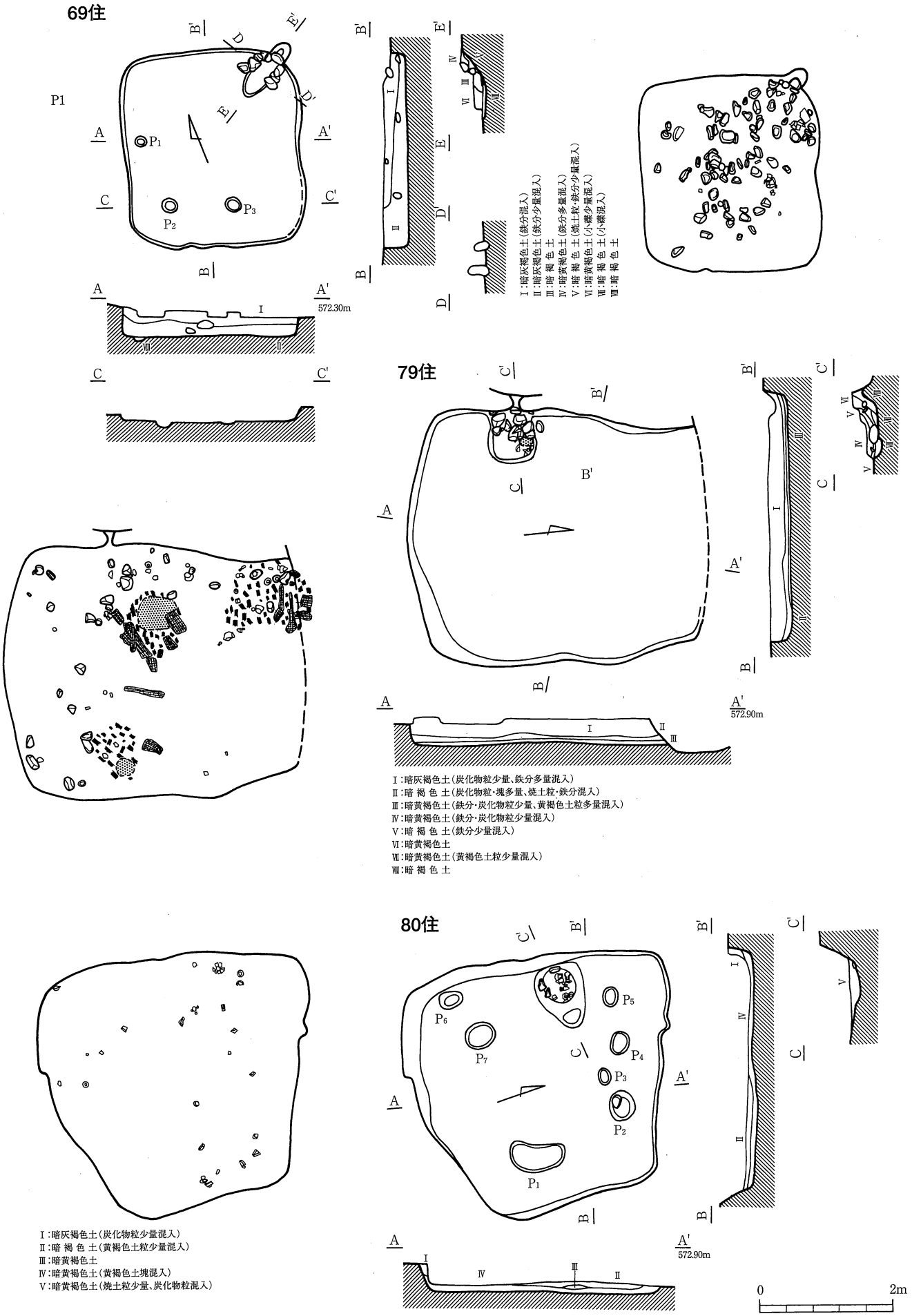
76住



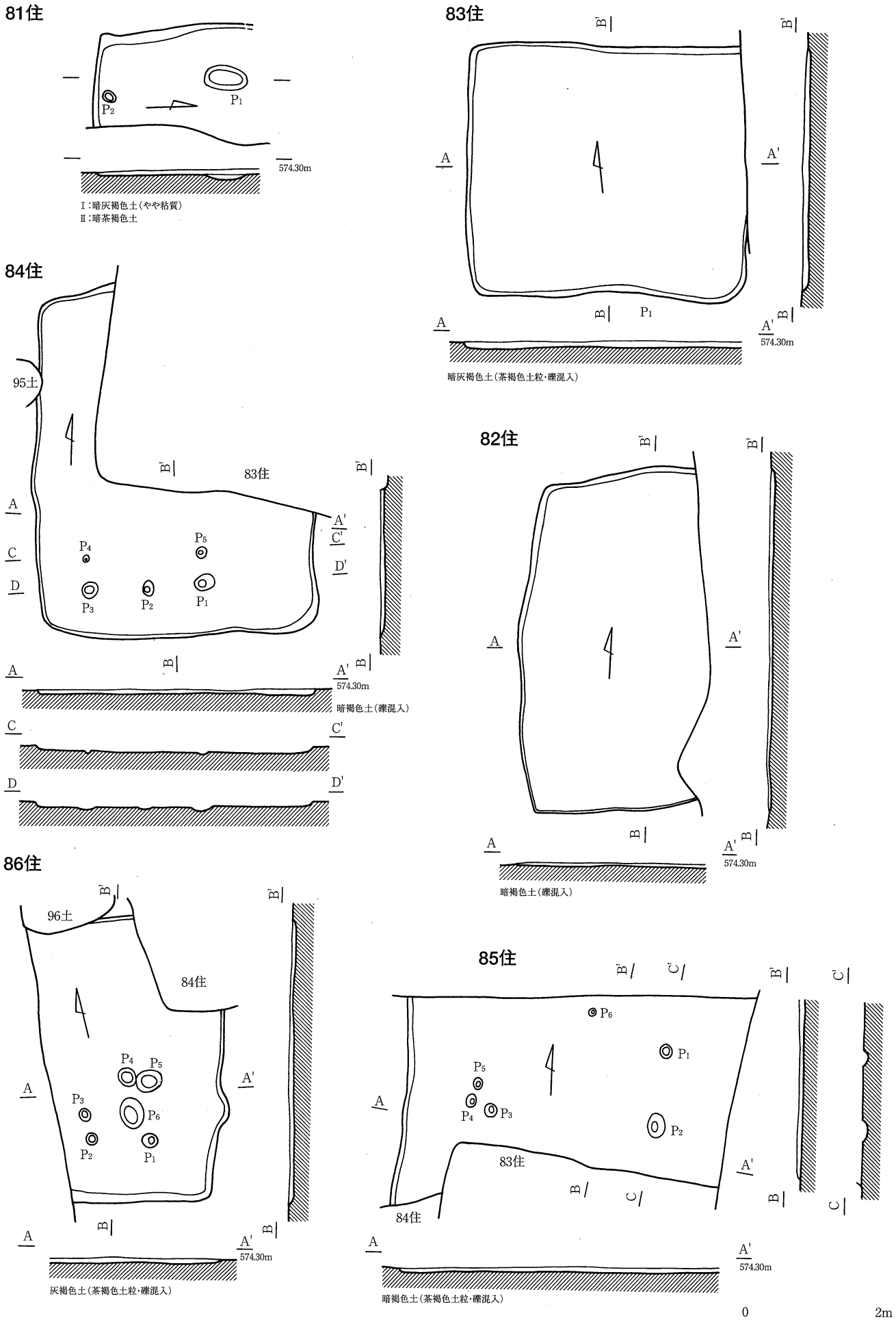
Ⅰ:暗灰褐色土(礫混入)
Ⅱ:暗 褐 色 土(炭化物粒・焼土粒少量混入)
Ⅲ:暗黄褐色土(黄褐色土混入)
Ⅳ:暗黄褐色土
Ⅴ:暗灰褐色土

第20図　第67・73～76号住居址

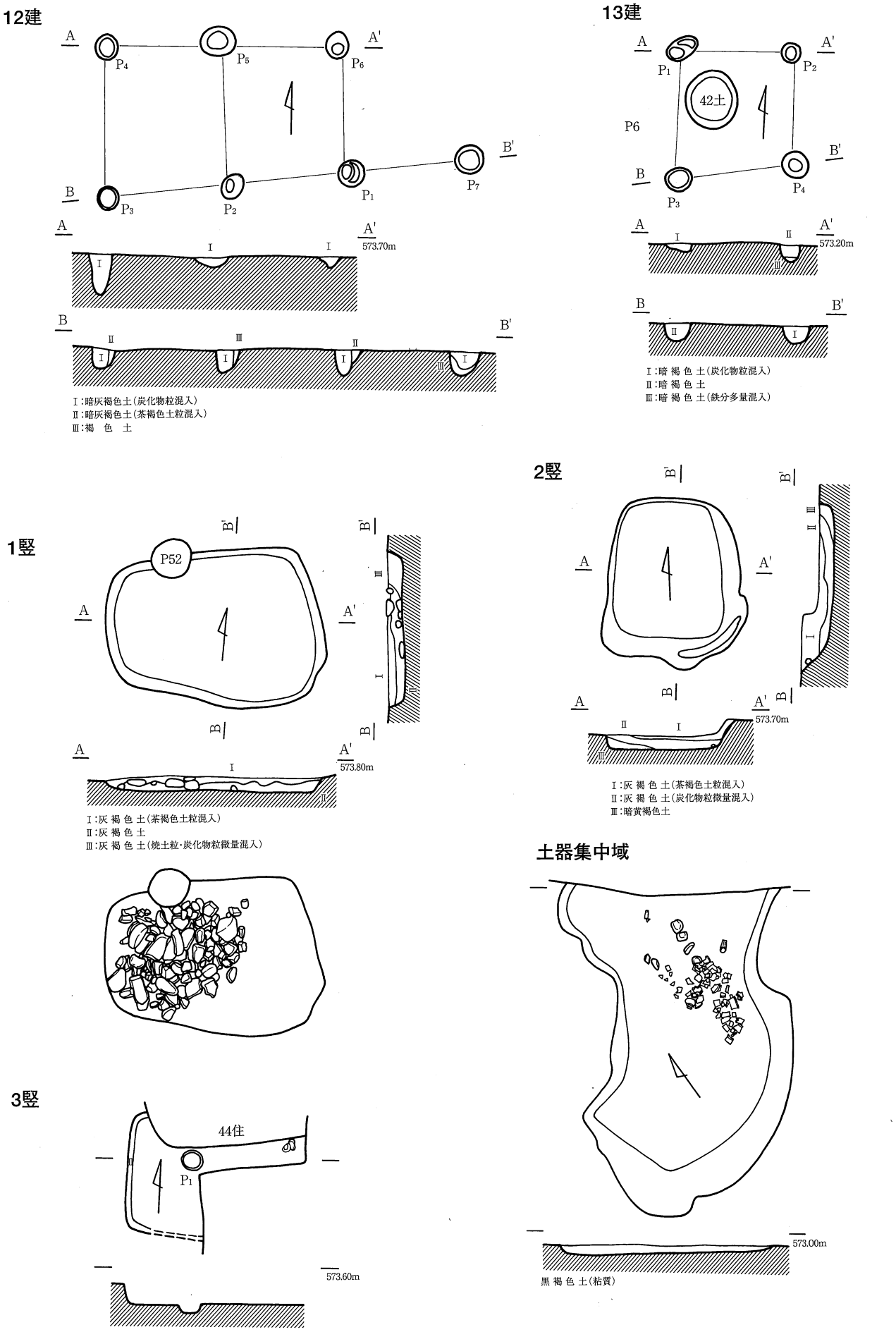
0　2m



第21図　第69・79・80号住居址

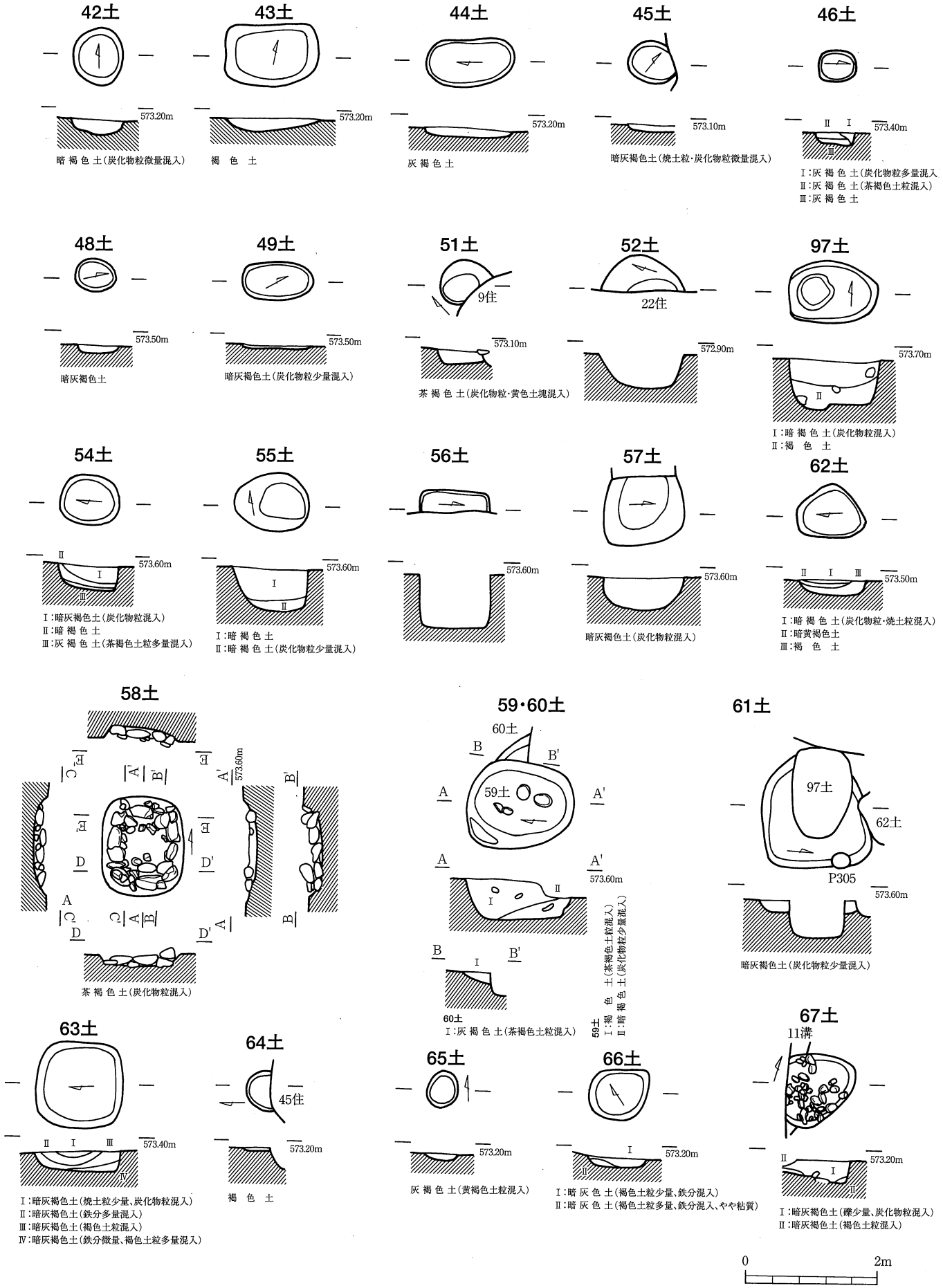


第22図　第81～86号住居址

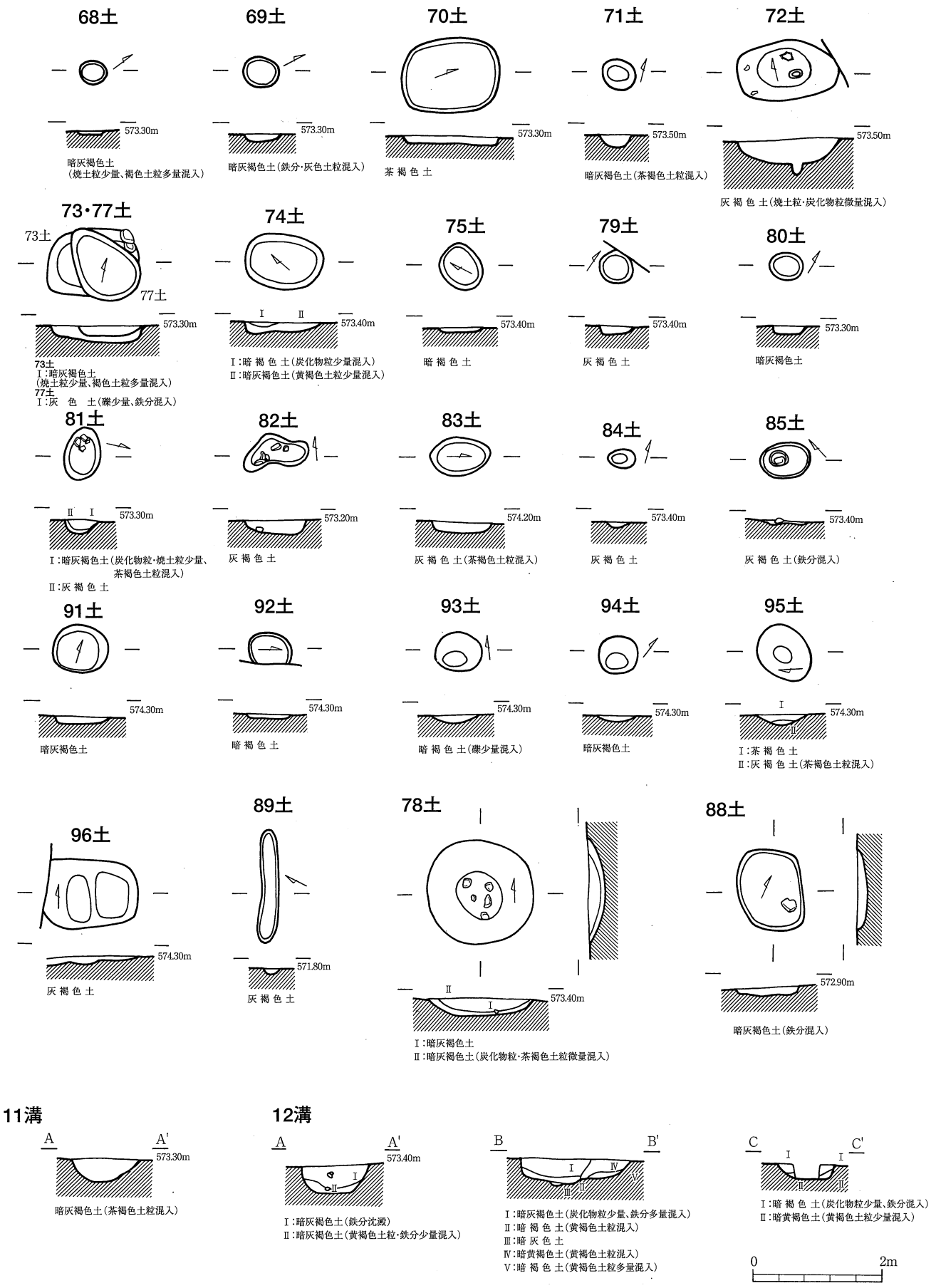


第23図　建物址、竪穴状遺構、土器集中域

土坑


42土
573.20m
暗 褐 色 土(炭化物粒微量混入)
43土
573.20m
褐 色 土
44土
573.20m
灰 褐 色 土
45土
573.10m
暗灰褐色土(焼土粒・炭化物粒微量混入)
46土
573.40m
Ⅰ:灰 褐 色 土(炭化物粒多量混入
Ⅱ:灰 褐 色 土(茶褐色土粒混入)
Ⅲ:灰 褐 色 土
48土
573.50m
暗灰褐色土
49土
573.50m
暗灰褐色土(炭化物粒少量混入)
51土
9住
573.10m
茶 褐 色 土(炭化物粒・黄色土塊混入)
52土
22住
572.90m
97土
573.70m
Ⅰ:暗 褐 色 土(炭化物粒混入)
Ⅱ:褐 色 土
54土
573.60m
Ⅰ:暗灰褐色土(炭化物粒混入)
Ⅱ:暗 褐 色 土
Ⅲ:灰 褐 色 土(茶褐色土粒多量混入)
55土
573.60m
Ⅰ:暗 褐 色 土
Ⅱ:暗 褐 色 土(炭化物粒少量混入)
56土
573.60m
57土
573.60m
暗灰褐色土(炭化物粒混入)
62土
573.50m
Ⅰ:暗 褐 色 土(炭化物粒・焼土粒混入)
Ⅱ:暗黄褐色土
Ⅲ:褐 色 土
58土
573.60m
茶 褐 色 土(炭化物粒混入)
59・60土
60土
59土
573.60m
60土
Ⅰ:灰 褐 色 土(茶褐色土粒混入)
59土
Ⅰ:褐 色 土(茶褐色土粒混入)
Ⅱ:暗 褐 色 土(炭化物粒少量混入)
61土
97土
62土
P305
573.60m
暗灰褐色土(炭化物粒少量混入)
63土
573.40m
Ⅰ:暗灰褐色土(焼土粒少量、炭化物粒混入)
Ⅱ:暗灰褐色土(鉄分多量混入)
Ⅲ:暗灰褐色土(褐色土粒混入)
Ⅳ:暗灰褐色土(鉄分微量、褐色土粒多量混入)
64土
45住
573.20m
褐 色 土
65土
573.20m
灰 褐 色 土(黄褐色土粒混入)
66土
573.20m
Ⅰ:暗 灰 色 土(褐色土粒少量、鉄分混入)
Ⅱ:暗 灰 色 土(褐色土粒多量、鉄分混入、やや粘質)
67土
11溝
573.20m
Ⅰ:暗灰褐色土(礫少量、炭化物粒混入)
Ⅱ:暗灰褐色土(褐色土粒混入)
0
2m

第24図　土坑（1）


68土
573.30m
暗灰褐色土
(焼土粒少量、褐色土粒多量混入)
69土
573.30m
暗灰褐色土(鉄分・灰色土粒混入)
70土
573.30m
茶 褐 色 土
71土
573.50m
暗灰褐色土(茶褐色土粒混入)
72土
573.50m
灰 褐 色 土(焼土粒・炭化物粒微量混入)
73・77土
73土
77土
573.30m
73土
Ⅰ:暗灰褐色土
(焼土粒少量、褐色土粒多量混入)
77土
Ⅰ:灰 色 土(礫少量、鉄分混入)
74土
Ⅰ Ⅱ
573.40m
Ⅰ:暗 褐 色 土(炭化物粒少量混入)
Ⅱ:暗灰褐色土(黄褐色土粒少量混入)
75土
573.40m
暗 褐 色 土
79土
573.40m
灰 褐 色 土
80土
573.30m
暗灰褐色土
81土
Ⅱ Ⅰ
573.30m
Ⅰ:暗灰褐色土(炭化物粒・焼土粒少量、茶褐色土粒混入)
Ⅱ:灰 褐 色 土
82土
573.20m
灰 褐 色 土
83土
574.20m
灰 褐 色 土(茶褐色土粒混入)
84土
573.40m
灰 褐 色 土
85土
573.40m
灰 褐 色 土(鉄分混入)
91土
574.30m
暗灰褐色土
92土
574.30m
暗 褐 色 土
93土
574.30m
暗 褐 色 土(礫少量混入)
94土
574.30m
暗灰褐色土
95土
Ⅰ
Ⅱ
574.30m
Ⅰ:茶 褐 色 土
Ⅱ:灰 褐 色 土(茶褐色土粒混入)
96土
574.30m
灰 褐 色 土
89土
571.80m
灰 褐 色 土
78土
Ⅱ
Ⅰ
573.40m
Ⅰ:暗灰褐色土
Ⅱ:暗灰褐色土(炭化物粒・茶褐色土粒微量混入)
88土
572.90m
暗灰褐色土(鉄分混入)
11溝
A
A'
573.30m
暗灰褐色土(茶褐色土粒混入)
12溝
A
A'
573.40m
Ⅰ
Ⅱ
Ⅰ:暗灰褐色土(鉄分沈澱)
Ⅱ:暗灰褐色土(黄褐色土粒・鉄分少量混入)
B
B'
Ⅰ
Ⅳ
Ⅴ
Ⅲ
Ⅱ
Ⅰ:暗灰褐色土(炭化物粒少量、鉄分多量混入)
Ⅱ:暗 褐 色 土(黄褐色土粒混入)
Ⅲ:暗 灰 色 土
Ⅳ:暗黄褐色土(黄褐色土粒混入)
Ⅴ:暗 褐 色 土(黄褐色土粒多量混入)
C
C'
Ⅰ
Ⅰ
Ⅱ
Ⅱ
Ⅰ:暗 褐 色 土(炭化物粒少量、鉄分混入)
Ⅱ:暗黄褐色土(黄褐色土粒少量混入)
0
2m

第25図　土坑（2）、溝址

第3節　遺物

1　土器・陶磁器（第26～42図、第6表）

今回の調査によって出土した遺物は、整理用テンバコ30箱を数え、古墳時代・平安～中世の多量の良好な資料を得ることができた。それらのうち図化し得たものは、土器、陶磁器が968点、金属製品が98点、石器が83点である。ここではそれらの様相について述べていく。

A　古墳時代の土器

今回の調査では、第1次調査に引き続き古墳時代の遺構を調査することができた。特に今回は、1軒ではあるが古墳時代中期の住居址を確認し、遺物を得ることができた。ここでは今回確認した古墳時代の遺物について述べていく。

第38号住居址出土土器群

図化し得たものは10点で、そのうち古墳時代に属するものは土師器小型壷（坩）2点、小型甕1点、甕1点、高杯5点がみられた。いずれも古墳時代中期の5世紀に属する。また上層には混入した。青磁椀1点もみられた。

第78号ピット

高杯脚部が1点みられる。古墳時代中期の5世紀に属する。

第3号土器集中区出土土器群

図化し得たものは17点で土師器高杯5点、壷8点、小型丸底壷1点、短頸壷1点、甕1点で、いずれも古墳時代前期末から中期にかけての4世紀末から5世紀という過渡期の貴重な資料といえる。高杯は脚部のみ残存するものが4点、杯部のみ残存するものが1点である。特に885の高杯脚部は、内部が中空ではなく詰まっており、前期の様相を色濃く残しているもので貴重な資料である。今回出土したこの土集3の遺物は、第1次調査の土集1、土集2の土器とほぼ同時期に属するもので、該期の集落が周囲にあることをしめしている。

B　平安時代の土器

(1) 種別・器形

種別には土師器、黒色土器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、輸入陶磁器（白磁、青白磁）などがある。出土した土器、陶磁器類の大半を占めている。竪穴住居址覆土中からの出土が多い。以下では文献1に従って種別に器形を述べていく。緑釉陶器の分類は文献2に従った。

土師器

576点図化した。器形には杯A、皿A、椀、盤、鉢、甕類（小型甕E、小型甕D、甕、羽釜、甑）などがみられる。

杯A

ロクロ成形、底部回転糸切り、無高台の土師器である。320点図化した。杯AⅡと杯AⅢの2つの法量がある。

杯AⅡは黒色土器A杯Aの法量を受け継ぐものである。8期に出現する。23住の出土のものが最も古いものである。以後、15期まで確認できる。8期の23住では口径13.2cm、器高3.4cmである。以下、9期では口径12.2cm、器高3.3cm、10期では口径11.5cm、器高3.1cm、11期では口径10.5cm、器高2.9cm、12期では口径11.6cm、器高2.9cm、14期では口径9.8cm、器高2.23cm、15期では9.3cm、器高1.8cmである。時間の経過とともに口径、器高を減じていく。初期の杯AⅡは薄手であるが14期以降はかなり厚手である。また15期の杯AⅡの底部には回転糸切痕が不明瞭なものが多くみられる。体部に墨書のあるもの（511、842）、体部内面にタール状の付着物のあるもの、底部に穿孔されるもの（565、566）がある。

杯AⅢは12期に出現する。口径平均13.6cm、器高平均3.9cmである。15期まで確認できる。14期までは各出土土器群で2点以上みられるものの15期では1点以下しかみられない。

皿A

ロクロ成形、底部回転糸切り、無高台の土師器である。17点図化した。皿AⅠと皿AⅡの2つの法量がある。形態には口縁端部を折り返すものと口縁部内面に沈線を巡らせるものがある（45、46、412、969）。

皿AⅠは6点出土している。60住、63住で2点ずつ出土している。口径13.4～18.4cmである。器高のわかる個体はないが3cm前後である。

皿AⅡは11点出土している。60住で3点出土している。口径9.2～11.0cm、器高1.35～1.75cmである。57住出土の645は内面に黒色処理がなされており黒色土器に分類されるものかもしれない。

椀

ロクロ成形、底部回転糸切、付高台の土師器である。9期～15期の土器群にみられる。口径12.4～16.5cm、器高3.4～6.45cmの椀と口径10cm前後の小椀もみられる。80点図化した。

9期では14住で4点、44住で8点、61住で6点出土している。いずれも体部の形態が直線的に立ち上がるものである。10期では9期と同様の形態を呈するものが多いが423のような体部に腰の張る形態がみられる。11～12期では高台の低いものが19住でみられる（258、259、261）。50住出土の椀には559のような体部が直線的に立ち上がる形態とともに558は体部に腰の張る形態がみられる。14期、15期では全体の分かる資料は少ないが12住出土の134は体部が腰の張る形態である。小椀では620が腰の張る形態で初期のものである。14期、15期の小椀はすべて体部が直線的に立ち上がる形態を持つ。

盤

ロクロ成形、底部回転糸切、付高台の土師器である。身部が浅く足高の高台をもつ。口径20～30cmの盤Ａと口径15cm（盤ＢⅠ）、口径10cm（盤ＢⅡ）の盤Ｂがある。盤A12点、盤B50点図化した。

盤Ａは全体の分かる資料がない。8期の21住に脚部がみられる（297）。高台側面に透かしがみられる。また9期には521、525がある。13～14期には口径20cm前後のものがみられる（80、93、247、569、675、737）。

盤Ｂは2法量に分かれる。盤ＢⅠは8期の21住にみられるが（295、296）、おそらく混入であろう。10期の13住出土の156、35住出土の447が初期のものである。伴出する土師器椀とほぼ同じ形態である。13～14期には9住に3点、12住に4点と比較的多く出土している。10住出土の90は盤ＢⅠの口縁部破片である。口縁部内面に2本の沈線が巡るもので12期の南栗遺跡SB192（文献1）に同じものがみられる。15期の52住、79住でも出土している。盤ＢⅠの下限であろうか。盤ＢⅡは10期の50住出土の557が初期のものである。14期の279、843、15期の589、906は身部が浅い形態になっている。

鉢

ロクロ成形、底部回転糸切、付高台の土師器である。盤Ａは口径20cm前後で杯Ａと相似形である。4点図化した（94、299、755、873）。

21住出土の299は8期に属する。口縁部が外反する形態である。土81出土の873も同様の形態である。69住出土の755は杯Ａと相似形の形態である。

甕類

小型甕Ｄ、小型甕Ｅ、羽釜Ａ、羽釜Ｂ、甑、甕類がある。

小型甕Ｄはロクロ成形で体部にカキ目、ロクロ目がみられ、口径と器高の比が1：1になる甕である。今回調査の土器群での煮炊具の主体となっている。口径10.7～23.8cm、器高9.6～20.5cmである。34点図化した。

8期の小型甕Ｄは22住（328）と23住（351、352、353、354、356、359）で出土している。328は全体のわかるもので口径16.2cm、器高19.4cmである。23住では6点出土している。353と359には内面にカキ目がみられる。353は口径13.2cm、354は口径19.6cmと2つの法量がみられる。9期では14住（174、175）と44住（522、524）で出土している。175は口径12.2cm、522で15.6cmである。522では内面にカキ目がみられる。10期では13住（159、160）、15住（208）、16住（232）、35住（451、453）で出土している。内面のカキ目がみられなくなる。口径20cm前後の160、232、口径10～13cm前後の159、208、451の2法量ある。11～12期では7住（30、32）、73住（776、777）で出土している。7住、73住ともに2つの法量がある。13～14期では10住（97）、17住（248）、29住（410）、67住（747）で出土している。97、248は全体のわかる資料である。ともに口径、器高が10cm程度である。15期では全体の分かるものはないが60住出土の704、705は口縁部の破片であり、口径20cm前後である。

小型甕Ｅはナデ調整の甕である。1点図化した。15期の79住で805が出土している。口径11.2cmである。内面にハケ目がみられる。14期の8住出土の57、58は内外面ナデ調整の甕である。口径27cm前後である。小型甕Ｅの系統の甕か。

羽釜は指ナデ、ハケ目、板状工具によるナデなどが器面にみられる甕で、鍔部が口縁部下にみられる。鍔部の全周する羽釜Ａと鍔部が2箇所ある羽釜Ｂ（758）がある。11期から15期まで小型甕Ｄとともに煮炊具の主体となっている。全体のわかるものはない。羽釜Ａは口径15.2～24.4cm、羽釜Ｂは1点のみ出土しており口径22.4cmである。10点図化した。

羽釜は11期に出現する。37住出土の472、45住出土の544、73住出土の779が初期のものである。472は口径24.4cm、779は口径20.9cmである。779には外面にハケ目がみられる。12期では19住出土の268がある。13～14期では67住（749）で1点、15期では60住（706）、79住（807）で1点ずつ出土している。口径は20cm前後が主体を占めるが23

住出土の355は口径15.2cmと小さいものである。

甑は20住で1点（287）出土している。全体の分かるものである。体部に指圧痕、雑な板状工具ナデ痕がみられる。口縁部下に鍔部が付かない。口径26.4cm、器高21cmである。共伴する286、287も甑の可能性がある。

不明甕類は54住（613）、67住（750）で出土している。613は足釜の脚部であろうか。750は獣脚の付く鍋の底部である。

黒色土器

内面および内外面に黒色処理をするロクロ成形の土師器である。器形には杯A、椀がある。内面のみ黒色処理を行う黒色土器A、内外面とも黒色処理を行う黒色土器Bがある。底部は回転糸切り痕、ナデ痕を持つ。黒色処理前にほとんどの個体でミガキが施されるが、まれにミガキのないものもある。黒色土器Aは111点、黒色土器Bは11点図化した。

杯A

無高台の黒色土器である。黒色土器A、黒色土器B（131）がある。24点図化した。

8期の22住で4点（302、303、304、325）出土している。口径12.8～14cm（13.4cm）、器高3.6～4.1cm（平均3.9cm）であり、8期の土師器杯Aの法量とほぼ一致する。302、303、304は内面にヘラ記号がみられる。9期以降の住居址覆土からも出土するが2点以下の出土しかなく混入したものと考えられる。57住出土の638、639は内面にミガキがない。131は黒色土器Bで14期の12住から出土した。外面の黒色はみられないものの内外面にミガキが施される。

椀

付高台の黒色土器である。黒色土器A、黒色土器Bがある。口径12.3～16.4cm。器高4.15～7cm。口径10cm前後の小椀もみられる。73点図化した（A：65点、B：8点）。

黒色土器Aは8期の21住（288）22住（305、326）で出土している。305はやや丸みを帯びた形態の体部である。9期では14住、44住、61住で出土している。61住出土の708は直線的な立ち上がりの体部である。10期では13住、15住、16住、35住で出土している。体部は直線的な立ち上がりの形態がみられるとともに147のような腰の張る形態がみられるようになる。11～12期では小椀（249）もみられるようになる。14期では腰の張る形態が主体を占めている。15期には出土数も減り、全体の分かるものはない。

黒色土器Bは9期の44住で1点（491）がみられるが混入であろう。遺構にともなうのは14期からである。51住（568）、80住（834）で1点ずつみられる。15期では52住、79住で出土している。79住では椀、小椀がみられる。椀、小椀ともに体部が直線的に立ち上がる形態である。

須恵器

器形には壷類（469、881、954）、甕類（535、918、925）がある。6点図化した。469は11期の37住から出土した。短頸壷かもしれない。自然釉が器面にみられる。器形のわかるものには石列1から出土した甕D（925）がある。凸帯と耳部が外面にみられる。44住出土の535は甕類の一部である。外面にタタキ目がみられる。

灰釉陶器

ロクロ成形で器面に灰釉のかかる硬質の陶器である。器形には椀、皿類（皿、段皿）、瓶類（広口瓶、短頸壷）がある。168点図化した。

椀

ロクロ成形、付高台、外面下半には回転ヘラ削りが施されるものもある。外面底部には回転ヘラ削り痕、ナデ痕、回転糸切り痕などがみられる。内外面底部には重ね焼きでの溶着を防ぐ目的で施釉されないものが多い。107点図化した。

8期では21住（300）、22住（327）で1点ずつ出土している。2点とも刷毛で施釉されている。327は高台外面に稜のある形態である。9期では14住（180）、44住（528、529、530、531、532、533）で出土している。特に44住では6点出土している。高台外面に稜があり、体部が緩やかに立ち上がる形態である。10期では13住、15住、16住、31住、35住、36住で出土している。157、426は刷けで施釉しているが漬け掛け施釉のものが主体を占めている。口径13cm前後、器高3cm前後のもの（425、448、462）、口径13.8～16.85cm、器高5cmのものと2つの法量がある。11～12期では7住、19住、37住、50住、73住で出土している。7住出土の22、26はこれまでの緩やかに立ち上がる体部の形態とは違い、体部に腰の張る形態である。26は内面全面に施釉されている。高台の形態には外面に稜が不明瞭なものもみられてくる。10期と同様に24、265、770などの口径13cm前後、器高3cm前後のものもみられる。刷毛で施釉さ

れるものはみられない。13～14期では体部が緩やかに立ち上がる形態のものはみられない。高台の形態は高く直線的である。外反するものもみられてくる（109、283、796）。内面口縁部に沈線が巡るものもある（246、376、378）。口径12.8cm～16.85cm、器高5.3～6.8cmの範囲内にある。15期では550、636などのように高台断面が三角形を呈するものがみられる。口径13～15.8cm、器高6.2～6.8cmの範囲内にある。

皿類

ロクロ成形、付高台、外面下半には回転ヘラ削りが施されるものがある。外面底部には回転ヘラ削り痕、ナデ痕、回転糸切り痕などがみられる。椀と同様に内外面底部には施釉されない。皿と段皿がある。42点図化した。

8期では21住では皿が1点出土している（301）。口径13.1cmである。9期では14住と竪3にみられる。段皿は1点しかなく、内面の段は不明瞭である。皿の割合が高い。皿の口径は12.1～12.8cmである。11～12期では段皿がなく、すべて皿である。口径12.3～13.6cmである。13～14期では段皿の割合が大きく皿はほどんどみられない。15期では79住で段皿が1点みられるのみである。

瓶類

外面上半はロクロナデ痕、外面下半は底部まで回転ヘラケズリ痕、内面にはロクロナデ痕がみられる。高台は付高台である。刷毛で施釉されている。広口瓶と短頸壷がある。全体のわかるものは少ない。18点図化した。

14住出土の181の短頸壷である。外面の肩部に沈線がみられる。450、534、574、668は広口瓶の口縁部である。口径13cm前後と20cmの2つの法量がある。9期～15期にみられる。

緑釉陶器

小破片を含めて44点出土している。このうち15点を図化した。器形には椀、皿類（段皿、耳皿）がみられる。7住で5点、23住で2点、57住で4点、C検出面で17点出土している。分類は文献2に従った。

椀

椀には体部が緩やかに立ち上がる形態（349、350）とやや腰の張る形態（27、527）がある。口径10cm程度の椀（831、938）もみられる。高台はすべて付高台である。349は19住、23住、35住間で接合する。350はb類。半分以上が残存している。349、350とも8期に属する。27はe類の椀。体部は腰が張る形態である。11期に属する。29、953は体部下半の回転ヘラケズリ痕、高台底部の沈線などの調整が似ている。935はf類かもしれない。

皿類

皿類には段皿（205、662、953、1003、1018）、耳皿（1010、1014）がある。205は15住、31住、36住間で接合する。10期に属するもので口径15.2cmである。57住出土の662は口径12.8cmである。
14期に属する。耳皿の1010と1014は同一個体である。15期に属する。

輸入陶磁器

白磁、青白磁がみられる。

白磁のうち古代の遺構に伴うものは4点ある。4点図化した。51住（571）、54住（615）、67住（982）、84住（799）で出土している。分類できるものでは571が玉縁口縁のみられるⅤ類、799は外面にヘラケズリ痕のあるⅣ類の可能性がある。11世紀代（14～15期）の遺構にみられる。

青白磁は15期の52住で1点出土している（599）。599は瓶子類の体部破片で外面には唐草文と蓮弁文がみられる。

（2）出土土器群

今次調査では古代8～15期まで土器群がみられる。以下では各期の土器群について組成と特徴をみていく。

8期の土器群

21住、22住、23住がある。

土師器、黒色土器A、灰釉陶器、緑釉陶器で構成される。

食器：土師器杯A、盤A、鉢A、黒色土器A杯A、椀、灰釉陶器椀、皿類、緑釉陶器椀がみられる。

煮炊具：小型甕Dがみられる。

貯蔵具：灰釉陶器瓶類がみられる。

土師器杯Aが出現する。23住で口径平均13.2cm、器高平均3.4cmである。土師器杯Aの割合が高く、黒色土器A杯Aもみられる。灰釉陶器椀は直線的に緩やかに立ち上がる形態で高台外面に稜がみられる。すべて刷毛塗り施釉である。23住で緑釉陶器が2点出土している。煮炊具では小型甕Dがみられる。23住出土の353、359にはカキ目がみ

られる。貯蔵具は23住に灰釉陶器瓶類（360）がみられるものの11期以降に混入した可能性がある。

9期の土器群

14住、44住、61住がある。

土師器、黒色土器A、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器で構成される。

食器：土師器杯A、椀、盤A、黒色土器A杯A、椀、灰釉陶器椀、皿類、緑釉陶器椀がみられる。

煮炊具：小型甕Dがある。

貯蔵具：須恵器甕類、灰釉陶器広口瓶、短頸壷がある。

土師器椀が多くなる。土師器椀は直線的に立ち上がる形態を持つ。土師器杯Aは口径平均12.2cm、器高平均3.3cmである。61住ではみられないものの14住、44住では灰釉陶器の割合が高くなる。灰釉陶器椀は8期と形態は同じだが漬け掛け施釉のものが多い。灰釉陶器皿類は44住でまとまって出土しており、皿が多く段皿は少ない。煮炊具は小型甕Dがみられ、44住出土の522にはカキ目がみられる。貯蔵具は14住出土の181が全体のわかる資料である。44住では灰釉陶器瓶類とともに須恵器甕類がみられる。

10期の土器群

13住、15住、16住、31住、35住、36住がある。

土師器、黒色土器A、灰釉陶器、緑釉陶器で構成される。

食器：土師器杯A、椀、盤B、黒色土器A椀、灰釉陶器椀、緑釉陶器段皿がみられる。

煮炊具：小型甕Dがある。

貯蔵具：灰釉陶器広口瓶がある。

土師器盤Bが出現する（156、447）。土師器杯Aは口径平均11.5cm、器高平均3.1cmである。土師器椀と黒色土器A椀には腰の張る形態のものがみられてくる（147、423）。灰釉陶器は9期と同じ形態で漬け掛け施釉のものが多い。灰釉陶器椀は2法量みられる。煮炊具は小型甕Dがみられる。体部にカキ目のみられるものはなくなる。貯蔵具には灰釉陶器広口瓶がある。

11期の土器群

7住、37住、50住がある。

土師器、黒色土器A、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器で構成される。

食器：土師器杯A、椀、盤B、黒色土器A椀、灰釉陶器椀、皿類がある。

煮炊具：小型甕D、羽釜Aがある。

貯蔵具：灰釉陶器瓶類、須恵器甕類がある。

土師器杯Aは口径平均10.5cm、器高平均2.9cmである。灰釉陶器椀は体部に腰の張る形態が出現する。また9期と同じく2法量みられる。緑釉陶器は7住で5点出土している。煮炊具は小型甕Dある。羽釜Aが出現する。

12期の土器群

19住、73住がある。

土師器、黒色土器A、灰釉陶器で構成される。

食器：土師器杯AⅡ、杯AⅢ、椀、黒色土器A椀、灰釉陶器椀、皿類がある。

煮炊具：小型甕D、羽釜Aがある。

貯蔵具：みられない。

土師器杯AにAⅢが出現し、従来からのAⅡと合わせて2つの法量がみられる。土師器杯AⅡの口径平均11.6cm、器高平均2.9cmである。黒色土器Aに小椀がみられる。灰釉陶器椀は直線的に緩やかに立ち上がる形態であるが、高台に稜を持たないものもみられる。2法量みられる。灰釉陶器皿類は皿のみがみられる。煮炊具は小型甕Dと羽釜Aがある。73住では両方出土している。

13期の土器群

明瞭な土器群はみられない。おそらく67住が該当するとおもわれる。

土師器、黒色土器A、灰釉陶器、白磁がある。

食器：土師器杯A、土師器盤A、土師器盤B、黒色土器A椀、灰釉陶器椀、皿類（皿、段皿）、白磁がある。

煮炊具：小型甕D、羽釜Aがある。

貯蔵具：みられない。

土師器杯AにはAⅡとAⅢの2法量みられる。土師器杯AⅢは3点のみ出土しており、口径9.1～11.05cm、器高1.6～2.65cmである。白磁は混入であろう。灰釉陶器皿類はほとんどが段皿である。煮炊具は小型甕Dと羽釜Aがみ

られる他、鍋の底部がある（750）。

14期の土器群

8住、9住、10住、11住、12住、17住、20住、26住、30住、51住、62住、57住、76住、80住がある。今回の調査で最も多くみられる土器群である。

土師器、黒色土器A、黒色土器B、灰釉陶器、緑釉陶器で構成される。

食器：土師器杯AⅡ、杯AⅢ、椀、盤A、盤B、ⅢA、黒色土器A椀、灰釉陶器椀、Ⅲ類（段Ⅲ）、緑釉陶器椀、段Ⅲがある。

煮炊具：小型甕D、甑、羽釜がある。

貯蔵具：灰釉陶器広口瓶、瓶類がある。

土師器杯AにはAⅡとAⅢの2つの法量がある。口径平均9.8cm、器高平均2.2cmである。ⅢA、黒色土器B椀、杯Aが出現する。土師器椀、黒色土器A椀は腰の張る形態が多い。土師器小椀はすべて直線的に立ち上がる形態である。灰釉陶器椀は直線的に緩やかに立ち上がる形態はみられない。内面口縁部に沈線の巡るものがみられる。Ⅲ類は13点のうち段Ⅲが12点みられる。輸入陶磁器がみられるが混入である。煮炊具は小型甕Dと羽釜の組み合わせであるが、20住では甑がみられる。貯蔵具は灰釉陶器広口瓶で2法量みられる。

15期の土器群

49住、52住、54住、56住、60住、79住、溝12がある。

土師器、黒色土器A、黒色土器B、灰釉陶器、緑釉陶器、輸入陶磁器（青白磁、白磁）で構成される。

食器：土師器杯AⅡ、杯AⅢ、椀、盤B、ⅢA、黒色土器A椀、黒色土器B椀、灰釉陶器椀、段Ⅲ、緑釉陶器椀がある。

煮炊具：羽釜A、小型甕B、小型甕Eがある。

貯蔵具：灰釉陶器広口瓶、瓶類がある。

土師器杯AにはAⅡとAⅢの2つの法量がある。ひとつの土器群で杯AⅢが1点以下しかみられなくなる。土師器杯AⅡは口径平均9.3cm、器高平均1.8cmである。60住と63住ではⅢAがみられる。土師器椀、黒色土器A椀がともに少なくなる。黒色土器Bの小椀が出現する。灰釉陶器椀には550、636のような高台断面形が三角形を呈するものがみられる。Ⅲ類は段Ⅲが79住で1点しかみられない。52住で青白磁瓶子類、54住で白磁（615）がみられるなど輸入陶磁器が出現する。煮炊具は小型甕Eが79住で1点出土している（805）。

(3) 文字関係資料

17点出土している。いずれも平安時代の土器である。墨書（298、511、842）、刻書（410）、ヘラ記号（269、302、304、491、604）、墨痕のあるもの（108、107、110、266、345、471、636、865、910）などがある。

298は土師器杯または椀の口縁部に墨書されている。511、842は土師器杯AⅡの外面墨書されている。墨書土器はは8、9、14期にみられる。410は小型甕Dの外面底部に「金」と刻書されている。ヘラ記号は黒色土器A杯A（302、303、304、491）、黒色土器A椀（269）、黒色土器B椀（491）、土師器杯A（604）がみられる。内面にヘラ記号されている場合が多いが491は外面底部にヘラ記号がみられる。器面に墨痕のあるものは9点出土した。すべて灰釉陶器椀、Ⅲ類である。このうち朱墨の付着するものはみられない。23住出土の345は破断面にも墨痕がみられる。

(4) その他

遺構間で接合する個体が5点ある。

緑釉陶器椀（349）が19住、23住、35住間で接合する。緑釉陶器段Ⅲ（205）が15住、31住、36住間で接合する。灰釉陶器短頸壷（181）が14住、19住間で接合する。須恵器壷類（881）がP252、P254で接合する。土師器羽釜（749）が51住、67住、73住で接合する。

C　中世

(1) 器種・器形

器種には輸入陶磁器、土師器、陶器などがある。57点出土している。このうち32点図化した。5住、6住、25住、40住、竪2、土53で比較的まとまってみられる。

輸入陶磁器

青磁、青白磁、白磁がある。

青磁

小破片も含め29点出土している。このうち11点を図化した。時期が分かるものはすべて13世紀代に属する。ほとんどの器形が椀であるが盤（966）、皿または杯（6）などもみられる。遺構に伴うものはP15（978）、P51（883）、竪2（972、985、991）、土57（868）、6住（11、975、989）などで9点ある。残りは検出面などから出土している。椀には器面に蓮弁文、鎬蓮弁文、劃花文などの紋様がみられる。

青白磁

2点出土している。2点図化した。梅瓶（488）、瓶子類（350）がみられる。25住（350）、40住（488）で出土している。488は梅瓶の体部片である。外面は渦文、内面はロクロナデ痕がみられる。599は口縁部から頸部にかけての破片である。口縁が折り返されている。

白磁

6点出土している。このうち2点図化した（334、962）。遺構にともなうものは6住（974、976）、25住（334）、土53（971）、残りは検出面から出土している（962、981）。分類できるもので974がⅤ類、962はⅣ類である。

土師器

皿、内耳鍋がみられる。

皿は7点出土している。すべてⅠ類（手捏ね成形）である。AとBの2法量ある。40住で3点出土している。法量から12世紀末葉～前葉、13世紀中葉～後葉の2時期に分けることができる。

内耳鍋（806）は1点出土している。79住の遺物となっているが位置から溝12に属するものと考えられる。口辺部片で耳部が縦位に付けられている。口唇部に面取りがされ外面は横方向のナデ痕がみられる。断面形は直立し体部へ向かって広がっていくような形態である。文献1の分類ではみられないものである。13世紀代のものか？

陶器

11点出土した。山茶碗（860、882、929）、常滑系陶器（994）、古瀬戸系陶器（330、486、489）、須恵質陶器（34、333、335）、東海系陶器（34、996）、不明品（995）がある。

929の高台には籾殻圧痕がみられる。古瀬戸系陶器には卸皿（330）、瓶子類（489）がある。34は捏鉢の口縁部片。端部中央に沈線が入る。Ⅵ類に分類される。333は底部片。335は擂鉢である。摺目が一組7本で2組みられる。

(2)　土器群

文献1では在地系土器の土師器皿、内耳鍋を柱とした時期区分がされている。今次調査では土師器皿が7点出土しており、それを中心として土器群の時期をみていく。

土師器皿は手捏ねのⅠ類のみがみられる。5住、6住、40住、76住、土53で出土している。このうち5住（4）、76住（793）は状況から混入と考えられる。遺構に伴うものは6住、40住、土53がある。また25住には土師器皿はみられない。

6住出土土器群

6点出土した。土師器皿、青磁椀、白磁椀がある。土師器皿は法量から13世紀中葉～後葉に位置する。　青磁は時期がわかるもので13世紀代。白磁にはⅤ類がみられる。本址土器群は13世紀中葉～後葉中世1期第3段階に位置する。平安時代の混入がみられる。

25住出土土器群

5点出土した。須恵質陶器（鉢、擂鉢）、古瀬戸系陶器卸皿、白磁椀、青白磁瓶子類がある。時期のわかる在地系の土器は須恵質陶器鉢（333）、擂鉢（335）がある。333が13世紀代に溯る可能性のあるものである。一方、335は14世紀代に位置する。古瀬戸系陶器の卸皿も14～15世紀代である。599は青白磁瓶子類である。13世紀代に位置する。時期にかなり幅があり時期を特定できない。13～14世紀代。

40住出土土器群

11点出土した。土師器皿（483、484、485、486）、古瀬戸系陶器（486）、青磁、青白磁梅瓶がある。土師器皿は4点出土しているがいずれも13世紀中葉～後葉（中世1期第3段階）に位置する。

土53出土土器群

2点出土している。土師器皿（876）、白磁椀（971）がある。土師器皿は1点出土している。13世紀中葉～後葉（中世1期第3段階）に位置する。

竪2出土土器群

3点出土している。青磁椀（972、985、991）がある。時期の分かるもので13世紀代のものがある。

まとめ

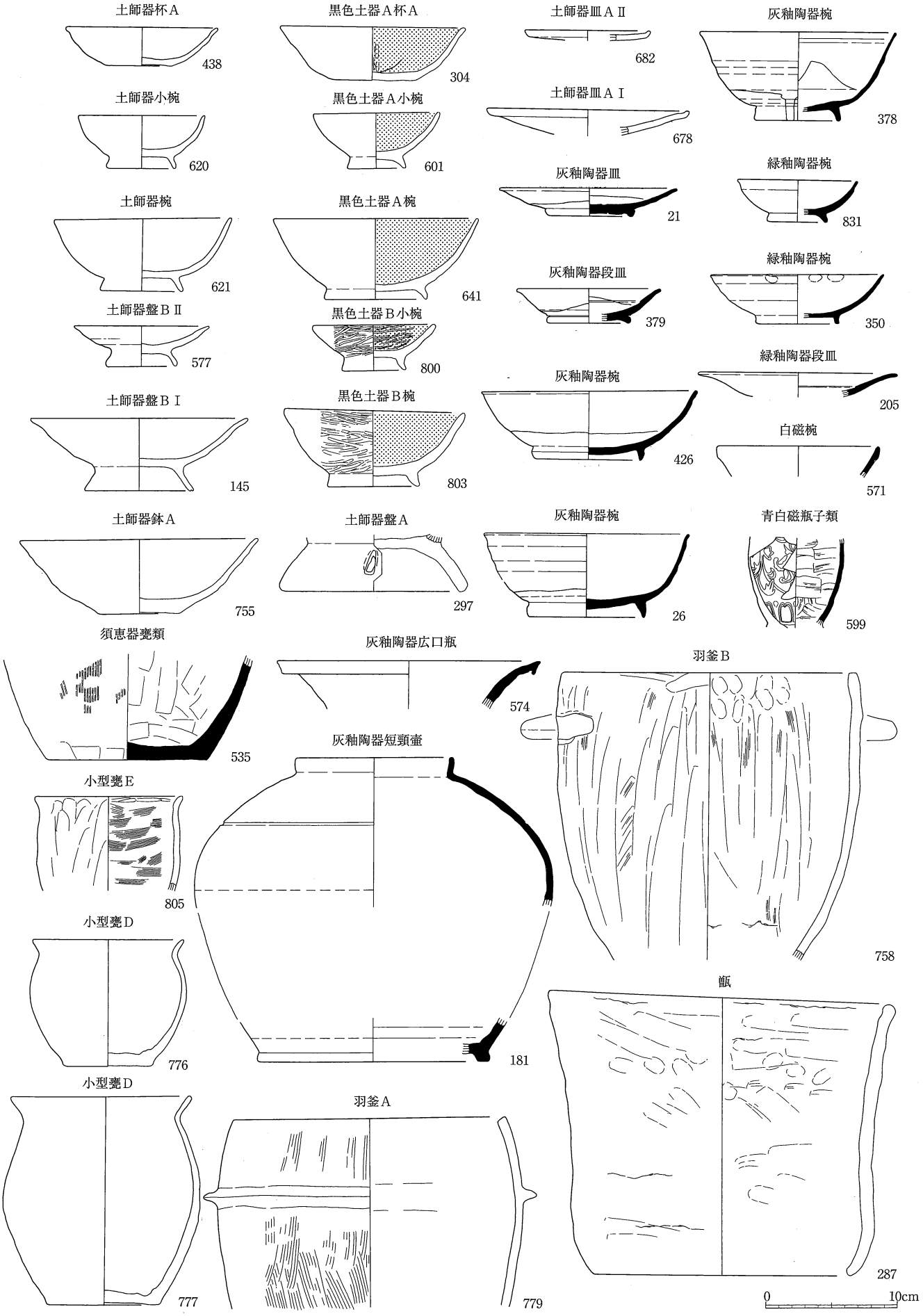
今回の調査では古墳時代中期、平安時代、中世の3時期の土器、陶磁器がみられる。

古墳時代中期の土器群は38住、土器集中3でみられる。1次調査でも該期の土器群がみられており周囲に集落の存在が予想される。平安時代の土器群は大部分の遺構からみられる。時期は8～15期がみられるが特に9期、10期、14期、15期の土器群が多くみられ、良好な資料といえる。中世は13世紀～14世紀代がみられるが特に13世紀中葉～後葉（中世1期第3段階）が比較的多くみられる。

平安時代では緑釉陶器が比較的多く出土しており、25住、40住、52住では青白磁瓶子類、梅瓶といった高級陶磁器が出土している点は集落の性格を示しているのでないだろうか。

文献1　長野県埋蔵文化財センター　1990「中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書4」松本市内その1　総論編

文献2　長野県埋蔵文化財センター　1989「中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書3」塩尻市内その2　吉田川西遺跡



第26図　器類・器形一覧（平安時代）

第6表1　土器観察表（古墳時代の土器）

No.	出土地点・注記	種別	器形	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存度	調整	備考	実測No.
2	5住ベルト	古墳	高杯					外面ミガキ、内面ケズリ・ナデ		5 - 1
329	25住フ	土	器台					ナデ	穿孔されている	25 - 6
409	29住	弥生	ミニチュア					外面波状文、手持ちヘラケズリ、内面板状工具ナデ	内面にタール状の付着物	29 - 6
454	35住No.21	古墳	高杯					磨滅激しい		35 - 23
473	38住No.8	古墳	高杯	(19.6)			口1/8	口縁ヨコナデ、ミガキ		38 - 8
474	38住No.5、南、北フク土	古墳	甕		(2.6)		底完	内外面ハケ目、底面ナデ		38 - 9
475	38住東フク土	古墳	高杯					外面ミガキ、内面ナデ		38 - 6
476	38住No.3	古墳	高杯					外面ミガキ、内面しぼり痕		38 - 7
477	38住No.7	古墳	高杯					外面ミガキ、内面しぼり痕		38 - 5
478	38住No.6	古墳	高杯					外面ミガキ、内面上半しぼり痕、下半ナデ痕		38 - 4
479	38住	古墳	小型壷	(6.2)			口一部	口縁ナデ、外面ナデとケズリ、内面ナデ		38 - 1
480	38住No.5	古墳	小型壷				底2/3	外面ナデとケズリ		38 - 2
482	38住No.1	古墳	小型甕	(13.6)			口一部	口縁ヨコナデ、外面ナデ、内面指ナデとケズリ状ナデ		38 - 3
490	43住No.1	古墳	高杯	(16.4)			口一部	口縁ヨコナデ、内外面ナデとハケ目		43 - 1
526	44住ベルト	古墳	高杯					外面ナデ、内面しぼり痕		44 - 37
715	61住SW	土	?	(12.1)			口1/6	体部強くケズリ後ナデ、一部ミガキか？		61 - 4
875	土85No.1	古墳	壷		2.8			外面ナデ、内面ハケ目？、底面ナデ		土85 - 1
884	P78	古墳	高杯		7.6		底1/3	端部ヨコナデ、外面ケズリとナデ、内面ナデ		P78 - 1
885	土集3No.3	古墳	高杯					外面ハケ目、貫通孔（4単位）、内面ナデ		土集3 - 4
886	土集3No.2	古墳	高杯					外面ミガキ、外面上端と下端に工具痕、内面しぼり痕、内面下部ハケ目とナデ		土集3 - 5
887	土集3No.1	古墳	高杯		(12.8)		底1/3	外面ミガキ？、内面ナデ		土集3 - 17
888	土集3No.5	古墳	高杯					外面ミガキとナデ		土集3 - 8
889	土集3下層	古墳	高杯					外面ミガキと一部ハケ目、内面しぼり痕		土集3 - 9
890	土集3下層	古墳	壷？		(5.4)		底4/5	内外面工具によるナデ痕、外面底部ナデ		土集3 - 10
891	土集3下層	古墳	壷		(3.8)		底完	内外面工具によるナデ痕、外面底部ナデ	内面被熱による黒変	土集3 - 11
892	土集3No.5	古墳	小型丸壷	9		8	口3/4　底完	口縁ヨコナデ、外面上半ハケ目、外面下半手持ちヘラケズリ、内面ハケによるナデ		土集3 - 1
893	土集3下層	古墳	短頸壷	(12.4)			口1/6	口縁ヨコナデ、外面ハケ目、口縁内面ハケ目、内面ケズリ		土集3 - 2
894	土集3下層	古墳	壷	(12.5)	(5)	12.8	口2/3　底1/2	口縁ヨコナデ、外面上部ハケ目後ミガキ、外面下半ケズリ後ミガキ、外面底部ヘラケズリ、内面上部ハケ目後ミガキ、下部ミガキ		土集3 - 3
895	土集3No.8	古墳	壷	(17.6)			口1/3	口縁ヨコナデ、外面ハケ目、内面板状工具によるナデ		土集3 - 7
896	土集3No.4	古墳	壷					外面ハケ目、内面ハケ目、内面下部ナデ		土集3 - 14
897	土集3No.7、下層	古墳	壷	16.5	(6.6)	21.7	口完　底2/3	口縁ヨコナデ、外面ケズリ後ハケ目、内面板状工具によるナデ、外面底部ナデ		土集3 - 6
898	土集3下層	古墳	甕	(14.2)			口一部	口縁ヨコナデ、外面ハケ目、内面ナデ		土集3 - 12
899	土集3No.7	古墳	壷					外面板状工具ナデ、内面板状工具ナデ		土集3 - 15
900	土集3No.7	古墳	壷	(15.2)			口1/3	口縁ヨコナデ、外面ケズリ、内面板状工具ナデ		土集3 - 16
901	土集3下層	古墳	甕		(7.2)		底一部欠	内外面ナデ		土集3 - 13
914	検出面N	古墳	高杯					外面ミガキ、内面ナデ		A検 - 14
926	グリットNo.1	古墳	高杯					外面ミガキ、内面ナデ		G - 9
942	検出面N	古墳	高杯					外面ハケ目後ミガキ		A検 - 15

第6表2　土器観察表（平安時代の土器）

No.	出土地点・注記	種別	器形	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存度	調整	備考	実測No.
1	5住フ	黒A	椀		(7.2)		高台1/6	ロクロナデ、付高台		5 - 4
3	5住フ	土	杯または椀	(14)			口1/12	ロクロナデ		5 - 3
5	5住ベルト	灰	皿	(10.6)			口1/8	ロクロナデ		5 - 5
8	6住NE	灰	皿	(9.6)				ロクロナデ		6 - 4
9	6住NE	灰	椀		(7.2)		高台1/8　底面1/4	ロクロナデ、付高台、回転ヘラケズリ		6 - 3
10	6住床	灰	瓶類				底面1/4	ロクロナデ、付高台、回転ヘラケズリ	底部	6 - 2
12	7住N	土	杯AⅡ	(10.4)	(5.6)	(2.7)	口1/4　底1/4	ロクロナデ、回転糸切		7 - 7
13	7住N	土	杯AⅡ	(10.4)	(4.8)	(3.1)	口1/4　底1/4	ロクロナデ、回転糸切		7 - 6
14	7住S	土	杯AⅡ	(11)	(5.4)	(3)	口1/12　底1/3	ロクロナデ、回転糸切		7 - 8
15	7住S	土	杯A		5.6		底完	ロクロナデ、回転糸切		7 - 10
16	7住P2	土	杯A		5.5		底完	ロクロナデ、回転糸切		7 - 9
17	7住N	土	椀		(7)		高台1/2　底面完	ロクロナデ、付高台、回転糸切		7 - 11
18	7住N	土	椀		(7)		高台2/3　底面完	ロクロナデ、付高台、回転糸切		7 - 12
19	7住N	黒A	椀		(7.2)		高台3/4　底面完	ロクロナデ、付高台、回転糸切、内面ミガキ後黒色処理		7 - 13
20	7住S	土	盤A		(8.6)		高台1/4　底面一部	ロクロナデ、付高台		7 - 14
21	7住	灰	皿	13.6	6.5	2.15	口1/2　底完	ロクロナデ、付高台、回転ヘラケズリ	内面底部に1条の沈線、外面底部にヘラで付けた傷	7 - 1
22	7住N	灰	椀	(14.4)	(6.2)	(5.7)	口一部　底1/3	ロクロナデ、付高台、回転ヘラケズリ	内面全面施釉	7 - 5
23	7住	灰	瓶類					ロクロナデ、付高台、回転ヘラケズリ	底部	7 - 18
24	7住N	灰	椀	(13)	(7)	(3.7)	口1/4　底1/2	ロクロナデ、付高台、回転糸切	内面一部黒変	7 - 4
25	7住No.3	灰	椀	(16)			口1/4	ロクロナデ		7 - 3
26	7住No.2	灰	椀	(15.6)	(8.8)	(6.3)	口1/3　底完	ロクロナデ、付高台、回転ヘラケズリ	内面全面施釉	7 - 2
30	7住S	土	小型甕D	(11)			口1/8	口縁ヨコナデ、内外面ロクロナデ		7 - 15
31	7住N	土	?	(21.8)			口一部	口縁ヨコナデ、内外面ミガキ		7 - 16
32	7住N、S	土	小型甕D					外面ロクロナデ、内面板状工具ナデ		7 - 17
33	7住N	土	甕		(13)		底1/3	内外面板状工具ナデ、外面底部手持ちヘラケズリ、底部木葉圧痕		7 - 20
35	8住No.3	土	杯AⅡ	8.7	4.4	1.55	口完　底完	ロクロナデ、回転糸切		8 - 8
36	8住No.4	土	杯AⅡ	9.1	4.2	2.25	口1/2　底完	ロクロナデ、回転糸切		8 - 9
37	8住No.3	土	杯AⅡ	9.4	4.8	2.3	口完　底完	ロクロナデ、回転糸切		8 - 10
38	8住No.15	土	杯AⅡ	9.5	4.8	2.3	口3/4　底完	ロクロナデ、回転糸切		8 - 13
39	8住No.14	土	杯AⅡ	9.8	4.4	2.15	口1/2　底完	ロクロナデ、回転糸切		8 - 15
40	8住No.15	土	杯AⅡ	10	3.7	1.95	口1/2　底完	ロクロナデ、回転糸切		8 - 16
41	8住NW	土	杯AⅡ	9.9	4.7	2.45	口1/2　底完	ロクロナデ、回転糸切		8 - 14
42	8住No.14	土	杯AⅡ	10.6	4.8	2.4	口完　底完	ロクロナデ、回転糸切		8 - 12
43	8住No.12	土	杯AⅡ	9.8	4.5	2.5	口完　底一部欠	ロクロナデ、回転糸切		8 - 11
44	8住床	土	杯AⅡ	(10.2)	(5)	(2.4)	口1/8　底1/4	ロクロナデ、回転糸切	内面一部にタール状付着物	8 - 18
45		土	皿AⅡ	(11)			口一部	ロクロナデ、内面口縁部に沈線		8 - 20
46	8住Wベ	土	皿AⅠ	(13.6)			口1/12	ロクロナデ、内面口縁部に沈線		8 - 19
47	8住No.17	土	杯または椀	(13.4)			口1/6	ロクロナデ		8 - 17
48	8住No.13	土	杯AⅢ	13.7	5.2	3.85	口1/3　底完	ロクロナデ、回転糸切		8 - 6
49	8住No.10	土	杯AⅢ	(14)	5.8	4.5	口1/4　底完	ロクロナデ、回転糸切		8 - 7
50	8住No.18、No.5	土	杯AⅢ	14.8	6.3	3.25	口2/3　底完	ロクロナデ、回転糸切		8 - 5
51	8住No.11、NE	土	椀		7.8		高台一部欠　底面完	ロクロナデ、付高台、回転糸切	器面に小穴多い。激しく被熱している。	8 - 4
52	8住No.9	土	盤BⅠ	(14.8)	(8.2)	(5.4)	口1/8　高台1/2　底面完	ロクロナデ、付高台、回転糸切後ナデ		8 - 3

No.	出土地点・注記	種別	器形	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存度	調整	備考	実測No.
53	8住NE	灰	椀	(13.4)	(7)	(6.3)	口一部　高台1/3　底面1/2	ロクロナデ、付高台、回転糸切		8 - 22
54	8住	灰	椀	(15)			口1/5	ロクロナデ、回転ヘラケズリ		8 - 23
55	8住SW	灰	段Ⅲ	(12)	(6.8)	(2.8)	口1/12　高台2/3　底面4/5	ロクロナデ、付高台、回転ヘラケズリ		8 - 24
56	8住No.8	灰	広口瓶		(6.6)		高台3/4　底面一部欠	ロクロナデ、回転ヘラケズリ、付高台、		8 - 21
57	8住No.2	土	小型甕E？	(27.8)			口1/5	口縁ヨコナデ、内外面ナデ		8 - 2
58	8住SW、NW	土	小型甕E？	(26.4)			口1/5	口縁ヨコナデ、外面ハケ目、内面上半指ナデ、下半板状工具ナデ		8 - 1
59	9住No.21	黒A	杯A		6.2		底完	ロクロナデ、回転糸切、内面黒色処理	混入	9 - 15
60	9住No.8	黒A	椀		6.6		底完	ロクロナデ、付高台、回転糸切、内面ミガキ後黒色処理		9 - 16
61	9住フ	土	ⅢAⅡ	(9.2)			口1/4	ロクロナデ、端部面取り		9 - 21
62	9住検	土	杯AⅡ	(9.6)	4.6	1.7	口1/3　底完	ロクロナデ、回転糸切		9 - 10
63	9住N	土	杯AⅡ	(9.2)	(4.6)	(2)	口1/5　底一部欠	ロクロナデ、回転糸切	内外面にタール状付着物	9 - 11
64	9住No.9	土	杯AⅡ	9.8	4.2	1.95	口一部欠　底完	ロクロナデ、回転糸切	外面にタール状付着物	9 - 8
65	9住N	土	杯AⅡ	9.8	4.2	2.05	口1/2　底完	ロクロナデ、回転糸切		9 - 9
66	9住N	土	杯AⅡ	9.9	5.5	2.5	口3/4　底4/5	ロクロナデ、回転糸切	内外面にタール状付着物	9 - 5
67	9住No.11	土	椀	(10.4)	(5.4)	(3.3)	口1/7　高台一部　底面1/2	ロクロナデ、付高台、回転糸切	直線的に立ち上がる体部	9 - 14
68	9住No.12	土	杯AⅢ	(12.2)	(5.6)	(2.7)	口1/4　底完	ロクロナデ、回転糸切		9 - 6
69	9住検	土	杯AⅢ	(12.2)	(6)	(3.4)	口1/3　底2/3	ロクロナデ、回転糸切		9 - 7
70	9住No.19、床、No.13、N	土	杯AⅢ	(12.6)	(5.6)	(3.5)	口1/3　底完	ロクロナデ、回転糸切		9 - 12
71	9住No.1、No.9	土	杯または椀	(15.4)			口1/5	ロクロナデ		9 - 17
72	9住No.20	土	杯AⅢ	(13)	(4.6)	(3.9)	口1/5　底1/5	ロクロナデ、回転糸切		9 - 13
73	9住S	土	盤BⅠ	(14.4)			口1/4	ロクロナデ		9 - 18
74	9住カマド土	盤	BⅠ	(14)	(7.8)	(4.8)	口一部　高台1/3　底面一部	ロクロナデ、付高台	高台外面にタール状付着物	9 - 19
75	9住No.6	土	盤BⅠ		(7.6)		高台1/2　底面完	ロクロナデ、付高台、回転糸切	底面、高台内面にタール状付着物	9 - 20
76	9住No.5	灰	段Ⅲ	(12.4)	(6)	(2.5)	口1/10　底1/2	ロクロナデ、付高台、回転糸切	口縁部～内面にかけてタール状の付着物	9 - 2
77	9住No.2、No.7	灰	椀	(15.4)	(7)	(6.2)	口1/12　底1/2	ロクロナデ、付高台、回転糸切後ナデ		9 - 1
78	9住N	灰	椀	(14.4)			口1/6	ロクロナデ		9 - 4
79	9住No.3、No.4	灰	Ⅲ	10.4	5.6	2.3	口3/5　底完	ロクロナデ、付高台、回転ヘラケズリ	内面底部に沈線	9 - 3
80	9住No.16	土	盤A	(24.4)			口1/6　高台欠　底面1/2	ロクロナデ、回転糸切後ナデ		9 - 22
81	10住E	黒A	杯A		(5.6)		底一部欠	ロクロナデ、回転糸切、内面ミガキ後黒色処理	混入	10 - 5
82	10住No.31	土	杯A		(5.8)		底完	ロクロナデ、回転糸切		10 - 6
83	10住No.26	土	杯A		(5)		底完	ロクロナデ、回転糸切		10 - 7
84	10住フク土	土	杯A		(4.8)		底1/3	ロクロナデ、回転糸切		10 - 11
85	10住No.5	土	盤BⅠ		(8.2)		高台1/2欠	ロクロナデ、付高台、回転糸切後ナデ		10 - 8
86	10住No.18	土	椀		(7.4)		底2/3	ロクロナデ、付高台、回転糸切、内面ミガキ	黒色土器？	10 - 9
87	10住No.9	土	杯AⅡ	10	4.8	2.45	口一部欠　底完	ロクロナデ、回転糸切		10 - 1
88	10住No.11	土	杯AⅢ	(13)	(5.2)	4.2	口1/3　底完	ロクロナデ、回転糸切		10 - 2
89	10住No.32	土	盤BⅠ	(15.2)	(8.4)	5.8	口1/4　底完	ロクロナデ、付高台、回転糸切		10 - 4
90	10住床	土	盤BⅠ？	(14.2)			口1/10	ロクロナデ	口縁部内面に2本の沈線。8住に同一個体（実測図なし）	10 - 10
91	10住NEフク土	土	杯AⅡ	(11.6)	(6.4)	2.6	口一部　底1/6	ロクロナデ、回転糸切		10 - 12
92	10住No.10	土	杯AⅢ	13.8	6	3.7	口3/4　底完	ロクロナデ、回転糸切		10 - 3
93	10住No.13	土	盤A？	(19.2)			口1/2	ロクロナデ		10 - 16
94	10住No.8	土	鉢A	(19.4)			口1/8	ロクロナデ		10 - 14
95	10住No.	土	？	(25)	(11.8)	11.7	口1/8　高台一部	ロクロナデ、付高台、回転糸切		10 - 17
96	10住No.1	灰	椀		(6.8)		底完	ロクロナデ、付高台、回転ヘラケズリ		10 - 13
97	10住No.	土	小型甕D	(10.8)	(6.4)	(11)	口1/2　底完	口縁ヨコナデ、ロクロナデ、底部回転糸切		10 - 15
98	11住No.29	黒A	椀		(7)		底3/4	ロクロナデ、付高台、回転糸切、内面ミガキ後黒色処理		11 - 11
99	11住	黒A	杯A		(5.2)		底完	ロクロナデ、回転糸切後ナデ後ミガキ、内面ミガキ後黒色処理	混入	11 - 13
100	11住No.31	土	杯AⅡ	9.5	4.2	1.85	口完　底完	ロクロナデ、回転糸切		11 - 5
101	11住NE	土	杯AⅡ	10.3	4.6	2	口3/5　底1/2	ロクロナデ、回転糸切		11 - 6
102	11住SE	土	杯AⅡ	(9.8)	(4.4)	(2.5)	口1/4　底1/4	ロクロナデ、回転糸切		11 - 8
103	11住No.26	土	杯A		4.6		底完	ロクロナデ、回転糸切後ケズリ？		11 - 9
104	11住No.16	土	椀	10.6	5.2	3.3	口2/3　底完	ロクロナデ、付高台、回転糸切	直線的に立ち上がる体部	11 - 7
105	11住No.14	土	杯AⅢ		(6.4)		底完	ロクロナデ、回転糸切	内面にタール状付着物	11 - 12
106	11住SW	土	盤BⅠ	(14.2)			口1/8	ロクロナデ、回転糸切		11 - 10
107	11住No.9、SW	灰	椀	(14.2)			口1/6	ロクロナデ	内外面に墨痕	11 - 3
108	11住No.20	灰	椀	15.7	7	5.95	口完　底完	ロクロナデ、付高台、回転ヘラケズリ	内面底部と外面に墨痕	11 - 1
109	11住No.17、No.21	灰	椀	15.1	6.8	6.3	口1/2　底完	ロクロナデ、付高台、回転ヘラケズリ	外面の一部と内面筋状に黒変	11 - 2
110	11住SW	灰	椀	(15.2)			口1/4	ロクロナデ	内外面に墨痕	11 - 4
111	11住床	土	甕		(8.8)		底2/3	外面板状工具ナデ、内面、底部ナデ		11 - 14
112	11住No.5	土	羽釜B？	(23.2)			口1/8	口縁ヨコナデ、外面ナデ、内面横方向ナデ	鍔部なし。甑か？	11 - 15
114	12住SWフ	土	杯AⅡ	8.55	4.3	2.15	口2/3　底完	ロクロナデ、回転糸切		12 - 1
113	12住No.7	土	杯AⅡ	9.8	4.4	2.2	口3/4　底完	ロクロナデ、回転糸切		12 - 4
115	12住フク土	土	杯AⅡ	(10.4)	(5)	1.9	口1/4　底1/4	ロクロナデ、回転糸切		12 - 16
116	12住No.19	土	杯AⅡ	9	4	2	口2/3　底完	ロクロナデ、回転糸切	内面炭化物付着	12 - 24
117	12住No.20	土	杯AⅡ	9.3	4.6	2.3	口完　底完	ロクロナデ、回転糸切		12 - 23
118	12住No.14	土	杯AⅡ	9.6	4.35	2.2	口5/6　底完	ロクロナデ、回転糸切	内面煤付着	12 - 6
119	12住No.1	土	杯AⅡ	9.5	3.8	2.4	口2/3　底完	ロクロナデ、回転糸切		12 - 22
120	12住No.2	土	杯AⅡ	8.55	4.2	2.2	口完　底完	ロクロナデ、回転糸切		12 - 21
121	12住No.15	土	杯AⅡ	9.8	5	2.05	口完　底完	ロクロナデ、回転糸切		12 - 26
122	12住フク土	土	杯AⅡ	(9.6)	(4.6)	2.5	口1/2　底完	ロクロナデ、回転糸切		12 - 3
123	12住No.16	土	杯AⅡ	9.35	4.2	2.7	口完　底完	ロクロナデ、回転糸切		12 - 2
124	12住No.13	土	杯AⅡ	9.7	2.8	2.35	口完　底完	ロクロナデ、回転糸切		12 - 25
125	12住フク土	土	杯AⅡ	10.4	5	3.1	口3/4　底3/4	ロクロナデ、回転糸切	全体的に歪み有り。	12 - 7
126	12住フ	土	杯AⅡ	10.2	5.3	3.05	口5/6　底完	ロクロナデ、回転糸切		12 - 5
127	12住No.21	土	杯AⅢ		(5.4)		底完	ロクロナデ、回転糸切		12 - 18
128	12住SNフク土	土	杯AⅢ		(5.8)		底完	ロクロナデ、回転糸切		12 - 17
129	12住SWフク土	土	杯AⅢ		(6.4)		底完	ロクロナデ、回転糸切		12 - 19
130	12住No.9	黒A	杯A	13.6	4.6	4.6	口一部欠　底完	ロクロナデ、内面ミガキ後黒色処理、外面口縁部にミガキ	混入。底部の糸切痕不明瞭。	12 - 29
131	12住NE	黒B	杯A	(12.6)	(5.6)	3.9	口1/4　底2/3	外面ミガキ、内外面ミガキ内面のみ黒色処理、底部手持ちヘラケズリ		12 - 9
132	12住SE	黒A	椀	14	7.2	5.7	口5/6　高台1/3欠	ロクロナデ、付高台、回転糸切、内面ミガキ後黒色処理	内面摩滅	12 - 14
133	12住No.18	黒A	椀	(15.2)	(7.2)	5.85	口一部　底完	ロクロナデ、付高台、回転糸切、内面ミガキ後黒色処理		12 - 15
134	12住No.10	土	椀	15.1	7.4	6.45	口一部欠　高台1/4欠	ロクロナデ、付高台、底部ナデ		12 - 33
135	12住No.3	土	盤BⅠ	14.7	7.6	6.1	口一部欠　底完	ロクロナデ、付高台、回転糸切後ナデ		12 - 32
136	12住フク土	土	杯AⅢ	12.25	6.6	(3.7)	口1/2　底2/3	ロクロナデ、回転糸切	全体的に歪み有り。	12 - 8
137	12住フク土	土	杯AⅢ	12.65	6.25	4	口2/3　底完	ロクロナデ、回転糸切	内外面摩滅	12 - 11
138	12住フク土	土	杯AⅢ	(14.6)	(5)	4.3	口一部　底完	ロクロナデ、回転糸切	内面摩滅	12 - 12
139	12住フク土	土	盤BⅠ	(15.2)	(7)	4	口1/2　高台1/2欠	ロクロナデ、付高台、回転糸切後ナデ	低い高台	12 - 13

No.	出土地点・注記	種別	器形	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存度	調整	備考	実測No.
140	12住No.2	土	盤BⅠ	13.9	7.6	5.5	口1/3　底完	ロクロナデ、付高台、回転糸切		12 - 28
141	12住No.8	土	杯AⅢ	14.9	5.8	3.75	口完　底完	ロクロナデ、回転糸切		12 - 31
142	12住ベルト	土	盤BⅠ？	(13.6)			口1/2	ロクロナデ		12 - 10
143	12住No.17	土	盤BⅠ？		(8)		底完	ロクロナデ、付高台、回転糸切		12 - 20
144	12住No.5	土	盤BⅠ	(14.2)	(7.8)	5	口1/3　底完	ロクロナデ、付高台、回転糸切		12 - 27
145	12住No.6	土	盤BⅠ	(16.4)	(8.2)	5.5	口1/2　底完	ロクロナデ、付高台、回転糸切後ナデ		12 - 30
146	13住カマド周辺	黒A	杯A	13.6	6.4	4.35	口1/2　底完	ロクロナデ、回転糸切、内面ミガキ後黒色処理	外面一部黒変。混入。	13 - 8
147	13住カマド周辺	黒A	椀	(13)	(6.8)	(5.1)	口1/8　高台一部欠　底面完	ロクロナデ、付高台、回転糸切、内面ミガキ後黒色処理		13 - 5
148	13住No.7	黒A	椀	(14.6)			口1/8	ロクロナデ、付高台、回転糸切、内面ミガキ後黒色処理	外面にタール状の付着物	13 - 7
149	13住No.10	黒A	椀		7.4		高台一部欠　底面完	ロクロナデ、付高台、回転糸切		13 - 4
150	13住No.1	土	杯AⅡ	11.1	5.6	2.7	口1/2　底完	ロクロナデ、回転糸切	外面一部にタール状の付着物	13 - 11
151	13住SW、NE	土	杯AⅡ	11.4	6	2.95	口1/2　底一部欠	ロクロナデ、回転糸切	内面一部にタール状の付着物	13 - 10
152	13住No.9	土	杯AⅡ	(11.6)	(5.4)	(3.4)	口一部　底1/2	ロクロナデ、回転糸切後ナデ？		13 - 9
153	13住No.4、SW	土	杯または椀	(13.4)			口1/3	ロクロナデ	内外面にタール状の付着物	13 - 13
154	13住フ	黒A	椀	(14.4)	(7.2)	(4.7)	口1/3　底4/5	ロクロナデ、付高台、回転糸切		13 - 6
155	13住カマド周辺	土	椀	(14.8)	(7.2)	(4.5)	口一部　底完	ロクロナデ、付高台、回転糸切		13 - 3
156	13住No.12	土	盤BⅠ	(15.2)	7.9	(5.75)	口1/4　高台一部欠　底面完	ロクロナデ、付高台、回転糸切		13 - 2
157	13住	灰	椀	(13.8)			口1/6	ロクロナデ	刷毛塗り	13 - 14
158	13住NE	灰	椀		(6.6)		底1/5	ロクロナデ、付高台、回転ヘラケズリ		13 - 15
159	13住No.8	土	小型甕D	(10.8)			口1/6	口縁ヨコナデ、外面ロクロナデ、内面横ナデ		13 - 12
160	13住NW、No.6、No.8	土	小型甕D	23.8			口7/8	口縁ヨコナデ、ロクロナデ		13 - 1
161	14住No.9	黒A	杯A	(13.2)	6.4	(3.8)	口1/12　底完	ロクロナデ、回転糸切、内面ミガキ後黒色処理	混入	14 - 5
162	14住No.4	黒A	椀または杯	(14.6)			口一部	ロクロナデ、内面ミガキ後黒色処理		14 - 13
163	14住No.2	黒A	椀		7.4		底完	ロクロナデ、付高台、回転糸切後ナデ、内面黒色処理のちナデ		14 - 12
164	14住カマド	土	杯または椀	(11.2)			口1/12	ロクロナデ		14 - 15
165	14住SE	土	杯AⅡ	(11)	(5.6)	(3.3)	口1/8　底1/5	ロクロナデ、回転糸切		14 - 7
166	14住フ	土	杯または椀	(12.8)			口1/6	ロクロナデ		14 - 14
167	14住SE	土	杯AⅡ	(12.8)	(4.6)	(3.1)	口1/8　底一部	ロクロナデ、回転糸切		14 - 8
168	14住No.21	土	杯AⅡ	(12.6)	6.6	(4)	口1/3　底完	ロクロナデ、回転糸切	内外面にタール状の付着物	14 - 6
169	14住No.20	土	椀	(14.4)	(7.2)	(4.6)	口1/5　高台2/3　底面完	ロクロナデ、付高台、回転糸切後ナデ	内面の一部と外面にタール状の付着物	14 - 9
170	14住No.22	土	椀	14.1	7	4.55	口2/3　底完	ロクロナデ、付高台、回転糸切後ナデ	内外面にタール状の付着物	14 - 18
171	14住No.13	土	椀		(7.4)		高台3/4　底面一部欠	ロクロナデ、付高台、回転糸切後ナデ	内外面にタール状の付着物	14 - 10
172	14住No.12	土	椀		(7)		高台一部欠　底面一部欠	ロクロナデ、付高台、回転糸切	内外面一部にタール状の付着物	14 - 11
173	14住NW	土	盤A？		(9.6)		高台1/6	ロクロナデ、付高台	内外面にタール状の付着物	14 - 16
174	14住カマド	土	小型甕D		(7.8)		底1/2	外面ナデ、内面ロクロナデ、回転糸切		14 - 17
175	14住No.23、カマド	土	小型甕D	(12.2)			口1/2	口縁ヨコナデ、ロクロナデ		14 - 4
176	14住No.16	灰	段皿	11.5	6	2.4	口一部欠　高台一部欠　底面完	ロクロナデ、付高台、回転ヘラケズリ		14 - 19
177	14住No.1	灰	皿	12.1	6.5	2.2	口一部欠　底完	ロクロナデ、付高台、回転糸切		14 - 3
178	14住No.7	灰	皿	12.3	6.2	2.55	口一部欠　底完	ロクロナデ、付高台、回転糸切		14 - 20
179	14住No.5	灰	皿	12.4	7.1	2.45	口一部欠　底完	ロクロナデ、付高台、回転ヘラケズリ	内外面にタール状の付着物	14 - 21
180	14住No.18	灰	椀	13.5	7.6	4.1	口1/3　底完	ロクロナデ、付高台、回転ヘラケズリ	内外面の一部にタール状の付着物	14 - 2
181	14住検、NW、NE、ベルト、19住SE	灰	短頸壷	(12)	(17.6)		口1/8　高台1/8　底面一部	口縁ヨコナデ、ロクロナデ、胴部下半回転ヘラケズリ、付高台	19住出土と接合、肩部に2条の沈線	14 - 1
182	15住土2	土	杯AⅡ	(11.8)	(6.4)	(2.9)	口1/10　底1/4	ロクロナデ、回転糸切		15 - 11
183	15住フ	土	杯AⅡ	(11.4)	(6.2)	(2.8)	口1/4　底1/4	ロクロナデ、回転糸切		15 - 8
184	15住NW	土	杯AⅡ	(11.8)	(5.6)	(3.4)	口1/4　底1/5	ロクロナデ、回転糸切		15 - 9
185	15住No.9	土	杯AⅡ	11.1	6.2	3	口1/2　底一部欠	ロクロナデ、回転糸切		15 - 6
186	15住フ	土	杯AⅡ	(11)	(6)	(3.1)	口1/8　底1/5	ロクロナデ、回転糸切		15 - 10
187	15住No.5	土	杯AⅡ	11.2	5.4	2.75	口1/2　底2/3	ロクロナデ、回転糸切		15 - 4
188	15住No.14	土	杯AⅡ	11.5	5.2	2.9	口一部欠　底完	ロクロナデ、回転糸切		15 - 2
189	15住No.19	土	杯AⅡ	11.4	5.2	2.85	口一部欠　底完	ロクロナデ、回転糸切	外面一部タール状の付着物	15 - 7
190	15住No.16	土	杯AⅡ	11.4	5.2	3.55	口完　底完	ロクロナデ、回転糸切	外面黒変	15 - 1
191	15住No.15	土	杯AⅡ	11.3	5.4	2.95	口1/2　底完	ロクロナデ、回転糸切		15 - 5
192	15住No.6	土	杯AⅡ	11.7	5.2	3.25	口2/3　底完	ロクロナデ、回転糸切		15 - 3
193	15住土4、SE	黒A	椀または杯	(13.4)			口1/4	ロクロナデ、内面ミガキ		15 - 22
194	15住SW	黒A	椀または杯	(13.2)			口1/3	ロクロナデ、内面ミガキ後黒色処理		15 - 14
195	15住No.12	黒A	椀	14.1	6.9	5.25	口1/3　底完	ロクロナデ、内面ミガキ後黒色処理		15 - 15
196	15住No.2	黒A	椀	(14.4)	(7.6)	(5.5)	口一部　底完	ロクロナデ、付高台、回転ヘラケズリ？内面ミガキ後黒色処理		15 - 13
197	15住フ	土	杯または椀	(13.8)			口1/4	ロクロナデ		15 - 20
198	15住土4	土	椀				底面1/2	ロクロナデ、回転糸切後ナデ		15 - 19
199	15住NW	土	杯または椀	(13.8)			口1/2	ロクロナデ		15 - 16
200	15住No.13	土	椀	14.9			口1/3　高台剥離　底面一部欠	ロクロナデ、回転糸切		15 - 18
201	15住No.17	土	椀		6.6		底完	ロクロナデ、付高台、回転糸切	内外面一部にタール状の付着物	15 - 12
202	15住土4	土	椀		6.7		底完	ロクロナデ、付高台、回転糸切		15 - 21
203	15住フ	土	杯または椀	(15)			口1/10	ロクロナデ、内面カキ目状ナデ		15 - 25
204	15住No.8、フ	土	椀	14.7	7.1	5.1	口3/4　底完	ロクロナデ、付高台、回転糸切		15 - 17
206	15住No.11、NE、SW、NW	灰	椀	(15.6)			口2/3	ロクロナデ		15 - 26
207	15住SW	土	甕	11.6			口1/8	口縁ヨコナデ、内面板状工具ナデ		15 - 24
208	15住SW	土	小型甕D	(13.8)			口一部	口縁ヨコナデ、外面ロクロナデ、内面板状工具ナデ		15 - 23
209	16住No.1	黒A	杯A	(11.8)	(5.55)	3.5	口1/3　底完	ロクロナデ、回転糸切、内面ミガキ後黒色処理	混入	16 - 12
210	16住	黒A	杯A	(13.05)	(5.35)	4.6	口1/10　底1/2	ロクロナデ、回転糸切後ナデ、内面ミガキ後黒色処理	混入	16 - 14
211	16住No.24、No.20	黒A	椀	12.3	7.1	4.8	口1/3　底完	ロクロナデ、付高台、回転糸切、内面ミガキ後黒色処理		16 - 15
212	16住No.33、NW	黒A	椀	(13.6)	(7)	5.55	口1/6　底3/4	ロクロナデ、付高台、回転糸切後ナデ、内面ミガキ後黒色処理		16 - 17
213	16住No.36	黒A	椀	14.3	7.5	4.8	口7/8　底完	ロクロナデ、付高台、回転糸切後ナデ、内面ミガキ後黒色処理		16 - 16
214	16住No.1	黒A	椀	15.4			口2/3　高台欠	ロクロナデ、付高台、回転糸切後ナデ、内面ミガキ後黒色処理		16 - 18
215	16住No.32	土	椀	(13.8)	(8)	4.45	口1/4　底2/3	ロクロナデ、付高台、回転糸切後ナデ		16 - 13
216	16住No.13、No.15	灰	椀	(16.85)	(8)	5.35	口1/20　底1/2	ロクロナデ、付高台、回転ヘラケズリ		16 - 23
217	16住No.2	土	杯AⅡ	11.4	5.6	3	口一部欠　底完	ロクロナデ、回転糸切	内面煤付着	16 - 11
218	16住No.26	土	杯AⅡ	(11.2)	(5.6)	3.4	口1/3　底3/4	ロクロナデ、回転糸切	器形に歪み	16 - 8
219	16住No.9	土	杯AⅡ	11.6	5.4	3.3	口一部欠　底完	ロクロナデ、回転糸切		16 - 3
220	16住No.16	土	杯AⅡ	12.05	6.25	3.4	口3/4　底完	ロクロナデ、回転糸切	器形に歪み	16 - 2
221	16住No.34	土	杯AⅡ	11.4	5.6	2.9	口5/6　底完	ロクロナデ、回転糸切		16 - 6
222	16住No.19	土	杯AⅡ	11.5	5.55	3.4	口3/4　底完	ロクロナデ、回転糸切		16 - 7
223	16住Wベルト	土	杯AⅡ	(11.25)	(5.25)	3.7	口1/6　底完	ロクロナデ、回転糸切のちナデ		16 - 1
224	16住No.31	土	杯AⅡ	11.9	5.4	2.7	口5/6　底完	ロクロナデ、回転糸切		16 - 5
225	16住No.5	土	杯AⅡ	12	5.35	3.15	口2/3　底完	ロクロナデ、回転糸切	器形に歪み	16 - 9
226	16住No.7	土	杯AⅡ	(11.8)	(5.5)	3.2	口1/3　底完	ロクロナデ、回転糸切		16 - 10

No.	出土地点・注記	種別	器形	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存度	調整	備考	実測No.
227	16住No.21	土	杯AⅡ	12.35	5.9	3.7	口一部欠　底完	ロクロナデ、回転糸切		16 - 4
228	16住No.35	灰	椀	(15.6)			口1/4	ロクロナデ		16 - 21
229	16住No.25	灰	椀	15.4	13.6	5.1	口1/4　底完	ロクロナデ、回転ヘラケズリ、付高台		16 - 19
230	16住No.3	灰	椀	(16.2)	(7.4)	5.2	口1/2　底完	ロクロナデ、付高台、回転糸切		16 - 20
231	16住Eベルト	灰	瓶類					ロクロナデ	頸部	16 - 22
232	16住No.8、No.30、No.10、No.4	土	小型甕D	(19.5)		(20.5)	口1/4	口縁ヨコナデ、ロクロナデ		16 - 24
233	17住No.1	土	杯AⅡ	9.75	4.2	2.3	口完　底完	ロクロナデ、回転糸切		17 - 15
234	17住カマド	黒A	杯A	(14.5)	(7.4)	3.9	口1/3　底1/2	ロクロナデ、内面ミガキ後黒色処理、回転糸切	混入	17 - 7
235	17住Nフク土	黒A	杯または椀	(13.7)			口1/3	ロクロナデ、内面ミガキ後黒色処理		17 - 4
236	17住Nフク土	黒A	杯または椀	(14.8)			口2/5	ロクロナデ、内面ミガキ後黒色処理		17 - 3
237	17住Nフク土	黒A	杯または椀	(15)			口1/5	ロクロナデ、内面ミガキ後黒色処理		17 - 5
238	17住Nフク土	黒A	杯または椀	(15)			口1/4	ロクロナデ、内面ミガキ後黒色処理		17 - 6
239	17住No.3	黒A	杯A	(14.4)			口一部欠　高台欠	ロクロナデ、内面ミガキ後黒色処理、回転糸切、外面底部外周手持ちヘラケズリ	混入	17 - 8
240	17住N	黒A	椀	(15.1)	6.8	5.3	口1/3　底完	ロクロナデ、内面ミガキ後黒色処理、回転糸切後ナデ、付高台		17 - 9
241	17住カマドNo.1	土	杯AⅡ	9.7	4.9	2.3	口5/6　底完	ロクロナデ、回転糸切	内面一部にタール状の付着物	17 - 1
242	17住カマドNo.2	土	盤BⅠ？		7.8		底完	ロクロナデ、回転糸切、付高台		17 - 10
243	17住カマド	灰	段皿	(9.9)	(5.3)	2.5	口1/3　底1/5	ロクロナデ、付高台		17 - 2
244	17住Nフク土	灰	椀		7.3		底3/5	ロクロナデ、回転ヘラケズリ、回転ヘラケズリ後ナデ		17 - 12
245	17住No.2	灰	段皿	10.7	5.65	2.2	口一部欠　底完	ロクロナデ、付高台、回転糸切後ナデ	内外面一部にタール状付着物	17 - 16
246	17住Nフク土	灰	椀	15.3	7.5	6.5	口2/3　底完	ロクロナデ、回転ヘラケズリ、付高台、口縁内面に沈線、回転ヘラケズリ後ナデ		17 - 11
247	17住N	土	盤A	23.1			口2/3	ロクロナデ、付高台後ナデ、回転糸切後ナデ		17 - 14
248	17住Nフク土	土	小型甕D	(12.2)			口一部	口縁ヨコナデ、ロクロナデ	一部黒変	17 - 13
249	19住S　Eベルト	黒A	椀	(11.35)	(6.1)	4.6	口1/14　底1/4	ロクロナデ、付高台、回転糸切、内面ミガキ後黒色処理	腰の張る体部。外面磨滅激しい。	19 - 13
250	19住	黒A	椀	(15)	(6.8)	5.4	口1/3　底1/8	ロクロナデ、付高台、回転糸切、内面ミガキ後黒色処理		19 - 14
251	19住Eベルト	土	杯AⅡ	(12.1)	(5.5)	2.25	口1/10　底1/2	ロクロナデ、回転糸切		19 - 3
252	19住Nベルト	土	杯AⅡ	(11)	(5)	2.95	口1/2　底1/6	ロクロナデ、回転糸切後ナデ		19 - 1
253	19住	土	杯AⅡ	11.05	6.65	2.8	口1/6　底2/3	ロクロナデ、ヘラ切り？		19 - 2
254	19住	土	杯AⅡ	(11.4)	(5.3)	3.15	口1/10　底完	ロクロナデ、回転糸切		19 - 4
255	19住	土	杯AⅢ	(13.2)	(7)	3.3	口1/7　底完	ロクロナデ、ヘラ切り		19 - 5
256	19住No.20	土	杯AⅡ	(11.6)	(5.2)	3.25	口1/8　底1/5	ロクロナデ、回転糸切		19 - 9
257	19住No.5	土	杯AⅢ	13.8	7	3.2	口1/16　底1/2	ロクロナデ、回転糸切後ナデ		19 - 6
258	19住	土	椀	13.35	(7.05)	3.4	口1/3　高台一部	ロクロナデ、付高台、回転糸切		19 - 7
259	19住No.6	土	椀	(14.5)	(6.2)	3.6	口1/16　底1/2	ロクロナデ、付高台、回転糸切後ナデ		19 - 8
260	19住No.18、NE	土	盤BⅠ		7.5		底1/2	ロクロナデ、付高台、回転糸切後ナデ		19 - 11
261	19住検	土	椀		(6.2)		底1/3	ロクロナデ、付高台、回転糸切後ナデ		19 - 10
262	19住NW	灰	椀		(6.7)		底3/4	ロクロナデ、付高台、回転ヘラケズリ		19 - 20
263	19住Eベルト	灰	椀		(7.25)		底1/2	ロクロナデ、付高台、回転ヘラケズリ		19 - 18
264	19住NW	灰	椀		(6.3)		底1/4	ロクロナデ、付高台、回転ヘラケズリ	底部外面に煤付着	19 - 19
265	19住Eベルト	灰	椀	(12.9)	(6)	2.9	口1/4　底1/3	ロクロナデ、付高台		19 - 15
266	19住No.7	灰	椀	(14)	(6.95)	4.3	口1/4　底完	ロクロナデ、付高台、回転ヘラケズリ	転用硯	19 - 16
267	19住No.9、MN	灰	椀	(15.8)	(8)	4.7	口1/2　底1/2	ロクロナデ、付高台、回転ヘラケズリ		19 - 17
268	19住No.17	土	羽釜A	(22.5)			口1/16	口縁ヨコナデ、ロクロナデ、鍔部貼り付け後ヨコナデ		19 - 12
269	20住No.5	黒A	椀	14.4	6.4	6.5	口3/4　高台一部欠	ロクロナデ、付高台、内面黒色処理後ミガキ	内面にヘラ記号	20 - 19
270	20住NW	黒A	椀	(13)	(6.8)	5.4	口一部　底1/4	ロクロナデ、付高台、内面ミガキ後黒色処理		20 - 8
271	20住	土	杯AⅢ	(12.8)	(6.4)	4.5	口1/3　底1/3	ロクロナデ、回転糸切		20 - 6
272	20住No.11	土	杯AⅢ	(14)	(6.6)	3.5	口一部　底1/2	ロクロナデ、回転糸切		20 - 5
273	20住No.10	土	杯AⅢ	14.1	6.6	4.1	口1/2　底一部欠	ロクロナデ、回転糸切		20 - 7
274	20住No.7	土	杯AⅡ	10.4	5	2.2	口2/3　底完	ロクロナデ、回転糸切		20 - 3
275	20住	土	杯AⅡ	(10.6)	(5.8)	1.3	口1/3　底1/4	ロクロナデ、回転糸切		20 - 4
276	20住	土	杯AⅡ	(10.6)	(5.7)	2	口1/8　底3/4	ロクロナデ、回転糸切		20 - 1
277	20住No.16	土	杯AⅡ	9.35	4.4	2.25	口完　底完	ロクロナデ、回転糸切		20 - 15
278	20住No.8	土	杯AⅡ	(11.2)	(5.8)	2.4	口2/5　底完	ロクロナデ、回転糸切		20 - 2
279	20住No.9	土	盤BⅡ	9.9	5.9	2.8	口完　高台1/3欠	ロクロナデ、付高台		20 - 16
280	20住NW	土	椀		(4.8)		底完	ロクロナデ、付高台、回転糸切後ナデ		20 - 9
281	20住No.15	灰	椀	15.6	7.8	5.3	口1/3　高台1/4欠	ロクロナデ、回転ヘラケズリ、付高台		20 - 17
282	20住Eベルト	灰	段皿		(7.2)		底1/4	ロクロナデ、付高台		20 - 11
283	20住NE	灰	椀		(7.2)		底1/3	ロクロナデ、付高台、回転ヘラケズリ後ナデ		20 - 10
284	20住Eベルト	土	羽釜B？	(19)			口1/12	口縁ヨコナデ、外面ナデ、内面工具ナデ	鍔部なし	20 - 12
285	20住No.6	土	羽釜B？	(13)			口一部	口縁ヨコナデ、内外面工具ナデ	鍔部なし	20 - 13
286	20住No.14	土	羽釜B？	(24.4)			口1/4	口縁ヨコナデ、内外面工具ナデ、口縁内面指圧痕		20 - 14
287	20住No.3、7	土	甑	26.4	19.4	21	口一部欠　底3/4	端部ヨコナデ、指圧痕、雑な工具ナデ		20 - 18
288	21住NW	黒A	椀		(7.2)		底完	ロクロナデ、回転糸切、内面ミガキ後黒色処理		21 - 8
289	21住NE	黒A	杯または椀	(15)			口1/8	ロクロナデ、内面ミガキ後黒色処理		21 - 6
290	21住No.17	黒A	杯A	(14.6)	(6.8)	4.5	口1/8　底完	ロクロナデ、回転糸切、内面ミガキ後黒色処理		21 - 1
291	21住	黒A	杯または椀	(14.6)			口1/2	ロクロナデ、内面ミガキ後黒色処理		21 - 2
292	21住No.14	黒A	杯または椀	(16.8)			口1/8	ロクロナデ、内面ミガキ後黒色処理		21 - 7
293	21住No.8、NW	黒A	杯または椀	(16)			口1/8	ロクロナデ、内面ミガキ後黒色処理		21 - 5
294	21住No.7	土	杯AⅡ	11.3	4.6	3.75	口1/2　底完	ロクロナデ、回転糸切		21 - 12
295	21住No.11	土	盤BⅠ	(15.2)			口1/3	ロクロナデ	混入	21 - 3
296	21住No.1	土	盤BⅠ		(8.4)		高台3/4欠	ロクロナデ、付高台、回転糸切	混入	21 - 4
297	21住No.6	土	盤A		(14.2)		底1/2	ロクロナデ、脚部貼り付け、透かし4単位		21 - 13
298	21住	土	杯A				口一部	ロクロナデ	墨書	21 - 14
299	21住Sベルト	土	鉢A	18.35	6.8	7.65	口1/3　底完	ロクロナデ、回転糸切		21 - 11
300	21住No.14	灰	椀	(13.4)			口1/6	ロクロナデ	刷毛塗り	21 - 9
301	21住NE	灰	皿	(13.1)	(6.6)	2.4	口一部　底1/2	ロクロナデ、付高台、回転ヘラケズリ	刷毛塗り	21 - 10
302	22住No.6	黒A	杯A	(12.8)	(5.8)	3.6	口1/3　底完	ロクロナデ、回転糸切、内面ミガキ後黒色処理	内面にヘラ記号	22 - 24
303	22住床下No.7	黒A	杯A	12.8	5.85	4.05	底完	ロクロナデ、回転糸切のち手持ちヘラケズリ、内面ミガキ後黒色処理	内面にヘラ記号	22 - 25
304	22住床下No.1	黒A	杯A	14	6.7	4	口1/2　底完	ロクロナデ、回転糸切、内面ミガキ後黒色処理	内面にヘラ記号	22 - 23
305	22住No.1	黒A	椀	(15.6)	(7.8)	6.5	口1/6　高台一部欠	ロクロナデ、付高台、回転糸切、内面黒色処理後ミガキ		22 - 26
306	22住床下フク土	黒A	杯または椀	(13.8)			口1/4	ロクロナデ、内面ミガキ後黒色処理		22 - 1
307	22住床下フク土	黒A	杯または椀	(15)			口1/4	ロクロナデ、内面ミガキ後黒色処理		22 - 2
308	22住No.19	土	杯または椀	(14.2)			口1/4	ロクロナデ		22 - 3
309	22住No.22	土	杯AⅡ	11.6	6.8	3.05	口3/4　底完	ロクロナデ、回転糸切		22 - 12
310	22住No.4	土	杯AⅡ	11.7	5	3.1	口2/3　底完	ロクロナデ、回転糸切		22 - 5
311	22住	土	杯AⅡ	11.6	5.8		口1/3　底一部欠	ロクロナデ、回転糸切		22 - 10
312	22住20	土	杯AⅡ	12	6	3.2	口3/4　底完	ロクロナデ、回転糸切		22 - 7
313	22住床下No.6	土	杯AⅡ	11.8	6	3.2	口2/3　底完	ロクロナデ、回転糸切		22 - 13
314	22住床下フク土	土	杯AⅡ	11.8	6.2	3.3	口2/3　底一部欠	ロクロナデ、回転糸切		22 - 19
315	22住	土	杯AⅡ	(12.4)	(5)	2.9	口1/8　底2/3	ロクロナデ、回転糸切		22 - 14
316	22住床下No.4	土	杯AⅡ	11.8	6	3.5	口1/3　底完	ロクロナデ、回転糸切		22 - 18
317	22住No.9、11	土	杯AⅡ	11.9	5.8	2.8	口1/2　底完	ロクロナデ、回転糸切		22 - 6
318	22住No.2	土	杯AⅡ	11.5	6.9	3.55	口2/3　底完	ロクロナデ、回転糸切	全体的に歪み	22 - 9
319	22住No.11	土	杯AⅡ	11.7	5.7	3.05	口3/4　底完	ロクロナデ、回転糸切		22 - 4

No.	出土地点・注記	種別	器形	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存度	調整	備考	実測No.
320	22住	土	杯AⅡ	(12)	(5.4)	3.2	口1/3　底完	ロクロナデ、回転糸切		22 - 8
321	22住床下フク土	土	杯AⅡ	12.2	5.7	3.5	口1/3　底完	ロクロナデ、回転糸切		22 - 15
322	22住No.4	土	杯AⅡ	(12.6)	(5.6)	3	口1/3　底完	ロクロナデ、回転糸切		22 - 11
323	22住No.7	土	杯AⅡ	12.6	5.2	3	口3/4　底完	ロクロナデ、回転糸切		22 - 20
324	22住No.17	土	杯AⅡ	(13.2)	(6.6)	3.2	口1/3　底1/2	ロクロナデ、回転糸切		22 - 16
325	22住No.	黒A	杯A	(14)	(6.6)	4.1	口1/8　底完	ロクロナデ、内面ミガキ後黒色処理、回転糸切		22 - 21
326	22住床下No.3	黒A	椀		(8.4)		底完	ロクロナデ、付高台、回転糸切、内面ミガキ後黒色処理		22 - 22
327	22住No.23、24	灰	椀	13.8	7.8	4.3	口1/8　底完	ロクロナデ、付高台、回転ヘラケズリ	刷毛塗り	22 - 17
328	22住No.8、9、10、15、16	土	小型甕D	(16.2)	(9.8)	19.4	口1/3　底1/2	口縁ヨコナデ、ロクロナデ、底面ナデ		22 - 27
332	25住NW	灰	椀		(7.6)		底1/10	ロクロナデ、付高台、回転糸切		25 - 3
336	23住No.14、SW	黒A	杯A	12	6	3.7	口3/4　底完	ロクロナデ、回転糸切、内面ミガキ後黒色処理		23 - 16
337	23住SW	黒A	杯または椀	(13.8)			口一部	ロクロナデ、内面ミガキ後黒色処理		23 - 18
338	23住NE	黒A	杯または椀	(15.8)			口1/8	ロクロナデ、内面ミガキ後黒色処理		23 - 17
339	23住	土	杯AⅡ	12.8	5.9	3.25	口2/3　底2/3	ロクロナデ、回転糸切		23 - 13
340	23住	土	杯AⅡ	13.4	5.5	3.25	口1/3　底一部欠	ロクロナデ、回転糸切		23 - 14
341	23住No.4	土	杯AⅡ	13.5	5.9	3.8	口一部欠　底完	ロクロナデ、回転糸切		23 - 12
342	23住No.12	土	盤BⅠ	(16)	(7.2)	(4.7)	口1/8　高台一部　底面完	ロクロナデ、付高台、回転糸切	低い高台	23 - 10
343	23住No.12	土	杯A		(5.8)		底完	ロクロナデ、回転糸切		23 - 15
344	23住NE	土	椀		(7.6)		底1/4	ロクロナデ、付高台、回転糸切後ナデ		23 - 11
345	23住NW	灰	段皿	(13.2)			口1/5	ロクロナデ	墨付着。混入	23 - 22
346	23住Wベルト	灰	皿	(12)	(7)	(2.4)	口1/12　底1/3	ロクロナデ、付高台、回転糸切	混入	23 - 20
347	23住NE	灰	椀	(14.4)			口1/8	ロクロナデ	混入	23 - 23
348	23住NE	灰	椀		(8.4)		高台1/4　底面一部	ロクロナデ、付高台、回転糸切	混入	23 - 21
351	23住フク	土	小型甕D		6		底完	ロクロナデ、回転糸切		23 - 6
352	23住フク	土	小型甕D		(9.6)		底1/3	外面手持ちヘラケズリ、内面ロクロナデ、底面ナデ		23 - 4
353	23住No.13、フク土	土	小型甕D	(13.2)			口1/3	口縁ヨコナデ、口縁内面カキ目、内外面ロクロナデ		23 - 8
354	23住No.10	土	甕	(19.6)			口1/4	口縁ヨコナデ、外面ロクロナデ、内面ナデ		23 - 9
355	23住NE	土	羽釜A	(15.2)			口1/8	口縁ヨコナデ、外面ナデ、内面板状工具ナデ、鍔部貼り付け後ヨコナデ	11期以降	23 - 5
356	23住No.18	土	小型甕D		(9.2)		底1/3	ロクロナデ、外面下部手持ちヘラケズリ、底面ナデ		23 - 2
357	23住No.8、NW	土	甕		(11.8)		底一部	外面ナデ、下部手持ちヘラケズリ、内面板状工具ナデ、底面ナデ		23 - 3
358	23住ベルト	土	甕	(21)			口1/5	口縁ヨコナデ、内外面ナデ		23 - 7
359	23住ベルト、No.16	土	小型甕D					外面ハケ目、内面上部カキ目、下部ロクロナデ		23 - 1
360	23住No.7	灰	瓶類					ロクロナデ	肩部	23 - 19
361	26住No.24	黒A	椀	13.1	7.1	4.55	口3/4　底完	ロクロナデ、付高台、回転糸切、内面ミガキ後黒色処理		26 - 1
362	26住No.21	黒A	椀	14.2	6.7	5.15	口4/5　底完	ロクロナデ、付高台、回転糸切、内面ミガキ後黒色処理		26 - 2
363	26住	土	盤BⅠ？	(15.8)			口1/8	ロクロナデ		26 - 13
364	26住SE	土	盤BⅠ	16			口3/8　高台欠　底面完	ロクロナデ、回転糸切		26 - 4
365	26住No.5	土	椀	(13.8)	(6.4)	(4.9)		ロクロナデ、付高台		26 - 14
366	26住No.22、SE	土	杯または椀	(12.8)			口1/3	ロクロナデ		26 - 12
367	26住土2No.1	土	杯AⅢ	(13.2)	6.2	(4.2)	口1/3　底完	ロクロナデ、回転糸切		26 - 8
368	26住No.18、No.25、NE	土	杯AⅢ	(13)	(6.8)	(4.1)	口1/4　底1/2	ロクロナデ、回転糸切		26 - 6
369	26住No.20	土	杯AⅢ	(14.2)	(5.8)	(4.7)	口1/5　底1/2	ロクロナデ、回転糸切		26 - 3
370	26住No.2	土	盤BⅠ	(12.2)	(6.4)	(5.8)	口1/6　高台短部欠　底面完	ロクロナデ、回転糸切、付高台		26 - 5
371	26住No.9	土	杯AⅡ	10	4.4	2.3	口完　底完	ロクロナデ、回転糸切	内面一部にタール状の付着物	26 - 9
372	26住土2No.2	土	杯AⅡ	10.8	5.4	2.95	口2/3　底3/4	ロクロナデ、回転糸切	外面一部にタール状の付着物	26 - 7
373	26住No.12	土	杯AⅡ	9.8	8.4	1.9	口一部欠　底完	ロクロナデ、回転糸切	外面一部にタール状の付着物	26 - 10
374	26住No.3	土	杯A		4.6		底完	ロクロナデ、回転糸切		26 - 11
375	26住No.7	灰	椀		(7.8)		底1/2	ロクロナデ、付高台、回転糸切		26 - 19
376	26住No.11	灰	椀	(15.6)	(7)	(5.9)	口1/3　底1/3	ロクロナデ、付高台、回転ヘラケズリ、口縁内面に沈線		26 - 18
377	26住No.1	灰	椀	15.7	7.8	6.8	口2/3　底完	ロクロナデ、付高台、回転糸切、回転ヘラケズリ後ナデ		26 - 16
378	26住No.15	灰	椀	(15)	(6.6)	(6.7)	口1/3　底1/3	ロクロナデ、回転ヘラケズリ、付高台、回転糸切後ナデ、口縁内面に沈線		26 - 15
379	26住NW	灰	段皿	11	6.4	2.6	口一部　底1/4	ロクロナデ、付高台、回転糸切	内面に墨付着	26 - 17
380	26住No.1	土	椀		(7.4)		底完	ロクロナデ、付高台、回転糸切		27 - 1
381	30住N	土	杯AⅡ	(8.7)	(4.15)	2.25	口1/5　底1/3	ロクロナデ、回転糸切		30 - 16
382	30住No.15	土	杯AⅡ	(9.25)	3.2	2.3	口1/4　底完	ロクロナデ、回転糸切		30 - 5
383	30住No.6	土	杯AⅡ	(9.8)	(4.2)	3	口1/4　底完	ロクロナデ、回転糸切		30 - 1
384	30住N	土	杯AⅡ	(10.8)	(5.45)	2.85	口1/6　底1/3	ロクロナデ、回転糸切		30 - 15
385	30住	土	杯AⅡ	(9.3)	4.1	2	口2/5　底1/2	ロクロナデ、回転糸切		30 - 4
386	30住No.21、No.17、N、9住フ	土	杯AⅡ	9.95	5.1	2	口3/4　底完	ロクロナデ、回転糸切		30 - 17
387	30住No.20、N	土	杯AⅡ	(9.6)	(5.55)	1.9	口1/4　底1/4	ロクロナデ、回転糸切		30 - 18
388	30住S	土	杯AⅡ	(9.2)	(4.9)	(1.7)	口1/3	ロクロナデ、回転糸切		30 - 8
389	30住N	土	杯AⅡ	(10)	(5.5)	(2.5)	口1/3　底1/2	ロクロナデ、回転糸切		30 - 14
390	30住	土	杯AⅢ	(11.8)	(5.3)	3.5	口1/4　底1/3	ロクロナデ、回転糸切		30 - 3
391	30住No.18	土	杯AⅢ	12	5	3.5	口完　底完	ロクロナデ、回転糸切		30 - 2
392	30住No.1	土	杯AⅢ	(14.3)	5	(4.3)	口1/16　底完	ロクロナデ、回転糸切		30 - 20
393	30住S	土	盤BⅠ？	16.6	(11.1)	(2.3)	口1/3	ロクロナデ		30 - 9
394	30住床下、No.17	土	杯AⅢ	(14.5)	(5.5)	(5.1)	口1/3　底2/3	ロクロナデ、回転糸切		30 - 19
395	30住No.7	土	杯AⅢ	(13.3)	5.6	4.1	口1/4　底完	ロクロナデ、回転糸切		30 - 6
396	30住N	土	盤BⅠ		(7.6)		高台2/3欠	ロクロナデ、回転糸切、付高台		30 - 13
397	30住S	灰	段皿	(11.6)	(6.2)	(2)	口1/3	ロクロナデ		30 - 7
398	30住N	灰	段皿	(11.5)	(6.2)	(2.4)	底1/3	ロクロナデ、付高台、回転ヘラケズリ		30 - 11
399	30住N	灰	椀	(14)			底1/8	ロクロナデ		30 - 12
400	30住N	灰	椀	(14)	(6.5)	(5.8)	口1/2　底1/3	ロクロナデ、付高台、回転ヘラケズリ		30 - 10
401	28住フ	黒A	椀		(9.2)		高台1/5　底面一部	ロクロナデ、付高台、内面ミガキ後黒色処理	底面一部にタール状の付着物	28 - 3
402	28住	土	杯または椀	(13.2)			口1/6	ロクロナデ		28 - 1
403	28住	土	杯A		(5.6)		底2/3	ロクロナデ、回転糸切		28 - 2
404	29住No.1	黒A	椀		7		底完	ロクロナデ、付高台、回転糸切、内面ミガキ後黒色処理		29 - 1
405	29住フ	土	杯AⅡ	(9.4)	4.2	(2)	口1/10　底完	ロクロナデ、回転糸切		29 - 3
406	29住フ	土	椀				高台欠　底面一部欠	ロクロナデ、回転糸切後ナデ		29 - 2
407	29住	灰	瓶類		(8.4)		高台3/8　底面一部	内面ロクロナデ、外面回転ヘラケズリ、付高台、底面回転ヘラケズリ	底部	29 - 4
408	29住	灰	椀		(8)		高台1/4　底面一部	ロクロナデ、付高台、回転ヘラケズリ		29 - 5
410	29住No.1	土	小型甕D		(8.8)		底完	ロクロナデ、回転糸切	刻書「金」	29 - 7
411	33住フク土	黒B	椀	(9.2)			口1/4	外面ミガキとロクロナデ、内面ミガキ後黒色処理		33 - 1
412	33住フ	土	皿AⅡ	10.1	4.8	(1.35)	口2/3　底2/3	ロクロナデ、回転糸切、内面口縁部に沈線		33 - 2
413	33住フク土	土	杯AⅡ	(9.4)	(5)	(1.5)	口一部　底1/2	ロクロナデ、回転糸切		33 - 3
414	33住フ	土	杯AⅡ	(10.2)	(5.6)	(1.9)	口1/6　底1/4	ロクロナデ、回転糸切		33 - 4
415	33住床、検出面、フク土	土	杯A		(6.8)		底2/3	ロクロナデ、回転糸切		33 - 5
416	31住No.7	黒A	杯A	12.15	5.4	3.5	口一部欠　底完	ロクロナデ、回転糸切、内面ミガキ後黒色処理	混入	31 - 6

No.	出土地点・注記	種別	器形	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存度	調整	備考	実測No.
417	31住No.9	土	杯AⅡ	11	5.2	2.85	口2/3　底一部欠	ロクロナデ、回転糸切		31 - 4
418	31住No.6	土	杯AⅡ	(11.25)	(4.8)	3.3	口1/8	ロクロナデ		31 - 9
419	31住	土	杯AⅡ	(12.2)	(6)	3.6	口1/10　底1/2	ロクロナデ、回転糸切		31 - 3
420	31住No.10	土	杯A		3.1		底完	ロクロナデ、回転糸切		31 - 10
421	31住No.3	土	杯A		6.2		底完	ロクロナデ、回転糸切後ナデ		31 - 5
422	31住No.8	土	椀	(13.4)	(6.85)	4.3	口1/6　底完	ロクロナデ、付高台、回転糸切後ナデ		31 - 2
423	31住No.1	土	椀	13.95	6.4	5	口一部欠　底一部欠	ロクロナデ、付高台、回転糸切		31 - 8
424	31住SEフク土	土	椀	14.35			口1/2　底一部欠　高台欠	ロクロナデ、回転糸切		31 - 7
425	31住No.5	灰	椀	12.7	7.35	3	口一部欠　底完	ロクロナデ、付高台、回転ヘラケズリ	漬け掛け	31 - 11
426	31住No.4	灰	椀	16.3	8.2	5.2	口一部欠　高台一部欠	ロクロナデ、付高台、回転ヘラケズリ	刷毛塗り	31 - 1
427	32住No.1	土	小型甕D		(10.2)		底1/2	外面板状工具ナデ（一部ハケ目か？）、内面板状工具ナデ、底面回転糸切	小型甕D？	32 - 1
428	35住No.11	黒A	椀		6.2		底3/4	ロクロナデ、付高台、回転糸切後ナデ、内面ミガキ後黒色処理		35 - 17
429	35住No.23	黒A	椀		(7.7)		底完	ロクロナデ、付高台、回転糸切、内面ミガキ後黒色処理		35 - 16
430	35住SW	黒A	椀		(7)		底3/4	ロクロナデ、付高台、回転糸切後ナデ、内面ミガキ後黒色処理		35 - 18
431	35住No.9	土	杯AⅡ	10.3	6.2	2.8	口1/2　底3/4	ロクロナデ、回転糸切		35 - 1
432	35住No.28	土	杯AⅡ	11.1	6	2.9	口完　底完	ロクロナデ、回転糸切		35 - 4
433	35住No.16	土	杯AⅡ	11.5	5.35	3.25	口完　底完	ロクロナデ、回転糸切		35 - 2
434	35住No.2	土	杯AⅡ	(11.2)	(6.1)	3		ロクロナデ、回転糸切	内外面にタール状の付着物	35 - 11
435	35住No.6	土	杯A		(5.2)		底完	ロクロナデ		35 - 19
436	35住ベルト、36住SN	土	杯AⅡ	(11.7)	(6)	2.8	口1/2　底1/2	ロクロナデ、回転糸切		35 - 5
437	35住No.24	土	杯AⅡ	11.6	5.65	3.3	口2/3　底一部欠	ロクロナデ、回転糸切		35 - 3
438	35住No.27	土	杯AⅡ	11.45	4.9	2.9	口一部欠　底完	ロクロナデ、回転糸切		35 - 8
439	35住No.13	土	杯AⅡ	(12)	(5.65)	3	口2/5　底3/5 ロクロナデ、回転糸切	口縁に煤付着、外面底部から体部にかけて黒変		35 - 7
440	35住No.28	土	杯AⅡ	(12)	(6)	3.1	口1/3　底2/5	ロクロナデ、回転糸切		35 - 6
441	35住フク土、ベルト(W)	土	杯AⅡ	12.1	5.2	3.45	口5/6　底一部欠	ロクロナデ、回転糸切	内外面にタール状の付着物	35 - 10
442	35住	土	杯AⅡ	(12.6)	(6.45)	3.4	口1/4　底2/5	ロクロナデ、回転糸切		35 - 9
443	35住No.19	土	椀	(14.4)	(7)	4.35	口1/6　底完	ロクロナデ、付高台、回転糸切後ナデ		35 - 20
444	35住SW	土	椀	(13.7)	(7)	4.7	口1/14　底1/4	ロクロナデ、付高台、回転糸切		35 - 14
445	35住No.15	土	椀	(13.3)	(6.55)	4.9	口1/4　底1/2	ロクロナデ、付高台、回転糸切		35 - 12
446	35住No.10	土	椀	(13.6)	6.8	4.6	口1/4　底完	ロクロナデ、付高台、回転糸切後ナデ	内面に黒変あり	35 - 13
447	35住No.22	土	盤BⅠ	(17.15)	(8.8)	6.1	口1/4　底一部欠	ロクロナデ、付高台、回転糸切後ナデ		35 - 15
448	35住No.20	灰	椀	12.8			口1/2　底2/3　高台欠	ロクロナデ、回転ヘラケズリ		35 - 26
449	35住ベルト（W）	灰	椀		(7.75)		底1/4	ロクロナデ、付高台、回転ヘラケズリ		35 - 27
450	35住NE、36住NE	灰	瓶類	(12.8)			口1/6	口縁ヨコナデ、ロクロナデ	口縁部	35 - 25
451	35住No.4	土	小型甕D	10.7	6.6	11	口一部欠　底3/4	口縁ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切後ナデ		35 - 22
452	35住ベルト（W）	土	甕	(18.4)			口1/8	口縁ヨコナデ、内面板状工具ナデ		35 - 24
453	35住No.26、36住NE	土	小型甕D		(8.3)		底完	ロクロナデ、底面回転糸切		35 - 21
455	36住No.4	黒A	杯A	(15.3)	(5.8)	5.2	口1/3　底1/2	ロクロナデ、回転糸切後ナデ、内面黒色処理後ミガキ	混入	36 - 7
456	36住S	黒A	杯または椀	(13.2)			口1/8	ロクロナデ、内面黒色処理後ミガキ		36 - 6
457	36住No.6	土	椀	13.9	(7.55)	4.75	口一部欠　底1/2	ロクロナデ、付高台、回転糸切		36 - 4
458	36住No.8	土	杯AⅡ	11	5.2	3.55	口一部欠　底完	ロクロナデ、回転糸切		36 - 1
459	36住No.2	土	杯AⅡ	11.9	5.5	3	口1/2　底2/3	ロクロナデ、回転糸切		36 - 2
460	36住NW	土	杯A	(12.8)			口1/8	ロクロナデ		36 - 3
461	36住No.5	土	椀		(7)		底2/3	ロクロナデ、付高台、回転糸切		36 - 5
462	36住No.9	灰	椀	(12.9)	(6.4)	2.7	口1/3　底2/5	ロクロナデ、付高台、回転ヘラケズリ		36 - 9
463	36住SWフ	灰	椀		(7.6)		底1/5	ロクロナデ、付高台、回転ヘラケズリ		36 - 8
464	37住Eフ	黒A	杯または椀	(14.7)			口1/4	ロクロナデ		37 - 2
465	37住No.4	黒A	椀		(7.8)		高台1/2　底面1/3	ロクロナデ、付高台、内面ミガキ後黒色処理		37 - 4
466	37住	土	杯または椀	(9.6)			口1/8	ロクロナデ	B地区と重複する	37 - 9
467	37住No.6	土	杯AⅡ	10.4	5.2	2.9	口1/2　底完	ロクロナデ、回転糸切	C地区と重複する	37 - 1
468	37住No.6	土	杯AⅡ	10.4	5.6	3.1	口2/3　底完	ロクロナデ、回転糸切		37 - 3
469	37住フク土	須	短頸壷B？		(4.6)		底1/4	ロクロナデ、回転糸切	自然釉。混入か？	37 - 7
470	37住No.7	灰	皿	(13)	(6.8)	2.5	口1/4　高台1/5　底面2/3	ロクロナデ、付高台、回転糸切、口縁に輪花	内外面に煤付着	37 - 5
471	37住No.3、No.5	灰	椀	17.95	9	7.1	口一部欠　底完	ロクロナデ、付高台、回転ヘラケズリ	外面墨痕	37 - 6
472	37住No.8	土	羽釜A	(24.4)			口1/12	口縁ヨコナデ、外面ナデ、鍔部貼り付け後ヨコナデ、内面工具ナデ		37 - 8
491	44住土No.1	黒B	椀		7		底面完　高台一部欠	回転ヘラケズリ後ケズリ、付高台、内外面ミガキ後黒色処理	ヘラ記号、混入？	44 - 2
492	44住No.23、NE	黒A	杯A	(11.8)	(5.6)	3.4	口1/4　底完	ロクロナデ、回転糸切、内面ミガキ後黒色処理	混入	44 - 4
493	44住	黒A	杯A	(12.6)	(5.6)	3.3	口1/3　底1/3	ロクロナデ、回転糸切、内面ミガキ後黒色処理	混入	44 - 3
494	44住SW	黒A	杯または椀	(14)			口1/3	ロクロナデ、内面ミガキ		44 - 29
495	44住No.16	黒B	杯または椀	(14.8)			口1/16	内外面ミガキ後黒色処理		44 - 27
496	44住No.21、SW、土1	黒A	椀	14.8	(8)	5.7	口1/4　底1/2	ロクロナデ、付高台、回転糸切、内面黒色処理後ミガキ		44 - 1
497	44住No.24	黒A	椀		7.5		底面完　高台一部欠	ロクロナデ、付高台、回転糸切、内面ミガキ		44 - 22
498	44住土2、No.21、土1	土	杯A		5.3		底完	ロクロナデ、回転糸切		44 - 21
499	44住No.5	土	杯AⅡ	(11)	(5)	3.4	口1/6　底1/3	ロクロナデ、回転糸切		44 - 18
500	44住フ	土	杯AⅡ	(12)	(5.8)	3.5	口1/12　底1/2	ロクロナデ、回転糸切		44 - 12
501	44住No.10、No.29	土	杯AⅡ	11.4	5.4	3.1	口1/2　底完	ロクロナデ、回転糸切		44 - 15
502	44住	土	杯AⅡ	(12.2)	(6.8)	3.1	口一部　底1/2	ロクロナデ、回転糸切と回転ヘラケズリ		44 - 13
503	44住No.13	土	杯AⅡ	(12)	5.9	2.9	口1/8　底完	ロクロナデ、回転糸切		44 - 9
504	44住ベルトW	土	杯AⅡ	(11.6)	6	3.1	口一部　底完	ロクロナデ、回転糸切		44 - 17
505	44住No.	土	杯AⅡ	11.6	6.1	3.4	口1/2　底2/3	ロクロナデ、回転糸切		44 - 10
506	44住ベルト	土	杯AⅡ	(11.4)	5.2	3.6	口1/8　底完	ロクロナデ、回転糸切		44 - 16
507	44住No.19	土	杯AⅡ	(12.2)	6	3.6	口1/3　底3/4	ロクロナデ、回転糸切		44 - 14
508	44住No.21	土	杯AⅡ	(12.4)	5.8	2.2	口1/6　底完	ロクロナデ、回転糸切		44 - 19
509	44住SE	土	杯AⅡ	(12.6)	(6)	2.9	口1/12　底完	ロクロナデ、回転糸切		44 - 7
510	44住No.21、No.23	土	杯AⅡ	(12.8)	(5.8)	3	口1/8　底完	ロクロナデ、回転糸切		44 - 11
511	44住ベルトW	土	杯AⅡ	(12.8)	(5.6)	3.3	口1/16　底1/2	ロクロナデ、回転糸切	墨書	44 - 8
512	44住ベルトSW	土	椀	(14.8)				ロクロナデ		44 - 28
513	44住No.5、土1	土	椀	14.1	7.5	4.75	口1/3　底面完　高台1/2	ロクロナデ、付高台、回転糸切		44 - 5
514	44住No.8、No.21	土	椀	(14.8)	(7.4)	4.7	口1/16　底完	ロクロナデ、付高台、回転糸切		44 - 6
515	44住ベルトSW	土	椀	(15.6)	(7.2)	4.6	口1/4　底1/4	ロクロナデ、付高台		44 - 20
516	44住No.9	土	椀		7.6		底完	ロクロナデ、付高台、回転糸切	外面に煤付着	44 - 24
517	44住No.6	土	椀		7.4		底完	ロクロナデ、付高台、回転糸切		44 - 23
518	44住NW	土	椀		6.7		底完	ロクロナデ、付高台、回転糸切後ナデ		44 - 25
519	44住No.11	土	椀		7.6		底完	ロクロナデ、付高台、回転糸切	内外面一部黒変	44 - 26
520	44住ベルトW	土	盤BⅠ？	(17.8)			口1/3	ロクロナデ		44 - 30
521	44住	土	盤A？				底面1/2　高台欠	ロクロナデ、付高台		44 - 35
522	44住No.4、P1	土	小型甕D	(15.6)			口1/8	口縁ヨコナデ、外面ロクロナデ、内面カキ目とナデ		44 - 33
523	44住Nベルト	土	甕		(14.8)			内外面板状工具ナデ		44 - 36

No.	出土地点・注記	種別	器形	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存度	調整	備考	実測No.
524	44住No.11、P1	土	小型甕D		(8.6)		底1/2	内外面ロクロナデ、外面下部ケズリ、底面回転糸切		44 - 32
525	44住No.18	土	盤A？	(28.8)				ロクロナデ		44 - 31
528	44住ベルト、SW	灰	椀	(17.8)			口1/8	ロクロナデ、回転ヘラケズリ		44 - 42
529	44住No.20、ベルト、NW	灰	椀	13.7	6.9	4.2	口7/8　底面完　高台一部欠	ロクロナデ、付高台、回転糸切のちナデ？		44 - 39
530	44住No.15	灰	椀	(15.8)	(7.8)	5.1	口1/3　底1/4	ロクロナデ、回転ヘラケズリ、付高台、回転糸切		44 - 38
531	44住SW	灰	椀		(7.2)		底1/3	ロクロナデ、付高台、回転糸切後ナデ		44 - 43
532	44住SW	灰	椀		(7.8)		底3/4	ロクロナデ、付高台、回転糸切？		44 - 40
533	44住No.7	灰	椀		(8.8)		底3/4	ロクロナデ、付高台、回転糸切		44 - 41
534	44住Nベルト	灰	広口瓶	(13.6)			口1/6	口縁ヨコナデ、ロクロナデ	口縁部	44 - 44
535	44住No.3	須	甕類		(12.4)			外面タタキ目、下部ケズリ、内面板状工具ナデ、底面ナデ		44 - 34
536	45住フ	黒A	椀				底面1/6	ロクロナデ、内面ミガキ後黒色処理		45 - 8
537	45住SE	土	杯または椀	(11.6)			口1/3	ロクロナデ		45 - 4
538	45住SE	土	杯A	(11)			口1/8	ロクロナデ		45 - 6
539	45住NE	土	椀	(10)			口1/12	ロクロナデ		45 - 7
540	45住NE	土	杯A		(5)		底一部	ロクロナデ、回転糸切		45 - 3
541	45住No.2	土	椀		(7.8)		底3/8	ロクロナデ、付高台、回転糸切		45 - 5
542	45住ベルト	灰	椀	(13.2)	(7)	3.6	口1/6　底1/2	ロクロナデ、付高台、回転糸切		45 - 9
543	45住No.4	土	小型甕D		(10)		底1/4	外面ナデ、内面ロクロナデ、底面ナデ		45 - 2
544	45住No.6	土	羽釜A	(21.8)			口1/6	口縁ヨコナデ、内外面板状工具ナデ、鍔部貼り付け後ナデ		45 - 1
545	49住No.3	土	杯AⅡ	(8.8)	(4.8)	1.5	口1/4　底1/2	ロクロナデ、回転糸切		49 - 3
546	49住No.2	土	杯AⅡ	(9.3)	(4.4)	1.7	口1/4　底1/4	ロクロナデ、回転糸切		49 - 2
547	49住フ	土	杯AⅡ	(9.55)	(5.8)	1.9	口1/3　底2/3	ロクロナデ、回転糸切		49 - 1
548	49住No.4、No.5、NWフ	土	杯AⅢ	(16)	(6.4)	4.1	口1/3　底1/2	ロクロナデ、回転糸切		49 - 5
549	49住No.5	土	盤BⅡ？		6.1		高台のみ完	ヨコナデ		49 - 4
550	49住No.1	灰	椀		(6.7)		底1/4	ロクロナデ、付高台、回転ヘラケズリ		49 - 6
551	47住フ	灰	段皿	(13)	(6.2)	2.4	口1/10	ロクロナデ、付高台	輪花	47 - 2
552	47住No.3	土	小型甕D	(13.8)	(8.6)	14.9	口2/3　底1/3	口縁ヨコナデ、ロクロナデ、底面ナデ		47 - 1
553	50住No.6	土	杯AⅡ	(10.2)	(6.4)	2.4	口1/6　底1/8	ロクロナデ、回転糸切		50 - 7
554	50住No.2	土	杯AⅡ	10.6	5.8	2.9	口1/4　底完	ロクロナデ、回転糸切		50 - 4
555	50住No.4	土	杯AⅡ	10.8	5.4	2.7	口完　底完	ロクロナデ、回転糸切		50 - 5
556	50住No.1	土	杯AⅡ	10.8	5.4	2.9	口完　底完	ロクロナデ、回転糸切	内外面に煤付着	50 - 3
557	50住No.5	土	盤BⅡ	10.2	5.4	3.1		ロクロナデ、付高台、回転糸切		50 - 6
558	50住No.8	土	椀	12	6.5	4.8	口1/4　底完	ロクロナデ、付高台、回転糸切	内面に煤付着、腰の張る体部	50 - 2
559	50住No.7	土	椀	12.4	7	5.4	口1/2　底完	ロクロナデ、付高台、回転糸切	内外面に煤付着	50 - 1
560	50住No.3	灰	椀	(15)			口1/4	ロクロナデ		50 - 8
561	51住検出面	土	？	(9.8)			口1/8	ロクロナデ、ヨコナデ	古代終わり、もしくは古墳時代土師器	51 - 11
562	51住No.6	土	杯AⅡ	9.4	5.8	2.2	口5/8　底完	ロクロナデ、回転糸切		51 - 5
563	51住P3	土	？	(9)	(8.2)	1.9	口1/8　底一部	ロクロナデ、回転糸切		51 - 10
564	51住フ	土	杯AⅡ	(10.8)	(5.4)	2.9	口1/4　底1/2	ロクロナデ、回転糸切		51 - 6
565	51住床	土	杯A		(4.4)		底1/4	ロクロナデ	底部中央に焼成前の穿孔あり	51 - 14
566	51住P　No.2	土	杯A		4.6		底4/5	ロクロナデ	底部中央に焼成前の穿孔あり	51 - 13
567	51住フ	土	椀		(7)		底面1/5　高台1/4	ロクロナデ、付高台、回転糸切		51 - 8
568	51住床	黒B	椀	(13.2)			口1/10	内外面ミガキ後黒色処理		51 - 9
569	51住フ	土	盤A？				底面1/6　高台欠	ロクロナデ		51 - 12
570	51住No.1	土	杯AⅢ	13.5	6	3.05	口1/2　底完	ロクロナデ、回転糸切		51 - 7
572	51住ベルト	灰	椀	(14.2)			口1/12	ロクロナデ		51 - 3
573	51住フ	灰	椀		(7)		底面3/4　高台1/2	ロクロナデ、付高台		51 - 4
574	51住フ	灰	広口瓶	(20)			口1/8	口縁ヨコナデ、ロクロナデ	口縁部、575と同一個体か？	51 - 1
575	51住フ、床	灰	広口瓶		(11.8)		底面1/2　高台1/2	ロクロナデ、回転ヘラケズリ、付高台	底部、574と同一個体か？	51 - 2
576	52住No.10	土	杯AⅡ	7.5	4.3	1.75	口完　底完	ロクロナデ、回転糸切		52 - 1
577	52住No.14	土	杯AⅡ	(8.2)	(4.4)	1.8	口1/5　底4/5	ロクロナデ、回転糸切のち繊維状の圧痕		52 - 2
578	52住No.12	土	杯AⅡ	8.4	5	1.3	口3/4　底1/2	ロクロナデ、回転糸切		52 - 8
579	52住NE	土	杯AⅡ	(8.6)	(5.6)	1.6	口1/4　底1/3	ロクロナデ、回転糸切		52 - 5
580	52住SE	土	杯AⅡ	(8.6)	(4.4)	1.8	口1/6　底1/2	ロクロナデ、回転糸切		52 - 14
581	52住No.9	土	杯AⅡ	8.7	5	1.6	口完　底完	ロクロナデ、回転糸切		52 - 3
582	52住No.SE	土	杯AⅡ	(9.6)	(5)	1.5	口一部　底1/4	ロクロナデ、回転糸切		52 - 4
583	52住NE	土	杯AⅡ	(8.5)	4.4	1.6	口1/5　底完	ロクロナデ、回転糸切		52 - 7
584	52住	土	杯AⅡ	(9.2)	(5.6)	1.6	口1/4　底1/3	ロクロナデ、回転糸切		52 - 6
585	52住No.35	土	杯AⅡ	9.15	4.8	1.9	口2/3　底完	ロクロナデ、回転糸切		52 - 9
586	52住No.37	土	小型甕D		(8.4)		底1/4	内外面ナデ、底面回転糸切		52 - 23
587	52住N	黒B	椀	(9.4)			口1/4	内外面ミガキ後黒色処理		52 - 12
588	52住No.23	黒B	椀または杯	(14.2)			口1/4	内外面ミガキ後黒色処理		52 - 13
589	52住No.47	土	盤BⅡ	(9.3)	(5.2)	3.2	口一部　高台1/3欠	ロクロナデ、回転糸切		52 - 10
590	52住No.13	土	椀		(4.6)		高台一部欠	ロクロナデ、付高台、回転糸切	小椀？	52 - 16
591	52住No.7	土	椀		(7.4)		底1/2	ロクロナデ、付高台、回転糸切		52 - 15
592	52住No.8	土	小型甕D		(7.2)		底完	ロクロナデ、回転糸切		52 - 17
593	52住No.15	土	杯AⅢ	(15.4)			口1/8　底1/4	ロクロナデ、回転糸切		52 - 18
594	52住No.13	土	盤BⅠ	(17)	(8.8)	5.2	底完	ロクロナデ、回転糸切		52 - 11
595	52住SE	土	ミニチュア		(3.8)		底1/6	内外面ナデ、底面ナデ	ミニチュア	52 - 19
596	52住NE	灰	椀		(7.8)		底1/4	ロクロナデ、付高台、回転糸切		52 - 20
597	52住No.11	灰	椀		(6.8)		底1/3	ロクロナデ、付高台、回転糸切		52 - 21
598	52住S	灰	椀		(6.6)		底1/3	ロクロナデ、付高台、回転糸切		52 - 22
600	52住No.22	灰	瓶類		(14.2)		底1/6	ロクロナデ、付高台、回転ヘラケズリ	底部	52 - 24
601	53住フ	黒A	椀	(9.6)	(4.4)	4.2	口1/10　底面完　高台1/3	ロクロナデ、付高台、回転糸切、内面ミガキ後黒色処理	直線的に立ち上がる。	53 - 3
602	53住フ	土	椀		(5.2)		底面完　高台1/2	ロクロナデ、付高台、回転糸切		53 - 2
603	53住フ	灰	段皿	(13.8)			口1/12	ロクロナデ、回転ヘラケズリ、付高台	体部がやや外反する。	53 - 1
604	54住フク土	土	杯AⅡ	(10)	(5.4)	1.6	口1/2　底1/4	ロクロナデ、回転糸切	ヘラ記号	54 - 5
605	54住SW	黒A	椀		(6.2)		底2/3	ロクロナデ、付高台、回転糸切後ナデ		54 - 8
606	54住NE	土	杯AⅡ	(9.2)	(4)	1.75	口1/6　底1/4	ロクロナデ、回転糸切		54 - 4
607	54住フク土	土	杯AⅡ	(9.8)	(4.4)	1.25	口1/4　底ほぼ完	ロクロナデ、回転糸切		54 - 2
608	54住NW	土	杯AⅡ	9.8	5	1.85	口2/3　底完	ロクロナデ、回転糸切		54 - 1
609	54住NW	土	杯AⅡ	(10.4)	(4.8)	1.65	口1/2　底1/4	ロクロナデ、回転糸切		54 - 3
610	54住NE	土	杯AⅡ	11.3	5.4	1.8	口1/12　底1/3	ロクロナデ、回転糸切		54 - 6
611	54住SW	土	杯または椀	(13.8)			口1/4	ロクロナデ		54 - 7
612	54住	土	？	(10.6)			口1/8	ロクロナデ		54 - 11
613	54住No.5	土	？					ミガキ状ナデ痕	64住の遺物、足釜の脚部？	54 - 12
614	54住SW	灰	椀	(13)			口1/4	ロクロナデ		54 - 9
616	54住No.3	灰	椀		(6.4)		底完	ロクロナデ、付高台、回転糸切		54 - 10
617	55住	黒A	杯または椀	(12)			口1/8	ロクロナデ、内面ミガキ後黒色処理		55 - 6
618	55住No.12	黒A	椀		(6.3)		底2/3	ロクロナデ、付高台、回転糸切		55 - 7
619	55住No.8、57住	土	杯A	11.4	5.2	3.05	口3/4　底完	ロクロナデ、回転糸切		55 - 1
620	55住No.10	土	椀	(9.6)	(5.2)	4	口1/4　高台1/3欠	ロクロナデ、付高台、回転糸切後ナデ	腰の張る体部	55 - 3
621	55住No.11	土	椀	13.4	6.2	5.5	口1/2　底完	ロクロナデ、付高台、回転糸切		55 - 2
622	55住No.6	土	椀		(7.6)		底完	ロクロナデ、付高台、回転糸切後ナデ		55 - 4

No.	出土地点・注記	種別	器形	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存度	調整	備考	実測No.
623	55住SE	土	盤A？		9.2		底1/6（高台）	端部面取り		55 - 9
624	55住SW	灰	皿	15.2	(6.8)	2.4	口1/8　底2/3	ロクロナデ、付高台、回転ヘラケズリ		55 - 5
625	55住	灰	椀	(16.4)			口1/8	ロクロナデ		55 - 8
626	56住No.2、フ	土	杯AⅡ	9.3	5.4	1.4	口7/8　底完	ロクロナデ、回転糸切		56 - 8
628	56住No.8	土	杯AⅡ	9.5	5	2.4	口7/8　底完	ロクロナデ、回転糸切		56 - 6
629	56住P8No.1	土	椀		4.8		底完	ロクロナデ、回転糸切後ナデ、付高台		56 - 10
630	56住SW	土	杯A		(5)		底1/4	ロクロナデ、回転糸切		56 - 12
631	56住No.4	土	杯AⅡ	8.7	4.5	1.65	口3/4　底完	ロクロナデ、回転糸切		56 - 7
632	56住NE	土	杯AⅡ	(10.4)	(6.2)	2.3	口1/4　底1/4	ロクロナデ、回転糸切		56 - 9
633	56住ベルトN	土	杯A		(5.2)		底1/4	ロクロナデ、回転糸切		56 - 5
634	56住	灰	椀	(14.6)			口1/8	ロクロナデ		56 - 3
635	56住No.9	灰	椀	(14.4)			口1/8	ロクロナデ		56 - 4
636	56住No.1	灰	椀		(7.4)		底1/4	ロクロナデ、回転ヘラケズリ、付高台、回転ヘラケズリ後ナデ	施釉されている。三角高台。内面に墨痕。平安？	56 - 1
637	56住ベルトS	灰	椀		(7.2)		底1/3	ロクロナデ、付高台、回転ヘラケズリ	平安	56 - 2
638	57住No.20、ベルトS	黒A	杯A	(14)	(5.2)	3.5	口1/8　底完	ロクロナデ、回転糸切、内面黒色処理、ミガキなし	8期頃のもの？混入。	57 - 8
639	57住No.1	黒A	杯A	(15.6)	(6)	4.4	口1/8　底一部欠	ロクロナデ、回転糸切、内面黒色処理、ミガキなし	8期頃のもの？混入。	57 - 4
640	57住No.39、NE	黒A	椀	(13.2)	(6.8)	6.1	口1/4　底完	ロクロナデ、付高台、回転糸切後ナデ、内面ミガキ後黒色処理		57 - 2
641	57住No.2、No.3	黒A	椀	(15.6)	(7.8)	6.1	口一部　底面完　高台一部欠	ロクロナデ、付高台、回転糸切、内面ミガキ後黒色処理		57 - 1
642	57住No.29	黒A	椀		(7.8)		底面完　高台一部欠	ロクロナデ、付高台、回転糸切、内面ミガキ後黒色処理		57 - 5
643	57住No.32	黒A	椀		6.6		底完	ロクロナデ、付高台、回転ヘラケズリ、内面ミガキ後黒色処理		57 - 3
644	57住No.24	黒A	椀		(6.6)		底面完　高台一部欠	付高台、内面ミガキ後黒色処理、回転ヘラケズリ		57 - 7
645	57住NE	土	皿AⅠ	(18.4)			口1/8	ロクロナデ、端部面取り、内面黒色処理	内面黒色処理。黒色土器A？	57 - 6
646	57住No.9	土	杯AⅢ	(13.6)	(5.2)	3.9	口1/3　底完	ロクロナデ、回転糸切		57 - 13
647	57住No.18	土	杯AⅢ	(13.2)	(4.8)	4.3	口1/4　底完	ロクロナデ、回転糸切		57 - 10
648	57住No.14	土	杯AⅢ	(13.6)	(6)	4.4	口1/6　底3/4	ロクロナデ、回転糸切		57 - 9
649	57住SW	土	杯AⅢ	(16)	(5.2)	3.5	口一部　底1/5	ロクロナデ、回転糸切		57 - 11
650	57住検、58住	土	椀	(14.4)			口1/6　底面完　高台剥離	ロクロナデ、付高台、回転糸切後ナデ		57 - 12
651	57住No.19	土	杯AⅡ	9.3	4.6	1.75	口7/8　底完	ロクロナデ、回転糸切後外周手持ちヘラケズリ	内面にタール状の付着物	57 - 19
652	57住No.34、ベS	土	杯AⅡ	9.8	4.1	1.75	口完　底完	ロクロナデ、回転糸切、底部にハケ状の圧痕		57 - 21
653	57住No.36	土	杯AⅡ	9.8	4.8	2.25	口2/3　底完	ロクロナデ、回転糸切		57 - 17
654	57住No.40	土	杯AⅡ	(10.2)	(4.6)	1.9	口3/8　底2/3	ロクロナデ、回転糸切		57 - 15
655	57住SE	土	杯AⅡ	(10)	(4.6)	1.7	口1/12　底1/2	ロクロナデ、回転糸切		57 - 24
656	57住SW	土	杯AⅡ	(10.6)	4	1.9	口1/8　底1/2	ロクロナデ、回転糸切		57 - 23
657	57住No.33、SE	土	杯AⅡ	9.7	5.1	1.7	口7/8　底完	ロクロナデ、回転糸切		57 - 20
658	57住フ	土	杯AⅡ	9.8	4.4	2.4	口3/8　底一部欠	ロクロナデ、回転糸切後繊維圧痕		57 - 14
659	57住NE	土	杯AⅡ	(9.6)	(3.6)	2.2	口1/6　底一部欠	ロクロナデ、回転糸切		57 - 16
660	57住SE	土	杯AⅡ	(10.6)	(4.2)	2.1	口1/8　底完	ロクロナデ、回転糸切		57 - 22
661	57住NW	土	杯AⅡ	10.7	4	2.75	口3/8　底完	ロクロナデ、回転糸切		57 - 18
663	57住NW	灰	段皿	(11.6)			口1/6	ロクロナデ		57 - 30
664	57住No.30	灰	椀				底面1/3　高台欠	ロクロナデ、付高台、回転糸切		57 - 26
665	57住No.6	灰	椀	(12.8)			口1/10	ロクロナデ		57 - 27
666	57住SW	灰	椀	(15.2)			口1/10	ロクロナデ		57 - 28
667	57住No.8、No.26	灰	椀	(15.6)	(7.4)	5.8	口1/6　底面完　高台3/4	ロクロナデ、付高台、回転ヘラケズリ後ナデ		57 - 25
668	57住SE	灰	広口瓶	(14)			口1/5	口縁ヨコナデ、ロクロナデ	口縁部	57 - 29
669	62住NE	土	杯AⅡ	(8.2)	(5)	1.7	口一部　底1/3	ロクロナデ、回転糸切		62 - 4
670	62住SW	土	杯AⅡ	(10)	(5)	2.2	口1/3　底2/3	ロクロナデ、回転糸切		62 - 2
671	62住NE	土	杯AⅡ	(9.6)	(5)	2.2	口1/8　底1/4	ロクロナデ、回転糸切		62 - 3
672	62住NE	黒A	椀		(6.6)		底一部	ロクロナデ、付高台、内面ミガキ後黒色処理		62 - 6
673	62住フ	黒A	椀		(6.6)		底1/5	付高台、回転糸切、内面ミガキ後黒色処理		62 - 5
674	62住SEフ	土	杯AⅢ	(12.6)	(6.4)	3.5	口1/12　底一部	ロクロナデ、回転糸切		62 - 7
675	62住SEフ	土	盤A？	(20)			口一部	ロクロナデ	内面に多量の炭化物付着	62 - 8
676	62住SW、SEフ	灰	椀		(8.4)		底面1/3　高台1/4	ロクロナデ、回転ヘラケズリ、付高台		62 - 1
677	63住P22No.2	黒A	杯または椀	(14.2)			口1/6	ロクロナデ、内面ミガキ後黒色処理		63 - 7
680	63住No.7	土	杯A		(6.2)		底1/2	ロクロナデ、回転糸切		63 - 5
681	63住No.6	土	椀		(5.8)		底面完　高台1/2	ロクロナデ、付高台、回転糸切後ナデ	60住の遺物か？	63 - 6
683	63住No.1	土	甕？		(5)		底完	ナデ		63 - 8
684	63住SE	灰	椀		(6.6)		底1/6	ロクロナデ、付高台、回転ヘラケズリ		63 - 1
685	60住No.30	黒A	椀		6.4		底完	付高台、回転ヘラケズリ、内面ミガキ後黒色処理		60 - 18
686	60住No.6	黒A	椀		7		底完	付高台、回転ヘラケズリ、内面黒色処理後ミガキ		60 - 19
689	60住No.7	土	杯AⅢ	(15.2)	(6.2)	4	口1/12　底1/6	ロクロナデ、回転糸切		60 - 10
690	60住No.1	土	杯AⅡ	9.8	5.2	1.45	口完　底完	ロクロナデ、回転糸切		60 - 6
691	60住No.35	土	杯AⅡ	9.8	4	1.8	口3/4　底完	ロクロナデ、回転糸切		60 - 5
692	60住No.21	土	杯AⅡ	(9.8)	(4.8)	1.7	口1/3　底2/3	ロクロナデ、回転糸切		60 - 7
693	60住No.10	土	杯AⅡ	9.4	4.2	1.95	口一部欠　底完	ロクロナデ、回転糸切		60 - 4
694	60住No.23	土	杯AⅡ	9.8	5.2	2.2	口1/4　底完	ロクロナデ、回転糸切		60 - 9
695	60住NE	土	杯AⅡ	9.8	5	2.1	口1/2　底完	ロクロナデ、回転糸切		60 - 8
696	60住No.20	土	椀	10.2	5	3.5	口3/4　底面完　高台1/2	ロクロナデ、付高台	直線的に立ち上がる体部	60 - 12
700	60住No.37	土	杯A		6		底一部欠	ロクロナデ、回転糸切		60 - 11
701	60住No.34	灰	椀	(14.4)			口1/12	ロクロナデ、付高台		60 - 3
702	60住NW、No.5、ベルト	灰	椀	(14.4)			口1/3	ロクロナデ		60 - 2
703	60住No.29、No.2	灰	椀	14.6	7.3	6.2	口2/3　底一部欠	ロクロナデ、付高台、回転ヘラケズリ		60 - 1
704	60住No.7	土	小型甕D	(22.4)			口1/5	口縁ヨコナデ、ロクロナデ		60 - 21
705	60住No.7、NE、NW	土	小型甕D	(21.2)			口1/6	口縁ヨコナデ、ロクロナデ		60 - 20
706	60住No.31	土	羽釜A	(20.8)			口一部	口縁ヨコナデ後上面面取り、内外面ナデ		60 - 22
707	65住	土	杯AⅡ	(8.6)	(3.8)	1.2	口1/8　底一部	ロクロナデ、回転糸切		65 - 1
708	61住No.7、No.4	黒A	椀	14.7	7.5	4.15	口1/2　底完	ロクロナデ、付高台、回転糸切、内面ミガキ後黒色処理		61 - 17
709	61住No.22	黒A	椀		(7)		底2/3	ロクロナデ、付高台、回転糸切後ナデ		61 - 14
710	61住No.12	黒A	椀		(7.2)		底完	ロクロナデ、付高台、回転糸切後ナデ		61 - 15
711	61住No.14	土	杯AⅡ	11.3	6.15	3	口3/4　底完	ロクロナデ、回転糸切		61 - 2
712	61住No.10	土	杯AⅡ	(11)	(5)	3.7	口1/6　底1/5	ロクロナデ、回転糸切		61 - 5
713	61住No.2	土	杯AⅡ	12.05	5.9	3.15	口一部欠　底完	ロクロナデ、回転糸切		61 - 3
714	61住No.5	土	杯AⅡ	12.1	5.4	3.1	口1/2　底完	ロクロナデ、回転糸切		61 - 1
715	61住SW	土	？	(12.1)			口1/6	体部強くケズリ後ナデ、一部ミガキか？		61 - 4
716	61住SW	土	杯AⅡ	(12.8)	(4.8)	4.5	口1/5　底1/4	ロクロナデ、回転糸切		61 - 6
717	61住No.23	土	杯AⅡ	(14.45)	(6)	4	口2/5　底2/5	ロクロナデ、回転糸切		61 - 7
718	61住ベルトW、No.13	土	杯または椀	(15.1)			口1/5	ロクロナデ		61 - 11
719	61住No.14	土	椀	(13.9)	(7.3)	4.45	口1/8　底1/2	ロクロナデ、付高台、回転糸切後ナデ		61 - 8
720	61住No.3	土	椀	(14.45)	(6)	4.7	口1/8　底1/6	ロクロナデ、付高台、回転糸切後ナデ		61 - 10
721	61住No.21、NW	土	椀	(14.2)	(7.6)	5	口1/8　底ほぼ完	ロクロナデ、回転ヘラケズリ		61 - 9

No.	出土地点・注記	種別	器形	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存度	調整	備考	実測No.
722	61住No.1	土	椀	16.5			口一部欠　底面完　高台欠	ロクロナデ、回転糸切		61 - 16
723	61住No.11	土	椀		(6.7)		底一部欠	ロクロナデ、付高台、回転糸切後ナデ		61 - 12
724	61住SW	土	椀		(7.65)		底2/3	ロクロナデ、付高台、回転糸切後ナデ	底部外面に煤付着	61 - 13
725	67住No.27	黒A	杯または椀	(13.4)	(6.95)	5.4	口2/5　底完	ロクロナデ、付高台、回転糸切、内面ミガキ後黒色処理		67 - 14
726	67住No.6	黒A	杯または椀	(13.6)			口1/6	ロクロナデ、内面ミガキ後黒色処理		67 - 13
727	67住検	土	盤BⅠ	(14)			口1/4	ロクロナデ	内面に多量の炭化物付着	67 - 12
728	67住ベルト	黒A	椀		(7)		底1/4	ロクロナデ、付高台、回転糸切、内面ミガキ後黒色処理		67 - 9
729	67住No.17	土	杯AⅢ	12.95	6.5	3.95	口2/3　底完	ロクロナデ、回転糸切		67 - 4
730	67住No.29	土	杯AⅢ	13.4	8.1	3.95	口完　底完	ロクロナデ、回転糸切		67 - 5
731	67住フ	土	杯AⅡ	(9.1)	(4.6)	1.6	口2/3　底1/2	ロクロナデ、回転糸切		67 - 1
732	67住No.18	土	杯AⅡ	10	3.8	2.4	口完　底完	ロクロナデ、回転糸切		67 - 2
733	67住No.23	土	杯AⅡ	11.05	4.4	2.65	口一部欠　底完	ロクロナデ、回転糸切		67 - 3
734	67住No.20	土	盤BⅠ		(7.35)		底2/3	ロクロナデ、付高台、回転糸切後ナデ		67 - 6
735	67住No.2	土	盤BⅠ	(13.2)	(8.7)	5.25	口1/8　底一部欠	ロクロナデ、付高台、回転糸切		67 - 8
736	67住No.41、No.30、55住	土	盤BⅠ	(14.2)	(7.8)	5	口1/3　底1/8	ロクロナデ、付高台、回転糸切		67 - 7
737	67住No.24、No.33、No.19、Sベルト、55住SW	土	盤A？	(21.05)			口1/2　底面2/3　高台欠	ロクロナデ、回転糸切後ナデ		67 - 10
738	67住N	灰	皿	(10.5)	(5.8)	2.15	口1/6　底1/2	ロクロナデ、付高台、回転ヘラケズリ		67 - 15
739	67住No.5	灰	段皿	11.7	6.2	2.6	口完　底完	ロクロナデ、付高台、回転糸切		67 - 18
740	67住SE、53住	灰	段皿	(11.85)	(6.4)	2.6	口1/4　底1/2	ロクロナデ、付高台、回転糸切		67 - 17
741	67住No.40	灰	段皿	12.7	6.75	2.65	口7/8　底完	ロクロナデ、付高台、回転糸切		67 - 19
742	67住No.26	灰	段皿	11.5	6.5	2.25	口一部欠　底完	ロクロナデ、付高台、回転糸切		67 - 16
743	67住N	灰	椀		(7.4)		底1/2	ロクロナデ、付高台、回転ヘラケズリ		67 - 21
744	67住S	灰	椀		(6.5)		底面1/2　高台1/6	ロクロナデ、付高台、回転ヘラケズリ	内面全面施釉	67 - 22
745	67住SW	灰	椀		(7.8)		底1/4	ロクロナデ、付高台、回転ヘラケズリ		67 - 20
746	67住No.13	灰	椀	(16.85)			口1/5	ロクロナデ、回転ヘラケズリ		67 - 23
747	67住SW、ベルト	土	小型甕D		(7.8)		口1/6	ロクロナデ		67 - 11
748	67住SE、NE	土	羽釜？		(10.55)		底1/2	ナデ	底部内面に炭化物付着	67 - 24
749	67住	土	羽釜A	21.6			口1/10	口縁ヨコナデ、内外面ナデ、鍔部貼り付け後ヨコナデ		67 - 25
750	67住Nベルト、55住SW	土	？		10		底面1/3	ナデ、脚部貼り付け後ナデ	脚部3単位？	67 - 26
751	68住	土	杯AⅡ	(11)	(4.6)	3.5	口1/6　底1/4	ロクロナデ、回転糸切		68 - 1
752	69住No.1	黒A	杯A		5		底完	ロクロナデ、回転糸切、内面ミガキ後黒色処理	混入	69 - 2
753	69住No.5	土	杯A		(6.2)		底1/3	ロクロナデ、回転糸切		69 - 1
754	69住No.3	土	甕		(5.4)		底1/2	ナデ		69 - 3
755	69住No.2	土	鉢A	(18)	(6.2)	5.6	口1/2　底完	ロクロナデ、回転糸切		69 - 5
756	69住No.17、No.24、No.28	土	椀	(15.8)			口1/2　底面一部	ロクロナデ、回転糸切		69 - 4
757	69住No.14、No.18	土	椀	14.9	8	6	口1/4　底1/5	ロクロナデ、付高台、回転糸切		69 - 6
758	69住No.4	土	羽釜B	(22.4)			口一部	口縁ヨコナデ後上面面取り、外面板状工具ナデ、内面板状工具ナデ、鍔部欠損痕	内面下半に炭化物付着、鍔部2単位？	69 - 7
759	73住No.8	黒A	椀	13.8			口5/8　底面完　高台欠	ロクロナデ、付高台、回転糸切、内面ミガキ後黒色処理		73 - 6
760	73住No.10、No.13	黒A	椀	(16.4)			口1/8	ロクロナデ、内面ミガキ後黒色処理		73 - 8
761	73住No.17	黒A	椀		(7.2)		底面完　高台2/3	ロクロナデ、付高台、回転糸切、内面ミガキ後黒色処理		73 - 7
762	73住No.22	土	杯または椀	(11.8)			口1/6	ロクロナデ		73 - 15
763	73住No.16	土	杯AⅡ	(12)	(5.8)	3.2	口1/4　底完	ロクロナデ、回転糸切後ナデ		73 - 9
764	73住No.27	土	杯AⅡ	11.7	5.6	2.95	口3/4　底完	ロクロナデ、回転糸切後ナデ	内面タール状の付着物	73 - 10
765	73住NW	土	杯A		(5)		底1/2	ロクロナデ、回転糸切		73 - 14
766	73住No.14	土	杯A		(6)		底1/4	ロクロナデ、回転糸切		73 - 13
767	73住No.32	土	椀		6.2		底完	ロクロナデ、付高台、回転糸切		73 - 11
768	73住No.22	土	椀		7.3		底面完　高台3/4	ロクロナデ、付高台、回転糸切		73 - 12
769	73住No.26	土	盤BⅠ？	17.8			口3/4　底面4/5　高台欠	ロクロナデ、付高台、回転糸切	内面タール状の付着物	73 - 5
770	73住No.3	灰	椀	11.6	6.8	2.5	口1/4　底完	ロクロナデ、付高台、回転糸切		73 - 18
771	73住No.1	灰	皿	12.3	6.2	2.1	口一部欠　底完	ロクロナデ、付高台、回転糸切		73 - 17
772	73住No.33	灰	皿		(6.8)		底1/3	ロクロナデ、付高台、回転糸切		73 - 19
773	73住フ	灰	皿		(6.4)		底1/3	ロクロナデ、付高台、回転ヘラケズリ		73 - 22
774	73住No.20	灰	椀		(7.6)		底1/6	ロクロナデ、付高台、回転糸切		73 - 21
775	73住No.フ	灰	椀		(7.6)		高台1/4	ロクロナデ、付高台、回転ヘラケズリ		73 - 20
776	73住No.15	土	小型甕D	(11.4)	(6.8)	9.6	口一部　底完	口縁ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切		73 - 4
777	73住No.7、No.9、No.19、No.25	土	小型甕D	13.7	8.6	15.8	口3/4　底完	口縁ヨコナデ、ロクロナデ、回転糸切		73 - 3
778	73住NW	土	羽釜A	(22.6)			口1/8	口縁ヨコナデ、外面板状工具ナデ、内面板状工具ナデ	鍔部剥離	73 - 16
779	73住No.20、No.21、No.22、75住No.2	土	羽釜A	(20.8)			口1/4	口縁ヨコナデ、外面ハケ目、内面ナデ磨滅、鍔部貼り付け後ナデ		73 - 2
780	73住No.6、No.18	土	小型甕D？	(21.8)			口1/2	口縁ヨコナデ、外面ハケ目後ロクロナデ、外面下半ケズリ、内面ナデ		73 - 1
781	75住No.1	土	椀		(6.8)		底完	ロクロナデ、付高台、回転糸切後ナデ		75 - 1
782	75住	土	椀		(7.4)		底1/2	ロクロナデ、付高台、回転糸切後ナデ		75 - 2
783	77住	土	杯AⅡ	(10.2)			口1/12	ロクロナデ		77 - 1
784	78住	土	杯AⅡ	(9.6)	(5.2)	1.3		ロクロナデ、回転糸切		78 - 3
785	78住	土	杯AⅡ	9.4	5.5	1.5	口1/4底完	ロクロナデ、回転糸切		78-4
786	78住	土	椀		(7.4)			ロクロナデ、付高台		78 - 2
787	78住	灰	椀		(7.4)			ロクロナデ、付高台、回転ヘラケズリ		78 - 1
788	76住No.22	黒A	杯または椀	(13.2)			口1/4	ロクロナデ、内面ミガキ後黒色処理		76 - 7
789	76住No.7	黒A	椀	(14.1)	(7)	4.75	口1/2　底完	ロクロナデ、付高台、回転糸切、内面ミガキ後黒色処理		76 - 6
790	76住No.12	土	椀	11.2	5.8	3.9	口一部欠　高台一部欠	ロクロナデ、付高台	直線的に立ち上がる体部	76 - 5
791	76住No.3	土	杯AⅡ	(9.4)	(4.4)	1.8	口1/4　底完	ロクロナデ、回転糸切		76 - 4
792	76住カマド	土	杯AⅡ	9.45	3.8	1.8	口一部欠　底完	ロクロナデ、回転糸切		76 - 3
794	76住No.4	土	椀		(6.6)		底3/4	ロクロナデ、付高台、回転糸切		76 - 9
795	76住NW	灰	椀		(7.2)		底1/8	ロクロナデ、付高台、回転ヘラケズリ後ナデ		76 - 2
796	76住No.5	灰	椀		(7.4)		高台一部欠	ロクロナデ、付高台、回転ヘラケズリ後ナデ		76 - 1
797	84住	土	？	(8.2)						84 - 2
798	84住	土	皿AⅡ	(9.2)				ロクロナデ、端部面取り		84 - 1
800	79住No.48	黒B	椀	9.3	4.8	3.45		ロクロナデ、付高台、回転糸切後ナデ、内面ミガキ後黒色処理、外面一部にミガキ	直線的に立ち上がる体部	79 - 16
801	79住No.33	黒A	椀					ロクロナデ、回転糸切、内面ミガキ後黒色処理		79 - 20
802	79住No.50	黒B	椀	9.35	5	3.6		ロクロナデ、付高台、回転糸切後ナデ、内面ミガキ後黒色処理、外面一部にミガキ	直線的に立ち上がる体部	79 - 17
803	79住No.14	黒B	椀	13.65	7	5.7		付高台、回転糸切後ナデ、内面ミガキ後黒色処理、外面ミガキ		79 - 19
804	79住No.21	土	杯AⅢ	(14.2)	(6.8)	4		ロクロナデ、回転糸切		79 - 18
805	79住No.17、No.58、No.60	土	小型甕E	(11.2)				口縁ヨコナデ、外面ナデ、内面ハケ目		79 - 31
807	79住No.71	土	羽釜A	(20.4)				内外面ナデ、鍔部貼り付け後ヨコナデ		79 - 32

No.	出土地点・注記	種別	器形	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存度	調整	備考	実測No.
808	79住フク土	土	杯AⅡ	(8.8)	(4.8)	1.5		ロクロナデ、回転糸切		79 - 13
809	79住No.13	土	杯AⅡ	8.4	4.5	1.7		ロクロナデ、回転糸切		79 - 1
810	79住No.2	土	杯AⅡ	(9)	(3.8)	2		ロクロナデ、回転糸切		79 - 14
811	79住No.43	土	杯AⅡ	9.4	4.6	2.3		ロクロナデ、回転糸切	80住の遺物	79 - 4
812	79住フク土NW	土	杯AⅡ	(9.5)	(4.1)	2.5		ロクロナデ、回転糸切		79 - 8
813	79住No.17	土	杯AⅡ	8.8	4.5	1.3		ロクロナデ、回転糸切		79 - 11
814	79住No.52	土	杯AⅡ	8.8	4.5	1.7		ロクロナデ、回転糸切		79 - 6
815	79住No.51	土	杯AⅡ	9.15	5.2	1.8		ロクロナデ、回転糸切		79 - 12
816	79住SE	土	杯AⅡ	(9.5)	(4.4)	2.2		ロクロナデ、回転糸切		79 - 7
817	79住No.34	土	杯AⅡ	(9.4)	(4.6)	2.5		ロクロナデ、回転糸切後繊維状圧痕		79 - 9
818	79住Nベルト	土	杯AⅡ	8.45	4.8	1.5		ロクロナデ、回転糸切		79 - 3
819	79住フク土	土	杯AⅡ	(8.6)	(5.2)	1.8		ロクロナデ、回転糸切		79 - 2
820	79住No.28	土	杯AⅡ	9.5	4.8	2.15		ロクロナデ、回転糸切		79 - 5
821	79住フク土	土	杯AⅡ	(9.8)	(4.4)	2.2		ロクロナデ、回転糸切		79 - 10
822	79住No.34	土	杯AⅡ	9.95	5.6	2.1		ロクロナデ、回転糸切		79 - 15
823	79住No.7	土	盤BⅠ		5.7			ロクロナデ、付高台、回転糸切後ナデ		79 - 27
824	79住No.1	土	盤BⅠ		(6.2)			ロクロナデ、付高台、回転糸切後ナデ		79 - 28
825	79住ベルト	土	盤BⅠ		(6.2)			ロクロナデ、付高台、回転糸切後ナデ		79 - 29
826	79住、80住SEフク土	土	盤BⅠ		(6.4)			ロクロナデ、付高台、回転糸切		79 - 26
827	79住No.44	土	盤BⅠ		(7.0)			ロクロナデ、付高台、回転糸切		79 - 24
828	79住No.23	土	盤BⅠ		(7.4)			ロクロナデ、付高台、回転糸切	80住の遺物	79 - 25
829	79住No.29	土	盤BⅠ		(8.4)			ロクロナデ、付高台、回転糸切		79 - 23
830	79住	灰	段皿	(13.2)				ロクロナデ		79 - 21
832	79住No.12	灰	椀	15.8	7.5	6.8		ロクロナデ、回転糸切		79 - 22
833	80住No.10、NWフ、79住フ	黒A	椀	(14)	(6.8)	6.1		ロクロナデ、付高台、回転糸切後ナデ		80 - 21
834	80住No.5、No.24	黒B	椀	(16.4)				内外面ミガキ後黒色処理		80 - 18
835	80住カマド、No.1	黒A	椀		(6.6)			ロクロナデ、付高台、回転糸切、内面ミガキ後黒色処理		80 - 23
836	80住No.25	黒A	椀	(14)	(7.6)	5.5		ロクロナデ、付高台、回転糸切、内面ミガキ後黒色処理		80 - 14
837	80住No.6	土	椀	(13.3)	(6.8)	5.6		ロクロナデ、付高台、内面底部指頭圧痕		80 - 15
838	80住No.12	土	鉢A？	(19.8)				ロクロナデ		80 - 17
839	80住No.6	土	盤BⅠ？	(17.8)				ロクロナデ		80 - 20
840	80住No.1P7	土	杯AⅢ	(13.6)	(5.8)	4		ロクロナデ、回転糸切		80 - 11
841	80住No.1、No.9、SE	土	杯AⅢ	12.8	5.4	4.05		ロクロナデ、回転糸切		80 - 12
842	80住No.7カマド	土	杯AⅢ	(14.2)	(6.4)	4.2		ロクロナデ、回転糸切	墨書	80 - 13
843	80住No.4	土	盤BⅡ	(9)	(6.2)	3.4		ロクロナデ、付高台	79住の遺物	80 - 10
844	80住No.9カマド	土	盤BⅠ？		(7.2)			ロクロナデ、付高台、回転ヘラケズリ		80 - 19
845	80住No.2、カマド	土	盤BⅠ		(8)			ロクロナデ、付高台、回転糸切		80 - 22
846	80住No.2	土	杯AⅡ	(11.2)	(5.2)	3		ロクロナデ、回転糸切		80 - 9
847	80住No.6カマド	土	杯AⅢ	(13.2)	(5.6)	3.7		ロクロナデ、回転糸切		80 - 16
848	80住SW	土	杯AⅡ	(9.2)	(4.4)	2.5		ロクロナデ、回転糸切		80 - 5
849	80住No.19	土	杯AⅡ	(9.8)	(5.2)	2.3		ロクロナデ、回転糸切		80 - 1
850	80住No.17	土	杯AⅡ	9.1	4.8	2.4		ロクロナデ、回転糸切		80 - 2
851	80住No.7	土	杯AⅡ	9.5	5	2.5		ロクロナデ、回転糸切		80 - 7
852	80住No.11	土	杯AⅡ	9.6	5.2	2.45		ロクロナデ、回転糸切		80 - 8
853	80住No.18	土	杯AⅡ	9.4	4.3	2.45		ロクロナデ、回転糸切		80 - 6
854	80住No.カマドNo.3	土	杯AⅡ	10	5.2	2.45		ロクロナデ、回転糸切		80 - 4
855	80住No.21	土	杯AⅡ	10.4	5.2	2.3		ロクロナデ、回転糸切		80 - 3
856	80住カマドNo.10	土	甕		(10.2)			ナデ		80 - 24
857	80住NW	灰	段皿	(12.8)	(6.4)	2.9		ロクロナデ、付高台、回転糸切	輪花（単位不明）	80 - 25
858	80住No.22	灰	段皿		(6.2)			ロクロナデ、回転ヘラケズリ、付高台		80 - 26
859	80住No.22付近	灰	椀		(7.4)			ロクロナデ、付高台、回転糸切		80 - 27
860	竪1No.1	陶器	椀？				底面1/8	外面回転ヘラケズリ？付高台。	山茶碗？胎土が粗い。	竪1 - 1
861	竪2NWフク土	灰	瓶類		(6.6)		底1/6	回転ヘラケズリ、付高台、ロクロナデ	底部	竪2 - 1
862	竪3No.1	土	杯AⅡ	12.3	6.1	3.35		ロクロナデ、回転糸切		竪3 - 3
863	竪3	土	杯AⅡ	(13.2)	(7)	3.2		ロクロナデ、回転糸切		竪3 - 4
864	竪3	土	椀	(14.4)				ロクロナデ		竪3 - 5
865	竪3No.2	土	椀	14.2	7.2	4.6		ロクロナデ、付高台、回転糸切後ナデ		竪3 - 2
866	竪3	灰	皿	(12.8)	(8)	2.2		ロクロナデ、付高台、回転ヘラケズリ	内面に墨付着。転用硯？	竪3 - 1
867	土57	土	甕	(13)			口1/3	口縁ヨコナデ		土57 - 1
869	土52フク土	土	椀		(7.4)		高台1/3欠	ロクロナデ、付高台、回転糸切		土52 - 1
870	土88SE	土	椀		(5.8)			ロクロナデ、付高台、回転糸切		土88-2
871	土88No.3、土88SE	灰	椀		(6.2)			ロクロナデ、付高台、回転糸切		土88-1
872	土81	土	杯AⅡ	(10.6)	(4.8)	1.9		ロクロナデ、回転糸切		土81 - 2
873	土81	土	鉢A	(22.4)	(10)	10.1		ロクロナデ、回転糸切		土81 - 1
874	土72No.1	灰	瓶類					外面ロクロナデ、外面下半回転ヘラケズリ、ロクロナデ	胴部	土72 - 1
877	土78	灰	皿		7.6			ロクロナデ、付高台、回転糸切		土78－1
878	P175	黒A	椀	(14.8)			口一部	ロクロナデ、内面ミガキ後黒色処理		P175 - 1
879	P175	黒A	椀	(15.4)			口一部	ロクロナデ、内面ミガキ後黒色処理		P175 - 2
880	P175	土	杯AⅡ	(12.4)	(5.4)	3	口1/4　底完	ロクロナデ、回転糸切	遺構不明	P175 - 1
881	P252No.1、No.2、P254No.1	須	壺類	(11.8)				口縁ヨコナデ、内外面ロクロナデ		P252 - 1
902	溝11	土	杯または椀	(11)				ロクロナデ		溝11 - 1
903	溝11No.1	土	杯A	(13.6)	(5.6)	3.1		ロクロナデ、回転糸切	口縁部にタール状の付着物	溝11 - 2
904	溝11No.2	土	小型甕D		(9.6)			ロクロナデ、底面ナデ		溝11 - 3
905	溝12No.8	土	杯AⅡ	8.8	4.8	1.85		ロクロナデ、回転糸切		溝12 - 1
906	溝12No.9	土	盤BⅡ	(8.6)	(5.6)	2.6		ロクロナデ、付高台、回転糸切		溝12 - 3
907	溝12No.11	土	椀	10.5	(4.7)	3.5		ロクロナデ、付高台、回転糸切後ナデ	直線的に立ち上がる体部。52住ピット内出土の可能性あり	溝12 - 2
908	溝12No.8、EW0	土	杯または椀	(15.6)				ロクロナデ		溝12 - 5
909	溝12No.2	灰	椀		(6.8)			ロクロナデ、付高台、回転糸切		溝12 - 4
910	溝12No.6	灰	椀		(8.2)			ロクロナデ、付高台、回転ヘラケズリ	転用硯？	溝12 - 6
911	溝12No.16	灰	椀		(8)			ロクロナデ、付高台、回転糸切		溝12 - 7
912	溝12フク土	灰	瓶類					内外面ロクロナデ	胴部～底部	溝12 - 8
913	流路3N42W36	土	甕	(10.6)				口縁ヨコナデ、内面ナデ		流路3 - 4
914	流路3N42W36	土	小型甕D	(12.6)				口縁ヨコナデ、内外面ロクロナデ		流路3 - 6
915	流路3N42W36	土	甕	(13.6)				口縁ヨコナデ		流路3 - 5
916	流路3N42W36	土	壺	(24.2)				口縁ヨコナデ、内外面ロクロナデ		流路3 - 2
917	流路3N42W36	土	壺					外面ナデ、内面板状工具ナデ		流路3 - 3
918	流路3ケンN30W36	須	甕		(10.4)			ロクロナデ、底面ナデ		流路3 - 1
919	石列TA	黒A	椀		(7.2)			ロクロナデ、付高台、回転糸切、内面ミガキ後黒色処理		石列-6
920	石列3TA	灰	椀	(12)				ロクロナデ		石列-4
921	石列1No.2	灰	椀					ロクロナデ、付高台、回転糸切		石列-2
922	石列3TA	灰	皿	(12.6)	(7.4)	2.4		ロクロナデ、付高台、回転ヘラケズリ		石列-3
923	石列TA	灰	皿	(13.8)	(7.2)	2.4		ロクロナデ、付高台、回転糸切	輪花（単位不明）	石列-5
925	石列1No.1	須	甕D					凸帯、耳部貼り付け後ナデ		石列-1
927	グリット	土	杯AⅡ	(9.2)	(5.2)	1.25		ロクロナデ、回転糸切		G - 7
928	グリット	土	杯AⅡ	(11.6)	(5.6)	2.8		ロクロナデ、回転糸切		G - 8

No.	出土地点・注記	種別	器形	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存度	調整	備考	実測No.
929	グリット	灰	段皿	(10.8)	(6.4)	3		ロクロナデ、付高台		G - 6
930	グリット	灰	椀	(12.4)	(6.2)	2.7		ロクロナデ、付高台、回転ヘラケズリ		G - 3
931	グリット	灰	椀	(15.2)	(7.4)	4.6		ロクロナデ、回転ヘラケズリ、付高台		G - 1
933	グリット	灰	段皿	(14.6)				ロクロナデ	輪花（単位不明）	G - 4
934	グリット	灰	段皿	(14.4)	(8)	2.5		ロクロナデ、付高台、回転ヘラケズリ		G - 2
943	検出面N	黒A	椀		(7)		底面4/5　高台1/2	ロクロナデ、付高台、回転糸切、内面ミガキ後黒色処理		A検 - 11
944	検出面N	黒A	椀		(7.6)		底1/2	ロクロナデ、付高台、回転糸切、内面ミガキ後黒色処理		A検 - 10
945	検出面	土	杯AⅡ	(9.8)	(5)	2.4		ロクロナデ、回転糸切		C検-1
946	検出面NE	土	椀		(6.4)		底面1/5　高台1/6	ロクロナデ、付高台		A検 - 13
947	検出面NE	土	杯AⅡ	(12.8)	(7.2)	3.1	口1/5　底1/4	ロクロナデ、回転糸切		A検 - 8
948	検出面	土	?	(14.4)				ロクロナデ		C検-2
949	検出面N	土	盤BⅠ?	(16.4)			口1/6	ロクロナデ		A検 - 9
950	検出面N	土	甕	(16)			口一部	口縁ヨコナデ、内外面ハケ目		A検 - 12
951	ケン	灰	椀	(17)			口1/8	ロクロナデ		A検 - 6
952	ケン	灰	椀		(7.8)		高台1/6	ロクロナデ、付高台		A検 - 5
954	検出面	須	壺		(7.2)			外面回転ヘラケズリ、内面ロクロナデ、付高台、底面回転ヘラケズリ		C検-3
955	ケン	灰	瓶類		(7)		底面一部　高台1/6	外面回転ヘラケズリ、付高台、回転糸切、内面ロクロナデ	底部	A検 - 7
956	検	灰	瓶類		(12.6)		底1/12	外面回転ヘラケズリ、付高台、内面ロクロナデ	底部	B検 - 1
957	ケン	灰	椀		(6.6)		底1/3	ロクロナデ、回転ヘラケズリ		A検 - 4
958	ケン	灰	椀		(7.4)		底完	ロクロナデ、付高台、回転糸切		A検 - 2
959	ケン	灰	椀		(7.4)		底面3/4　高台1/2	ロクロナデ、付高台、回転ヘラケズリ		A検 - 1
960	ケン	灰	椀		(7.4)		底1/2	ロクロナデ、回転ヘラケズリ、付高台		A検 - 3
961	グリット検出面	陶器	仏飯器	(3.6)					現代	G検-1
967	表採	土	皿AⅡ	9.95	2	1.6	口完　底完	ロクロナデ、回転糸切、口縁部に面取り		表採-2
968	表採	土	皿AⅡ	10.05	4.1	1.75	口1/2　底完	ロクロナデ、回転糸切、口縁部に面取り		表採-1
969	表採	土	皿AⅡ	10.45	3.8	1.7	口2/3　底完	ロクロナデ、回転糸切、内面口縁部に沈線		表採-3

第6表3　土器観察表（平安時代の土器　緑釉陶器）

No.	出土地点・注記	種別	器形	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存度	調整	備考	実測No.
27	7住N	緑	椀	(13)			口1/4　底1/4	ロクロナデ、底面回転ヘラケズリ?、付高台。	全面に施釉。釉調淡黄緑色。釉薬の剥落著しい。白色の胎土。内外面に付着物。E類。	緑-3
28	7住Nフクド	緑	椀	(12.4)			口一部	ヨコナデ、ロクロナデ	939と同一個体か?	緑-5
29	7住No.1	緑	椀		(7.6)		底2/5	ロクロナデ、付高台、内面ヘラミガキ、外面体部下半から底部にかけて回転ヘラケズリ。	全面に施釉。外面底部は釉薬剥落か?釉調淡緑色、濃緑色の斑点みられる。高台底部に沈線。内面底部に圏線と1つのトチン痕。29と同一個体か?938と調整似る。	緑-6
205	15住No.1、31住、36住NE	緑	段皿	(15.2)			口1/4	内外面ヘラミガキ	全面に施釉。釉調淡緑色。15住、31住、36住間で接合する。	緑-4
349	23住No.1、19住NE、35住No.1	緑	椀	(15.2)			口1/6	外面ロクロナデ、内面ヘラミガキ	全面施釉。釉調淡緑色。濃緑色の斑点。19住、23住、35住間で接合	緑-2
350	23住No.1	緑	椀	(13.2)	(6.4)	3.7	口1/3　底1/2	内外面ヘラミガキ、付高台	全面施釉。釉調淡緑色。口縁部に輪花（4単位?）。内面底部に1つ外面底部に2つのトチン痕、内面底部に圏線。B類。	緑-1
527	44住No.1	緑	椀	(16.8)			口1/8	外面ロクロナデ、内面ヘラミガキ	全面施釉。	緑-12
662	57住No.12	緑	段皿	(12.8)		4.5	口1/4　底1/3	内外面ロクロナデ、付高台、回転糸切	釉調濃緑色。内外面底部に1つずつトチン痕。D類?	緑-10
831	79住SEフク土	緑	椀	(9.2)	(4.6)	3.2	口1/6　底1/3	内外面ロクロナデ、付高台	釉調淡黄緑色。高台周辺にのみ釉が残る。	緑-11
935	N51W30より50cmほど南、N54W27	緑	椀	(15)			口一部	内外面ロクロナデ	釉調濃緑色。2片が接合。F類?	緑-15
936	N18EW0	緑	椀		(14.8)		口一部	内外面ロクロナデ	口縁部片。濃緑色。	緑-9
937	N18EW0	緑	椀	(12.6)			口一部	ロクロナデ	口縁部片。淡黄緑色。白色の胎土。E類?	緑-16
938	N54W30	緑	椀	(10.2)			口1/10	ロクロナデ	釉調濃緑色。内面に圏線。	緑-14
939	N57W24、石列3No.2	緑	椀		7.6		底2/5	内面ミガキ、外面ロクロナデ、付高台、底面回転ヘラケズリ	釉調濃緑色。外面底部に2つのトチン痕。内面部に2つのトチン痕	緑-7
940	N42W33	緑	椀		(8.6)		底1/6	ロクロナデ、付高台	釉調淡黄緑色。白色の胎土。E類。	緑-8
953	C検出面	緑	段皿		(9.1)		底1/4	内面ロクロナデ、回転ヘラケズリ、付高台、底面回転ヘラケズリ	釉調濃緑色。高台底部に沈線。内面にトチン痕。939と調整似る。	緑-13
997	36住北フク	緑	椀						口縁部片。全面に施釉。淡緑色、濃緑色の斑点。27と似る。	
998	7住	緑	?					ヨコナデ	被熱している。939と同一個体か?	
999	7住N	緑	?						205と同一個体か?	
1000	N51W30　981221	緑	椀						937と同一個体か?内面に圏線。	
1001	N51W30より50cm南	緑	?					内外面ロクロナデ	釉調濃緑色、外面には施釉されない。937と同一個体か?F類?	
1002	N54W30　990112	緑	?					内外面ロクロナデ。	釉調濃緑色	
1003	第2検出面フク土981215	緑	段皿					外面ロクロナデ、内面ヘラミガキ	釉調濃緑色。	
1004	N54W30　981221	緑	椀						釉調濃緑色。937と同一個体か?F類?	
1005	石列確認トレンチA中央付近	緑	?						外面剥離。釉調淡緑色。	
1010	49住NEフク土	緑	耳皿					ロクロナデ	釉調淡黄緑色。剥落著しい。1014と同一個体。	
1011	51住　981030	緑	?						釉薬みえない。緑釉陶器の胎土?	
1012	57住SW	緑	?						わずかに釉薬がある。	
1013	56住　57住の可能性	緑	?						釉調濃緑色斑点。	
1014	NEフク土　981006	緑	耳皿					ロクロナデ	釉調淡黄緑色。剥落著しい。1010と同一個体。	
1015	11住No.4	緑	?						釉調濃緑色。白色の胎土。E類?	
1016	57住NE	緑	椀					内外面ロクロナデ	口縁部破片。釉薬剥落著しい。淡黄緑色。	
1018	57住SE	緑	段皿						釉調濃緑色。831と同一個体	
1019	10住フクNE	緑	?					内外面ミガキ	釉調淡緑色。	
1006	N54W27	緑	椀						口縁部片。釉調濃緑色の斑点。	
1007	N54W30　981221	緑	椀					内外面ロクナデ	釉調濃緑色。	
1008	C検　980920	緑	?						口縁部片。釉調濃緑色。	

No.	出土地点・注記	種別	器形	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存度	調整	備考	実測No.
1009	58住の外　北側礫層内	緑	?						口縁部片。釉調濃緑色。	

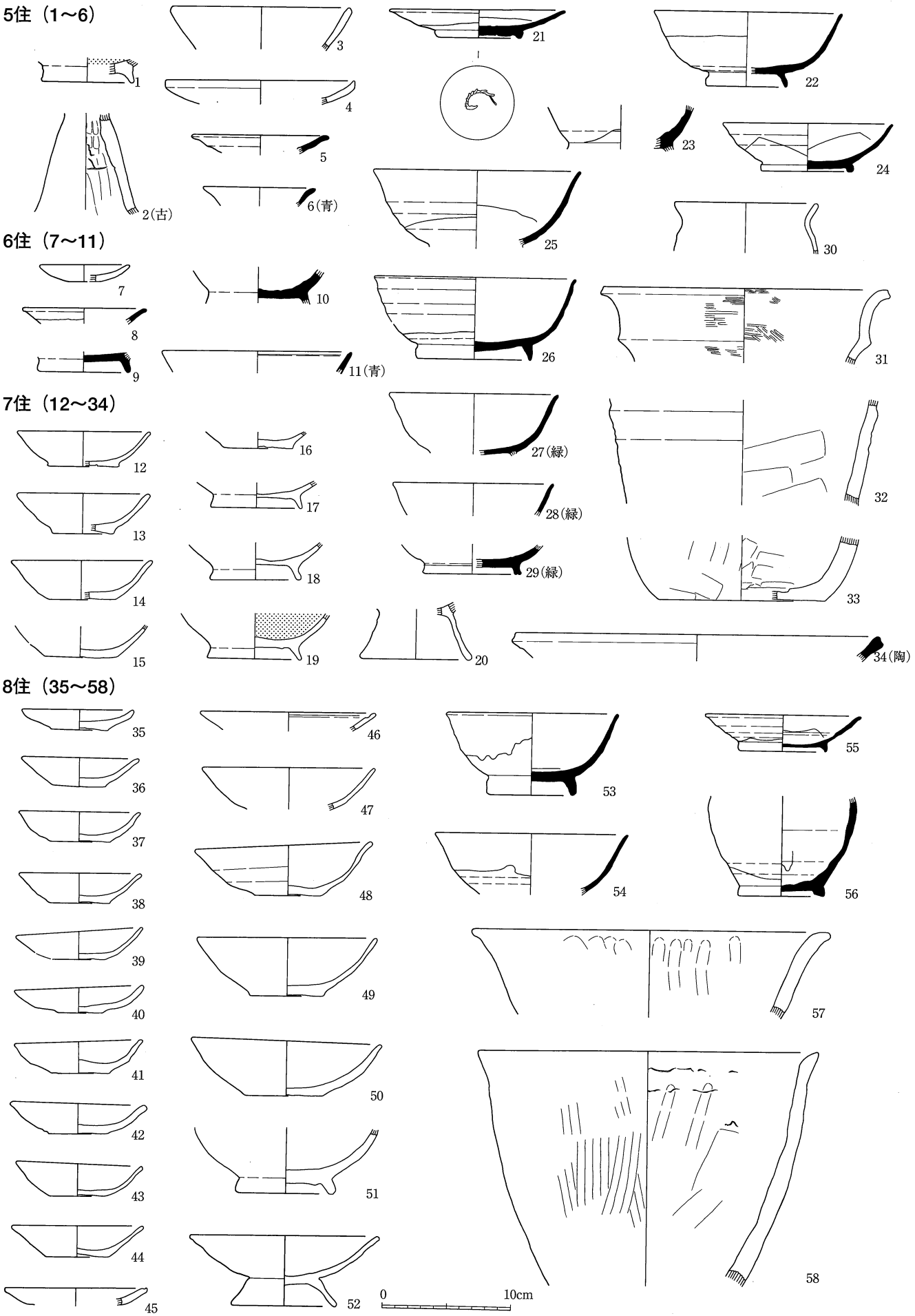
第6表4　土器観察表（中世の土器・陶磁器）

No.	出土地点・注記	種別	器形	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存度	調整	備考	実測No.
4	5住ベルト	土	皿	(14.6)			口1/12	非ロクロ調整	12世紀末葉～13世紀前葉。内面にタール状の付着物。	5 - 2
6	5住	青磁	皿または杯	(8.6)			口一部		皿または杯？やや外反する。	磁-8
	5住ベルトNS	青磁	?							
7	6住NE	土	皿	(7)	(3)	(1.3)	口1/5	非ロクロ調整	13世紀中葉～後葉	6 - 1
11	6住SE	青磁	椀	(14.6)			口一部		13世紀初頭	磁-12
34	7住	陶器	捏鉢	(28.2)			口1/12	口縁ヨコナデ、ロクロナデ	東海系陶器。・類。混入。	7 - 19
330	25住SW	陶器	卸皿		(7.2)		底1/8		古瀬戸系陶器。14～15世紀。	25 - 2
331	25住No.2	青白磁	瓶子類	(6.6)			口1/5	口縁部から頸部。口縁部が折り返されている。	12～13世紀（13世紀の可能性大）	磁-13
333	25住NW	陶器	鉢		(11)		底1/8	外面指ナデ、内面ナデ、底面ナデ	須恵質陶器。13世紀まであがる。	25 - 4
334	25住ベルトW	白磁	椀					外面ロクロナデ	白磁（?）、12世紀代？	25 - 5
335	25住No.3	陶器	摺鉢	(25.2)			口1/5	口縁部面取り。外面ナデ。摺目7本。	須恵質陶器。珠洲に類似する。14世紀。	25 - 1
481	38住東フク土	青磁	椀	(15)			口一部	口縁ヨコナデ、ロクロナデ	蓮弁文	38 - 10
483	40住Eフク土	土	皿	7.95	6.9	1.1	底3/4	非ロクロ調整	13世紀中葉～後葉	40 - 1
484	40住フク土	土	皿	(8)	(7)	1.15	口1/2	非ロクロ調整	13世紀中葉～後葉	40 - 2
485	40住Eフク土	土	皿		(5.2)		底完	非ロクロ調整	13世紀中葉～後葉	40 - 3
486	40住Eフク土	陶器	?		(3.8)		底一部欠	ロクロナデ、回転糸切、内面底部に灰釉が施釉されている	古瀬戸系陶器。15世紀代。	40 - 4
487	40住ベルト	青磁	椀	(13)			口1/10		13 世紀初頭。内面に2本の沈線。	磁-1
488	40住Wフク土	青白磁	梅瓶					外面渦文、内面ロクロナデ	13世紀半ば～後半	40 - 6
489	40住Wフク土	陶器	瓶子類		(8)		底1/4	ロクロナデ、底面ナデ、内面に施釉	古瀬戸系陶器	40 - 5
571	51住検	白磁	椀	(12.4)			口1/14	口縁部片。	玉縁口縁。・類。	磁-4
599	52住N	青白磁	瓶子類					外面唐草文と連弁文、内面ナデとケズリ	12～13世紀	磁-14
615	平瀬・A	白磁	椀	(15.2)			口一部	口縁部片		磁-7
793	76住カマド	土	皿	(10)			口1/6	非ロクロ調整	12世紀末葉～13世紀前葉。指ナデ。混入	76 - 8
799	84住No.1	白磁	椀		(6.7)		底1/2	底部が厚い。高台付近には施釉されない。	Ⅳ類？	磁-11
806	79住No.46	土	内耳鍋					口唇部面取り、外面横方向ナデ	中世後半の内耳鍋とは異なる雰囲気をもっている。中世前半期の可能性あり。溝12の遺物。口辺部片	79 - 30
868	土57フ	青磁	椀	(14.8)			口1/12		蓮弁文	磁-2
876	土53	土	皿	(8.6)	(8)	1.1	口1/4　底1/4	非ロクロ調整	13世紀中葉～後葉	土53 - 1
882	P73	陶器	椀		(4)		底面1/5　高台一部	ロクロナデ、付高台、回転糸切	山茶碗。13世紀後半～14世紀初め。明和1号窯式併行か？。	P73 - 1
883	P51	青磁	椀		(5.8)		高台一部	ロクロナデ、削り出し高台	蓮弁文？	P51 - 1
924	石列4	青磁	椀	(12.4)			口一部		13世紀初頭	磁-9
932	グリットNo.1	陶器	椀		(7)			ロクロナデ、付高台後籾殻圧痕	山茶碗。高台に籾殻圧痕	G - 5
962	検	白磁	椀		(6)		底1/8	外面ヘラケズリ、内面に沈線。体部下半は施釉されない。	Ⅳ類？	B検 - 2
963	C検	青磁	椀						13世紀初頭。劃花文。	磁-10
964	北西検	青磁	椀	(13.8)			口1/10	内外面にロクロナデ痕	13世紀初頭	磁-3
965	C北西検	青磁	椀	(15.4)			口1/12		蓮弁文。13世紀	磁-6
966	C検	青磁	盤	(18.4)			口一部		13世紀	磁-5
971	土53フ	白磁	椀							
972	堅2フ980806	青磁	?						鎬蓮弁文？	
973	N57W24No.2	青磁	?							
974	6住床	白磁	椀？					口縁部片。	口縁部破片。Ⅴ類。	
975	6住床	青磁	?						劃花文。13世紀初頭。	
976	6住NWNo.1	白磁	?							
977	40住Wフ	青磁	?							
978	P15	青磁	椀						内面に沈線。13世紀初頭。	
979	台上北　北西部ケン	青磁	椀						鎬蓮弁文。口縁部に特徴。	
980	EW0N24	青磁	椀						蓮弁文	
981	ケン	白磁	袋物					頸部片。	袋物	
982	67住検	白磁	椀						縦線が入る	
983	40住Wフ	青磁	?						13世紀初頭？	
984	44住南隣	青磁	椀						蓮弁文。13世紀。	
985	堅2フ	青磁	?						紋様あり。13世紀。	
986	9住No.1	青磁	?						蓮弁文。13世紀。	
987	56住SEフ	青磁	?							
988	40住ベルト	青磁	椀						口縁部片。13世紀初頭。868と同一個体か？	
989	6住	青磁	椀						口縁部破片。劃花文。	
990	N57W24No.1	青磁	?							
991	堅2	青磁	椀							
993	57住SE	青磁	?							
994		陶器	壺					外面沈線と施釉、内面ナデ	常滑系陶器	
995	40住フ	陶器	椀					内外面ロクロナデ		
996	検	陶器	捏鉢						東海系陶器	

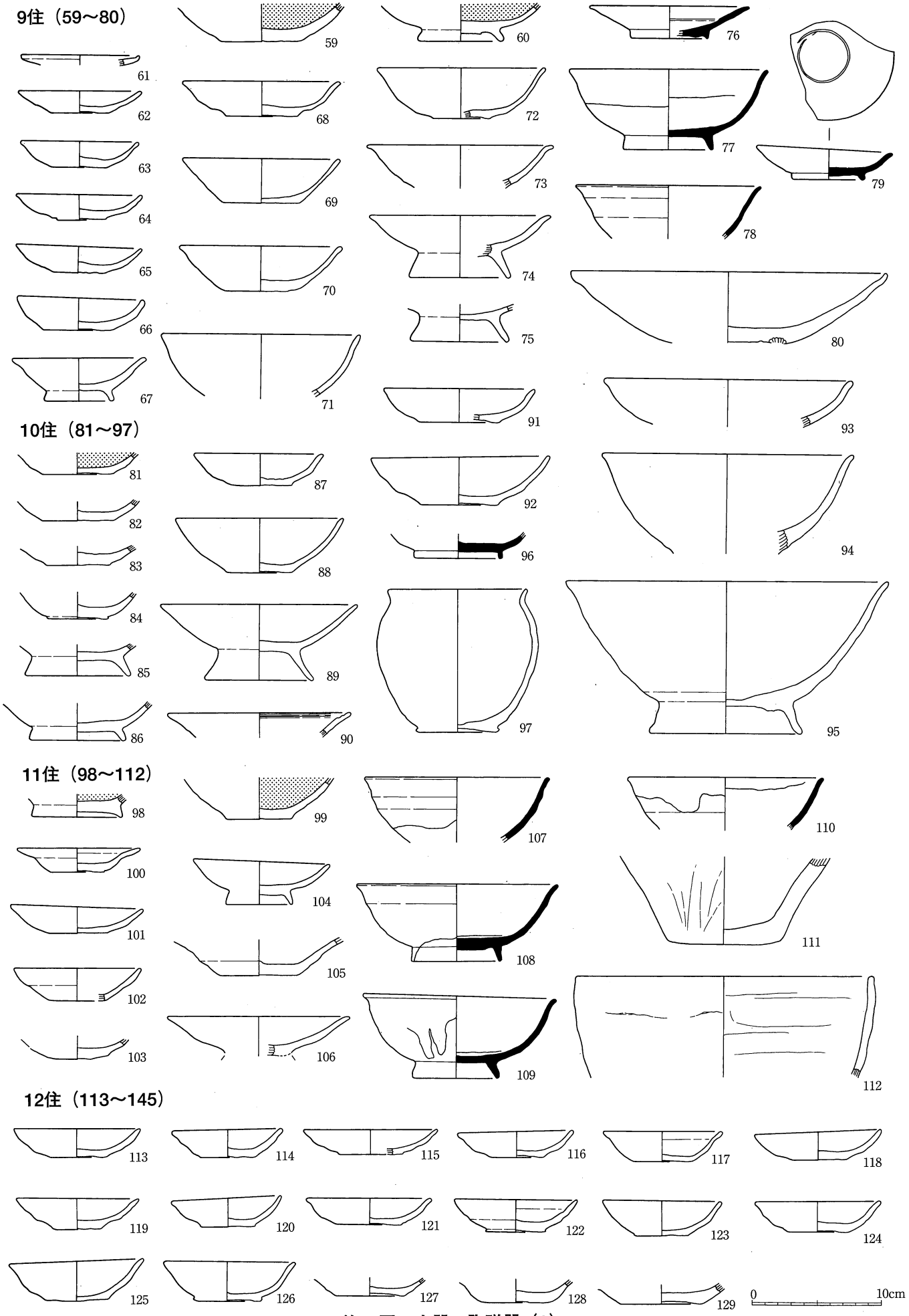
第6表5　土器観察表（層序別）

遺構名	段階	層序(第3章第3節第4項)	層序(遺構編)	出土土器No.	点数	土師器杯ＡⅡの法量　（）内は平均値	点数
第51号住居址		Ⅰ	Ⅰ				
		Ⅱ	Ⅱ				
		Ⅲ	Ⅲ	562	1	(口) 9.4cm、(高) 2.2cm	1
		Ⅳ	Ⅳ				
		Ⅴ	Ⅴ				
		Ⅵ	Ⅵ				
		Ⅶ	Ⅶ				
	住居址覆土	Ⅷ	Ⅷ				
	ピット1覆土	Ⅸ	Ⅸ				
計					1		1
第52号住居址		Ⅰ	Ⅰ	576・578・581・597	4	口径：7.5～8.7cm (8.2cm)、器高：1.3～1.75cm (1.55cm)	3
	住居址覆土	Ⅱ	Ⅱ	577・585・586・588・589・590・591・592・593・594・600	11	口径：8.2～9.15cm (8.68cm)、器高：1.8～1.9cm (1.85cm)	2
	ピット13覆土	Ⅲ	Ⅴ				
	ピット覆土	Ⅳ					
	竈崩落土	Ⅴ	Ⅸ				
		Ⅵ	Ⅹ				
	竈覆土	Ⅶ	ⅩⅠ				
	ピット6覆土	Ⅷ	ⅩⅢ				
	竈構築土	Ⅸ	ⅩⅡ				
計					15		5
第54号住居址		Ⅰ	Ⅰ	616	1		
	住居址覆土	Ⅱ	Ⅱ				
計					1		
第56号住居址		Ⅰ	Ⅰ	626・628・631・635・636	5	口径：8.7～9.5cm (9.17cm)、器高1.4～2.4cm (1.82cm)	3
		Ⅱ	Ⅱ				
	住居址覆土	Ⅲ					
計					5		3
第60号住居址		Ⅰ	Ⅰ	685・686・691・692・693・696・700・701・702	9	口径：9.4～9.8cm (9.67cm)、器高：1.7～1.95cm (1.82cm)	3
	住居址覆土	Ⅱ	Ⅱ	689・690・703・704・705	5	口径：9.8cm、器高1.45cm	1
	ピット5覆土	Ⅲ		694	1	口径：9.8cm、器高2.1cm	1
	竈覆土	Ⅳ	Ⅲ				
	竈構築土	Ⅴ	Ⅳ				
計					15		5
第61号住居址		Ⅰ（上部）	Ⅰ	710	1		
		Ⅰ（中部）		711・717	2	口径：11.3～14.45cm (12.8cm)、器高：3～4cm (3.5cm)	2
		Ⅰ（下部）					
	住居址覆土	Ⅱ	Ⅱ	712	1	口径：11.0cm、器高：3.7cm	1
	竈覆土			708・709・713・714・718・719・720・721・722・723	10	口径：12.05～12.1cm (12.1cm)、器高：3.1～3.15cm (3.13cm)	2
計					14		5
第63号住居址		Ⅰ	Ⅰ	679・680	2		
		Ⅱ	Ⅱ				
	住居址覆土	"Ⅲ,Ⅳ,Ⅴ"	"Ⅲ,Ⅳ,Ⅴ"	677	1		
	ピット22覆土	Ⅵ					
	竈覆土	Ⅶ	ⅩⅨ				
	竈構築土	Ⅷ	ⅩⅧ				
計					3		
第67号住居址		Ⅰ	Ⅰ	735	1		
	住居址覆土	Ⅱ	Ⅱ	726・729・730・732・739・742	6	口径：10cm、器高2.4cm	1
	ピット3覆土	Ⅲ		725・733・734・736・737・741・746	7	口径11.05cm、器高2.65cm	1
計					14		2
第73号住居址		Ⅰ	Ⅰ				
	住居址覆土	Ⅱ	Ⅲ	761・764・767・772	4	口径12cm、器高3.2cm	1
		Ⅲ	Ⅱ	759・760・762・763・766・768・769・770・771・774・776・777・779・780	14	口径11.7cm、器高2.95cm	1
	竈構築土	Ⅳ	Ⅳ				
計					18		2
第79号住居址		Ⅰ	Ⅰ	800・802・803・804・813・823・824・827	8	口径8.8cm、器高1.3cm	1
		Ⅱ	Ⅱ	809・829	2	口径8.4cm、器高1.7cm	1
	住居址覆土	Ⅲ	Ⅲ	801・805・807・810・814・815・817・820・822・832	10	口径8.8～9.95cm (9.3cm)、器高1.7～2.5cm (2.04cm)	6
	竈覆土	Ⅳ	Ⅳ				
	竈構築土	Ⅴ～Ⅷ	Ⅴ～Ⅷ				
計					20		8
第80号住居址		Ⅰ	Ⅰ				
		Ⅱ	Ⅱ	833・838・841・842・843・844・846・852	8	口径9.6～11.2cm (10.4cm)、器高2.45～3cm (2.72cm)	2
		Ⅲ	Ⅲ				
	住居址覆土・ピット2覆土・竈覆土	Ⅳ～Ⅵ	Ⅳ・Ⅴ	834・835・836・837・839・840・845・847・849・850・851・853・854・855・856・858	16	口径9.1～10.4cm (9.7cm)、器高2.3～2.5cm (2.4cm)	6
計					24		8
総計					127		39

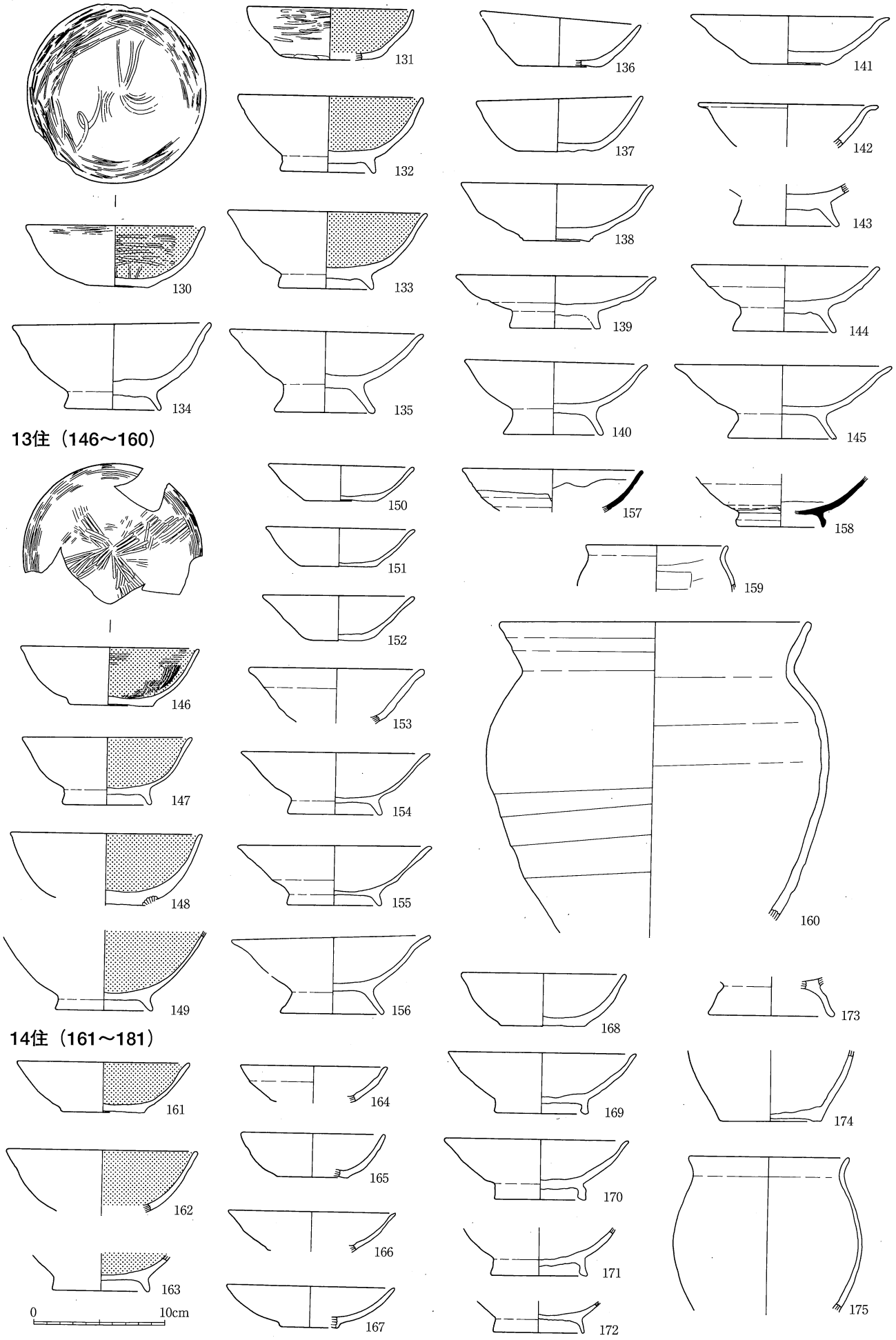
（註）土器観察表（層序別）は、51住、52住、54住、56住、60住、61住、63住、67住、73住、79住、80住の出土遺物についてのみ作成した。



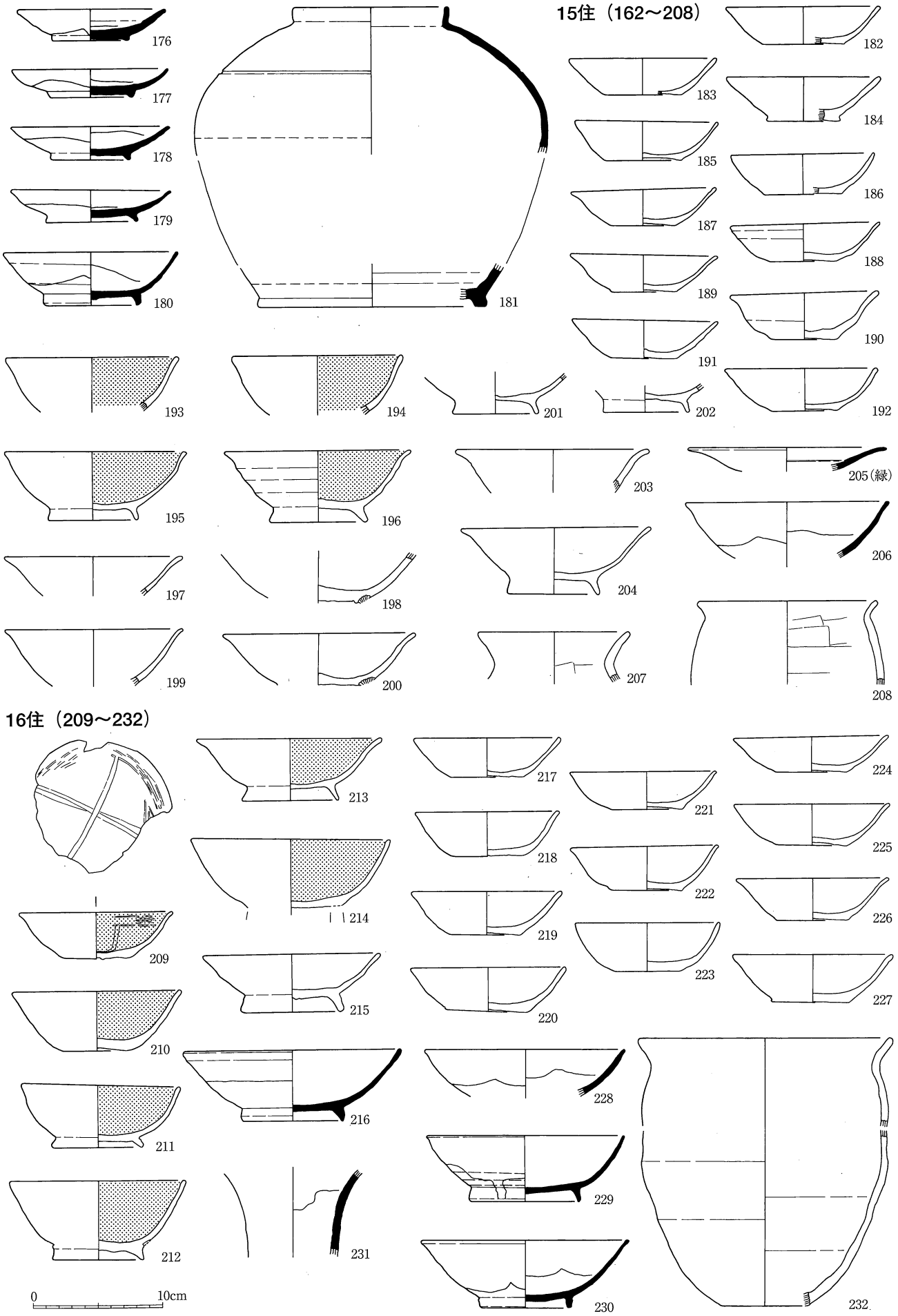
第27図　土器・陶磁器（1）



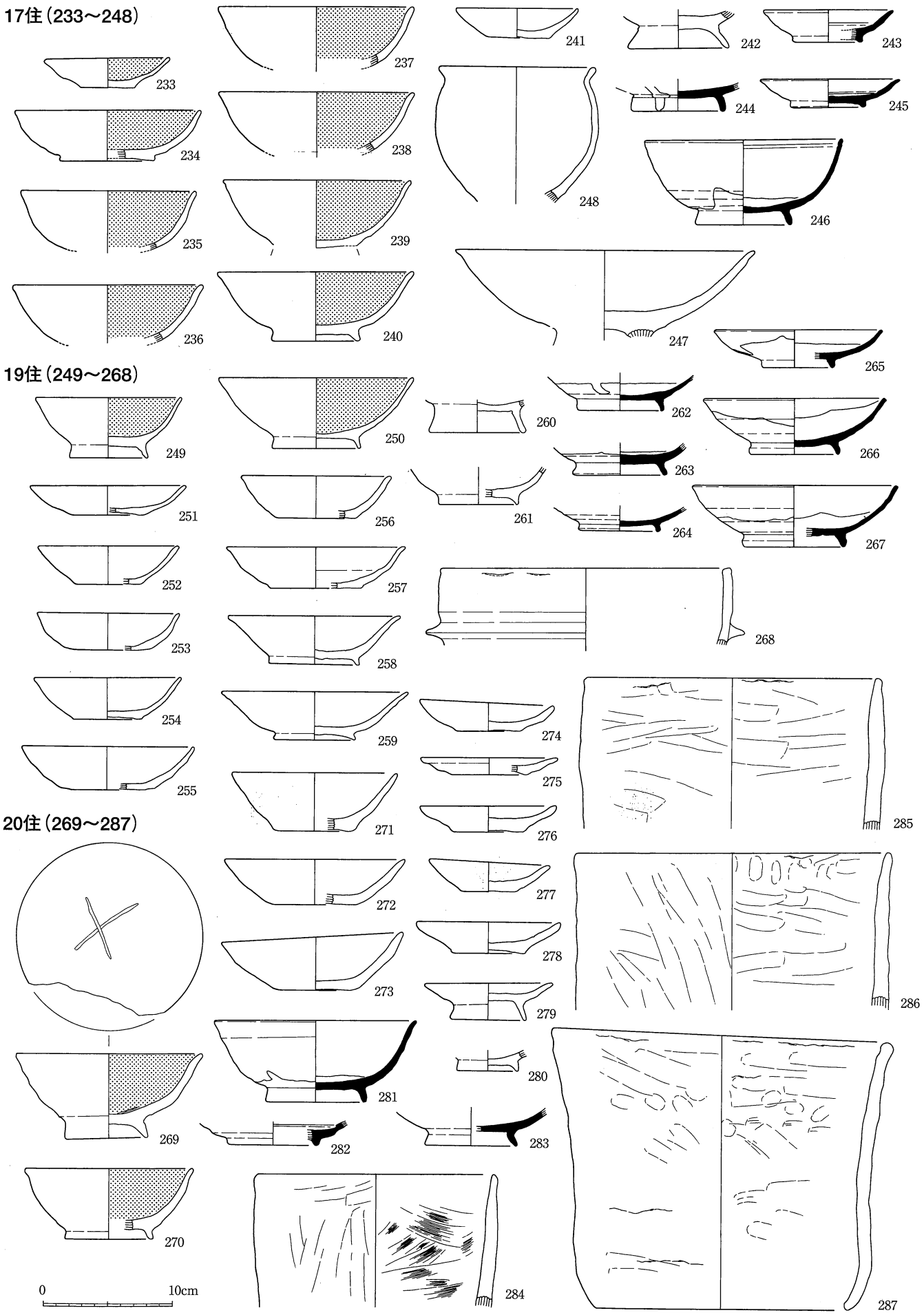
第28図　土器・陶磁器（2）


131
136
141
132
137
142
130
133
138
143
134
135
139
144
140
145
13住（146～160）
150
157
158
151
159
152
146
153
160
147
154
148
155
149
156
168
173
14住（161～181）
161
164
169
174
162
165
170
163
166
171
175
167
172
0
10cm

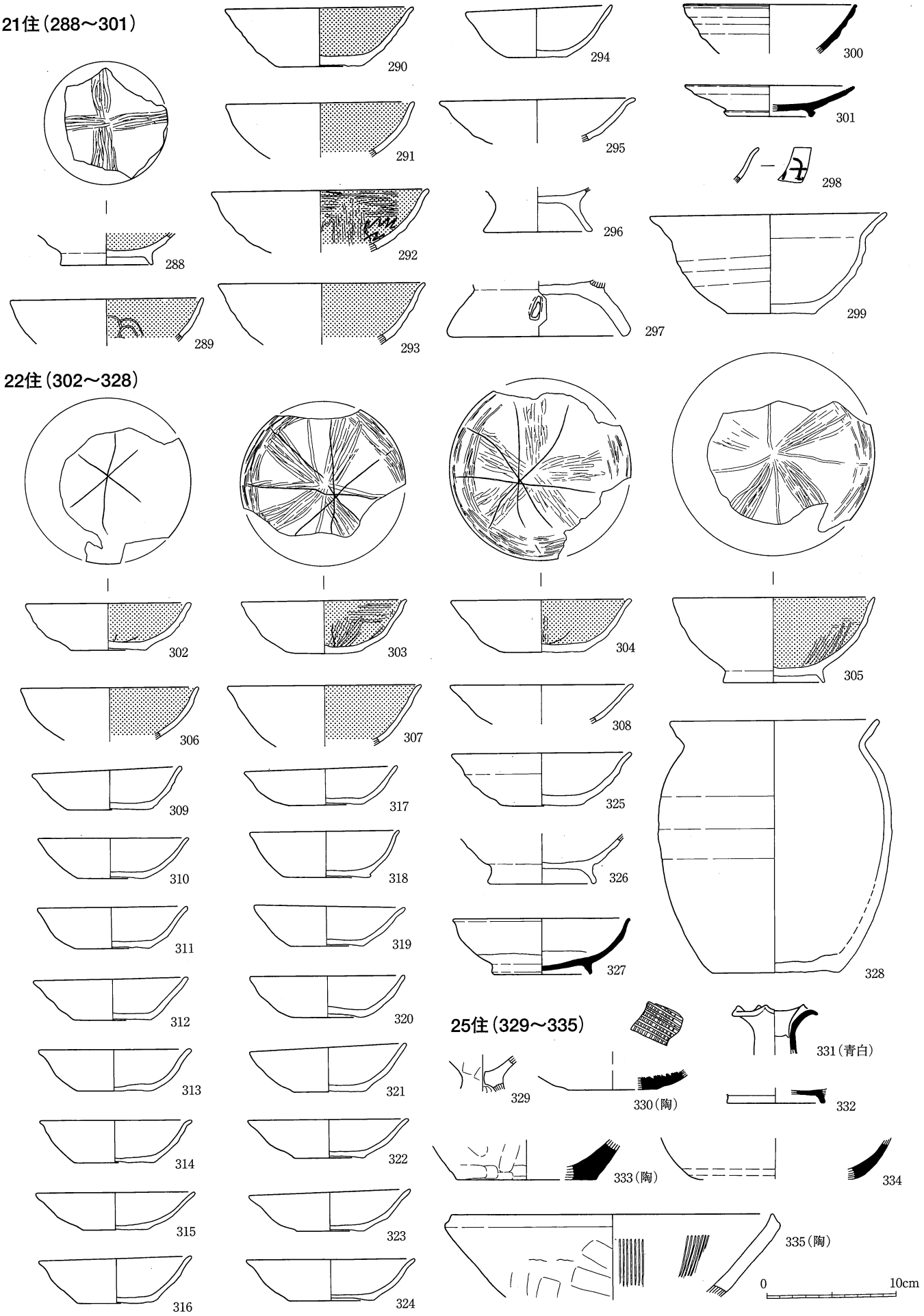
第29図　土器・陶磁器（3）



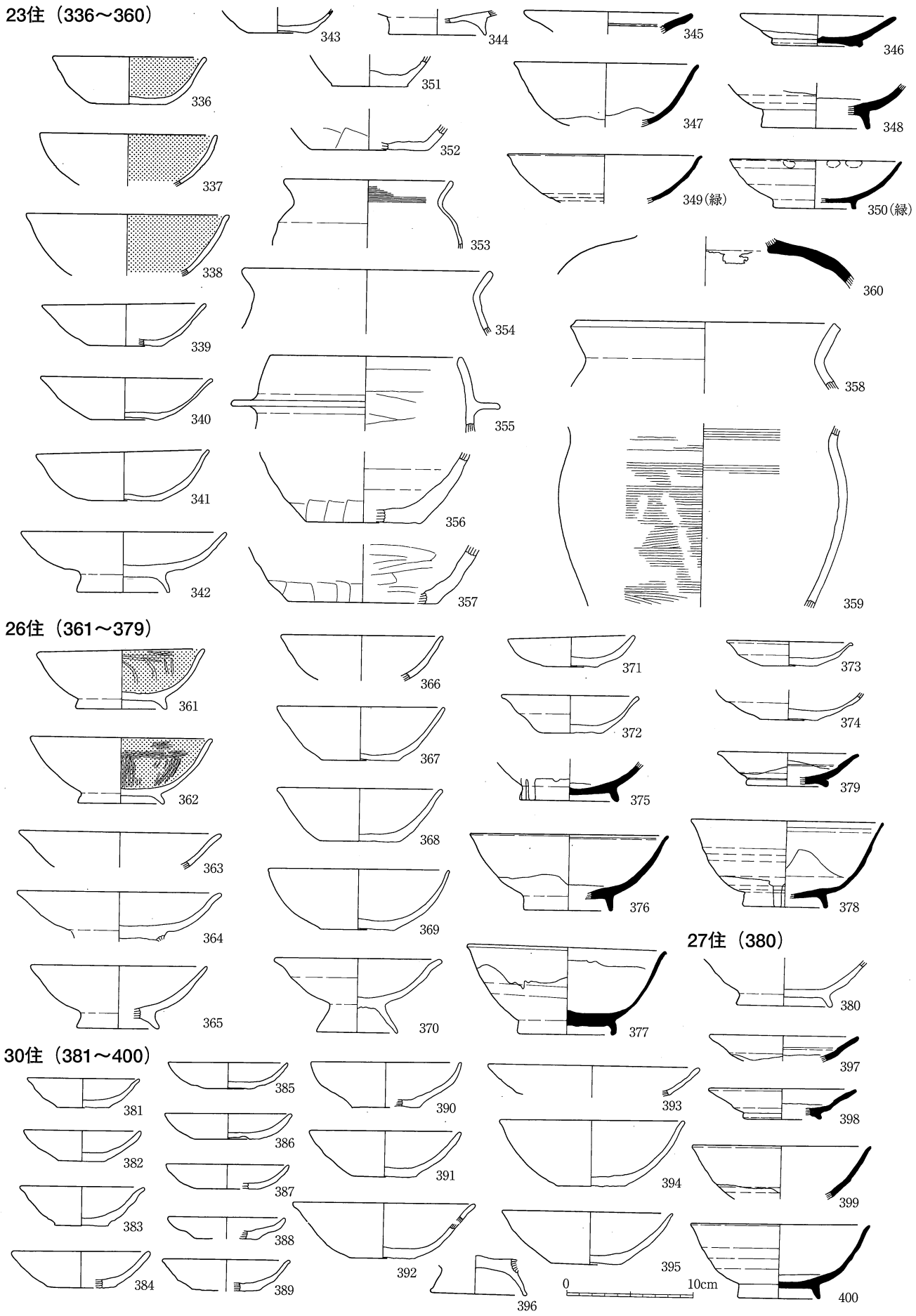
第30図　土器・陶磁器（4）



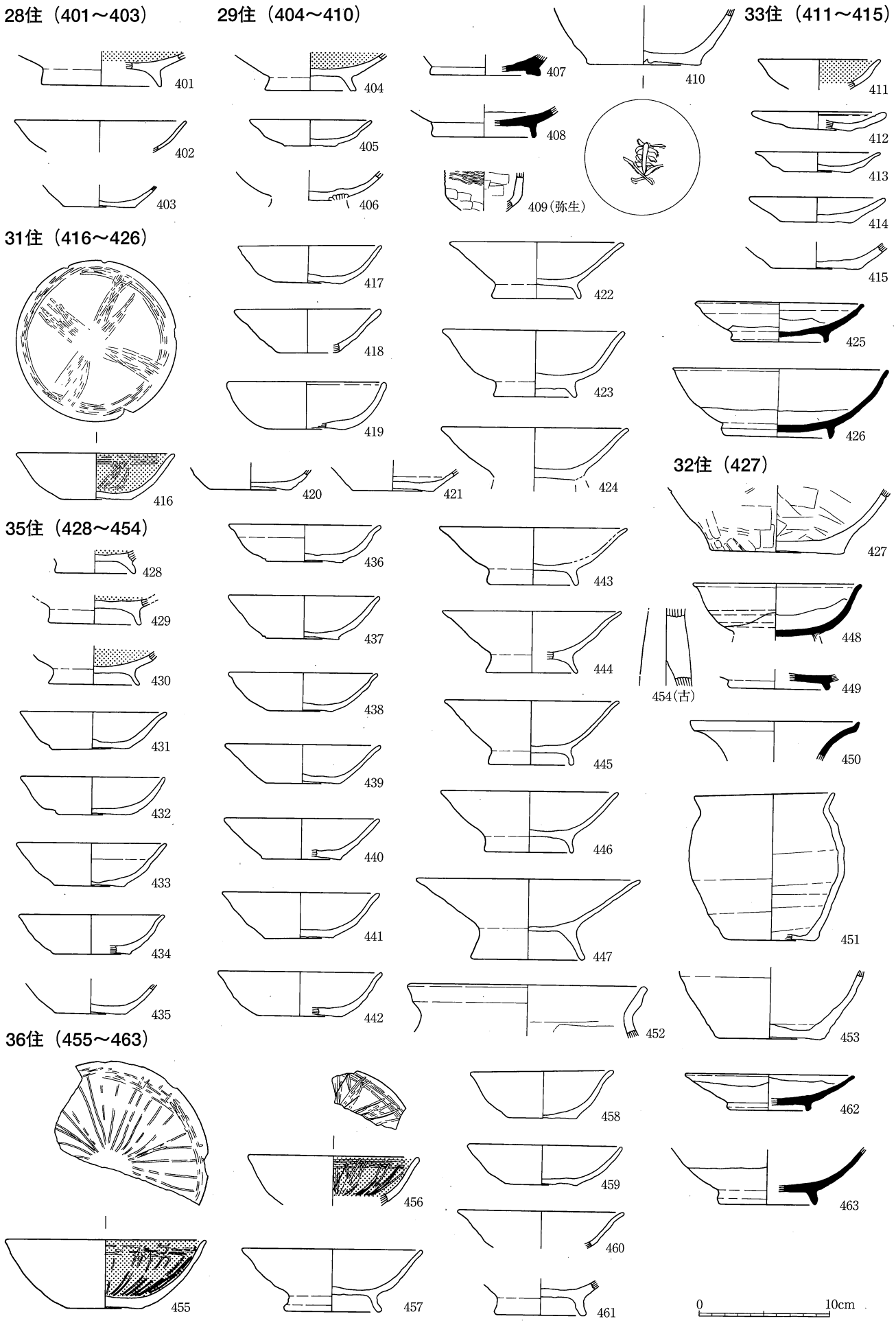
第31図　土器・陶磁器（5）


21住（288～301）
288
289
290
291
292
293
294
295
296
297
298
299
300
301
22住（302～328）
302
303
304
305
306
307
308
309
310
311
312
313
314
315
316
317
318
319
320
321
322
323
324
325
326
327
328
25住（329～335）
329
330（陶）
331（青白）
332
333（陶）
334
335（陶）
0
10cm

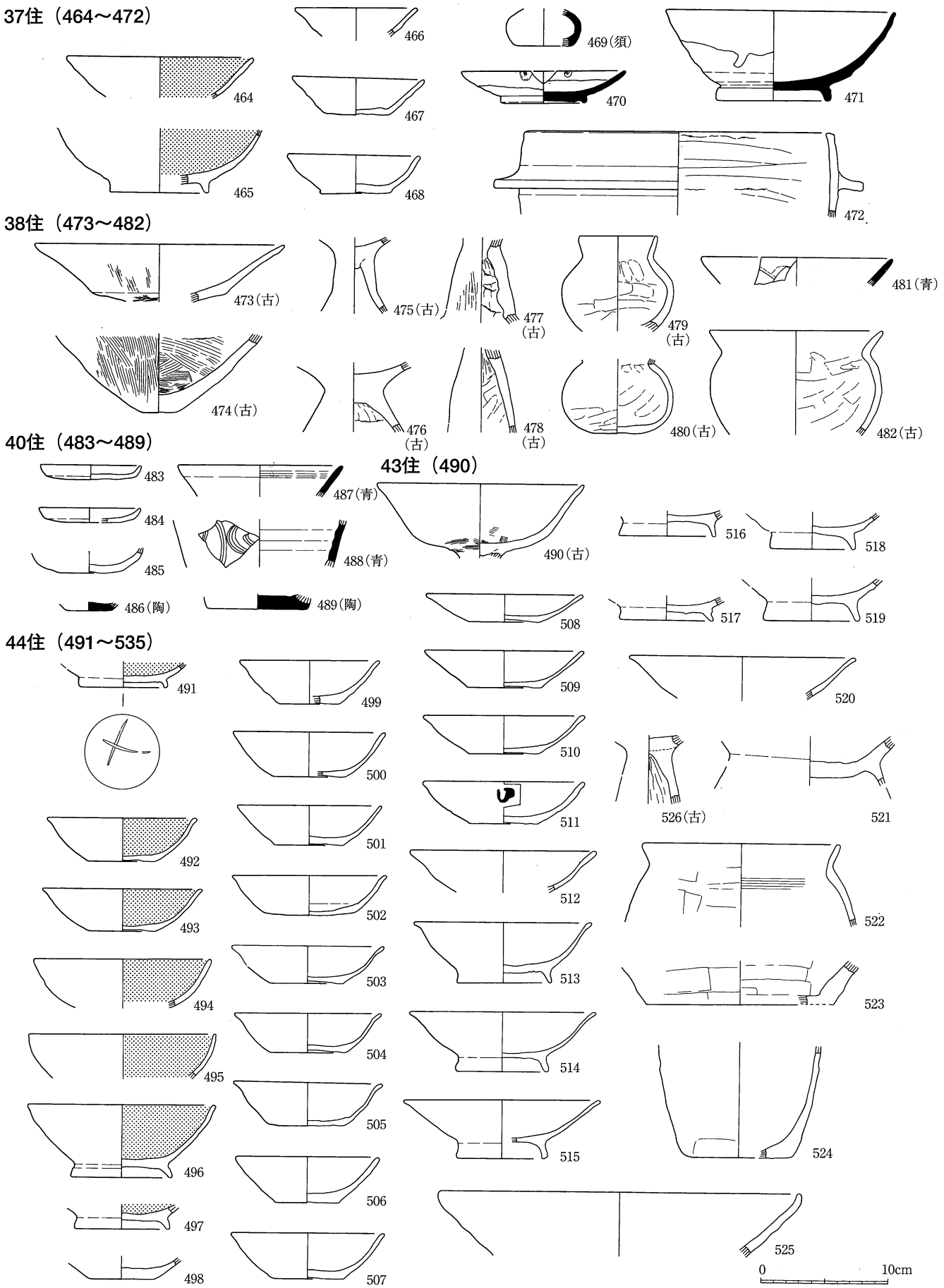
第32図　土器・陶磁器（6）



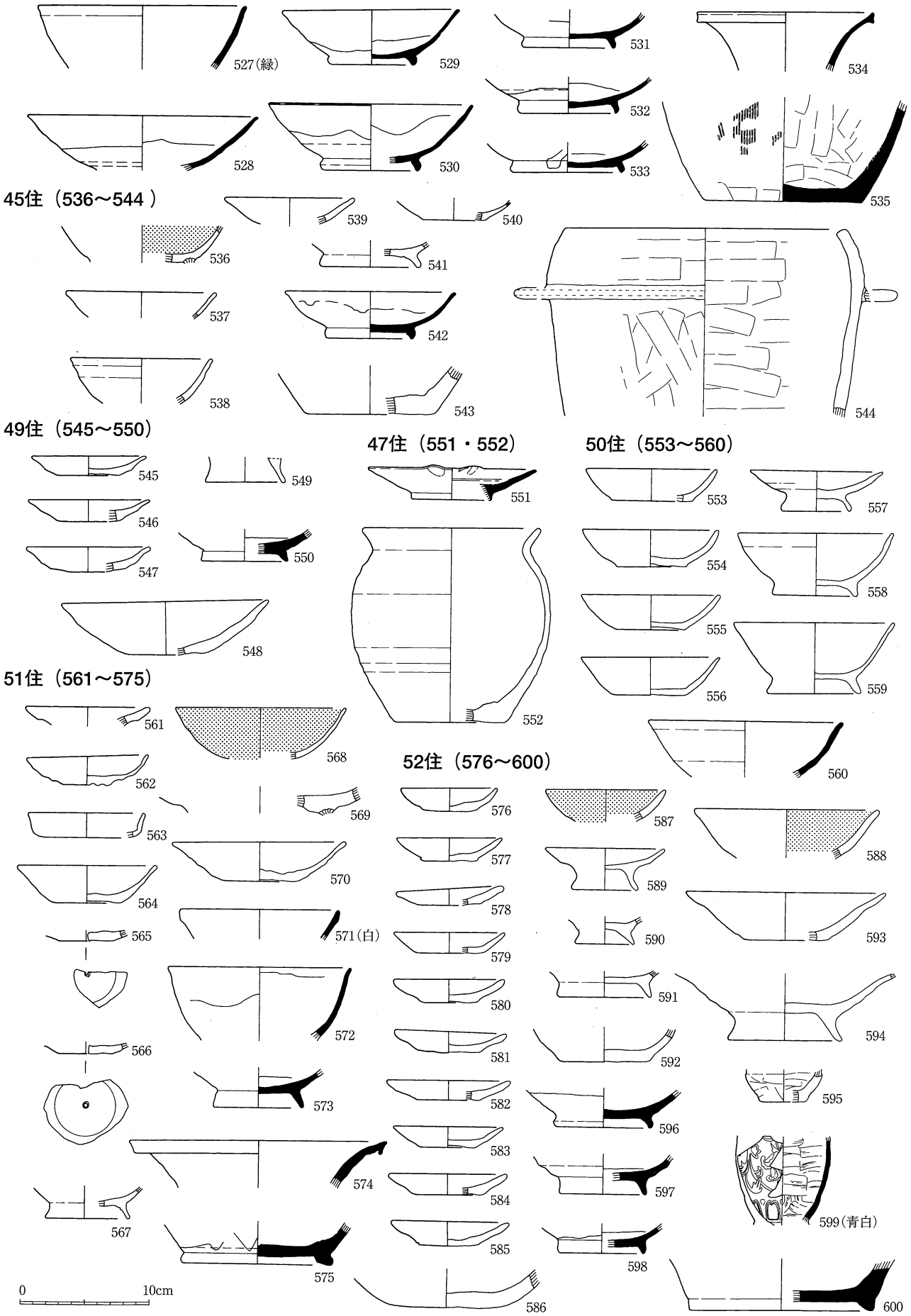
第33図　土器・陶磁器（7）


28住（401～403）
29住（404～410）
33住（411～415）
31住（416～426）
32住（427）
35住（428～454）
36住（455～463）
409（弥生）
454（古）
0
10cm

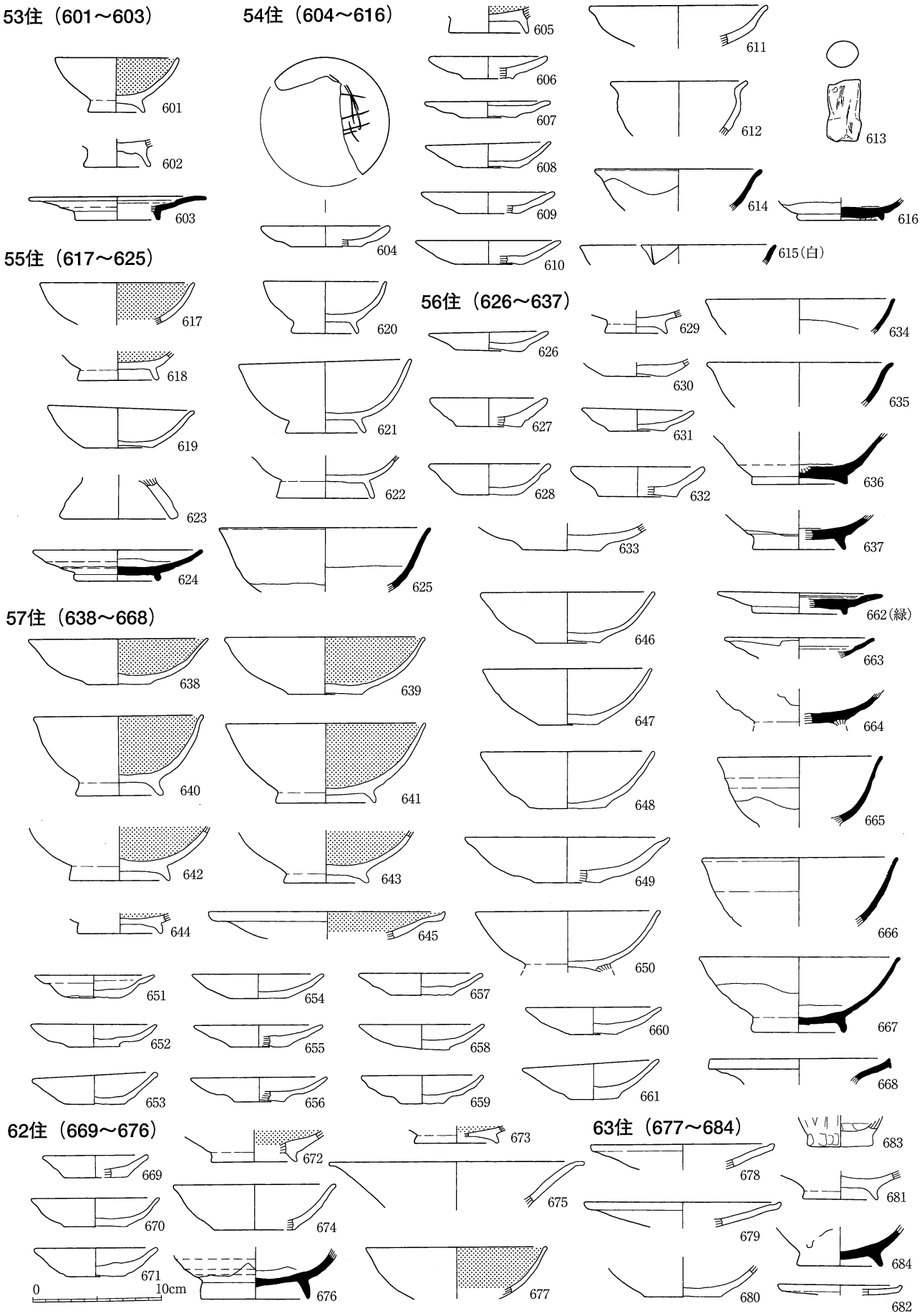
第34図　土器・陶磁器（8）


37住（464～472）
464
465
466
467
468
469（須）
470
471
472
38住（473～482）
473（古）
474（古）
475（古）
476（古）
477（古）
478（古）
479（古）
480（古）
481（青）
482（古）
40住（483～489）
483
484
485
486（陶）
487（青）
488（青）
489（陶）
43住（490）
490（古）
508
509
510
511
512
513
514
515
516
517
518
519
520
521
522
523
524
525
526（古）
44住（491～535）
491
492
493
494
495
496
497
498
499
500
501
502
503
504
505
506
507
0
10cm

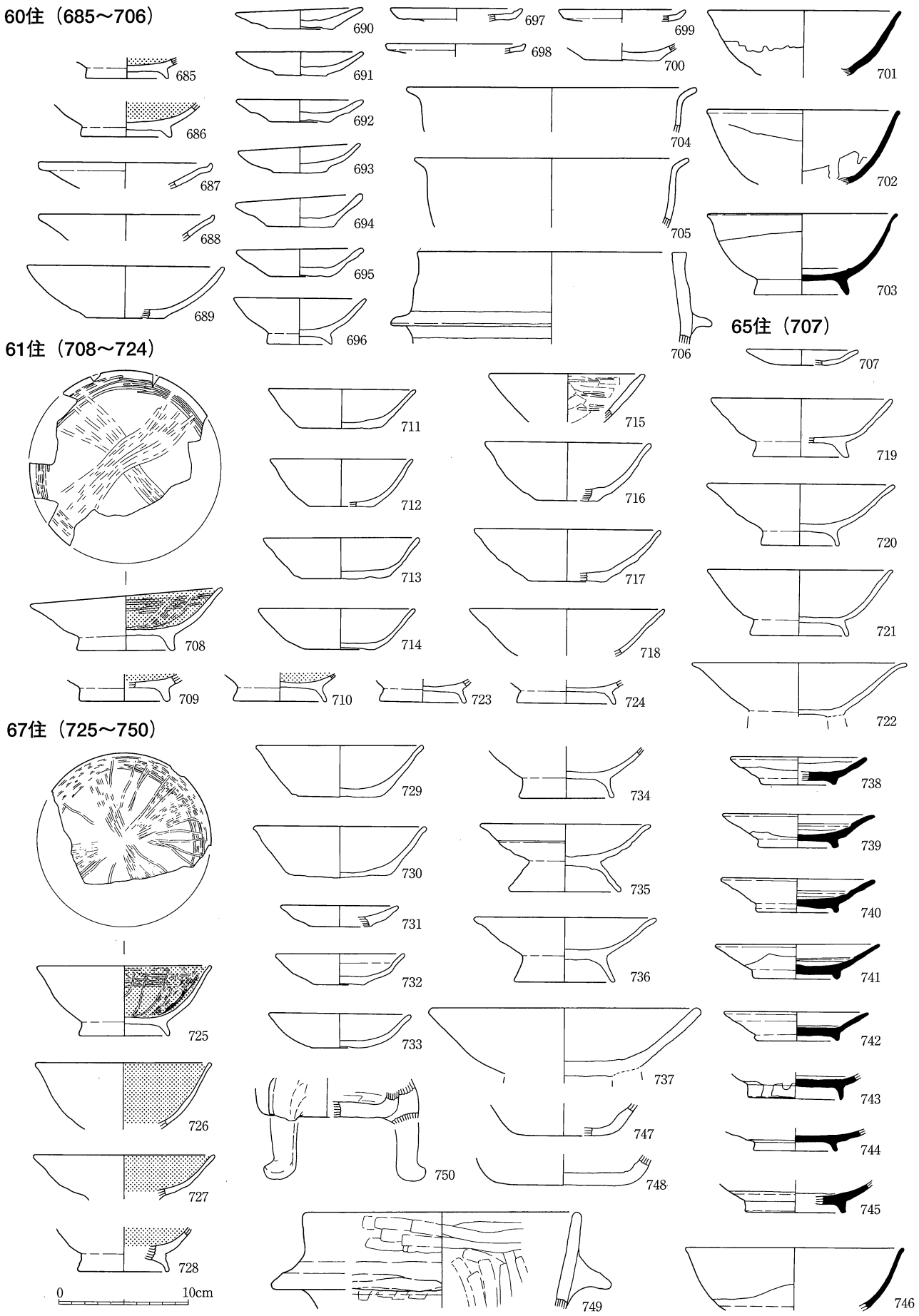
第35図　土器・陶磁器（9）



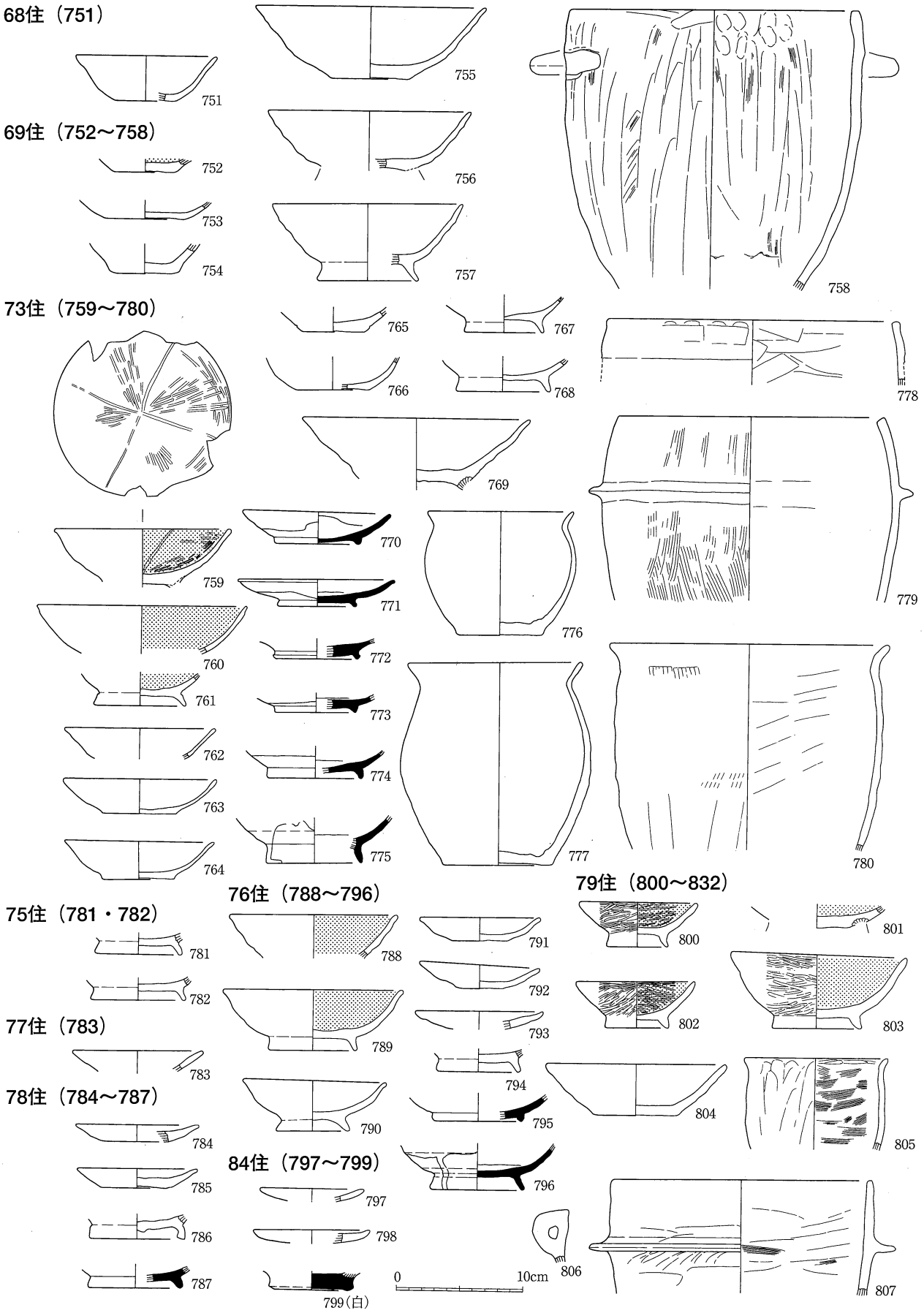
第36図　土器・陶磁器（10）



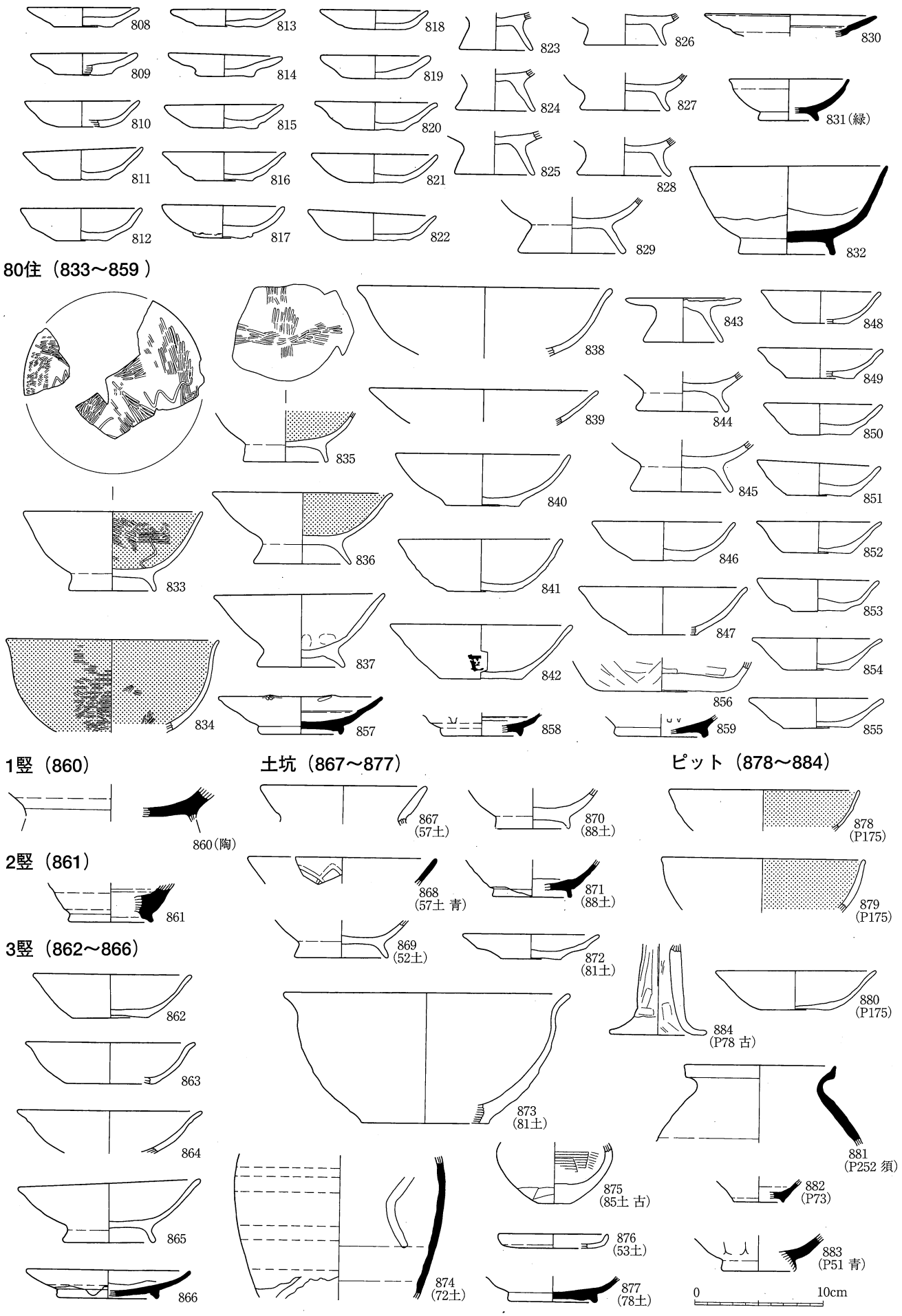
第37図　土器・陶磁器（11）



第38図　土器・陶磁器（12）

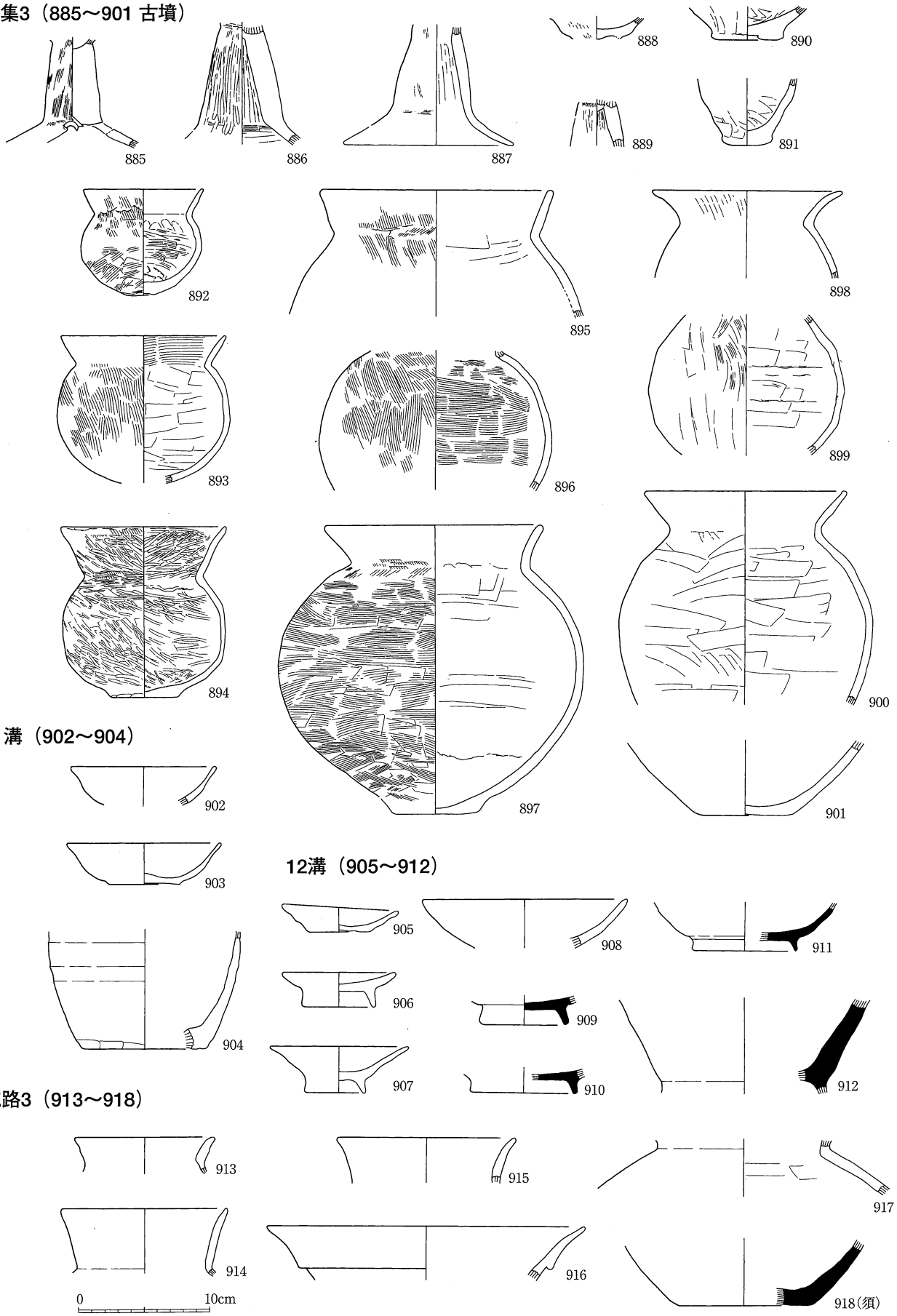


第39図　土器・陶磁器（13）



第40図　土器・陶磁器（14）

土集3（885～901 古墳）

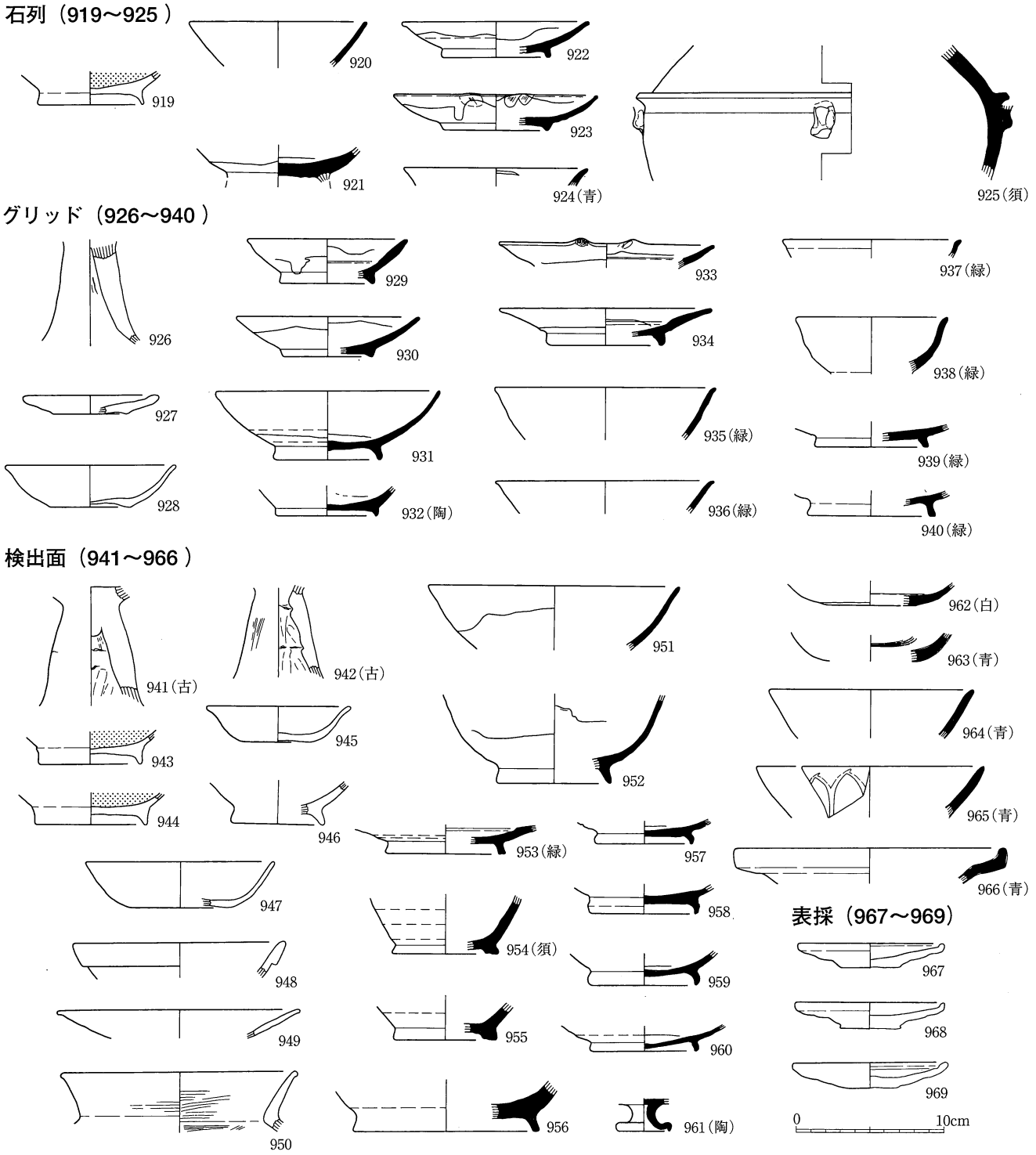


11溝（902～904）

12溝（905～912）

流路3（913～918）

第41図　土器・陶磁器（15）



第42図　土器・陶磁器（16）

2　瓦　（第43図）

今回の調査では、総数で16点出土している。種類別では平瓦が11点、丸瓦が5点である。軒平瓦、軒丸瓦等はみられなかった。出土地点は、遺構別では12溝が3点、80住が2点、11住、25住、30住、52住、55住、57住から1点ずつ、他に検出面等から5点となっている。これらの内、80住の2点、12溝の1点、それとC地区南西部検出面の1点の計4点が遺構間接合をし得た。その他のものは全て別個体とみられるので、13点ということになる。ほとんどの瓦は凸面がタタキ目、凹面は布目痕がみられる。図化し得たものは4点である。

丸瓦　5点の出土がみられたが、長さはすべて不明である。幅は推定できるものは端部が残存する検出面の3のみで、14cmを測るとみられる。厚さは2cmを測る。他の4点は不明である。調整は、いずれも凸面がヘラ状工具によるナデ、ケズリで、凹面には布目痕が残り、端部はヨコナデ、ケズリが施される。

平瓦　11点の出土がみられたが、いずれも長さは不明で、幅は推定で25cm前後を測るとみられる。厚さは平均2.2cmで大きなばらつきはない。調整は、いずれも凸面がタタキで、凹面は布目痕が残り、端部はヨコナデ後ヘラケズリが施される。図化したものは接合資料である80住他出土の1と溝12出土の2、及び参考資料として、第1次調査第3住出土品である4の3点である。

3　金属製品　（第46、47図、銭貨のみ第45図）

鉄製品、銅製品合わせて、住居址出土資料を中心に92点を図化提示した。器種は鋤・鍬、鎌、苧引鉄、紡錘車、刀子、鋏、鑿、釘、鎹、馬具、鏃、短刀、鐸、鎖、他がある。時期的には大半が平安時代で、中世までのものが含まれよう。

(1)鉄製品

鋤・鍬は9・30住で完形品が得られている（10・38）。ともにU字形鋤・鍬であるが刃先部が尖り気味でV字状に近い形態である。38は内縁形もV字に近くなっている。鎌は7住より完形品1点が出土した（7）。吉田川西遺跡報文の分類ではⅥ類に含まれるものである。苧引鉄は17住と51住から破片が出土している（20・46）。2点とも肩の丸いタイプである。紡錘車は紡輪を伴う確実なものは3点あり（12・18・51）、紡輪の直径4.7～5.5cmを測る。その他丸棒状の断片が6点出土するが大半が紡軸と推定される。刀子は13点得られたが、全形の判明するものは29住出土品（35）1点のみである。緩く両関を有しているが、他の個体を見ると、棟が無関となるものが多いようである。あるいは鋏の破片も含まれるかもしれない。57住からは鋏が出土した（55）。茎部を欠いているが、身部が完存する優品である。釘は最も出土量が多い。頭部の形態に上端を単に折り曲げたものや叩き伸ばした後に折り曲げるものが多いが、方頭を呈するものも見られる。馬具は11住より轡の一部が得られた（14）。鏃は身部を残すもの3点が得られた。11住（15）および63住（69）出土品はともに長三角形身部形態で前者が撥状の関、後者は角状の関となる。29住のもの（36）は雁股鏃で、刃部は短い。44土より身部長が22.3cmある短刀が得られている（79）。身部幅は最大で2.6cm内外を測る。身部の中程には鞘の木質が厚く残存するため細部の形態がつかめない。鐸は破片も含め8点が得られた（67・72～75・78）。80住出土品（78）は直径が大きく別物かもしれない。他は上部直径1～1.2cmm・下部直径1.1～1.5cmを測り、4～6cm程の全長を有する。角の丸い鉄板を用いるものと、角張ったものがある。63住と79住からまとまって出土した点が注意される。76住出土の鎖（71）は長さ2.5cm内外のO字型の環7個が絡まるもので、他に1点同一個体の環部片がある。馬具の一部であろうか。その他、建築金具の一部（93）や不明品が出土している。

(2)銅製品

A区の検出面より、外面に花弁状に刻みを施した環状の銅製品が出土している（98）。推定直径は7.5cmを測る。他に銭5点が住居址や検出面から出土している（30・31・87～89）。北宋銭では「淳化元寶」（初鋳990年）・「皇宋通寶」（1038年）・「熙寧元寶」（1068年）・「紹聖元寶」（1094年）、明銭では「洪武通寶」（1368年）がある。

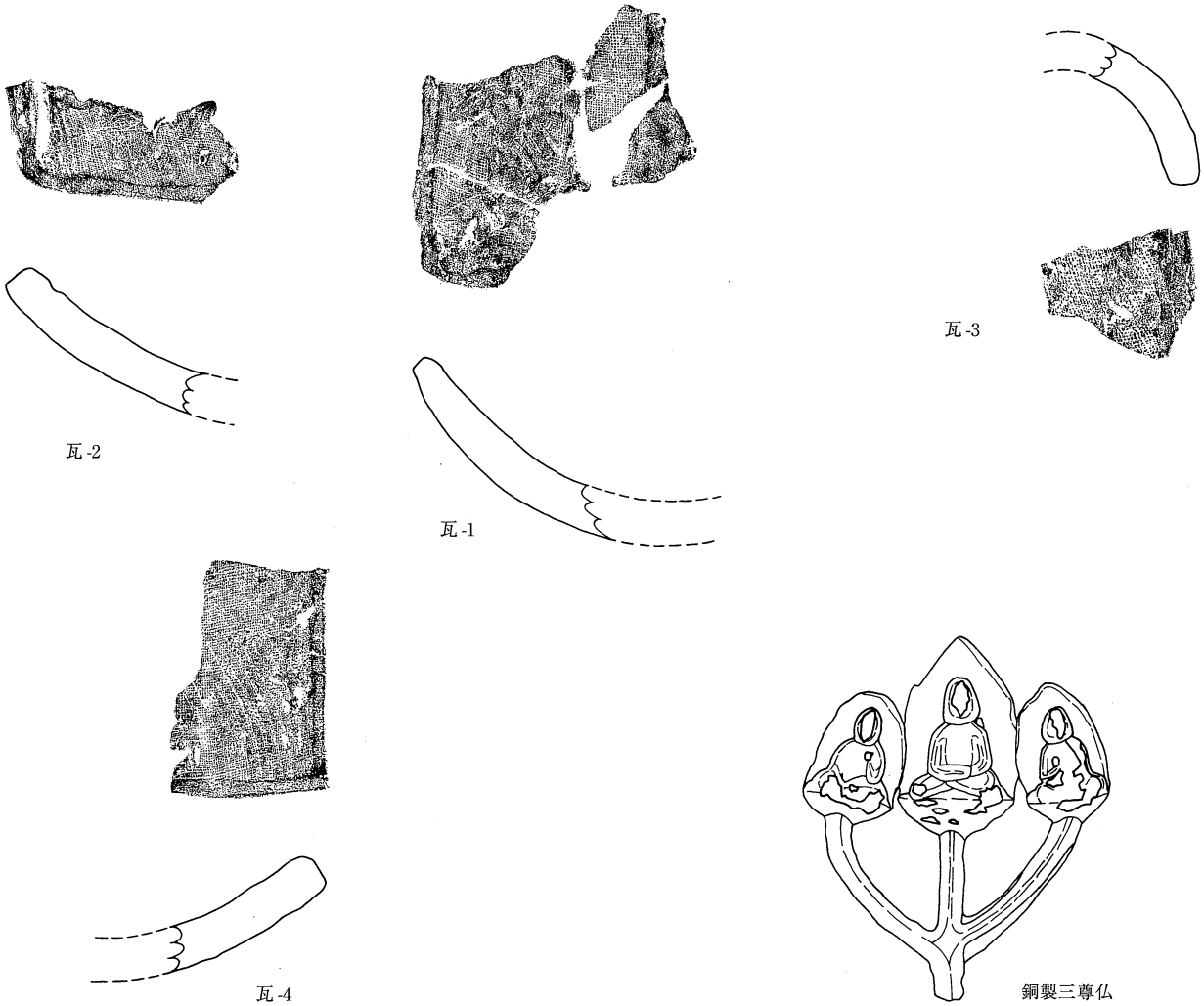
(3)その他

参考資料として第1次調査で出土した銅製三尊仏を掲載した（図版1、略測図：第44図）。高さ9.8cm、幅8.2cmの銅製三尊座像で、1本の茎から3本に分かれた茎上部に像が作られている。像容は摩耗しており不明である。当初は錫杖頭部の装飾と考えたが、上田市立信濃国分寺資料館学芸員倉澤正幸氏より、錫杖頭部とするには円形の輪形がなく、類例はみられないことから、可能性としては念持仏として台上に安置したものではないか、また当時は金銅仏であったのではないかとの教示を受けた。同市太田法楽寺遺跡においても小型の金銅製三尊仏が出土しているが、全国的にみてもこうした小型仏は伝世品等として知られるものが多く、考古学上発見されたものは少ないとのことである。そうした例も含めて、今後他例と比較検討をし、明らかにしていきたい。

第7表　平瀬遺跡金属製品一覧　　単位（長さ・幅・厚さ：mm、重量：g）、現存値、〈 〉は推定値

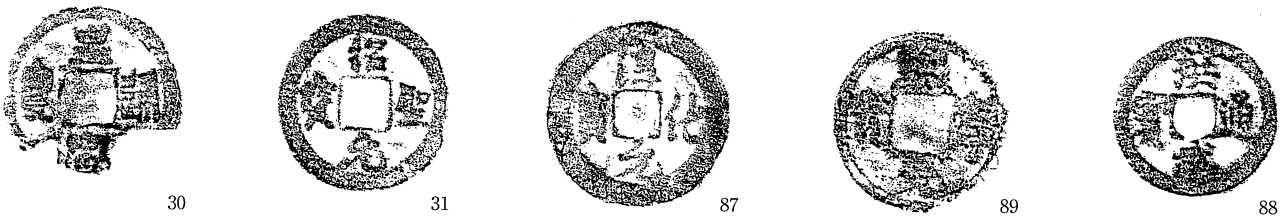
No.	遺構	図	種別	長さ	幅	厚さ	重量	図版	備考
1	5住	47	不明 環状鉄製品	34	7	－	8.40	－	5住－1
2	5住	47	釘	31	4	5	1.63	－	5住－2
3	5住	47	釘	25	5	4	1.25	－	5住－3
4	5住	47	釘	45	6	6	6.15	29	5住－5
5	6住	47	釘	69	6	5	4.46	29	6住－4
6	7住	47	釘	53	9	10	9.76	29	7住－5
7	7住	47	鎌	161	40	5	90.94	28	7住－7
8	7住	47	釘か	59	11	8	12.68	29	7住検
9	8住	47	釘	116	6	7	23.30	29	8住－7
10	9住	47	鋤・鍬	198	161	17	614.00	28	9住－18
11	10住	47	鏃	69	6	6	12.00	29	10住－2
12	10住	47	紡錘車	129	49	6	26.93	28	10住－7
13	10住	47	紡錘車（紡軸）	32	5	5	1.94	28	10住南東
14	11住	47	馬具（轡）	151	11	11	75.69	29	11住－1
15	11住	47	鉄鏃	167	22	7	24.54	29	11住－2
16	11住	47	釘	76	10	8	12.78	29	11住－15
17	11住	47	釘	56	5	5	4.38	29	11住ｶﾏﾄﾞ
18	13住	47	紡錘車（紡輪）	56	－	2	12.87	28	13住－2
19	15住	47	釘	64	4	5	4.57	29	15住－4
20	17住	47	苧引金具２片	〈82〉	19	2	8.80	－	17住北
21	19住	47	不明	23	30	6	7.23	－	19住－23
22	20住	47	釘	93	6	6	15.56	29	20住－4
23	20住	47	釘	65	7	4	4.15	29	20住北西
24	20住	47	釘	49	8	8	5.67	29	20住検
25	23住	47	刀子	101	16	5	12.64	28	23住－2
26	23住	47	不明	109	9	7	15.51	29	23住－3
27	23住	47	釘	88	8	6	12.43	29	23住－6
28	23住	47	刀子	35	9	4	2.27	－	23住－9
29	23住	47	刀子	47	15	3	6.27	28	23住北東
30	25住	46	銭（皇宋通寶）	－	24	1	1.70	46	25住－1
31	25住	46	銭（紹聖元寶）	－	22	1	2.65	46	25住－5
32	25住	47	釘	91	7	6	9.80	29	25住南東
33	25住	47	釘	44	4	4	2.63	29	25住北西
34	28住	47	刀子	90	12	3	7.72	28	28住－1
35	29住	47	刀子	〈204〉	16	5	19.96	28	29住－2
36	29住	47	鉄鏃	92	42	7	32.06	29	29住検
37	29住	47	釘	34	6	5	3.17	29	29住北西
38	30住	47	鋤・鍬	222	133	21	600.00	28	30住－14
39	30住	47	釘	25	7	5	4.82	29	30住－19
40	33住	47	釘	45	4	4	2.99	－	33住覆土
41	37住	48	釘	33	4	4	1.62	－	37住西覆土
42	40住	48	釘	52	5	7	9.04	－	40住東覆土
43	40住	48	不明	66	38	5	29.94	－	40住西覆土
44	45住	48	釘か	〈49〉	5	6	5.22	－	45住
45	51住	48	釘	67	7	5	6.28	29	51住－7
46	51住	48	苧引金具	25	30	2	3.87	－	51住覆土
47	52住	48	釘か	53	9	5	12.00	－	52住－6
48	52住	48	紡錘車（紡軸）	50	5	5	4.47	28	52住南西覆土
49	54住	48	釘	46	9	6	7.42	29	54住－4
50	54住	48	釘	37	8	5	4.54	29	54住北東
51	56住	48	紡錘車（紡輪）	47	－	10	16.38	28	56住南西覆土
52	56住	48	釘	61	7	6	5.62	29	56住南東覆土
53	57住	48	不明	77	7	4	5.58	－	57住－25
54	57住	48	釘か	51	9	7	8.43	－	57住北東
55	57住	48	鋏	73	16	5	13.46	29	57住南西
56	58住	48	鉄鏃	99	21	3	18.21	29	58住北東
57	60住	48	不明	39	11	4	4.36	－	60住－3
58	60住	48	釘	65	6	5	5.24	29	60住－11
59	60住	48	刀子	75	15	5	12.29	28	60住－27
60	60住	48	釘か	〈66〉	7	6	7.00	－	60住－32
61	60住	48	釘	86	10	10	27.35	29	60住－36
62	60住	48	釘	52	7	7	6.29	29	60住北西
63	60住	48	鎌か	36	21	3	4.23	－	60住北東
64	60住	48	釘	32	8	6	10.24	29	60住
65	62住	48	釘	64	9	6	12.27	－	62住南西
66	62住	48	紡錘車（紡軸）か	56	5	5	2.87	－	62住
67	63住	48	鉄鐸２点	小:44、大:60	小:11、大:11	小:10、大:9	小:6.84、大:12.38	28	63住－8
68	63住	48	鑿	46	15	6	15.69	－	63住－10
69	63住	48	鉄鏃	147	25	7	30.38	29	63住－13
70	76住	48	紡錘車（紡軸）	146	7	6	9.98	28	76住－13
71	76住	48	鎖	22～27	11～13	3～4	17.25	29	76住ｶﾏﾄﾞ８個つながる
72	79住	48	釘	69	7	7	8.34	29	79住－15
73	79住	48	鉄鐸１点	38	10	8	3.21	28	79住－16
74	79住	48	鉄鐸２点	小:40、大:53	小:15、大:11	小:14、大:11	小:9.90大:11.14	28	79住－18
75	79住	48	鉄鐸２点	小:38、大:42	小:11、大:12	小:10、大:10	小:3.84大:7.07	28	79住－49
76	79住	48	鏃	53	5	6	11.77	29	79住南西覆土
77	79住	48	刀子	51	13	4	2.14	－	79住南西覆土
78	80住	48	鉄鐸か	27	16	1	1.21	－	80住－15
79	44土	48	短刀	333	34	7	150.68	29	44土
80	53土	48	釘	33	5	5	1.50	29	53土覆土
81	57土	48	釘	69	5	4	3.96	29	57土覆土
82	59土	48	釘	75	7	7	13.43	－	59土
83	88土	48	釘	85	7	6	9.88	29	88土－1
84	1竪	48	釘	45	6	4	3.99	29	1竪－2

No.	遺　構	図	種　　別	長　さ	幅	厚　さ	重　　量	図版	備　　考
85	14溝	48	釘	30	4	3	1.10	－	14溝－1
86	グリッド	48	刀子か	73	9	3	5.57	－	N54－W30 －1
87	グリッド	46	銭（淳化元寶）	－	24	1	2.33	28	N24－W 3 －1
88	検出面	46	銭（洪武通寶）	－	21	1	3.01	28	検出面
89	検出面	46	銭（熙寧元寶）	－	22	1	2.73	28	検出面
90	検出面	48	鎹	64	9	9	13.94	29	検出面
91	検出面	48	刀子	53	13	4	8.26	28	２検覆土
92	検出面	48	紡錘車（紡軸）	53	5	6	3.58	28	P45付近検
93	検出面	48	建築金具か	44	20	2	5.89	29	検出面　２ヶ所穿孔、鋲状部品付
94	検出面	48	不明	62	5	5	3.44	29	検出面
95	検出面	48	釘	30	12	4	5.47	－	検出面
96	検出面	48	紡錘車（紡軸）か	39	5	5	5.50	－	北東検出面
97	検出面	48	刀子か	71	15	5	9.38	28	２Ｂ検出面
98	検出面	48	不明 環状銅製品	〈74〉	6	7	3.00	－	検出面北東

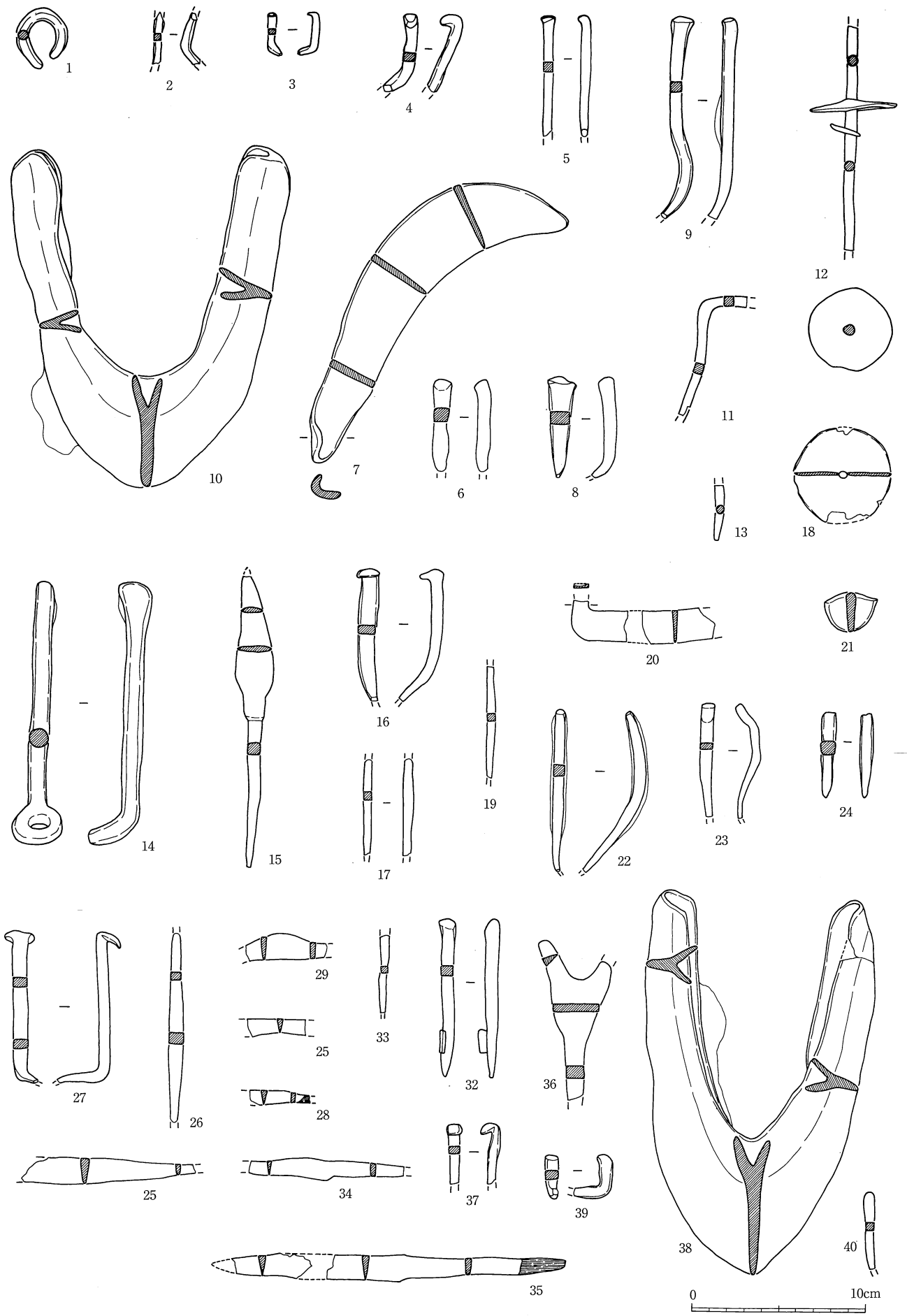


第43図　遺物拓影　実測図　瓦

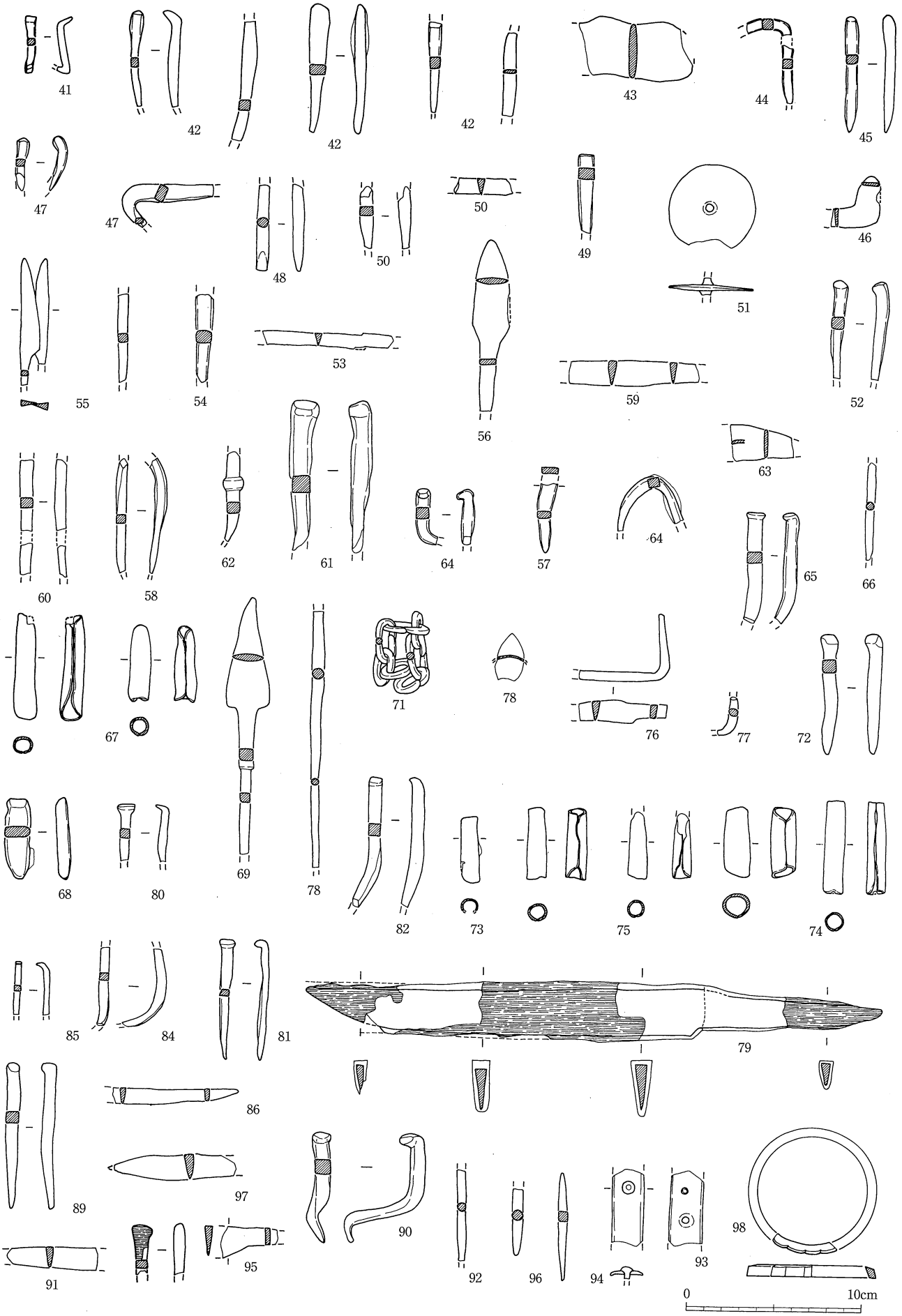
第44図　銅製三尊仏略測図（参考資料）



第45図　遺物拓影　銭貨（実物大）


1
2
3
4
5
9
12
10
7
6
8
11
13
18
14
15
16
17
19
20
21
22
23
24
27
26
29
25
28
33
32
36
38
40
25
34
37
39
35
0
10cm

第46図　金属製品（1）


41
42
42
42
43
44
45
47
47
48
50
50
49
46
51
55
54
53
56
59
52
60
58
62
61
64
57
64
63
65
66
67
71
78
76
77
72
68
80
69
78
82
73
75
74
85
84
81
79
86
89
97
90
91
95
92
96
94
93
98
0
10cm

第47図　金属製品（2）

4　石器

①　石器群の概要

平瀬遺跡第Ⅱ次調査では総点数347点、総重量421,371.8gを測る石器群を回収した。ⅡAB区では塼仏押型転用硯形石器等が出土し注目されるものの、ⅡAB区及びⅡC区の一部では石器の認定基準、回収基準及び回収精度に若干の問題があった。母岩識別・接合作業により得られる接合・同一母岩関係は石器の回収精度に直接的影響を受ける為、本項では以下平瀬遺跡Ⅱ石器群の中でも平瀬遺跡ⅡC石器群(総点数267点、総重量385,717.6g)を主な対象とし、平瀬遺跡ⅡC石器群の中でも特に回収率の高い対象区の石器群を平瀬遺跡ⅡC対象区石器群として区別して扱う(註1)。

主として平安時代に帰属すると考えられる竪穴住居址等より出土した、竈構築材と考えられる礫片を主体とする平瀬遺跡ⅡC石器群に対して母岩識別・接合作業を実施したところ、接合資料31例、総接合個体数78点及び、同一母岩資料11例、総同一母岩個体数19点、母岩別資料38母岩、総母岩別資料個体数97点を確認し得た(註2)。母岩別資料を構成する器種は多くが竈構築材と考えられる礫片類であり、従来石器として認識され、回収されることはなかったものと考えられる。それら母岩別資料の分布は単一遺構内であっても複数の層位に分布する場合や遺構間に分布する場合等、様々な状況が認められることが明らかとなった。また、単一遺構内においてのみならずⅡC対象区石器群としても同一母岩関係が認められない単独資料を多数確認した。単独資料はその個体数(母岩数)分の接合関係をⅡC対象区外かもしくは遺跡外と有していたものと考えられる。さらに、母岩別資料の分布を遺構間の土層単位で対比した結果、より詳細な共時態の把握が可能となった。

②　枠組の提示

石器の認定

本項では、従来使用されてきた機能名称は用いずに、なおかつそれぞれのタクソンについての分類基準、すなわちクライテリオンを明示するように努めた。広義の石器については「素材獲得技術痕跡の認められる個体」もしくは「人為的加工痕は認められないが出土状況等から人為的意図の想定し得る個体」と仮設した。竈という人為的構造物が竈構築土及び竈構築材から構成されているものとすれば、竈構築土に含まれる自然礫及び礫片等も竈構築段階に素材採取地において竈構築材として人為的に選択され、人為的に搬入された、すなわち広義の石器ということになる。同様に、住居址覆土上層に含まれる自然礫を含む個体も住居址覆土が洪水性礫層である場合等を除いては、人為的に搬入された可能性が高いものと考えられる。なお、本項では変色範囲が認められた個体は竈構築材であったものとして扱っている(註3)。

狭義の石器については「素材獲得技術痕跡及び二次加工技術痕跡の複合体」と仮設した。そして、二次加工の有無という定性的クライテリオンにより分離し得る、素材獲得技術構造及び二次加工技術構造というレベルの異なる構造の関係、すなわち構造間構造を石器製作技術システムと仮設した(註4)。

単位石器群の設定

時空間的に限定された調査区内における遺構―遺物関係論としての遺跡構造論的把握を目的とし、資料操作の基本的単位を遺構内より出土した個体群すなわち遺構単位石器群とした。そして遺構単位石器群により構成される構造体を、平瀬遺跡ⅡC石器群とした。遺物出土状況図を提示し得た遺構単位石器群については遺物取り上げ時に記録した標高最高値及び標高最低値を任意の断面図に投影し、原則として標高中央値で帰属層準を推定し、遺構単位の下位レベルとして遺構内土層単位石器群として扱った。下位レベルから遺構内土層単位－遺構単位－調査区単位－遺跡単位－遺跡群単位の順となる。

剥離面及び剥離痕等の分類

本項では通常剥離痕跡を「バルブ及びバルバースカーが最も発達すると考えられる、剥片剥離を目的とする加撃痕跡」、両極剥離痕跡を「リング及び潰れ状を呈する剥離痕が最も発達すると考えられる、台石上でなされたと考えられる剥片剥離を目的とする加撃痕跡」、分割痕跡を「剥片剥離を目的としないと考えられる、対象物をほぼ等分に剥離した痕跡」と仮設した。また、敲打痕跡を「剥片剥離を目的としないと考えられる、対象物に対して垂直になされたと考えられる加撃痕跡」とし、研磨痕跡を「加撃行為とは定性的に区別し得る、対象物を磨いた行為の痕跡」と仮設した。以上を明確な人為的加工痕跡とした。剥落痕跡については「明確な打点が認められない、礫片が分離した痕跡」と仮設した。

③　器種・石材概観　(第8～15表)

ここではⅡC対象区石器群の中でもSB51～80石器群に対象を限定し、器種・石材組成について概観しておきたい(註5)。

住居址単位石器群における器種平均組成率は石核1%未満、剥片1%未満、礫石器Ⅱ類2%、礫石器Ⅲ類1%未満、礫石器複合1%未満、礫片18%、礫片Ⅰ類17%、礫片Ⅱ類19%、礫片複合31%、砥石状石器12%となる。狭義の石器(礫石器類及び砥石状石器)の平均組成率の合計は14%、広義の石器の平均組成率の合計は86%であった。

同じく石材平均組成率は流紋岩8%、安山岩1%、閃緑岩1%未満、石英斑岩2%、花崗岩10%、硬砂岩58%、砂岩13%、頁岩2%、珪質凝灰岩1%未満、粘板岩1%、チャート2%、ホルンフェルス1%、珪岩1%となる。接合資料が認められた石材は流紋岩、石英斑岩、花崗岩、硬砂岩、砂岩、チャートであり、ⅡC石器群としての石材単位平均接合率は12%となる。

原産地が限定される黒耀岩及びホルンフェルスを除いては、平瀬遺跡東側を北流していたと考えられる奈良井川か、もしくはその氾濫原であると考えられる基盤層中において採集可能な石材を利用していたものと考えられる。

④　石器群概観　(第17表，第49～54図)

平瀬遺跡ⅡC石器群は、主に平安時代に帰属すると考えられる住居址等の遺構への帰属率は87%、住居址に帰属する個体の三次元座標記録率は79%であった。ここでは組成論同様、石器群としての議論に耐え得ないⅡAB石器群及びⅡC対象区外石器群は割愛し、ⅡC対象区内において検出した遺構より出土した石器群を遺構単位で概観しておきたい(註6)。

SB51石器群　SB51はSB65を切りSB66に切られる。Ⅰ～Ⅷ層が住居址埋没段階に、Ⅸ層が床面施設埋没段階に相当し、Ⅲ層及びⅨ層においてそれぞれ1点が出土したがいずれも単独資料である。調査区外にかかる為詳細は不明である。

SB52石器群(第49図)　SB52はSB67･73･(80)を切りSB79･SD12に切られる。Ⅰ･Ⅱ層が住居址埋没段階、Ⅲ～Ⅴ層が床面施設埋没段階、Ⅵ～Ⅸ層が竈構築段階に相当する。Ⅷ層(ピット6覆土)は竈構築土であるⅥ･Ⅶ層がのる為竈構築段階とした。竈構築段階に相当するⅨ層石器群は接合資料8点、同一母岩資料1点、単独資料1点の他、自然礫8点により構成される。Ⅷ層石器群は単独資料4点の他、自然礫7点により構成される。Ⅶ層石器群は接合資料1点の他、自然礫1点により構成される。Ⅵ層石器群は自然礫1点のみである。竈構築段階石器群としてみると接合資料9点、同一母岩資料1点、単独資料5点の他、17点の自然礫より構成される。竈は天井部及び袖部が一部破壊されていると考えられるものの、石器含有率47%、接合率60%、単独率19%であることから、すでに割れたもの、すなわち母岩状態ではない単独資料が竈構築材として19%程度は含まれていたことになる。床面施設埋没段階に相当するⅢ層(ピット13覆土)石器群は接合資料1点、自然礫1点より構成される。住居址埋没段階に相当するⅡ層石器群は接合資料8点、単独資料2点の他、自然礫9点より構成される。Ⅰ層石器群は接合資料9点、単独資料10点の他、自然礫18点により構成される。石器及び自然礫の標高はⅡ層としたものでも床面に接する個体はほとんどなく、Ⅰ層とⅡ層の層理面付近にピークがあることから、SB52廃絶後の跡地に搬入され、備蓄されたものと考えられる。多少の搬出入はあったと考えられるが住居址埋没段階石器群としてみると、接合資料17点、単独資料12点の他、自然礫27点により構成され、石器含有率52%、接合率59%、単独率21%となることから、単独資料が21%程度は含まれていたことになる。

母岩別資料の分布が竈構築材と関係を有する個体群と、SB52南東部覆土中層に集中分布する個体群とに分離し得ることからも、竈構築段階石器群と住居址埋没段階石器群の形成時期に時間差があったものと考えられる。

SB53石器群　SB53は住居址と認定し難い為対象外とした。SB52･67･73覆土上部を別の住居址と誤認した可能性がある。

SB54石器群　SB54はSB64を切りSB56･78に切られる。Ⅰ･Ⅱ層共に住居址埋没段階に相当する。Ⅱ層では石器、自然礫共に出土していないが、Ⅰ層石器群は単独資料4点の他、自然礫10点より構成される。調査区外にかかる為詳細は不明である。

SB55石器群(第53図)　SB55は住居址と認定し難いものであるが、母岩別資料が含まれる為、層毎に概観しておく。Ⅱ層石器群は接合資料2点、同一母岩資料1点の他、自然礫8点により構成される。Ⅰ層では石器、自然礫共に出土していない。遺構間接合関係はSB67に認められた。石器、自然礫の回収精度にも問題があった為、石器群の信頼度は低く、対象外とした。

SB56石器群　SB56はSB54･68･78を切る。住居址埋没段階に相当するⅠ･Ⅱ･Ⅲ層が認められた。同一母岩資料1点、単独資料1点の他、自然礫25点により構成される。HSa07は78とSB52Ⅸ層石器群の33との同一母岩関係である。78が長期間にわたって使用された個体でないとするならばSB52竈構築段階にはSB56はすでに廃絶しており、Ⅱ層もしくはⅠ層が堆積中にSB56跡地に搬入されたか、逆に33を搬出したものと考えられる。調査区外にかかる為詳細は不明である。

SB57石器群　SB57はSB76を切る。石器及び土器は出土しているが竈の痕跡すら認められず、住居址として認定し難い為対象外とした。SB76覆土上部を別の住居址として誤認した可能性もある。石器及び自然礫の回収基準が対象区とは異なる為、遺構単位石器群としての信頼度は低い。

SB58　SB58はSB54･56を切る。石器、自然礫共に出土していない。調査区外にかかる為詳細は不明である。

SB60石器群(第51図)　SB60はSB61･63･77を切る。竈構築段階に相当するⅤ層石器群は接合資料2点、自然礫1点より構成される。竈は天井部及び南北両袖部が破壊されたと考えられる。石器含有率67%、接合率100%、単独率0%となる。床面施設埋没段階に相当するⅢ層(ピット5覆土)石器群は同一母岩資料1点により構成される。住居址埋没段階に相当するⅡ層石器群は接合資料2点、単独資料2点の他、自然礫8点により構成される。同じく、Ⅰ層石器群は接合資料2点の他、自然礫8点により構成される。Ⅱ層石器群にはSB60中央部に床面に接して分布する個体が多い。Ⅰ層石器群にはSB60東半部において中層に分布するものと上層に分布するものに分離し得ると考えられる。Ⅴ層石器群とⅡ層石器群にHSa15 R18が分布することから、竈構築材として用いられた石器及び自然礫が竈破壊時に床面中央部に遺棄されたものと考えられる。

SB61石器群(第52図)　SB61はSB68を切りSB60･63･(77)に切られる。竈の痕跡は認められなかった。住居址埋没段階に相当するⅠ･Ⅱ層が認められ、Ⅱ層石器群は自然礫2点より、Ⅰ層石器群は単独資料1点の他、自然礫22点より構成される。住居址埋没段階石器群としてみると、石器含有率4%、接合率0%、単独率4%となる。Ⅰ･Ⅱ層石器群共に住居址中央部において床面に接するか、もしくは床面に近い個体が多く、SB61竈破壊時に床面に遺棄されたか、もしくはSB61廃絶後覆土形成以前に搬入されたものと考えられる。ⅡC対象区において接合･同一母岩関係が認められない孤立した住居址である。

SB63石器群(第51図)　SB63はSB61･77を切りSB60に切られる。竈は東壁北側に袖部が一部残存し、竈構築材を抜き取ったと考えられるピット及び焼土範囲が認められた。竈構築段階に相当するⅧ層では石器、自然礫共に出土していない。床面施設埋没段階に相当するⅦ層(竈覆土)石器群は自然礫1点のみより構成される。Ⅵ層(ピット22覆土)石器群は同一母岩資料1点より構成される。HSa19はN27-30EW0グリッド回収個体との同一母岩関係である。住居址埋没段階に相当するⅢ･Ⅳ･Ⅴ層は石器、自然礫共に出土していない。Ⅱ層石器群は自然礫1点、Ⅰ層石器群は同一母岩資料1点、単独資料1点の他、自然

礫1点より構成される。Gr01はSB52Ⅸ層石器群21･22との同一母岩関係である。覆土中層以上をSB60に切られる為詳細は不明であるが、竈廃絶後に竈構築材がほとんどすべて住居址外に搬出されたものと考えられる。

SB64石器群　SB64はSB54･78に切られる。住居址埋没段階に相当するⅠ･Ⅱ層が認められたが、Ⅰ層より単独資料1点が出土したのみである。調査区外にかかる為詳細は不明である。

SB65石器群　SB65はSB51･66に切られる。住居址埋没段階に相当するⅠ層及び床面施設埋没段階に相当するⅡ層が認められたが三次元座標不明の単独資料が1点出土したのみである。調査区外にかかる為詳細は不明である。

SB66　SB66はSB51を切る。石器、自然礫共に出土していない。調査区外にかかる為詳細は不明である。

SB67石器群(第53図)　SB67はSB73･74を切りSB52に切られる。SB67覆土上部はSB54･55として誤認された可能性がある。西壁中央には竈の痕跡と考えられる張り出し部及び焼土範囲が認められる。床面施設埋没段階に相当するⅢ層(ピット3覆土)石器群は単独資料2点の他、自然礫1点により構成される。住居址埋没段階に相当するⅡ層石器群は、接合資料1点の他、自然礫6点により構成される。Ⅰ層石器群は接合資料1点、単独資料1点の他、自然礫1点により構成される。住居址埋没段階石器群としてみると、接合資料2点、単独資料1点の他、自然礫7点より構成され、石器含有率33%、接合率67%、単独率11%となる。HSa20 R21は床面焼土範囲に接する109と覆土中層に分布する112との接合資料である。

SB68(第52図)　SB68はSB61に切られる。住居址埋没段階に相当するⅠ層及び床面施設埋没段階に相当するⅡ･Ⅲ層(ピット4覆土)が認められた。Ⅰ層には自然礫22点がSB68南西部に集中して分布する。調査区外にかかる為詳細は不明である。

SB69石器群(第54図)　ⅡC対象区内において唯一切り合い関係が認められない孤立した住居址である。竈構築段階に相当するⅥ層石器群は単独資料1点の他、自然礫5点により構成される。Ⅴ層石器群は接合資料6点の他、自然礫6点より構成される。竈構築段階石器群としてみると接合資料6点、単独資料1点の他、自然礫11点より構成される。竈は天井部が破壊されたと考えられる。石器含有率は39%、接合率86%、単独率5%となる。HSa09 R13は6点が接合しほぼ母岩形状にまで復元されたことから、竈構築段階には1点の自然礫であったものが竈使用時かもしくは竈破壊時に6点に分離したものと考えられ、竈構築段階の石器含有率及び接合率はさらに低率を呈することになる。床面施設埋没段階に相当するⅣ層(竈覆土)石器群は自然礫2点により構成される。天井部に含まれていた構築材が落下したものとも考えられる。Ⅲ層(ピット1･3覆土)石器群は自然礫2点により構成される。住居址埋没段階に相当するⅡ層石器群は単独資料1点の他、自然礫36点により構成される。Ⅰ層石器群は接合資料2点、単独資料4点の他、自然礫27点により構成される。住居址埋没段階石器群としてみると接合資料2点、単独資料5点の他、自然礫63点より構成され、石器含有率10%、接合率29%、単独率7%となる。断面投影図からは壁際に石器及び自然礫の含まれない空間があり、所謂三角堆積土を見逃している可能性がある。壁際を除いては床面から住居址覆土上層まで個体の分布が認められ、継続的な跡地利用がなされたものと考えられる。

SB73石器群(第53図)　SB73はSB74･75を切りSB67･52に切られる。Ⅰ･Ⅱ層が住居址埋没段階に、Ⅲ･Ⅳ層が竈構築段階に相当する。竈は東壁中央部において、ほぼ完存状態で確認した。竈構築段階に相当するⅣ層は石器、自然礫共に出土していない。Ⅲ層石器群は接合資料1点、単独資料3点の他、自然礫30点により構成される。竈構築段階石器群は石器含有率12%、接合率25%、単独率9%となる。HSa05 R07はSB52竈構築段階石器群構成個体である24との接合資料である。住居址埋没段階に相当するⅡ層石器群は自然礫1点により構成される。Ⅰ層石器群は石器、自然礫共に出土していない。住居址埋没段階石器群としてみても床面に接する自然礫1点のみより構成されることになり、住居址廃絶後の跡地利用がほとんどなされなかったものと考えられる。

SB74(第53図)　SB74はSB73に切られる。住居址埋没段階に相当するⅠ層より自然礫2点が出土したのみである。

SB75(第53図)　SB75はSB73に切られる。住居址埋没段階に相当するⅠ･Ⅱ層が認められたが石器、自然礫共に出土していない。SB73の段状施設を別の住居址と誤認している可能性がある。

SB76石器群(第54図)　SB76はSB57に切られる。ただしSB57は住居址と認定し難いものであり、SB76覆土上部がSB57と誤認された可能性がある。竈は西壁南部に認められた。竈構築段階に相当するⅥ層石器群は単独資料2点の他、自然礫17点により構成される。石器含有率11%、接合率0%、単独率11%となる。竈両袖部先端付近にそれぞれ1点ずつ単独資料が竈構築材として用いられている。床面施設埋没段階に相当するⅤ層(竈覆土)では石器、自然礫共に出土していない。Ⅳ層(竈覆土)石器群は単独資料1点の他、自然礫4点により構成される。Ⅲ層(竈覆土)石器群は自然礫2点により構成される。Ⅱ層(ピット2覆土)石器群は自然礫1点により構成される。床面施設埋没段階石器群としてみると単独資料1点の他、自然礫7点より構成され、石器含有率13%、接合率0%、単独率13%となる。住居址埋没段階に相当するⅠ層石器群は接合資料2点、単独資料5点の他、自然礫56点により構成され、石器含有率11%、接合率29%、単独率8%となる。床面に接する個体が多いことから、竈破壊後跡地利用がなされなかったか、もしくは住居址廃絶直後から跡地利用がなされたものと考えられる。

SB77(第51図)　SB77はSB79竈煙道部を切り、SB63･60に切られる。石器、自然礫共に出土していない。

SB78石器群　SB78はSB54･64を切りSB56に切られる。住居址埋没段階に相当するⅠ～Ⅳ層が認められたがⅢ層より単独資料1点の他、自然礫1点が出土したのみである。調査区外にかかる為詳細は不明である。

SB79石器群(第50図)　SB79はSB80･52を切りSB77に竈煙道部を切られる。覆土中層(Ⅰ-Ⅱ層層理面付近)に焼土範囲及び炭化物が検出されたことから所謂焼失住居址とも考えられる。竈は西壁南部に認められた。竈構築段階に相当するⅤ～Ⅷ層石器群は接合資料3点、同一母岩資料1点、単独資料2点の他、自然礫5点により構成され、石器含有率55%、接合率50%、単独率28%となる。床面施設埋没段階に相当するⅣ層(竈覆土)石器群は接合資料7点の他、自然礫2点より構成され、石器

含有率78%、接合率100%、単独率0%となる。住居址埋没段階に相当するⅢ層石器群は接合資料3点、単独資料2点の他、自然礫4点により構成される。Ⅱ層石器群は接合資料1点、同一母岩資料1点の他、自然礫2点より構成される。Ⅰ層石器群は単独資料1点の他、自然礫4点により構成される。住居址埋没段階石器群としてみると接合資料4点、同一母岩資料1点、単独資料3点の他、自然礫10点により構成され、石器含有率44%、接合率50%、単独率22%となる。HSa26 R27は竈覆土石器群構成個体とⅢ層石器群の中でも床面に接する個体の接合資料であり、SB79竈破壊時にSB79南東部に多くの個体が遺棄されたものと考えられる。

SB80石器群(第50図) SB80はSB79に切られる。竈は痕跡として西壁中央北よりに確認された。床面施設埋没段階に相当するⅥ層(竈覆土)石器群は同一母岩資料1点及び単独資料1点の他、自然礫4点より構成される。Ⅴ層(ピット2覆土)石器群は自然礫2点より構成される。床面施設埋没段階石器群としてみると同一母岩資料1点及び単独資料1点の他、自然礫6点より構成され、石器含有率25%、接合率0%、単独率25%となる。住居址埋没段階に相当するⅠ～Ⅳ層石器群は接合資料1点、同一母岩資料1点、単独資料2点の他、自然礫3点より構成され、石器含有率57%、接合率25%、単独率43%となる。接合資料の切り合いから本来SB79に帰属する個体の一部が混入した可能性が判明している。竈は焼土面(所謂火床)が確認されたのみであり、SB80廃絶段階以後竈は破壊され、竈構築材の多くが住居址外に搬出されたものと考えられる。

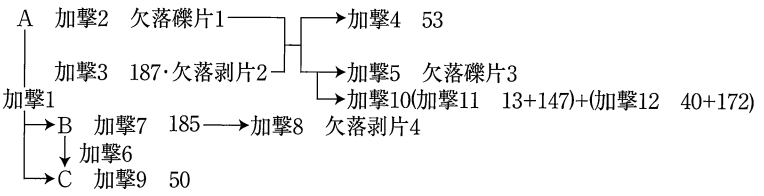
第12号溝石器群(第49・53図) SD12はSB52・79を切る。住居址との切り合い部付近では本来SB52・79に帰属すると考えられる変色範囲の認められる礫片類が多く組成され、切り合いを持たない部分では自然礫が多く組成された。

以上、ⅡC対象区内の遺構単位石器群について概観してきた。竈袖部構築土及び竈袖部構築材が残存する住居址では床面も含め住居址埋没段階に石器及び自然礫がより多く搬入され積極的かつ継続的な跡地利用が多く認められ、竈袖部構築土及び竈袖部構築材が残存しない住居址ほど住居址埋没段階の跡地利用が少ないといったように、竈残存状況と住居址跡地利用状況には相関傾向が認められた。なお竈天井部が残存するSB73では跡地利用の痕跡は認められなかった。

⑤ 母岩別資料概観 (第16表, 第55～62図)

平瀬遺跡ⅡC対象区石器群に対し母岩識別・接合作業を実施したところ接合資料31例、総接合個体数78点及び、同一母岩資料11例、総同一母岩個体数19点を確認し得た。法量が大きく、礫面残存率の高い個体が多く、容易に母岩形状が推定し得た為、若干不安の残る個体についてもすべて単独資料としてはいるものの、母岩識別率はほぼ100%に近いものと考えられる。ここでは母岩別資料を概観した後、単独資料についても概観しておきたい(註7)。

第1号母岩(HSa01 R01)



接合資料10点及び、同一母岩資料2点(100,238)により構成される。分布は接合資料がSB52Ⅰ・Ⅱ層、SB79Ⅱ層及びSD12に、同一母岩資料がSB79及びSD12に認められた。推定最大長552mm、現存重量34,895.0gを測る偏平礫を素材としており、残存率は7/8程度である。剥離・分割面と変色範囲との切り合いから母岩状態ですでに変色しており、他の住居址において竈構成礫として用いられていたものが、すでに廃絶していたSB52跡地に母岩状態で搬入されたと考えられる。搬入後まず、両極剥離と考えられる加撃1でAと(B+C)に分離している。Aは加撃2・3の前後関係が不明であるが、加撃2により欠落礫片1が分離し、加撃3により187及び欠落剥片2を同時剥離している。続いて加撃4・5の前後関係は不明であるが、加撃4により53を剥離し、加撃5により欠落礫片3を分離し、打面を転移して加撃10により(13+147)と(40+172)に分離している。(13+147)は欠落礫片1との接合面を切り欠落礫片3との接合面に切られる変色範囲が認められることから、Aは欠落礫片1が分離した段階から53が分離した段階までに一度他の住居址に搬出され、竈構築材として用いられたと考えられる。欠落礫片3はおそらくは対象区外であろう搬出先において加撃5により分離し、回収されなかったものと考えられる。

(B+C)は加撃6によりBとCに分離される。Bは加撃6・7の前後関係は不明であるが、加撃7により185を剥離し、加撃8により欠落剥片4を剥離し51が残核となる。Cは加撃6の分割面を打面とし、加撃9により50を剥離し49が残核となる。

以上の加撃1・3・4・6・7・8・9により形成された個体の多くはSB52南東部Ⅰ・Ⅱ層に集中分布していることから、SB52跡地南東部において展開された作業段階であると考えられる。しかし(13+147)及び(40+172)は、この段階で形成された剥離・分割面を切る変色範囲が認められることから、剥離面の切り合い関係のみからでは知り得ない次なる段階の存在が浮かび上がる。

(13+147)は加撃5により欠落礫片3が分離する以前に他の住居址に搬出され竈構築材として用いられたと考えられ、その後加撃11により13と147とに分離している。加撃11が搬出先において行われたのかSB52跡地において行われたかは不明であるが、13は分離した後に再びSB52跡地に搬入され、147は13との接合面を切る変色範囲が認められることから、さらに他の住居址に搬出され竈構築材として用いられ、最終的に廃絶していたSB79跡地北西部に搬入されたものと考えられる。

(40+172)は加撃12により40と172とに分離している。前段階に形成された剥離・分割面及び、加撃12により形成された40－172接合面を切る変色範囲が認められることから、他の住居址に搬出され竈構築材として使用され、その後40はSB52跡地中央部に、172はSB79跡地南東部に搬入されたものと考えられる。

以上の剥離・分割面及び変色範囲の切り合い関係から復元した搬出及び搬入の関係は、40の標高ががやや低いことを除いては、SB52がSB79に切られるという遺構の切り合い関係とも整合する。

第2号母岩(HSa02 R02) [173→(14+17)] 接合資料3点により構成される。分布はSB52Ⅸ層及びSB79に認められた。残存率は1/8程度である。右側縁の分割面に変色範囲が切られることから173分離以前に他の住居址において竈構築材として用いられた後に、接合状態か分離状態かは不明であるがSB52に搬入され、14は竈北側袖構築材に、17は竈南側袖構築材に用いられたと考えられる。剥離面及び分割面の切り合い関係からは173は14+17分離以前に分離しており、SB52を切るSB79に173が含まれること自体が矛盾することから、他の住居址に搬出され、最終的にSB79に搬入されたものと考えられる。

第3号母岩(HSa03 R03) [171→(272+15)] 接合資料3点により構成される。分布はSB55Ⅱ層、SB79Ⅳ層及び排土に認められた。残存率は1/8程度である。接合状態図右側縁の分割面に変色範囲が切られることから、171分離以前に他の住居址において竈構築材として使用されていたと考えられる。剥離・分割面の切り合いからは171分離後欠落礫片が分離し、その後272と15に分離したことになり、それぞれ分離した状態で搬入されたものと考えられる。

第4号母岩(HSa04 R04) [16+18] 接合資料2点より構成される。分布はSB52Ⅸ層に認められた。残存率は7/8程度である。16は竈構築土に含めたが袖部推定範囲よりやや外れており、上端部→左側面の順に欠落礫片が4点以上分離しその後16と18が分離していることからSB52竈構築段階には接合状態であったと考えられ、竈破壊段階に分離し、欠落礫片は他の住居址に搬出されたものと考えられる。

第5号母岩(QPo01 R05) [19+222] 接合資料2点より構成される。分布はSB52Ⅸ層及びSD12に認められた。残存率は1/4程度である。19はSB52竈構築材に用いられていることから竈構築段階には分離していたことになる。222は分離後おそらく廃絶していたであろうSB52跡地もしくはSB79跡地に搬入され、その後SD12構築段階に人為的に移動したものと考えられる。

第6号母岩(Gr01 R06) [21+22] 接合資料2点及び同一母岩資料1点(103)により構成される。接合資料の分布はSB52Ⅸ層に、同一母岩資料の分布はSB63Ⅰ層に認められた。残存率は1/4程度である。接合面が変色範囲を切ることから、SB52竈構築段階ですでに分離していたものと考えられる。103はSB52を間接的に切るSB63Ⅰ層に分布していることから、SB63廃絶後に搬入されたものと考えられる。

第7号母岩(HSa05 R07) [24+128] 接合資料2点より構成される。分布はSB52Ⅶ層及びSB73Ⅲ層に認められた。残存率はほぼ1/1である。接合面が変色範囲を切ることから母岩状態で他の住居址において竈構成礫として使用されていたと考えられる。分離後128はSB73竈構築材、24はSB52竈構築材として用いられたものと考えられる。土器型式期ではSB73は11～12期、SB52は15期に帰属すると考えられることから、少なくとも2型式期以上の時間差がある。

第8号母岩(HSa06 R08) [27+36] 接合資料2点より構成される。分布はSB52Ⅰ・Ⅸ層に認められた。残存率は1/8程度である。接合面が変色範囲に切られることから、SB52構築段階にはすでに分離しており、36はSB52竈構築材として使用されている。27は分離後他の住居址に搬出され変色し、最終的にすでに廃絶していたSB52跡地に搬入されたものと考えられる。

第9号母岩(HSa07) 同一母岩資料2点(33,78)より構成される。分布はSB52Ⅸ層及びSB56Ⅰ層に認められた。接合資料ではない為信頼度は劣るが、33と78はSB52竈構築段階には分離しており、33はSB52竈構築材として使用され、78はすでに廃絶していたSB56跡地に搬入されたものと考えられる。

第10号母岩(Rh01 R09) [42+43] 接合資料2点及び同一母岩資料1点(186)より構成される。分布はSB52Ⅱ層及びSD12に認められた。残存率は1/2程度である。

第11号母岩(Gr02 R10) [45+52] 接合資料2点より構成される。分布はSB52Ⅱ層に認められた。残存率は7/8程度である。母岩状態ですでに変色しており、52分離後欠落礫片が分離し、45が残核となる。他の住居址において竈構築礫として用いられていたものが、すでに廃絶していたSB52跡地に搬入されたものと考えられる。

第12号母岩(Sa01 R11) [46+47] 接合資料2点より構成される。分布はSB52Ⅰ層に認められた。残存率は1/6程度である。砥石状石器より分割されたものであるが、研磨面を切る変色範囲が認められ、さらに接合面である分割面に切られている。

第13号母岩(HSa08 R12) [54+59] 接合資料2点により構成される。分布はSB52Ⅰ層に認められた。残存率は3/8程度である。接合面が変色範囲を切ることから接合状態ですでに変色していたと考えられ、分離後少なくとも2点以上の欠落礫片及び欠落剥片が分離していることから、SB52跡地に搬入される段階ですでに分離していたものと考えられる。

第14号母岩(HSa09 R13) [58・124+(56+57)+(122+123)] 接合資料6点により構成される。分布はSB69Ⅴ層に認められた。残存率はほぼ1/1である。接合面は変色範囲を切ることから接合状態ですでに変色しており、SB69竈構築段階には母岩状態で搬入され、構築材として使用されたものが分離したものと考えられる。

第15号母岩(HSa10 R14) [61+63] 接合資料2点により構成される。分布はSB52Ⅰ層に認められた。残存率は7/8程度である。接合面が変色範囲を切ることから母岩状態で他の住居址において竈構成礫として用いられたと考えられる。その後少なくとも欠落剥片2点及び欠落礫片1点が分離し、接合状態か分離状態か不明であるがSB52跡地に搬入されたと考えられる。

第16号母岩(Gr03 R15) [62+235] 接合資料2点により構成される。分布はSB52Ⅱ層及びSD12に認められた。残存率は1/4程度である。接合面が変色範囲に切られることから分離状態で他の住居址において竈構成礫として用いられたと考えられ、62は分離状態でSB52跡地に搬入されたものと考えられる。

第17号母岩(HSa11 R16) [64+233] 接合資料2点により構成される。分布はSB52Ⅲ層及びSD12に認められた。残存率は1/4程度である。接合面が変色範囲を切ることから母岩状態で他の住居址において竈構成礫として使用されていたと考えられ、下端の欠落礫片が分離した後、64は分離状態でSB52跡地に搬入されたものと考えられる。

第18号母岩(HSa12) 同一母岩資料2点(71,75)より構成される。分布はSB55及び排土に認められた。

第19号母岩(HSa13)　同一母岩資料2点(72,73)より構成される。分布はSB55 Ⅱ層に認められた。

第20号母岩(HSa14 R17) [74+106]　接合資料2点より構成される。分布はSB55 Ⅱ層及びSB67に認められた。

第21号母岩(HSa15 R18) [87+89+94]　接合資料3点により構成される。分布はSB60 Ⅱ・Ⅴ層に認められた。接合面が変色範囲に切られることから、SB60竈構築段階にはすでに3点に分離しており、87と89はSB60竈構築材として使用されている。94はSB60床面に接した状態で出土しており、住居址廃絶段階に竈が破壊され、遺棄されたものと考えられる。

第22号母岩(HSa16 R19) [91+188]　接合資料2点及び同一母岩資料1点(159)より構成される。分布は接合資料がSB60 Ⅱ層及びSD12に、同一母岩資料がSB79 Ⅴ～Ⅷ層に認められた。残存率は1/2程度である。

第23号母岩(Ch01 R20) [93+92]　接合資料2点により構成される。分布はSB60 Ⅰ層に認められた。残存率は1/1である。接合面が変色範囲を切ることから、母岩状態で他の住居址において竈構成礫として使用されていたものと考えられる。母岩状態か分離状態かは不明であるが、共に廃絶していたSB60跡地に搬入されたものと考えられる。

第24号母岩(HSa17)　同一母岩資料2点(95,152)より構成される。分布はSB60 Ⅲ層及びSB79 Ⅱ層に認められた。接合資料ではない為信頼度は劣るが、95がSB60 Ⅲ層、すなわち床面施設埋没段階に、152が廃絶していたSB79跡地に搬入されたものと考えられる。この関係は遺構の切り合い関係と整合する。

第25号母岩(HSa18)　同一母岩資料2点(99,177)により構成される。分布はSB79及びSB80 Ⅳ層に認められた。

第26号母岩(HSa19)　同一母岩資料2点(104,242)により構成される。分布はSB63 Ⅵ層及びN27-30EW0グリッドに認められた。

第27号母岩(HSa20 R21) [109+112]　接合資料2点より構成される。分布はSB67 Ⅰ・Ⅱ層に認められた。残存率は1/2程度である。109はSB67竈の痕跡と考えられる焼土範囲に接した状態で、112はSB67北部Ⅰ層より出土しており、接合面が変色範囲を切ることからも接合状態でSB67において竈構築材として使用されていたものと考えられる。

第28号母岩(HSa21 R22) [116+120]　接合資料2点により構成される。分布はSB69 Ⅰ層に認められた。残存率は7/8程度である。接合面が変色範囲を切るが、接合状態図背面左側縁に変色範囲に切られる剥離痕が認められることから、まず欠落剥片が剥離され、他の住居址において接合状態で竈構築材として用いられ、接合状態か分離状態かは不明であるが最終的にすでに廃絶していたSB69跡地に搬入されたものと考えられる。

第29号母岩(HSa22 R23) [133+134]　接合資料2点により構成される。分布はSB76 Ⅰ層に認められた。残存率は3/4程度である。接合面が変色範囲を切るが、接合状態図背面に変色範囲に切られる剥離・剥落面が認められることから、SB76もしくは他の住居址において接合状態で竈構築材として用いられたものが、SB76跡地に搬入されたものと考えられる。

第30号母岩(HSa23 R24) [143+168]　接合資料2点により構成される。分布はSB79 Ⅴ～Ⅷ層に認められた。残存率は5/8程度である。接合面は変色範囲に切られることから、SB79竈構築段階には分離しており、168は竈構築材に用いられている。143は標高は不明であるがSB79南東より出土している。変色は認められない。

第31号母岩(HSa24 R25) [149+150]　接合資料2点により構成される。分布はSB79 Ⅳ層に認められた。残存率は1/2程度である。接合面が変色範囲を切ることから、接合状態で竈構築材に用いられていたと考えられる。近接状態で出土しており、SB79竈破壊段階の加撃によりクラックが生じていたものが遺物取り上げ時に分離したものとも考えられる。

第32号母岩(HSa25 R26) [151+160]　接合資料2点により構成される。分布はSB79 Ⅲ・Ⅳ層に認められた。残存率は1/1である。接合面が変色範囲を切ることから母岩状態で竈構築材に用いられていたと考えられる。160はSB79竈覆土に、151はSB79竈周辺において床面に接した状態で出土していることから、SB79竈破壊段階に分離したものとも考えられる。

第33号母岩(HSa26 R27) [153+165]　接合資料2点により構成される。分布はSB79 Ⅲ・Ⅳ層に認められた。残存率は3/16程度である。接合面が変色範囲を切ることから母岩状態で竈構築材に用いられていたと考えられる。165はSB79竈覆土に、153はSB79南東部床面より出土していることから、SB79竈破壊段階に分離したものとも考えられる。

第34号母岩(HSa27 R28) [166→(154+157)]　接合資料3点より構成される。分布はSB79 Ⅳ・Ⅴ～Ⅷ層及びSB80 Ⅳ層に認められた。残存率は1/1である。接合面が変色範囲を切ることから母岩状態で竈構築材に用いられていたと考えられる。剥離・分割面の切り合いからはまず166が分離し、その後154・157が分離したことになる。166はSB79竈構築土に、157はSB79竈構築土に含まれており、166分離以前すなわちSB79竈構築段階以前には分離し得ない154がSB80覆土に含まれることはあり得ない。ゆえに154はSB79の床面施設に伴っていたものであるが検出の失敗によりSB80に混入したものとも考えられる。

第35号母岩(HSa28 R29) [156+174]　接合資料2点より構成される。分布はSB79 Ⅲ層に認められた。残存率は7/8程度である。接合面が変色範囲を切ることから母岩状態で竈構築材に用いられていたと考えられる。

第36号母岩(HSa29 R30) [169+170]　接合資料2点より構成される。分布はSB79 Ⅳ・Ⅴ～Ⅷ層に認められた。残存率はほぼ1/1である。接合面が変色範囲を切ることから母岩状態で竈構築材に用いられていたと考えられる。170はSB79竈構築土に、169はSB79竈覆土より出土していることから、SB79竈破壊段階に分離したものとも考えられる。

第37号母岩(Gr04)　同一母岩資料2点(180,230)より構成される。分布はSB80 Ⅵ層及びSD12に認められた。接合資料ではない為信頼度は劣るが、180はSB80 Ⅳ層すなわち竈覆土より、230はSD12より出土している。

第38号母岩(HSa30 R31) [197+198]　接合資料2点より構成される。分布はSD12に認められた。変色範囲は認められない。

単独資料161　161はSB79竈構築土に含まれていた個体が取り上げ時に6点に分離したものである。背面上半に認められる剥落面が変色範囲に切られ、すべての接合面が変色範囲に切られることから、他の住居址において竈構築材として用いられていた個体が、SB79竈構築段階に接合状態で搬入され、再度竈構築材に用いられたものと考えられる。

⑥　小結　(第17表，第63図)

本項では遺跡を遺構と遺物により構成される構造体と仮設し、調査し得た範囲内、すなわち時空間的に限定された調査区内における、遺構と遺物の関係論から成立する遺跡構造論的把握を試みた。ここでは平瀬遺跡ⅡC対象区内において確認し得た遺構と遺物の関係について概観しておきたい。

対象区内においては住居址と認定し得る遺構を20程度確認したが、竈構築材と考えられる礫片類を主体とする石器群に対し母岩識別・接合作業を実施した結果、住居址間に分布する母岩別資料が存在し、また単一住居址内において接合・同一母岩関係が認められない、すなわち遺構外との関係を想定し得る単独資料が竈構築段階石器群においても存在することが明らかとなった。従来竈の破壊行為は竈神を封じる為等の祭祀的行為とされてきたが、単一遺構内で完結しない母岩別資料の存在から、廃絶した住居址において竈構築材としての石器を回収し、構築段階の住居址へ搬入し再利用した結果、竈が破壊されたものと考えられる。さらに竈構築段階石器群と住居址埋没段階石器群に分布する母岩別資料の存在及び、住居址への石器帰属率が高率を呈したこと等から、住居址廃絶後の住居址跡地においても竈構築材を備蓄していたものとも考えられる。

また、住居址の集中分布を住居址ブロックと仮設したなら、起点となる住居址の竈構築段階には竈構築材としての石器は自然礫のみに限定されるかもしくは自然礫が多く組成され、展開期には廃絶段階(再利用材)かもしくはすでに廃絶していた(備蓄再利用材)住居址から搬入された礫片類がより多く組成されるものと想定し得る。起点住居址の竈構築段階に自然礫を分割して竈構築材に用いた可能性も排除し切れず、竈の残存状況等にも影響を受けるものの、竈構築段階石器群の石器含有率が10数%に止まるSB69・73・76等は住居址ブロックの起点に近い段階に構築された住居址と考えられ、竈構築段階石器群の石器含有率が50%を上回るSB52・60・79等は住居址ブロックの展開期以降に構築された住居址と考えられる。

遺跡を遺構と遺物により構成される構造体と仮設したならば、その構造体内において生じ得る関係とはいうまでもなく、1)遺構―遺構関係、2)遺構―遺物関係、3)遺物―遺物関係である。従来構造体内における共時態の設定は、土器型式という高度に抽象的な仮設に依存してきた感が強いが、その仮設が検証されることは少なかったものと考えられる。しかしながら遺構間接合・同一母岩資料という共時態内における通時的関係の把握から可能となる遺構間土層対比を実施することにより、その土器型式という仮設は検証され得ることになり、さらには単一土器型式期内においてより詳細な共時態の設定が可能となるものと考えられる(註8)。

[補註]

註1　ⅡC区内においてもSB44～50及びSB81～86については石器の回収基準が異なることから対象から除外する。またSB53・55・57・73については積極的には住居址と認定し難いことから、遺構単位石器群として扱ってはいるものの割愛した部分もある。すなわち、第48図より除外対象とした住居址を除いた範囲を対象区とする。なお対象区においては石器、自然礫共に可能な限り三次元座標を記録し、人為・自然為の区別なく「割れている」個体はすべて回収した。逆に、全面が礫面に覆われていた個体は1/20平面図を作成し、標高最高値・標高最低値を記録した段階で、変色範囲が認められた個体も竈構築土に含まれていた個体もすべて現場段階において廃棄処分とした。人為的意図が想定し得る、すなわち広義の石器に含まれる自然礫についても石材、法量、礫形状、変色範囲の有無等のデータを取った後に廃棄する等の次善策を講じるべきであったが、諸般の制約から成し得なかった。なお、対象区以外においては石器の認定基準及び回収基準が不明である為、器種・石材組成から有意差は検討し得ず、単位石器群としての組成論的比較は意味を成さないことをお断りしておきたい。

註2　平瀬遺跡ⅡC対象区石器群において確認し得た接合・同一母岩関係は、対象区外ではそれらに帰属する個体が回収されなかった可能性が残る為、対象区外石器群においても有効であるとは限らない。対象区の遺構単位石器群において単独資料が多数確認されていることからすれば、むしろ回収されなかった可能性が高いものと考えられる。

註3　本項では変色を被熱によると考えられるものに限定したが、竈構築土に含まれる個体を除き、すべて竈構築材として用いられた結果生じたものとはいい切れない。しかしながら遺構の中でも住居址への帰属率が著しく高く、竈構築材との接合関係が多く認められ、なおかつ所謂焼失住居がSB79のみであったことから、上屋構造物であった可能性等もあり得るものの、多くの個体が竈構築材としての使用の結果変色したものと考えられる。

註4　平瀬遺跡ⅡC対象区石器群においては礫石器類及び砥石状石器が狭義の石器であり、粗質石材素材研磨・敲打系という石器製作技術システムに該当する。

註5　石材鑑定にあたっては森　義直氏より有益な御教唆を頂いた。記して御礼申し上げます。なお自然礫については点数のみの把握に止まる為、詳細は第17表に譲りここでは割愛する。

註6　ここでは、竈構築土：竈構築段階、竈覆土・住居址内ピット覆土：床面施設埋没段階、住居址覆土:住居址埋没段階に相当するものとした。三次元座標が不明な個体は石器小計にのみ含めた。石器含有率：石器点数／総点数、接合率：接合個体数／石器点数、単独率：石器含有率×(1-接合率)として算出している。

註7　単独資料については諸般の制約から実測図はほとんど提示し得なかった。なお記述にあたっては母岩ID順に行うが、図表中においては母岩番号及び接合番号のみ記してある。対応関係については第16表を参照して頂きたい。

註8　土器についても接合・同一個体関係の分布から遺構間土層対比が可能な状況では、土器は破損段階で機能停止状態となる場合が多く、破損状態で転用される可能性が低かったと考えられることから、より詳細な共時的関係が追求し得るものと考えられる。それに対し竈構築材としての石器は破損段階以降も機能停止状態となることは少なく、特に竈構築土に含まれた状態で、すなわち竈構築段階から住居址に確実に伴うと認定し得る状態で検出される可能性が高く、より詳細な通時的関係をも追及し得るものと考えられる。なお石器では接合関係の把握と同時に剥離面及び分割面の切り合い関係から個体の分離順序を把握するのが通常であるが、土器においては単に実測図を取る為に接合作業を行ってきた感が否めない。土器においても接合面が2面以上「T」字状に切り合う状況等では分離順序の把握が可能な場合があり、今後は分離順序の把握及び遺構間土層対比が重要となるものと考えられる。

[主要引用・参考文献]

安蒜政雄　1978　「先土器時代の研究」『日本考古学を学ぶ』(3)
五十嵐彰　1999　「旧石器資料報告の現状（Ⅰ）　－坂下遺跡の分析を通して－」『東京考古』17
稲田孝司　1969　「尖頭器文化の出現と旧石器的石器製作の解体」『考古学研究』第15巻第3号
太田圭郁　1998　「石器・石製品」『境窪遺跡・川西開田遺跡Ⅰ・Ⅱ』松本市教育委員会
桐生直彦　1995　「竈出現期以降の竪穴住居址内の遺物出土状態をめぐる問題」『山梨県考古学協会誌』第7号
栗島義明　1989　「旧石器時代住居と遺物分布に就いて（上）」『土曜考古』第14号
黒尾和久　1988　「竪穴住居出土遺物の一般的あり方について　－「吹上パターン」の資料論的検討を中心に－」『古代集落の諸問題　玉口時雄先生古希記念考古学論文集』
小林謙一　1997　「竪穴住居跡調査における一視点　－集落論の前に住居調査論を－」『山梨県考古学協会誌』第9号
堤　　隆　1995　「竈の廃棄プロセスとその意味」『山梨県考古学協会誌』第7号
土井義夫　1985　「縄紋時代集落論の原則的問題　－集落遺跡の二つのあり方をめぐって－」『東京考古』3
直井雅尚　1989　「第3節　まとめ」『高松遺跡』松本市教育委員会
保坂康夫　1993　「礫群構成礫の割れ（破断）に関する実験的研究」『考古論集　－潮見　浩先生退官記念論集－』
野口　淳　1995　「武蔵野台地Ⅳ下・Ⅴ上層段階の遺跡群　－石器製作の工程配置と連鎖の体系－」『旧石器考古学』51
水野正好　1969　「縄文時代集落研究への基礎的操作」『古代文化』第21巻第3・4号
三井義勝　1999　「(-2)出土遺物の解釈以前【認識】」『長野遺跡』愛知川町教育委員会

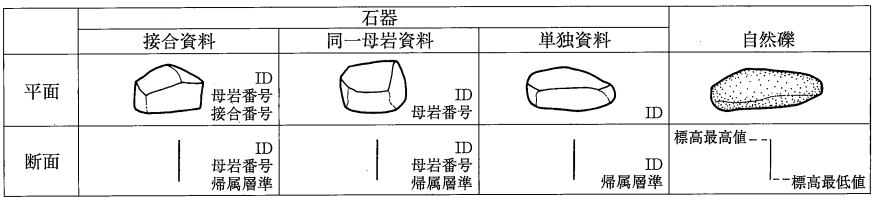
凡例

①平瀬遺跡Ⅱより出土した石器及び自然礫はⅡABとⅡCとして二群に分け、それぞれID（個体識別番号）を与えて管理している。
②本項では例言において示された遺構略号の他に便宜上、住居址：SB、溝址：SD等の遺構略号が混在する。
③本項の層序及び層準は、第17～22図での呼称と異なるものがある。対応関係については第17表中の層序遺構編を参照して頂きたい。
④グリッドの座標はNS0EW0を基準点とし、北東交点で呼称している。すべてm単位でNSが南北方向、EWが東西方向を表す。
⑤住居址等の遺構が帰属すると考えられる土器型式期については、第3章第3節第1項の成果を引用している。
⑥第10～15表においては自然礫のみが出土した遺構単位石器群については除外し、石器の出土した遺構単位石器群のみ提示してある。
⑦第48～54図において用いた記号は以下の通りである。なお三次元座標が不明な単独資料は割愛した。第48図では対象区内において確認した遺構間接合・同一母岩関係を示すため、住居址と認定するには不安の残るものについても提示してある。第49～54図遺物出土状況図は対象区内に位置し、接合・同一母岩資料が確認された住居址、それらと切り合い関係を持つ住居址、もしくは竈が検出された住居址を対象とした。

接合関係	同一母岩関係
――――	― ― ― ― ―

遺構間接合関係	三次元座標不明	遺構間同一母岩関係	三次元座標不明
――――→	――――▷	― ― ― ― ―→	― ― ― ― ―▷

接合資料	■
三次元座標不明	□
同一母岩資料	▲
三次元座標不明	△
単独資料	•
三次元座標不明	＼



⑧第55～62図において用いた記号は以下の通りである。接合資料については全点提示し得たが同一母岩資料のみより構成される母岩別資料及び単独資料については諸般の制約からほとんど提示し得なかった。なお原則として実測図の2/3で模式図を付してある。

●	ポジティブ面打点
○	ポジティブ面推定打点

著しい変色（極黒化）	変色（黒化）	やや変色（赤化）

⑨第17表においては石器及び自然礫が全く出土しなかった対象区内の住居址も提示した。また、第55・57・58・75号住居址については割愛した。なお石器含有率及び接合率はそれぞれ、石器含有率:石器小計／総計、接合率:接合資料点数／石器小計として算出した。
⑩第63図においては遺構内において完結する接合関係及び同一母岩関係は割愛した。第55・57・58号住居址についても割愛した。
⑪第18・19表において用いた略号及び属性の詳細は以下の通りである。

ID　平瀬遺跡Ⅱより出土した石器のすべてに対して与えた個体識別番号である。ⅡAB石器群についてはIDの前に「ⅡAB」を付した。
出土遺構1　その石器の出土した遺構である。
出土遺構2　原則として、その石器の出土遺構内における出土位置もしくは取り上げ番号を示す。
層序　対象区内の住居址より出土した個体については断面図に投影し帰属層準を推定した。第3章第2節遺構編との対応関係については第17表中の層序遺構編を参照して頂きたい。
XYZ　三次元座標記録の成された個体については○を、三次元座標記録の不明な個体については×を記した。
器種　第8表の通りである。
最大長・最大幅・最大厚　原則として最大長＞最大幅＞最大厚となるように方眼紙上に据え、それぞれ最大部をmm単位で小数点以下第1位まで計測した。しかし礫面、形状等から母岩形状を推定し得た個体についてはその限りではない。
重量　311g未満の個体についてはg単位で小数点以下第1位まで計測し、311g以上2500g未満の個体については2g単位、2500g以上5000g未満の個体については5g単位、5000g以上の個体については500g単位で重量の計測を行った。なお0.1gに満たない個体についてはすべて0.1gと表記した。
礫形状　母岩形状を推定し得た個体については大まかな礫形状を記した。
分割面　剥落面を除く、剥離面及び分割面の面数を記した。
残存率　母岩形状を推定し得た個体についてはその大まかな残存率を記した。
礫面　礫面の残存率を大まかに記した。
石材　第9表の通りである。
母岩　同一母岩資料については母岩番号を記した（第16表参照）。単独資料については単独と記した。
接合　接合資料については接合番号（R－）を記した（第16表参照）。
図面　実測図を掲載し得た個体については○を、掲載し得なかった個体については－を記した。

器種名	器種略号	仮設定義
石核	C	剥離技術の痕跡としての剥離痕が認められる個体
剥片	F	剥離技術の痕跡としての剥離面が認められる個体
二次加工のある剥片	RF	二次加工が認められる剥片
微細剥離痕のある剥片	MF	連続する微細剥離痕が認められる剥片
自然礫	P	剥離・分割・剥落・研磨・敲打・折れのいずれの痕跡も認められない個体
礫片	PT	自然為によると考えられる剥落が認められる個体
礫片Ⅰ類	PTⅠ	分割もしくは折れの痕跡が認められる個体
礫片Ⅱ類	PTⅡ	被熱によると考えられる剥落の痕跡が認められる個体
礫片複合	PTC	PTⅠとPTⅡが複合して認められる個体
礫石器Ⅰ類	PⅠ	凸面に敲打痕が認められるか、もしくは敲打により凸面の形成された個体
礫石器Ⅱ類	PⅡ	凸面に研磨痕が認められるか、もしくは研磨により凸面の形成された個体
礫石器Ⅲ類	PⅢ	凹面に敲打痕が認められるか、もしくは敲打により凹面の形成された個体
礫石器複合	PC	研磨痕・敲打痕・剥離痕が複合して認められる個体
砥石状石器	Ws	平坦面に研磨痕が認められるか、もしくは研磨により平坦面の形成された個体
錘状石器Ⅱ類	KW	製作・使用痕跡は認め得ないが出土状況等から石器としたもの（こもで石）
硯形石器	Su	所謂硯

第8表　器種一覧

石材名	石材略号
黒耀岩	Ob
流紋岩	Rh
安山岩	An
閃緑岩	Di
石英斑岩	QPo
花崗岩	Gr
硬砂岩	HSa
砂岩	Sa
頁岩	Sh
珪質凝灰岩	STu
凝灰岩	Tu
粘板岩	Sl
チャート	Ch
ホルンフェルス	Ho
珪岩	Qu

第9表　石材一覧

出土遺構1	F	MF	P	PT	PT I	PTC	P I	P II	Ws	KW	Su	計
第05号住居址					2							2
第06号住居址								1	1			2
第07号住居址			1		3	2	1		2			9
第08号住居址			1			1	1		2			5
第09号住居址			1						1			2
第10号住居址						1		2	1			4
第11号住居址		1		1				1	1			4
第13号住居址				1		2						3
第15号住居址			1			1						2
第19号住居址			1	1	1	1						4
第20号住居址				1	1	2						4
第23号住居址									1			1
第25号住居址					1	1		1				3
第26号住居址									2			2
第30号住居址						1						1
第35号住居址									1			1
第36号住居址			1				1			9		11
第37号住居址				1	1				7			9
第40号住居址					2	1	1					4
第54号土坑											1	1
第70号ピット					1							1
A区検出面	1		1		1				2			5
計	1	1	7	5	13	13	4	5	21	9	1	80

第10表　平瀬遺跡Ⅱ AB遺構単位器種組成

出土遺構1	Ob	An	Gr	HSa	Sa	Sh	Tu	Sl	Ch	計
第05号住居址			1			1				2
第06号住居址				1			1			2
第07号住居址				3	2	3	1			9
第08号住居址		1		2	2					5
第09号住居址				1	1					2
第10号住居址		2		1			1			4
第11号住居址	1				1		1		1	4
第13号住居址				2	1					3
第15号住居址				2						2
第19号住居址				2	2					4
第20号住居址				4						4
第23号住居址							1			1
第25号住居址		1		2						3
第26号住居址					1		1			2
第30号住居址				1						1
第35号住居址		1								1
第36号住居址				10					1	11
第37号住居址		1		2			6			9
第40号住居址		1		2					1	4
第54号土坑								1		1
第70号ピット						1				1
A区検出面				1	1	1	1		1	5
計	1	7	1	36	11	6	13	1	4	80

第11表　平瀬遺跡Ⅱ AB遺構単位石材組成

出土遺構1	C	F	RF	MF	P II	P III	PC	PT	PT I	PT II	PTC	Ws	計
第44号住居址										1			1
第45号住居址								2					2
第47号住居址			1								2		3
第49号住居址									1			1	2
第51号住居址											1	1	2
第52号住居址	2	1					3	1	14	5	19	4	49
第54号住居址									1	2	1		4
第55号住居址								1	2		3		6
第56号住居址								1	2		1		4
第57号住居址					1			2	1	2	1		7
第60号住居址					1			2		5	1		9
第61号住居址										1		1	2
第63号住居址								2			1		3
第64号住居址												1	1
第65号住居址									1				1
第67号住居址								4		3	2		9
第69号住居址					1			2		5	6		14
第73号住居址									1		3		4
第76号住居址								5			6	1	12
第78号住居址											1		1
第79号住居址						1		7	1	15	7		31
第80号住居址								3	2	2			7
第255号ピット									1				1
第1号礫集中								1					1
第12号溝		2	1				1	28	13	6	5		56
第2号流路		1											1
グリッド		2	1	1			1	10	2	3	2		22
検出面			1					2	2	1	1		7
排土				1				1			3		5
計	2	6	4	2	3	1	5	74	44	51	66	9	267

第12表　平瀬遺跡Ⅱ C遺構単位器種組成

出土遺構1	Ob	Rh	An	Di	QPo	Gr	HSa	Sa	Sh	STu	Tu	Sl	Ch	Ho	Qu	計
第44号住居址							1									1
第45号住居址								1			1					2
第47号住居址						2									1	3
第49号住居址							1	1								2
第51号住居址							1	1								2
第52号住居址		2	1	1	2	8	32	3								49
第54号住居址							4									4
第55号住居址							5							1		6
第56号住居址							2		1						1	4
第57号住居址			1				5	1								7
第60号住居址							7						2			9
第61号住居址							1	1								2
第63号住居址						1	2									3
第64号住居址								1								1
第65号住居址						1										1
第67号住居址		1			1		6		1							9
第69号住居址							14									14
第73号住居址		1			1		2									4
第76号住居址						1	9	1	1							12
第78号住居址		1														1
第79号住居址			1			2	27			1						31
第80号住居址						1	4					1	1			7
第255号ピット							1									1
第1号礫集中							1									1
第12号溝		2			1	4	46		1				1	1		56
第2号流路							1									1
グリッド	1						17		1				2		1	22
検出面							7									7
排土	1						3		1							5
計	2	7	3	1	5	20	199	10	6	1	1	1	6	2	3	267

第13表　平瀬遺跡Ⅱ C遺構単位石材組成

石材	F	MF	P	P I	P II	PT	PT I	PTC	Ws	KW	Su	計
Ob		1										1
An				1	3		2		1			7
Gr							1					1
HSa			6	2	1	2	3	12	1	9		36
Sa					1	2	1	1	6			11
Sh							6					6
Tu									13			13
Sl											1	1
Ch	1		1	1		1						4
計	1	1	7	4	5	5	13	13	21	9	1	80

第14表　平瀬遺跡Ⅱ AB石材単位器種組成

石材	C	F	RF	MF	P II	P III	PC	PT	PT I	PT II	PTC	Ws	計	接合個体数	接合率
Ob				2									2	0	0.0%
Rh								3	2		2		7	2	28.6%
An					1	1					1		3	0	0.0%
Di									1				1	0	0.0%
QPo											5		5	2	40.0%
Gr								1	9		10		20	6	30.0%
HSa	2	5	1		2		4	61	27	49	47	1	199	64	32.2%
Sa								2				8	10	2	20.0%
Sh							1	4			1		6	0	0.0%
STu								1					1	0	0.0%
Tu								1					1	0	0.0%
Sl									1				1	0	0.0%
Ch		1	2					1		2			6	2	33.3%
Ho									2				2	0	0.0%
Qu			1						2				3	0	0.0%
計	2	6	4	2	3	1	5	74	44	51	66	9	267	78	29.2%

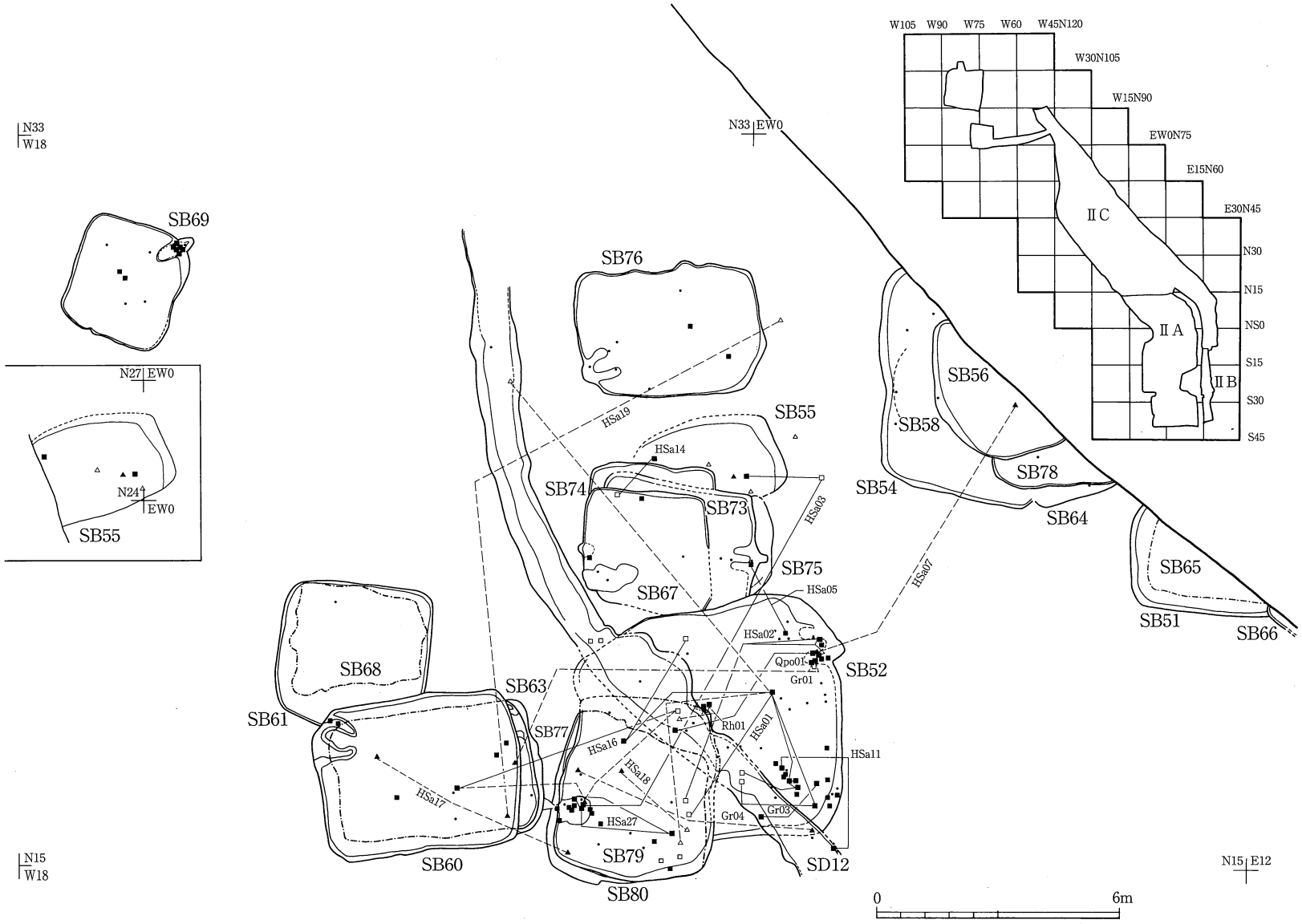
第15表　平瀬遺跡Ⅱ C石材単位器種組成

第16表　平瀬遺跡ⅡC母岩別資料一覧

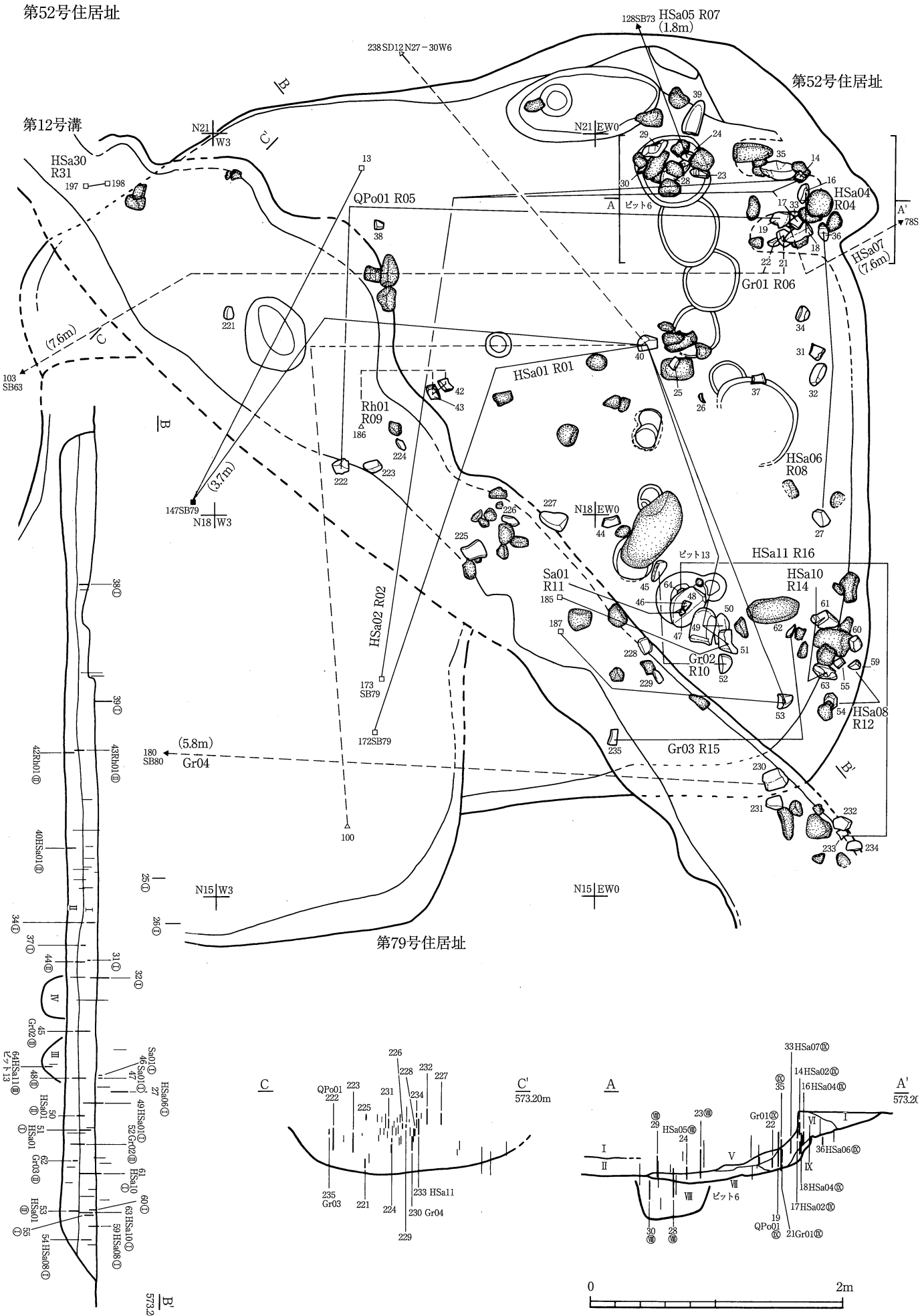
母岩ID	母岩番号	接合番号	接合個体数	総個体数	ID( )内非接合	出土遺構・層準	最大長	最大幅	最大厚	重量	残存率	遺構切り合い関係	剥離・分割順序	母岩類型
1	HSa01	R01	10	12	13,40,49,50,51,53,(100),147,172,185,187,(238)	13(SB52不明),40(SB52Ⅱ),49(SB52Ⅰ),50(SB52Ⅱ),51(SB52Ⅰ),53(SB52Ⅱ),100(SB79不明),147(SB79Ⅱ),172(BS79不明),185(SD12不明),187(SD12不明),238(SD12不明)	526.8	332.9	198.0	34,895.0	7/8	SB52←SB79←SD12	A→(B＋C) A:187→53 →(13＋147)→(40＋172) B:(51＋欠落礫片4)→51 C: 185→50＋49	ABC
2	HSa02	R02	3	3	14,17,173	14(SB52Ⅸ),17(SB52Ⅸ),173(SB79不明)	165.5	106.7	102.3	2,310.2	1/8	SB52←SB79	173→(14＋17)	CBC
3	HSa03	R03	3	3	15,171,272	15(SB55Ⅱ),171(SB79Ⅳ),272(排土)	157.4	139.1	78.1	1,696.0	1/8	不明	171→(272＋15)	CBC
4	HSa04	R04	2	2	16,18	16(SB52Ⅸ),18(SB52Ⅸ)	301.0	148.0	70.5	3,694.0	7/8	-	16＋18	AAA
5	QPo01	R05	2	2	19,222	19(SB52Ⅸ),222(SD12)	190.5	310.9	113.6	8,692.0	1/4	SB52←SD12	222＋19	BBC
6	Gr01	R06	2	3	21,22,(103)	21(SB52Ⅸ),22(SB52Ⅸ),103(SB63Ⅰ)	138.2	140.8	87.0	1,922.0	1/4	SB52←SB63	21＋22	BBC
7	HSa05	R07	2	2	24,128	24(SB52Ⅶ),128(SB73Ⅲ)	145.2	137.5	67.5	1,972.0	1/1	SB73←SB52	24＋128	ABC
8	HSa06	R08	2	2	27,36	27(SB52Ⅰ),36(SB52Ⅸ)	180.4	125.0	121.4	3,160.0	1/8	-	27＋36	CAB
9	HSa07	-	-	2	(33),(78)	33(SB52Ⅸ),78(SB56Ⅰ)						-		DBC
10	Rh01	R09	2	3	42,43,(186)	42(SB52Ⅱ),43(SB52Ⅱ),186(SD12不明)	232.0	87.6	59.9	1,524.0	1/2	SB52←SD12	42＋43	BBC
11	Gr02	R10	2	2	45,52	45(SB52Ⅱ),52(SB52Ⅱ)	191.9	189.2	56.6	3,064.0	7/8	-	45＋52	AAA
12	Sa01	R11	2	2	46,47	46(SB52Ⅰ),47(SB52Ⅰ)	17.0	65.0	18.6	146.3	1/6	-	46＋47	BAA
13	HSa08	R12	2	2	54,59	54(SB52Ⅰ),59(SB52Ⅰ)	144.6	108.1	74.2	1,462.0	3/8	-	54＋59	AAA
14	HSa09	R13	6	6	56,57,58,122,123,124	56(SB69Ⅴ),57(SB69Ⅴ),58(SB69Ⅴ),122(SB69Ⅴ),123(SB69Ⅴ),124(SB69Ⅴ)	293.5	160.3	92.0	6,043.8	1/1	-	58・124→(56＋57)＋(122＋123)	AAA
15	HSa10	R14	2	2	61,63	61(SB52Ⅰ),63(SB52Ⅰ)	305.8	154.3	115.4	5,965.0	7/8	-	61＋63	AAA
16	Gr03	R15	2	2	62,235	62(SB52Ⅱ),235(SD12)	196.4	82.5	31.2	568.6	1/4	SB52←SD12	62＋235	BBC
17	HSa11	R16	2	2	64,233	64(SB52Ⅲ),233(SD12)	190.6	102.4	66.4	1,330.0	1/4	SB52←SD12	64＋233	BBC
18	HSa12	-	-	2	(71),(75)	71(SB55不明),75(排土)						不明		DDD
19	HSa13	-	-	2	(72),(73)	72(SB55不明),73(SB55Ⅱ)						-		DDD
20	HSa14	R17	2	2	74,106	74(SB55Ⅱ),106(SB67不明)	109.0	100.9	48.9	839.5	1/1	不明	74＋106	ABD
21	HSa15	R18	3	3	87,89,94	87(SB60Ⅴ),89(SB60Ⅴ),94(SB60Ⅱ)	250.0	142.0	95.6	3,964.0	3/8	-	87＋89＋94	BAB
22	HSa16	R19	2	3	91,(159),188	91(SB60Ⅱ),159(SB79Ⅴ～Ⅷ),188(SD12不明)	170.3	129.6	87.2	2,142.0	1/2	SB79←SB60←SD12	91＋188	BBC
23	Ch01	R20	2	2	92,93	92(SB60Ⅰ),93(SB60Ⅰ)	373.9	220.0	156.4	15,654.0	1/1	-	92＋93	AAA
24	HSa17	-	-	2	(95),(152)	95(SB60Ⅲ),152(SB79Ⅱ)						SB79←SB60		DBC
25	HSa18	-	-	2	(99),(177)	99(SB79不明),177(SB80Ⅳ)						SB80←SB79		DBD
26	HSa19	-	-	2	(104),(242)	104(SB63Ⅵ),242(N27-30EW0グリッド)						不明		DCD
27	HSa20	R21	2	2	109,112	109(SB67Ⅱ),112(SB67Ⅰ)	190.5	98.3	64.5	1,404.0	1/2	-	109＋112	BAB
28	HSa21	R22	2	2	116,120	116(SB69Ⅰ),120(SB69Ⅰ)	200.0	149.1	61.9	2,222.0	7/8	-	116＋120	AAA
29	HSa22	R23	2	2	133,134	133(SB76Ⅰ),134(SB76Ⅰ)	244.8	159.3	106.5	4,360.0	3/4	-	133＋134	BAA
30	HSa23	R24	2	2	143,168	143(SB79不明),168(SB79Ⅴ～Ⅷ)	188.3	98.2	70.6	1,504.1	5/8	-	143＋168	BAD
31	HSa24	R25	2	2	149,150	149(SB79Ⅳ),150(SB79Ⅳ)	196.5	121.4	55.6	1,548.0	1/2	-	149＋150	BAA
32	HSa25	R26	2	2	151,160	151(SB79Ⅲ),160(SB79Ⅳ)	299.3	160.0	97.4	5,234.0	1/1	-	151＋160	AAB
33	HSa26	R27	2	2	153,165	153(SB79Ⅲ),165(SB79Ⅳ)	249.8	155.8	77.0	2,136.0	3/16	-	153＋165	CAB
34	HSa27	R28	3	3	154,157,166	154(SB80Ⅳ),157(SB79Ⅳ),166(SB79Ⅴ～Ⅷ)	288.4	272.9	150.5	12,589.1	1/1	SB80←SB79	166→(154＋157)	ABC
35	HSa28	R29	2	2	156,174	156(SB79Ⅲ),174(SB79不明)	212.9	156.9	96.1	3,159.5	7/8	-	156＋174	AAD
36	HSa29	R30	2	2	169,170	169(SB79Ⅳ),170(SB79Ⅴ～Ⅷ)	256.0	98.4	55.6	2,076.0	1/1	-	169＋170	AAB
37	Gr04	-	-	2	(180),(230)	180(SB80Ⅵ),230(SD12)						SB80←SD12		DBC
38	HSa30	R31	2	2	197,198	197(SD12不明),198(SD12不明)	91.9	75.3	30.9	229.5	7/8	-	197＋198	AAD

	A	B	C	D
残存率	7/8以上	7/8未満1/4以上	1/4未満	不明
平面分布	単一遺構内完結	複遺構間	遺構－遺構外	不明
垂直分布	単一土層内完結	単一遺構内複土層間	複遺構間複土層間	不明

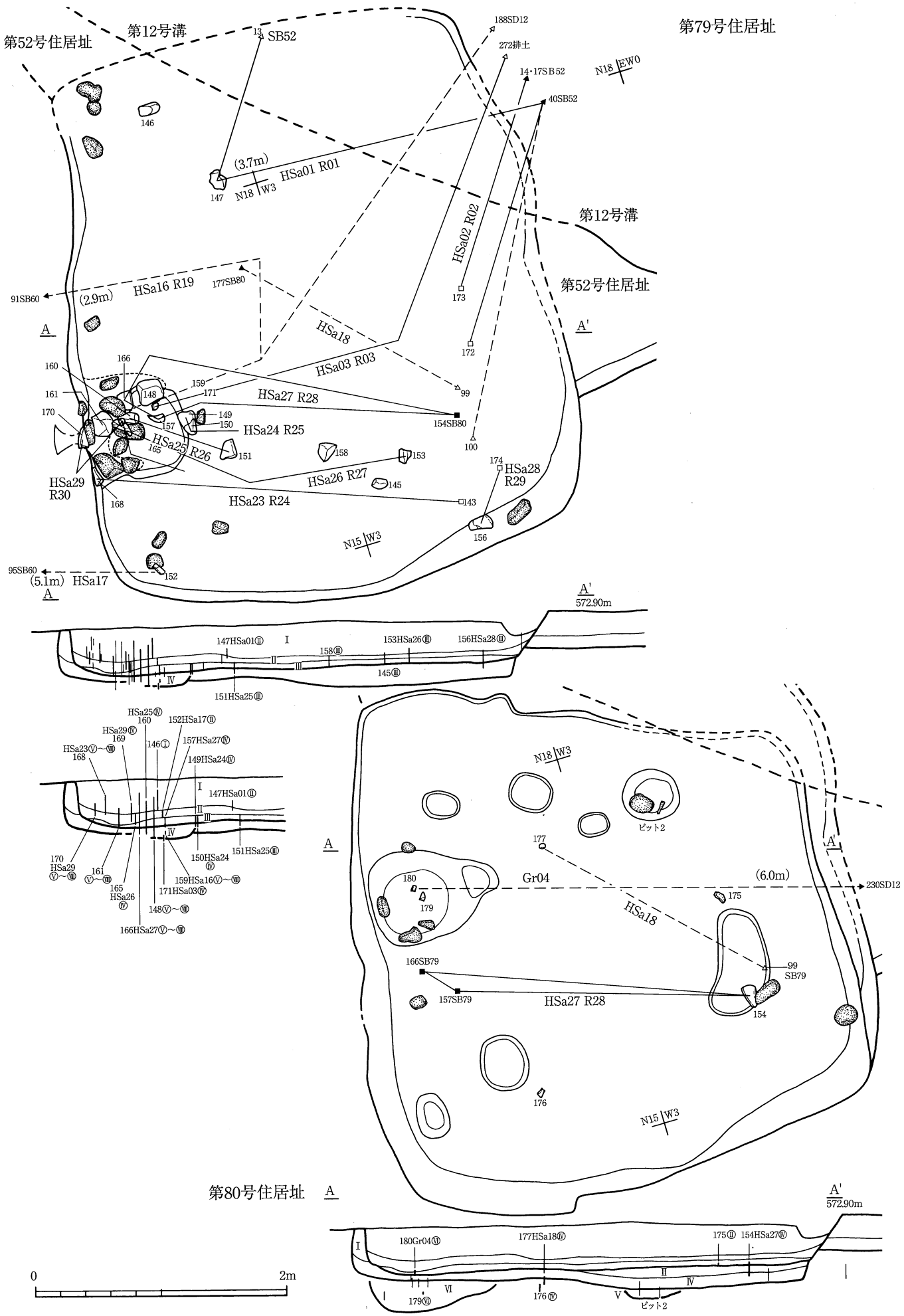
最大長・最大幅・最大厚（mm）、重量（g）及び残存率は接合資料のみ計測した。
母岩類型は左表の記号を用いつつ残存率、平面分布、垂直分布の順に記した。



第48図　平瀬遺跡ⅡC遺構間接合資料分布図

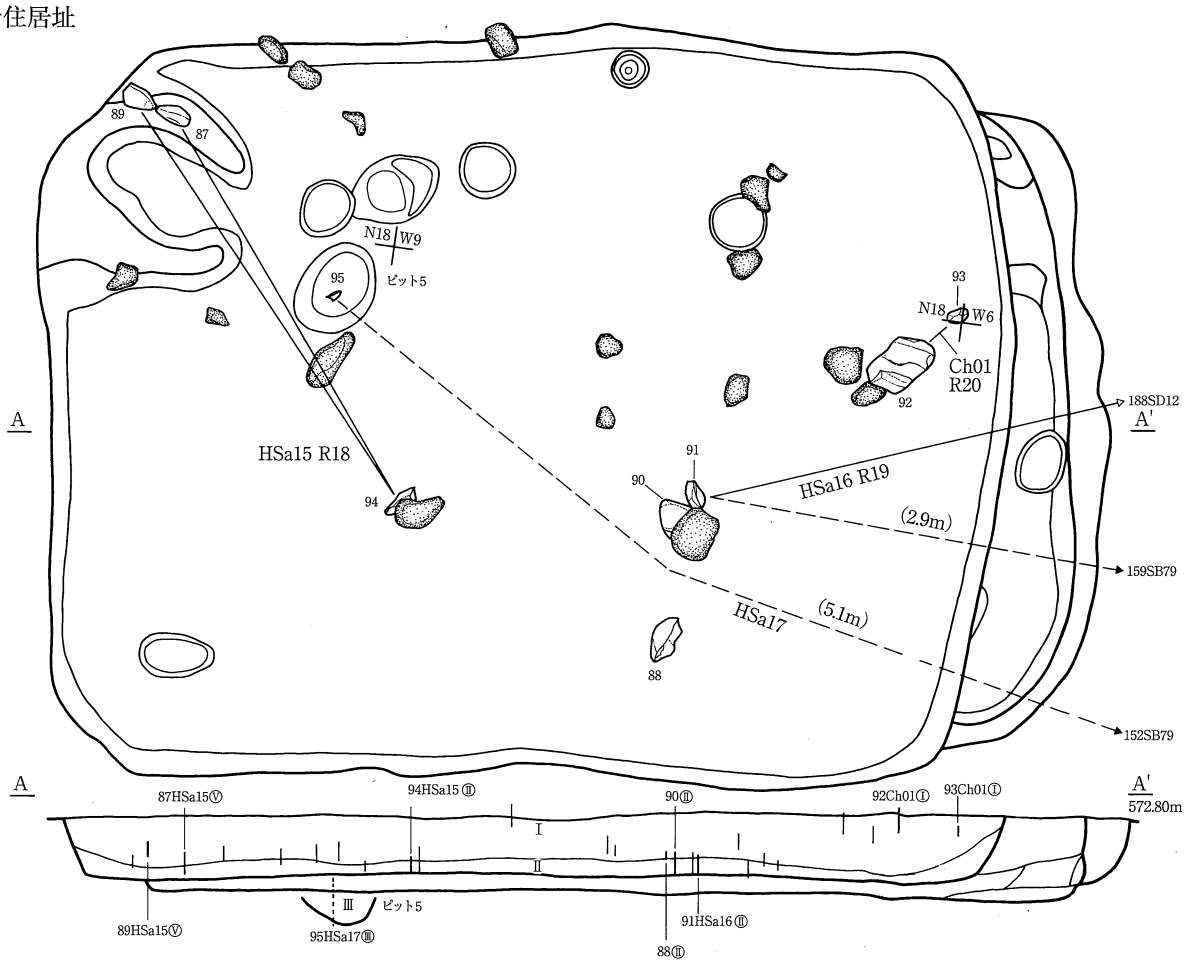


第49図　平瀬遺跡ⅡC遺物出土状況図（1）

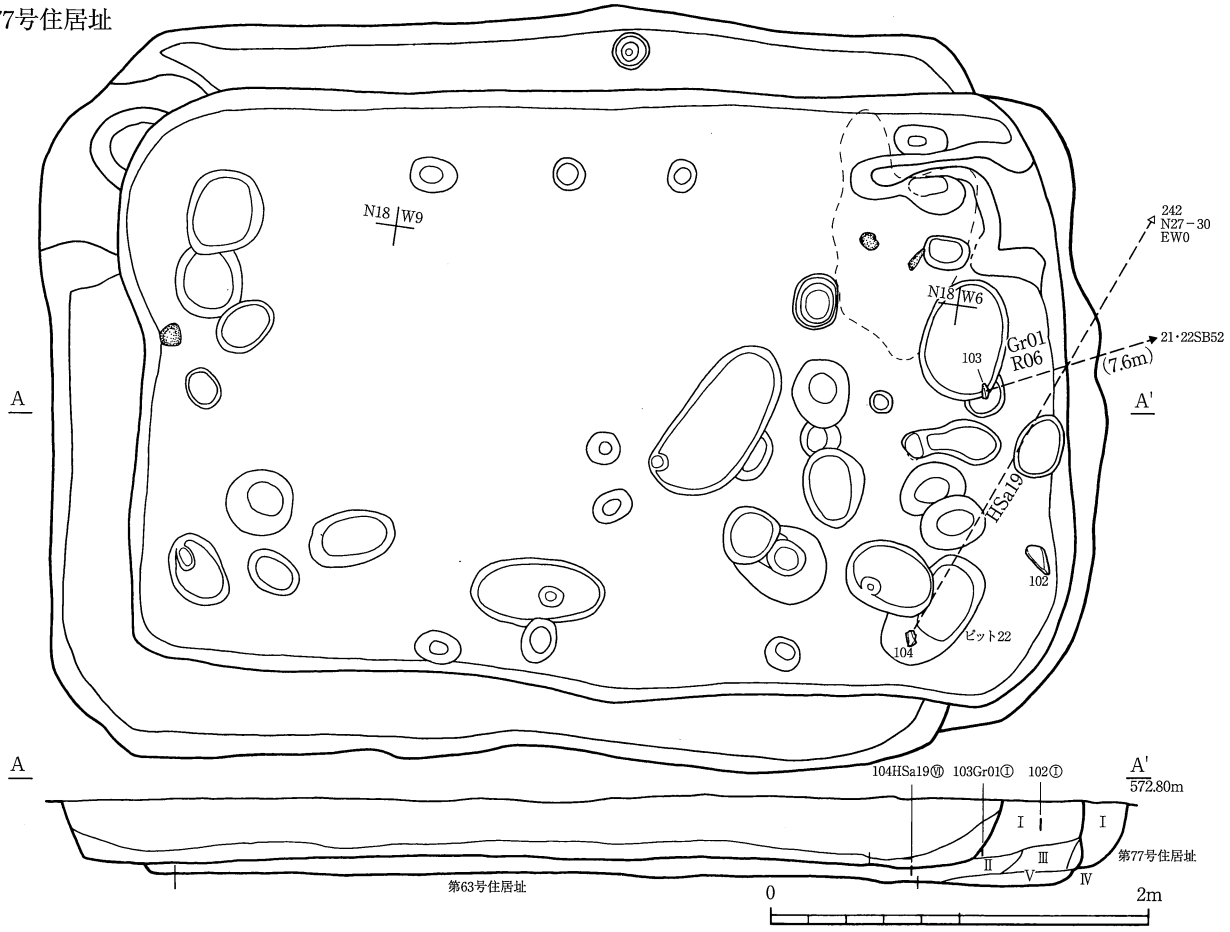


第50図　平瀬遺跡ⅡC遺物出土状況図（2）

第60号住居址

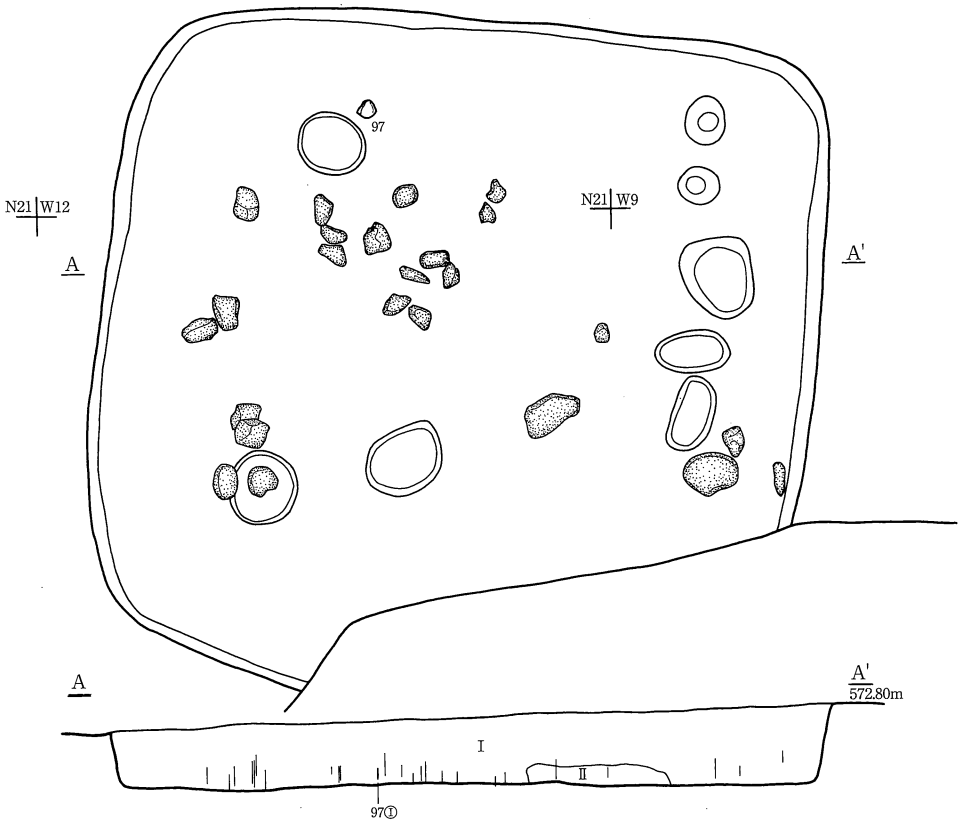


第63・77号住居址

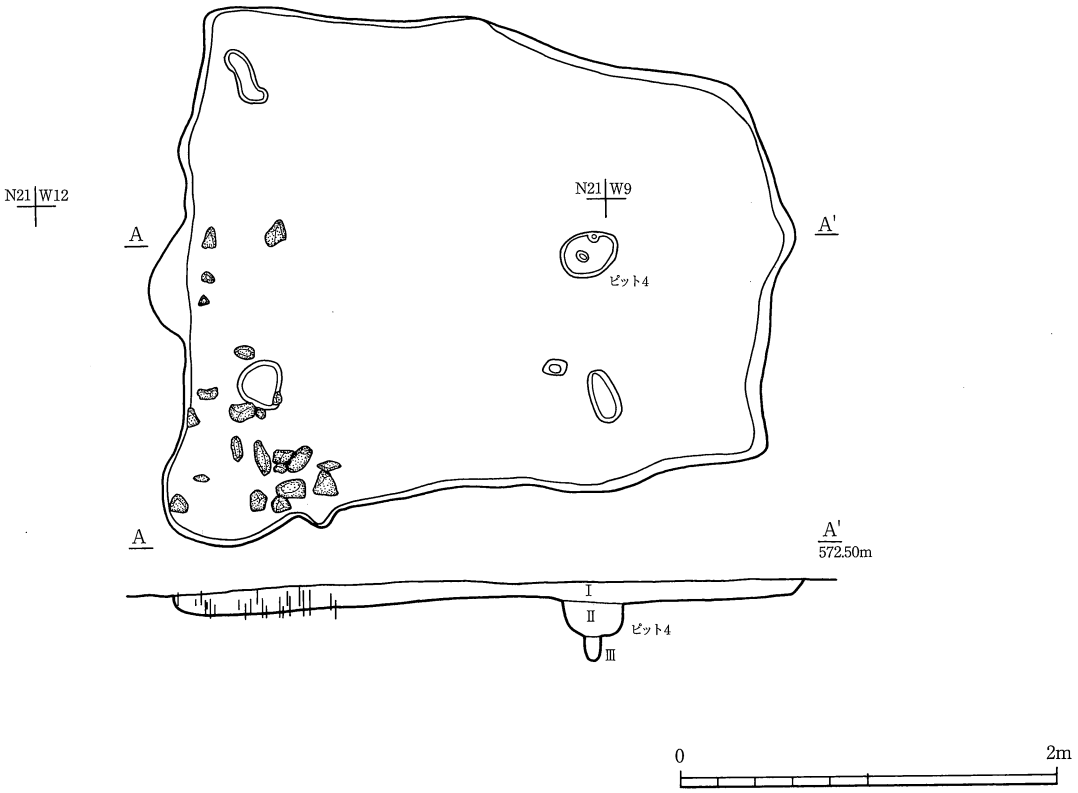


第51図　平瀬遺跡ⅡC遺物出土状況図（3）

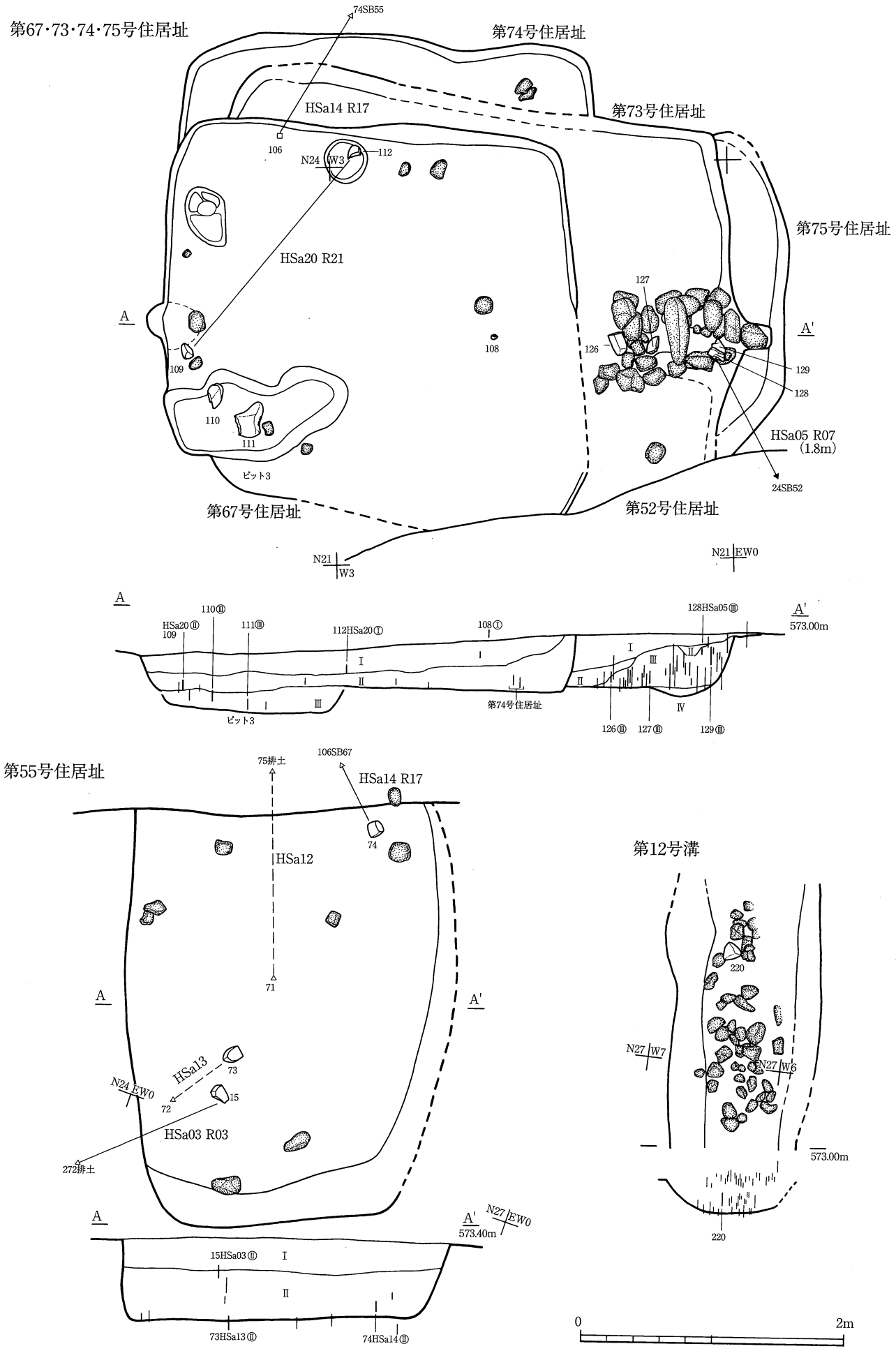
第61号住居址



第68号住居址

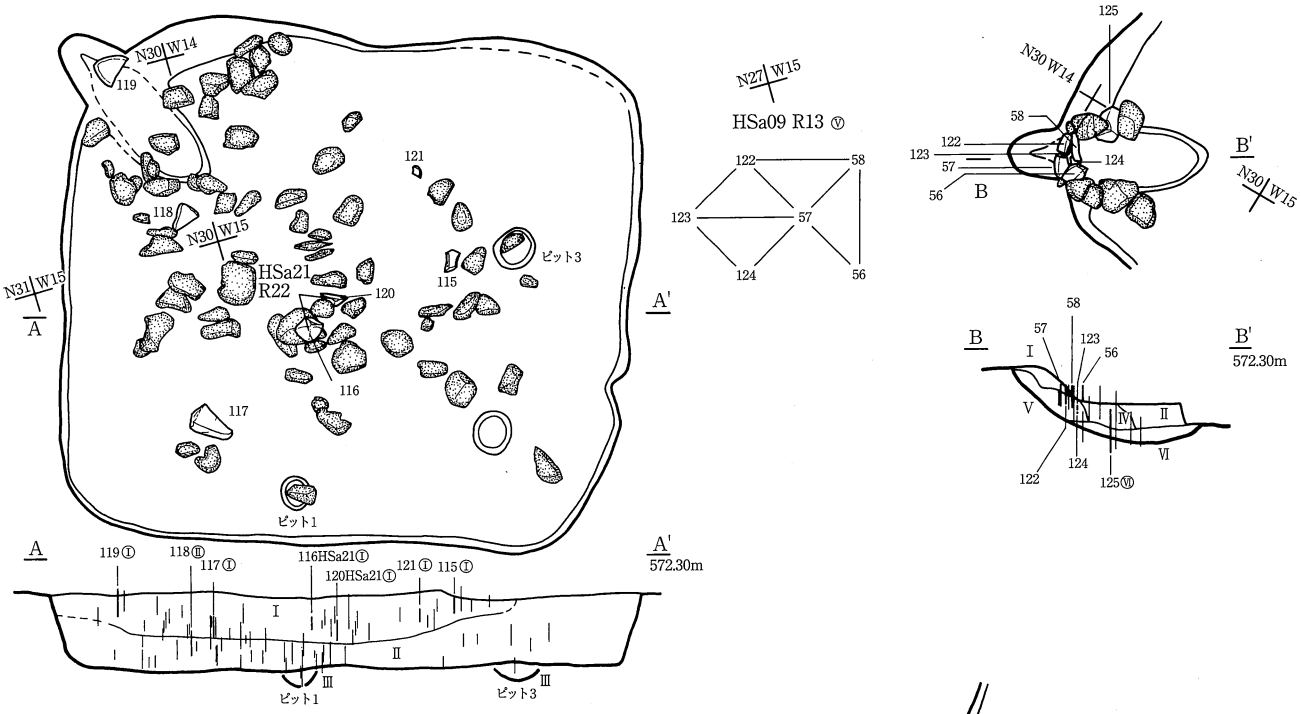


第52図　平瀬遺跡ⅡC遺物出土状況図（4）

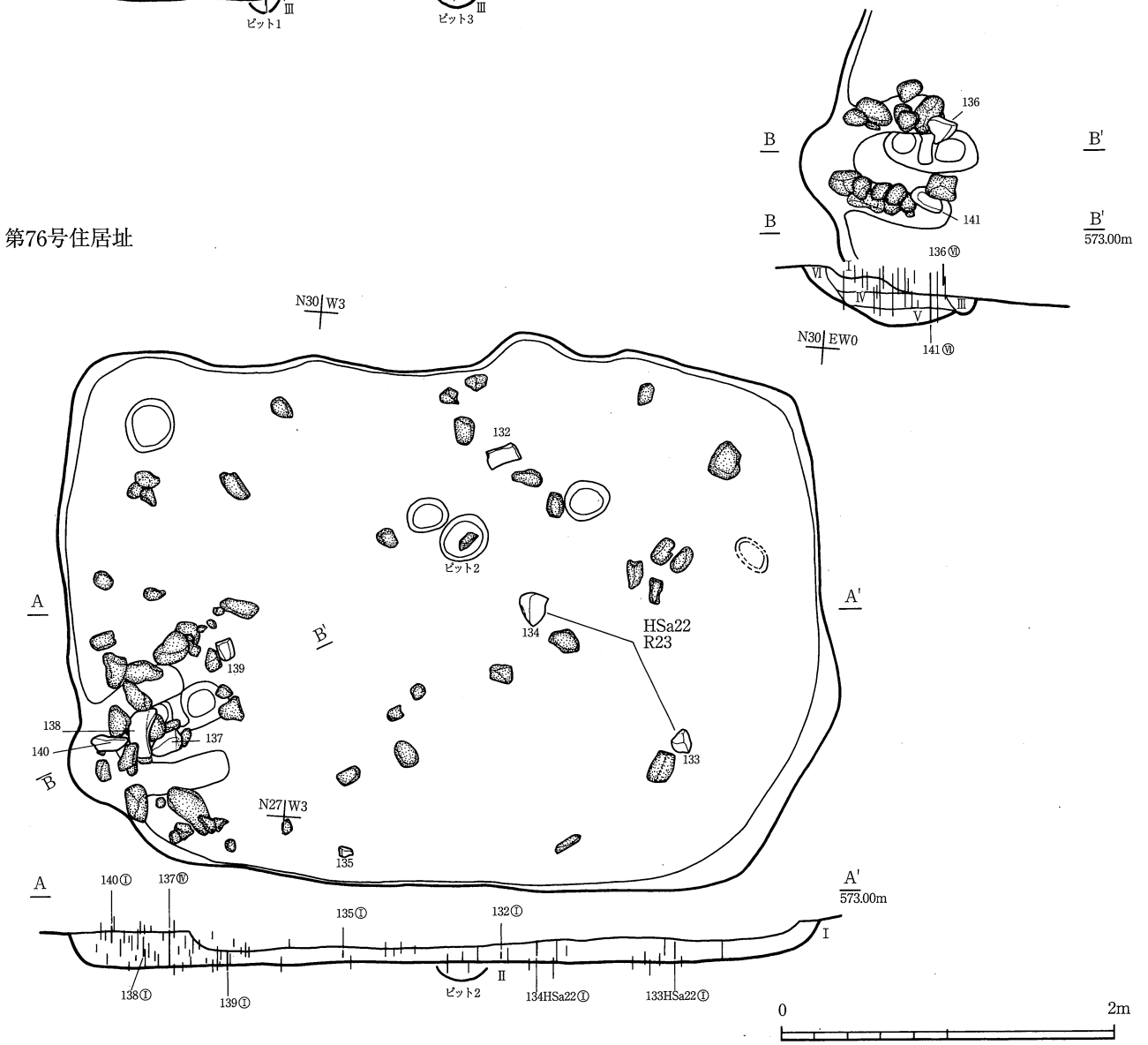


第53図　平瀬遺跡ⅡC遺物出土状況図（5）

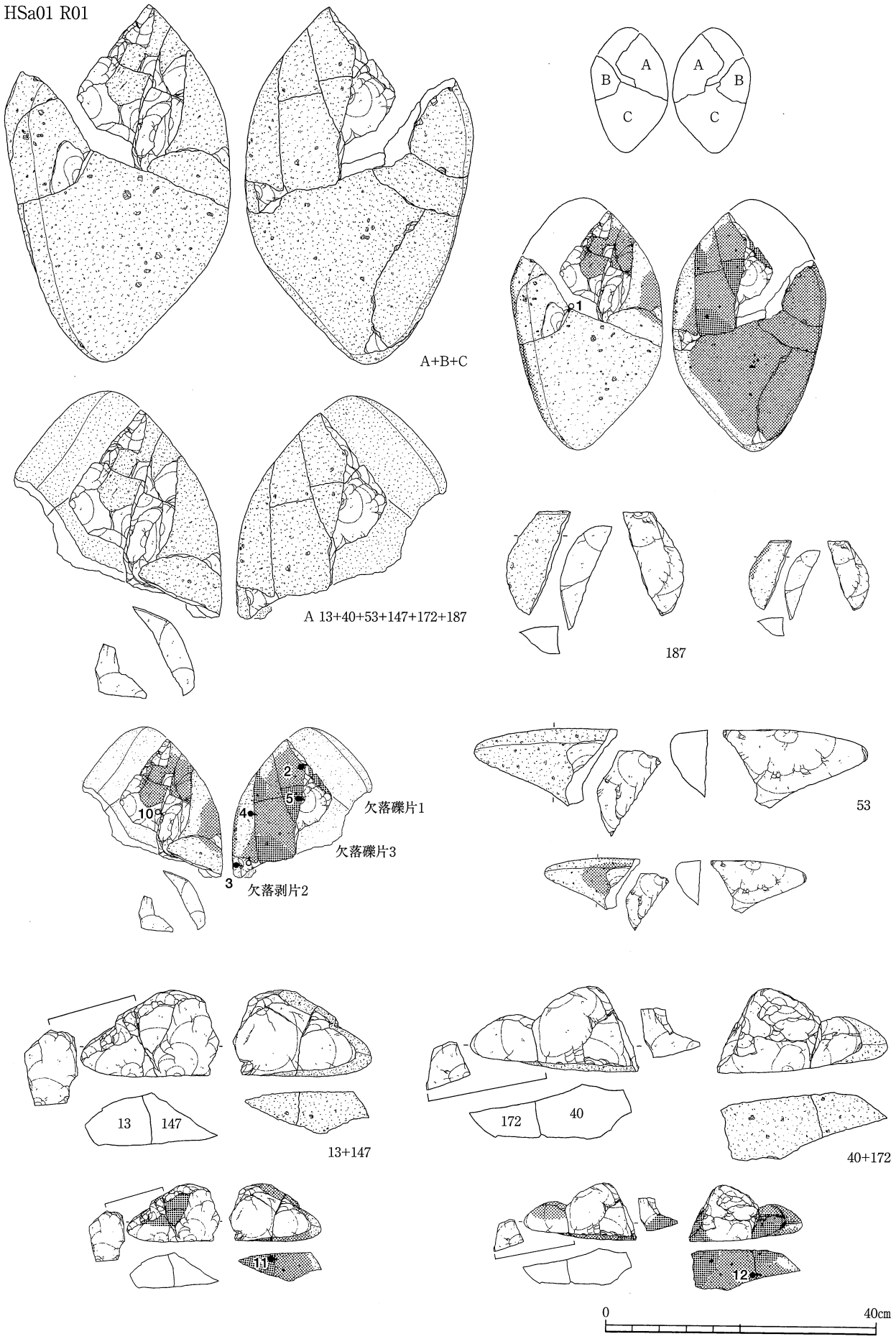
第69号住居址



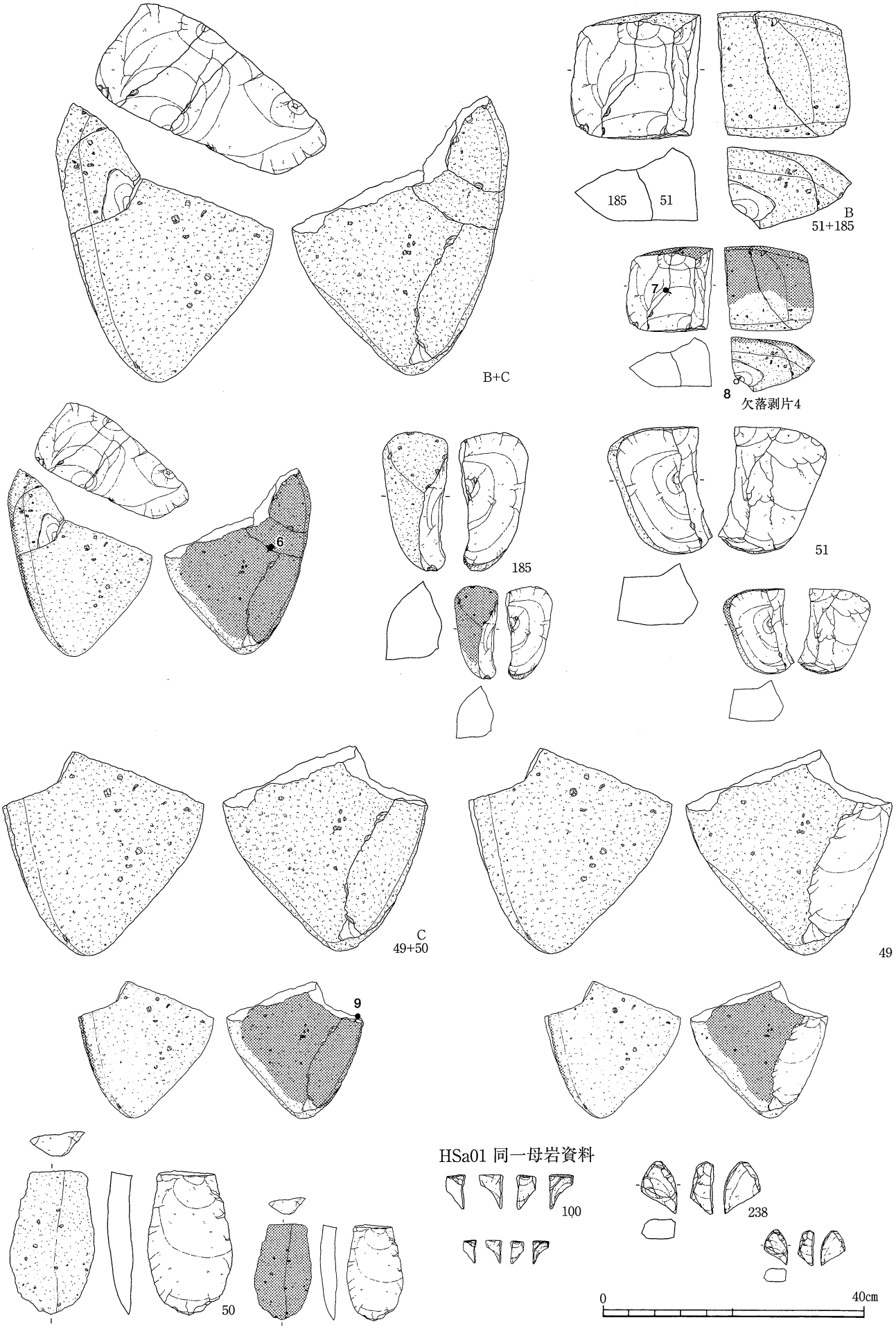
第76号住居址



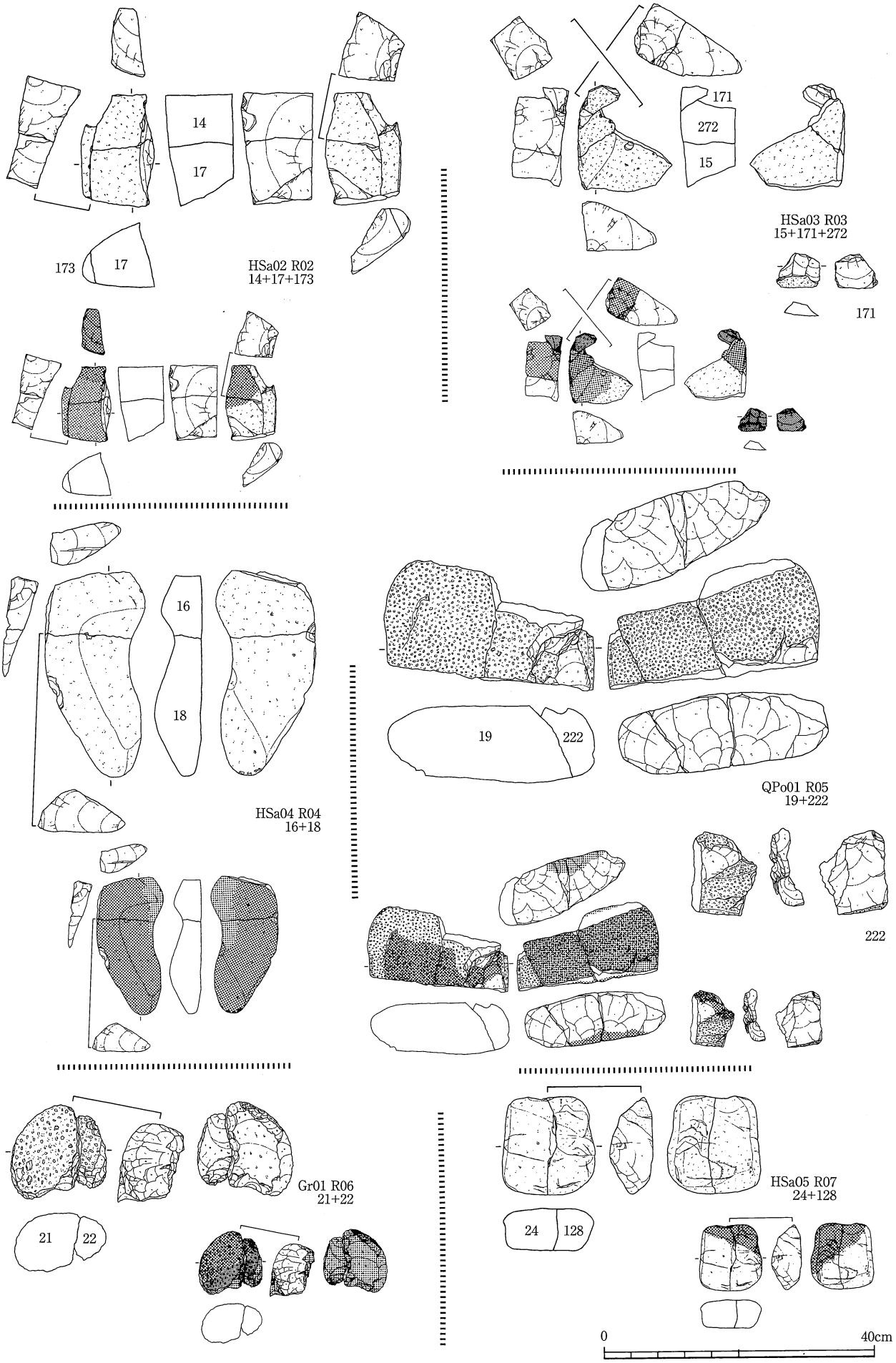
第54図　平瀬遺跡ⅡC遺物出土状況図（6）



第55図　平瀬遺跡ⅡC出土石器（1）HSa01 R01

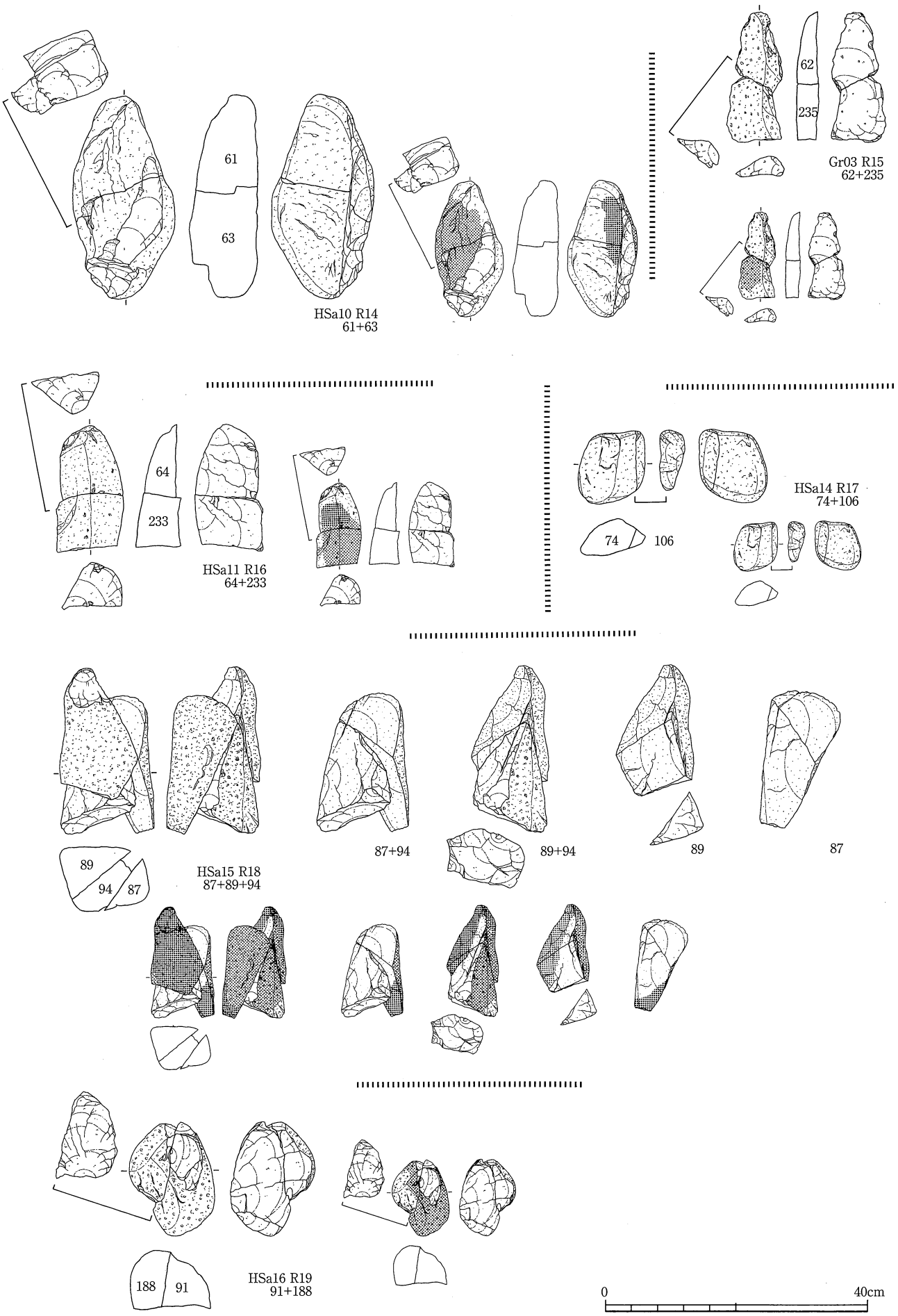


第56図　平瀬遺跡ⅡC出土石器（2）HSa01 R01

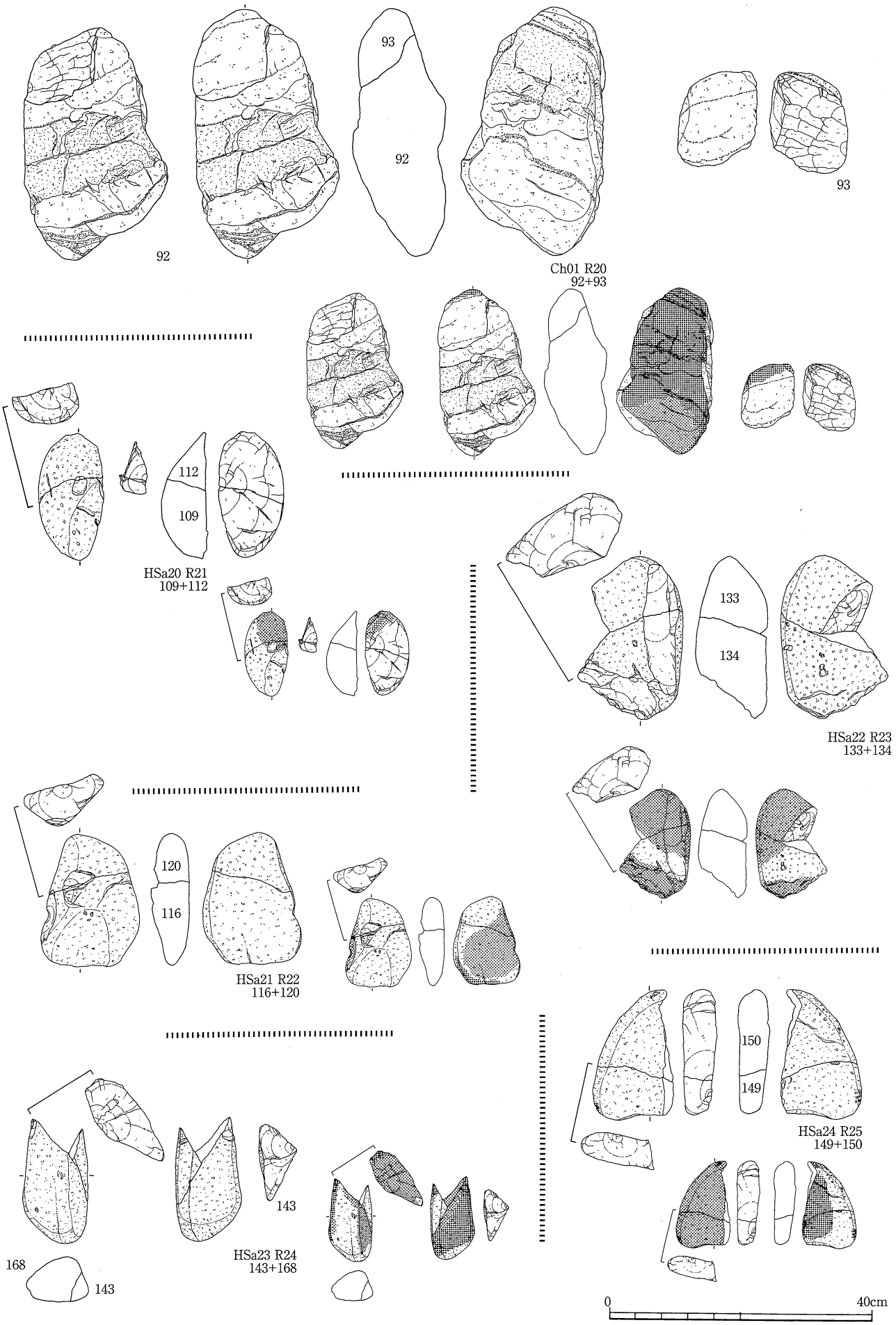


第57図　平瀬遺跡ⅡC出土石器（3）R02～R07

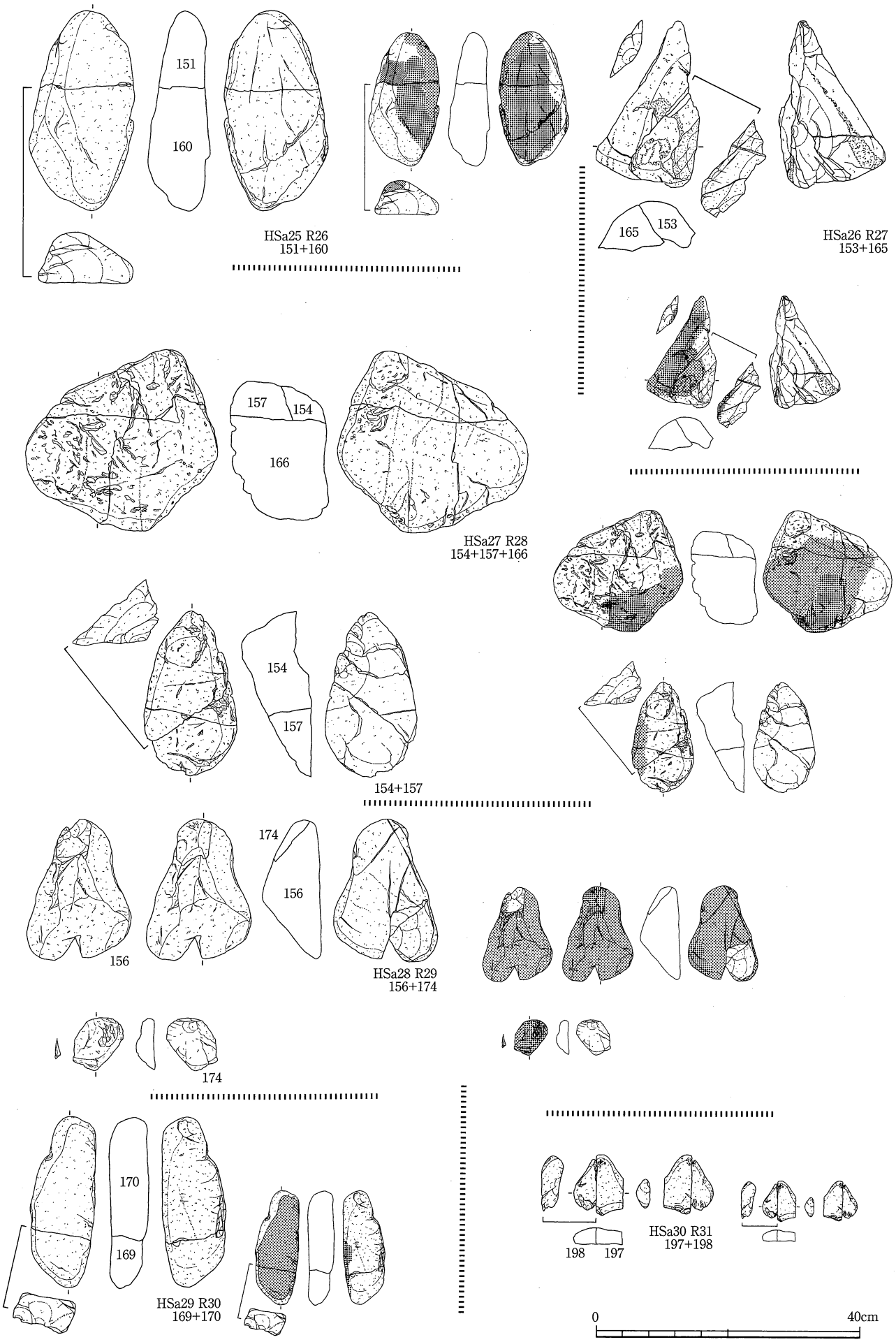
第58図　平瀬遺跡ⅡC出土石器（4）R08～R13



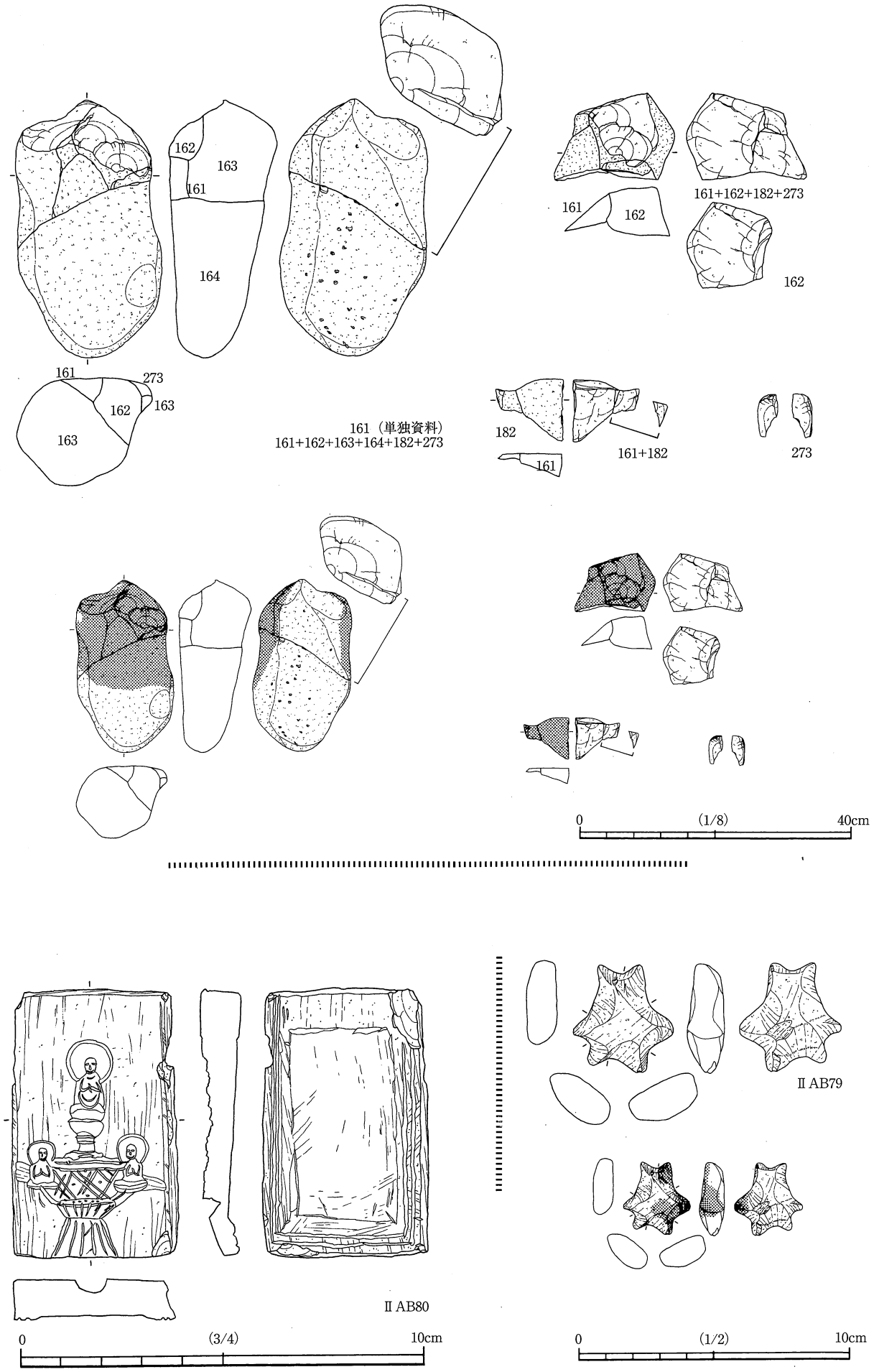
第59図　平瀬遺跡ⅡC出土石器（5）R14～R19



第60図　平瀬遺跡ⅡC出土石器（6）R20～R25



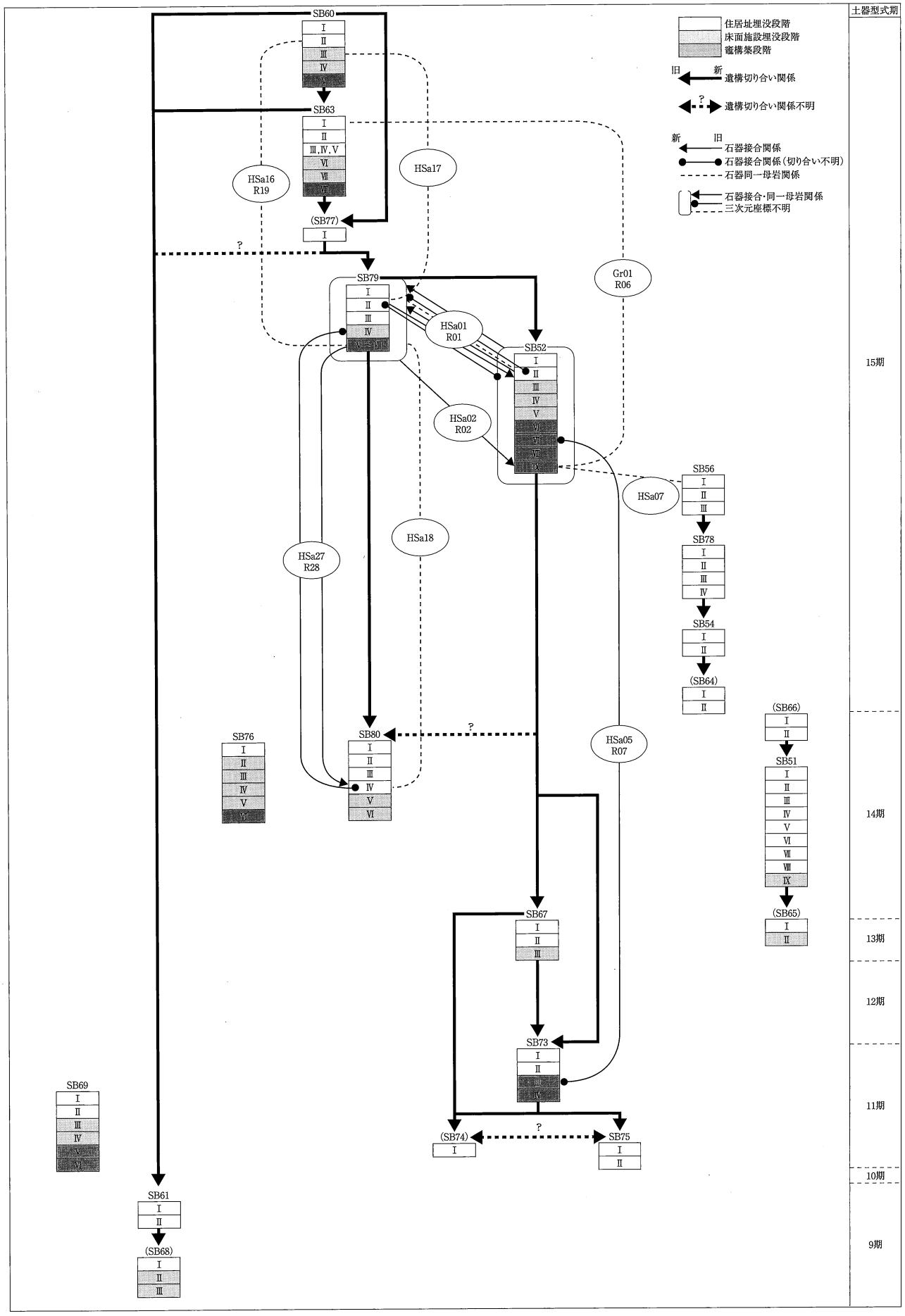
第61図　平瀬遺跡ⅡC出土石器（7）R26～R31



第62図　平瀬遺跡ⅡC出土石器（8），ⅡA・ⅡB出土石器

遺構名	段階	層序	層序	接合資料		同一母岩資料		単独資料	XYZ不明	石器	自然礫	総計	石器	接合率
(土器型式期不明)		本項	遺構編	点数	ID	点数	ID	点数	点数	小計			含有率	
第51号住居址	住居址覆土	Ⅰ	Ⅰ	0		0		0		0	0	0		
14期		Ⅱ	Ⅱ	0		0		0		0	0	0		
		Ⅲ	Ⅲ	0		0		1		1	0	1	100.0%	0.0%
		Ⅳ	Ⅳ	0		0		0		0	0	0		
		Ⅴ	Ⅴ	0		0		0		0	0	0		
		Ⅵ	Ⅵ	0		0		0		0	0	0		
		Ⅶ	Ⅶ	0		0		0		0	0	0		
		Ⅷ	Ⅷ	0		0		0		0	0	0		
	ピット1覆土	Ⅸ	Ⅸ	0		0		1		1	2	3	33.3%	0.0%
計				0		0		2	0	2	2	4	50.0%	0.0%
第52号住居址	住居址覆土	Ⅰ	Ⅰ	9	27(HSa06 R08),46・47(Sa01 R11),49・51(HSa01 R01), 54・59(HSa08 R12),61・63(HSa10 R14)	0		10		19	18	37	51.4%	47.4%
15期		Ⅱ	Ⅱ	8	40・50・53(HSa01 R01),42・43(Rh01 R09),45・52(Gr02 R10), 62(Gr03 R15)	0		2		10	9	19	52.6%	80.0%
	ピット13覆土	Ⅲ	Ⅴ	1	64(HSa11 R16)	0		0		1	1	2	50.0%	100.0%
	ピット覆土	Ⅳ		0		0		0		0	0	0		
	竈崩落土	Ⅴ	Ⅸ	0		0		0		0	0	0		
	竈構築土	Ⅵ	Ⅹ	0		0		0		0	1	1	0.0%	
		Ⅶ	ⅩⅠ	1	24(HSa05 R07)	0		0		1	1	2	50.0%	100.0%
	ピット6覆土	Ⅷ	ⅩⅢ	0		0		4		4	7	11	36.4%	0.0%
	竈構築土	Ⅸ	ⅩⅡ	8	14・17(HSa02 R02),16・18(HSa04 R04),19(QPo01 R05), 21・22(Gr01 R06),36(HSa06 R08)	1	33(HSa07)	1		10	8	18	55.6%	80.0%
計				27		1		17	4	49	45	94	52.1%	55.1%
第54号住居址	住居址覆土	Ⅰ	Ⅰ	0		0		4		4	10	14	28.6%	0.0%
15期		Ⅱ	Ⅱ	0		0		0		0	0	0		
計				0		0		4	0	4	10	14	28.6%	0.0%
第56号住居址	住居址覆土	Ⅰ	Ⅰ	0		1	78(HSa07)	1		2	17	19	10.5%	0.0%
15期		Ⅱ	Ⅱ	0		0		0		0	1	1	0.0%	
		Ⅲ	Ⅲ	0		0		0		0	7	7	0.0%	
計				0		1		1	2	4	25	29	13.8%	0.0%
第60号住居址	住居址覆土	Ⅰ	Ⅰ	2	92・93(Ch01 R20)	0		0		2	8	10	20.0%	100.0%
15期		Ⅱ	Ⅱ	2	91(HSa16 R19),94(HSa15 R18)	0		2		4	8	12	33.3%	50.0%
	ピット5覆土	Ⅲ		0		1	95(HSa17)	0		1	0	1	100.0%	0.0%
	竈覆土	Ⅳ	Ⅲ	0		0		0		0	0	0		
	竈構築土	Ⅴ	Ⅳ	2	87・89(HSa15 R18)	0		0		2	1	3	66.7%	100.0%
計				6		1		2	0	9	17	26	34.6%	66.7%
第61号住居址	住居址覆土	Ⅰ	Ⅰ	0		0		1		1	22	23	4.3%	0.0%
9期		Ⅱ	Ⅱ	0		0		0		0	2	2	0.0%	
計				0		0		1	1	2	24	26	7.7%	0.0%
第63号住居址	住居址覆土	Ⅰ	Ⅰ	0		1	103(Gr01)	1		2	1	3	66.7%	0.0%
15期		Ⅱ	Ⅱ	0		0		0		0	1	1	0.0%	
		Ⅲ,Ⅳ,Ⅴ	Ⅲ,Ⅳ,Ⅴ	0		0		0		0	0	0		
	ピット22覆土	Ⅵ		0		1	104(HSa19)	0		1	0	1	100.0%	0.0%
	竈覆土	Ⅶ	ⅩⅨ	0		0		0		0	1	1	0.0%	
	竈構築土	Ⅷ	ⅩⅧ	0		0		0		0	0	0		
計				0		2		1	0	3	3	6	50.0%	0.0%
(第64号住居址)	住居址覆土	Ⅰ	Ⅰ	0		0		1		1	0	1	100.0%	0.0%
		Ⅱ	Ⅱ	0		0		0		0	0	0		
計				0		0		1	0	1	0	1	100.0%	0.0%
(第65号住居址)	住居址覆土	Ⅰ	Ⅰ	0		0		0		0	0	0		
14期以前	ピット2覆土	Ⅱ	Ⅱ	0		0		0		0	0	0		
計				0		0		0	1	1	0	1	100.0%	0.0%
(第66号住居址)	住居址覆土	Ⅰ	Ⅰ	0		0		0		0	0	0		
		Ⅱ	Ⅱ	0		0		0		0	0	0		
計				0		0		0	0	0	0	0		
第67号住居址	住居址覆土	Ⅰ	Ⅰ	1	112(HSa20 R21)	0		1		2	1	3	66.7%	50.0%
13～14期		Ⅱ	Ⅱ	1	109(HSa20 R21)	0		0		1	6	7	14.3%	100.0%
	ピット3覆土	Ⅲ		0		0		2		2	1	3	66.7%	0.0%
計				2		0		3	4	9	8	17	52.9%	22.2%
(第68号住居址)	住居址覆土	Ⅰ	Ⅰ	0		0		0		0	22	22	0.0%	
	ピット4覆土	Ⅱ	Ⅱ	0		0		0		0	0	0		
		Ⅲ	Ⅲ	0		0		0		0	0	0		
計				0		0		0	0	0	22	22	0.0%	
第69号住居址	住居址覆土	Ⅰ	Ⅰ	2	116・120(HSa21 R22)	0		4		6	27	33	18.2%	33.3%
11～15期		Ⅱ	Ⅲ	0		0		1		1	36	37	2.7%	0.0%
	ピット1・3覆土	Ⅲ	Ⅷ	0		0		0		0	2	2	0.0%	
	竈覆土	Ⅳ	Ⅳ	0		0		0		0	2	2	0.0%	
	竈構築土	Ⅴ	Ⅱ	6	56・57・58・122・123・124(HSa09 R13)	0		0		6	6	12	50.0%	100.0%
		Ⅵ	Ⅴ	0		0		1		1	5	6	16.7%	0.0%
計				8		0		6	0	14	78	92	15.2%	57.1%
第73号住居址	住居址覆土	Ⅰ	Ⅰ	0		0		0		0	0	0		
11～12期		Ⅱ	Ⅲ	0		0		0		0	1	1	0.0%	
	竈構築土	Ⅲ	Ⅱ	1	128(HSa05 R07)	0		3		4	30	34	11.8%	25.0%
		Ⅳ	Ⅳ	0		0		0		0	0	0		
計				1		0		3	0	4	31	35	11.4%	25.0%
(第74号住居址)	住居址覆土	Ⅰ	Ⅰ	0		0		0		0	2	2	0.0%	
計				0		0		0	0	0	2	2	0.0%	
第76号住居址	住居址覆土	Ⅰ	Ⅰ,Ⅱ	2	133・134(HSa22 R23)	0		5		7	56	63	11.1%	28.6%
14期	ピット2覆土	Ⅱ		0		0		0		0	1	1	0.0%	
	竈覆土	Ⅲ	Ⅳ	0		0		0		0	2	2	0.0%	
		Ⅳ	Ⅴ	0		0		1		1	4	5	20.0%	0.0%
		Ⅴ		0		0		0		0	0	0		
	竈構築土	Ⅵ	Ⅲ	0		0		2		2	17	19	10.5%	0.0%
計				2		0		8	2	12	80	92	13.0%	16.7%
(第77号住居址)	住居址覆土	Ⅰ	Ⅰ	0		0		0		0	0	0		
計				0		0		0	0	0	0	0		
第78号住居址	住居址覆土	Ⅰ	Ⅰ	0		0		0		0	0	0		
15期		Ⅱ	Ⅱ	0		0		0		0	0	0		
		Ⅲ	Ⅲ	0		0		1		1	1	2	50.0%	0.0%
		Ⅳ	Ⅳ	0		0		0		0	0	0		
計				0		0		1	0	1	1	2	50.0%	0.0%
第79号住居址	住居址覆土	Ⅰ	Ⅰ	0		0		1		1	4	5	20.0%	0.0%
15期		Ⅱ	Ⅱ	1	147(HSa01 R01)	1	152(HSa17)	0		2	2	4	50.0%	50.0%
		Ⅲ	Ⅲ	3	151(HSa25 R26),153(HSa26 R27),156(HSa28 R29)	0		2		5	4	9	55.6%	60.0%
	竈覆土	Ⅳ	Ⅳ	7	149・150(HSa24 R25),157(HSa27 R28),160(HSa25 R26), 165(HSa26 R27),169(HSa29 R30),171(HSa03 R03)	0		0		7	2	9	77.8%	100.0%
	竈構築土	Ⅴ～Ⅷ	Ⅴ～Ⅷ	3	166(HSa27 R28),168(HSa23 R24),170(HSa29 R30)	1	159(HSa16)	2		6	5	11	54.5%	50.0%
計				14		2		5	10	31	17	48	64.6%	45.2%
第80号住居址	住居址覆土	Ⅰ	Ⅰ	0		0		0		0	0	0		
14期		Ⅱ	Ⅱ	0		0		1		1	0	1	100.0%	0.0%
		Ⅲ	Ⅲ	0		0		0		0	0	0		
		Ⅳ	Ⅳ	1	154(HSa27 R28)	1	177(HSa18)	1		3	3	6	50.0%	33.3%
	ピット2覆土	Ⅴ		0		0		0		0	2	2	0.0%	
	竈覆土	Ⅵ	Ⅴ	0		1	180(Gr04)	1		2	4	6	33.3%	0.0%
計				1		2		3	1	7	9	16	43.8%	14.3%

第17表　平瀬遺跡ⅡC遺構・土層単位集計



第63図　平瀬遺跡ⅡC遺構間土層対比模式図

第18表　平瀬遺跡ⅡC出土石器属性一覧

ID	出土遺構1	出土遺構2	層序	XYZ	器種	最大長	最大幅	最大厚	重量	礫形状	分割面	残存率	礫面	石材	母岩	接合	備考	図面	欠番
1	第44号住居址	南西	不明	×	PTⅡ	114.5	91.5	11.8	130.0	不明	0	1/16	50%	HSa	単独		接合状態で1個体	−	
2	第45号住居址	北西	不明	×	PT	50.8	59.6	16.2	51.0	板状	3	1/16	40%	Sa	単独			−	
3	第45号住居址	No.5		○	PT	137.8	43.0	35.0	348.0	棒状	1	1/2	90%	Tu	単独			−	
4	第47号住居址	No.1		○	PTC	255.5	213.5	119.5	8400.0	偏平	2	1/2	70%	Gr	単独			−	
5	第47号住居址	No.2		○	PTC	350.5	167.0	119.5	9600.0	棒状	1	1/2	70%	Gr	単独			−	
6	第47号住居址	ベルト東	不明	×	RF	15.6	22.1	8.0	2.9	不明	0	1/4	30%	Qu	単独			−	
7	第49号住居址	No.9		○	Ws	237.5	147.5	44.9	2044.0	不明	5	1/2	0%	Sa	単独			−	
8	第49号住居址	No.10		○	PTⅠ	99.0	156.5	84.0	1524.0	不明	3	1/16	40%	HSa	単独			−	
9	第51号住居址	No.3		○	Ws	117.9	70.5	56.0	488.0	不明	2	1/2	0%	Sa	単独			−	
10	第51号住居址	No.5		○	PTC	153.5	123.0	90.0	2034.0	不明	1	1/8	40%	HSa	単独			−	
11	第52号住居址	覆土	不明	×	PTⅡ	162.0	93.0	57.7	846.0	不整形	0	1/4	50%	HSa	単独			−	
12	第52号住居址	北東	不明	×	PT	134.5	83.5	41.6	536.0	卵状	0	1/2	60%	HSa	単独			−	
13	第52号住居址	北西	不明	×	PTC	106.6	76.5	103.9	896.0	偏平	4	1/12	40%	HSa	HSa01	R01		○	
14	第52号住居址	No.1	Ⅸ	○	PTC	82.0	77.0	102.6	980.0	偏平	3	1/16	30%	HSa	HSa02	R02		○	
15	第55号住居址	No.1	Ⅱ	○	PTC	118.0	108.7	78.4	1222.0	偏平	4	1/16	40%	HSa	HSa03	R03		○	
16	第52号住居址	No.2	Ⅸ	○	PTC	97.5	147.0	66.3	1334.0	棒状	2	1/4	70%	HSa	HSa04	R04		○	
17	第52号住居址	No.3	Ⅸ	○	PTC	96.9	81.9	97.5	1144.0	偏平	4	1/16	40%	HSa	HSa02	R02		○	
18	第52号住居址	No.4	Ⅸ	○	PTC	213.5	141.0	71.5	2360.0	棒状	1	1/2	80%	HSa	HSa04	R04		○	
19	第52号住居址	No.5	Ⅸ	○	PTC	161.0	296.5	118.5	7770.0	偏平	4	1/4	60%	QPo	QPo01	R05	20と接合状態で1個体	○	
20	第52号住居址	No.5		−													欠番　19と接合状態で1個体	−	×
21	第52号住居址	No.6	Ⅸ	○	PTC	139.0	97.5	87.5	1522.0	卵状	2	1/8	50%	Gr	Gr01	R06		○	
22	第52号住居址	No.7	Ⅸ	○	PTC	64.0	46.5	48.5	400.0	卵状	2	1/8	20%	Gr	Gr01	R06		○	
23	第52号住居址	No.8	Ⅷ	○	PTⅠ	124.0	237.0	78.5	3055.0	偏平	2	1/4	70%	Di	単独			−	
24	第52号住居址	No.9	Ⅶ	○	PTC	143.5	81.5	63.1	1094.0	偏平	2	1/2	60%	HSa	HSa05	R07		○	
25	第52号住居址	No.10	Ⅰ	○	PTⅠ	104.5	117.5	108.0	1544.0	棒状	2	1/8	30%	HSa	単独			−	
26	第52号住居址	No.11	Ⅰ	○	PTC	119.5	95.0	73.6	852.0	不整形	1	1/16	40%	HSa	単独			−	
27	第52号住居址	No.12	Ⅰ	○	PTC	150.4	80.2	121.0	1992.0	偏平	1	1/16	60%	HSa	HSa06	R08		○	
28	第52号住居址	No.13	Ⅷ	○	PC	228.5	259.0	86.3	6600.0	偏平	1	1/2	80%	HSa	単独			−	
29	第52号住居址	No.14	Ⅷ	○	PTC	211.5	169.0	69.0	2920.0	偏平	1	1/2	80%	Gr	単独			−	
30	第52号住居址	No.15	Ⅷ	○	PTⅠ	282.0	141.0	75.5	2820.0	偏平	1	1/4	50%	HSa	単独			−	
31	第52号住居址	No.15旧	Ⅰ	○	Ws	102.5	116.5	39.9	720.0	不明	3	1/1	0%	Sa	単独			−	
32	第52号住居址	No.16旧	Ⅰ	○	PTⅠ	135.0	167.5	72.6	2184.0	偏平	2	1/4	60%	HSa	単独			−	
33	第52号住居址	No.16	Ⅸ	○	PTⅠ	133.0	175.5	71.5	1486.0	偏平	2	1/16	50%	HSa	HSa07			−	
34	第52号住居址	No.17旧	Ⅰ	○	PTⅠ	99.5	120.5	52.6	878.0	偏平	1	1/2	60%	HSa	単独			−	
35	第52号住居址	No.17	Ⅸ	○	PTC	286.5	281.5	119.5	9600.0	偏平	1	1/2	80%	An	単独			−	
36	第52号住居址	No.18	Ⅸ	○	PTⅡ	181.0	67.5	62.1	1168.0	偏平	1	1/16	20%	HSa	HSa06	R08		○	
37	第52号住居址	No.18旧	Ⅰ	○	PTⅠ	129.0	96.5	37.6	680.0	偏平	2	1/8	40%	HSa	単独			−	
38	第52号住居址	No.19	Ⅰ	○	PTⅠ	90.5	81.0	63.5	666.0	偏平	4	1/8	60%	Gr	単独			−	
39	第52号住居址	No.19旧	Ⅰ	○	PTC	258.5	164.5	94.0	4555.0	棒状	1	1/4	50%	Gr	単独			−	
40	第52号住居址	No.24	Ⅱ	○	PTC	130.6	96.8	136.8	1908.0	偏平	6	1/12	20%	HSa	HSa01	R01		○	
41	第52号住居址	No.25付近	不明	×	PC	92.5	66.5	48.7	438.0	棒状	2	1/4	70%	HSa	単独			−	
42	第52号住居址	No.25	Ⅱ	○	PTⅠ	120.0	83.5	52.3	824.0	板状	2	1/4	70%	Rh	Rh01	R09		○	
43	第52号住居址	No.26	Ⅱ	○	PTⅠ	122.0	83.5	53.7	700.0	板状	2	1/4	80%	Rh	Rh01	R09		○	
44	第52号住居址	No.27	Ⅱ	○	Ws	174.5	110.5	85.5	2098.0	不明	4	1/4	0%	HSa	単独			−	
45	第52号住居址	No.28	Ⅱ	○	PTⅠ	91.0	184.5	56.0	1390.0	板状	1	1/2	70%	Gr	Gr02	R10		○	
46	第52号住居址	No.29	Ⅰ	○	Ws	65.0	58.2	20.2	96.5	不明	5	1/2	0%	Sa	Sa01	R11		○	
47	第52号住居址	No.29	Ⅰ	○	Ws	43.0	54.3	17.5	49.8	不明	5	1/2	0%	Sa	Sa01	R11		○	
48	第52号住居址	No.30	Ⅱ	○	PTC	349.5	243.5	173.5	19000.0	不整形	1	1/2	60%	QPo	単独			−	
49	第52号住居址	No.31	Ⅰ	○	C	309.0	308.9	199.1	21000.0	偏平	3	1/2	60%	HSa	HSa01	R01		○	
50	第52号住居址	No.32	Ⅱ	○	F	218.0	129.3	36.3	1170.0	偏平	2	1/12	60%	HSa	HSa01	R01		○	
51	第52号住居址	No.33	Ⅰ	○	C	159.9	193.0	131.7	3845.0	偏平	4	1/12	40%	HSa	HSa01	R01		○	
52	第52号住居址	No.34	Ⅱ	○	PTⅠ	113.5	177.5	56.0	1674.0	板状	2	1/2	80%	Gr	Gr02	R10		○	
53	第52号住居址	No.36	Ⅱ	○	PTC	113.1	207.8	59.9	1162.0	偏平	2	1/12	50%	HSa	HSa01	R01		○	
54	第52号住居址	No.38	Ⅰ	○	PTⅡ	109.2	92.7	73.2	902.0	不整形	0	1/4	60%	HSa	HSa08	R12		○	
55	第52号住居址	No.39	Ⅰ	○	PTⅠ	114.5	92.0	97.7	1888.0	卵状	3	1/16	40%	HSa	単独			−	
56	第69号住居址	No.30	Ⅴ	○	PTⅡ	133.8	138.3	67.8	1206.0	偏平	0	1/4	70%	HSa	HSa09	R13		○	
57	第69号住居址	No.30	Ⅴ	○	PTⅡ	146.2	137.7	77.4	1152.0	偏平	0	1/4	60%	HSa	HSa09	R13		○	
58	第69号住居址	No.30	Ⅴ	○	PTⅡ	186.5	102.1	34.2	896.0	偏平	0	1/4	50%	HSa	HSa09	R13		○	
59	第52号住居址	No.40	Ⅰ	○	PTC	55.8	106.1	67.7	560.0	不整形	1	1/8	20%	HSa	HSa08	R12		○	
60	第52号住居址	No.41	Ⅰ	○	PC	129.5	113.0	54.0	1160.0	偏平	2	1/4	70%	HSa	単独			−	
61	第52号住居址	No.42	Ⅰ	○	PTⅡ	190.0	137.5	96.0	2545.0	偏平	1	1/2	70%	HSa	HSa10	R14		○	
62	第52号住居址	No.43	Ⅱ	○	PTⅠ	122.0	72.0	31.7	264.6	不整形	1	1/8	50%	Gr	Gr03	R15		○	
63	第52号住居址	No.44	Ⅰ	○	PTⅡ	186.0	149.5	106.0	3420.0	偏平	1	1/2	70%	HSa	HSa10	R14		○	
64	第52号住居址	No.49	Ⅲ	○	PTC	95.5	112.5	49.0	518.0	偏平	1	1/8	50%	HSa	HSa11	R16		○	
65	第54号住居址	No.6	Ⅰ	○	PTⅡ	82.5	158.0	43.0	692.0	不明	0	1/8	40%	HSa	単独			−	
66	第54号住居址	No.9	Ⅰ	○	PTⅠ	93.5	99.5	73.1	776.0	不明	2	1/8	60%	HSa	単独			−	
67	第54号住居址	No.7	Ⅰ	○	PTC	161.5	167.0	74.0	2745.0	偏平	1	1/2	70%	HSa	単独			−	
68	第54号住居址	No.8	Ⅰ	○	PTⅡ	187.0	181.5	67.2	2402.0	偏平	0	1/8	40%	HSa	単独			−	
69	第64号住居址	No.10	Ⅰ	○	Ws	212.5	134.5	20.0	770.0	不明	1	1/1	0%	Sa	単独			−	
70	第55号住居址	覆土	不明	×	PTⅠ	63.0	66.5	33.7	196.6	不明	4	1/16	0%	Ho	単独			−	
71	第55号住居址	覆土	不明	×	PTⅠ	37.5	91.5	27.5	87.0	偏平	0	1/16	50%	HSa	HSa12			−	
72	第55号住居址	南西	不明	×	PTC	45.7	43.0	17.6	34.6	偏平	5	1/16	50%	HSa	HSa13			−	
73	第55号住居址	No.3	Ⅱ	○	PTC	111.0	90.5	79.5	1196.0	偏平	3	1/8	40%	HSa	HSa13			−	
74	第55号住居址	No.4	Ⅱ	○	PT	110.0	88.5	59.0	748.0	偏平	0	3/4	80%	HSa	HSa14	R17		○	
75	排土	−	不明	×	PTC	69.0	140.5	42.6	526.0	偏平	1	1/16	50%	HSa	HSa12			−	
76	第56号住居址	南東	不明	×	PTⅠ	26.2	23.2	17.6	10.2	不整形	1	1/8	30%	Qu	単独			−	
77	第56号住居址	南東	不明	×	PT	59.2	56.0	28.0	71.0	不整形	2	1/16	50%	Sh	単独			−	
78	第56号住居址	No.6	Ⅰ	○	PTC	161.5	119.0	90.5	1540.0	偏平	3	1/16	40%	HSa	HSa07			−	
79	第56号住居址	No.7	Ⅰ	○	PTⅠ	178.0	95.0	74.0	1428.0	偏平	1	1/8	40%	HSa	単独			−	
80	第57号住居址	覆土	不明	×	PTⅠ	110.5	151.5	99.4	1950.0	偏平	2	1/16	60%	HSa	単独			−	
81	第57号住居址	覆土	不明	×	PTⅡ	187.5	117.5	77.9	1774.0	偏平	0	1/2	80%	HSa	単独			−	
82	第57号住居址	覆土	不明	×	PTC	151.0	161.5	48.3	1234.0	偏平	2	1/2	70%	HSa	単独			−	
83	第57号住居址	覆土	不明	×	PTⅡ	123.5	126.5	82.3	1552.0	卵状	0	1/2	60%	HSa	単独			−	
84	第57号住居址	覆土	不明	×	PT	160.5	85.0	64.0	952.0	卵状	0	1/2	70%	HSa	単独			−	
85	第57号住居址	No.42	Ⅳ	○	PⅡ	94.8	93.5	59.5	612.0	球状	0	1/1	0%	An	単独	−		−	
86	第57号住居址	No.43	Ⅳ	○	PT	51.5	50.5	20.2	45.2	不明	0	1/16	40%	Sa	単独			−	
87	第60号住居址	礫石No.1	Ⅴ	○	PⅡ	209.2	106.9	47.7	1590.0	棒状	0	1/8	50%	HSa	HSa15	R18		○	
88	第60号住居址	No.39	Ⅱ	○	PTⅡ	150.5	164.0	57.5	1086.0	偏平	0	1/8	60%	HSa	単独			−	
89	第60号住居址	礫石No.2	Ⅴ	○	PTⅡ	197.2	116.9	89.9	1060.0	棒状	0	1/8	60%	HSa	HSa15	R18		○	
90	第60号住居址	No.40	Ⅱ	○	PTⅡ	115.0	121.0	98.1	2170.0	卵状	0	1/2	70%	HSa	単独			−	
91	第60号住居址	No.41	Ⅱ	○	PT	173.0	93.0	83.5	1354.0	球状	2	1/4	50%	HSa	HSa16	R19		○	
92	第60号住居址	No.42	Ⅰ	○	PTⅡ	374.5	220.5	156.5	14000.0	卵状	0	7/8	80%	Ch	CH01	R20		○	
93	第60号住居址	No.43	Ⅰ	○	PTⅡ	155.5	116.0	73.0	1654.0	卵状	0	1/8	60%	Ch	CH01	R20		○	
94	第60号住居址	No.44	Ⅱ	○	PTC	167.6	18.6	80.2	1314.0	棒状	1	1/8	30%	HSa	HSa15	R18		○	
95	第60号住居址	ピット5No.1	Ⅲ	○	PT	78.5	38.0	28.2	72.3	不明	0	1/16	40%	HSa	HSa17			−	

ID	出土遺構1	出土遺構2	層序	XYZ	器種	最大長	最大幅	最大厚	重量	礫形状	分割面	残存率	礫面	石材	母岩	接合	備考	図面	欠番
96	第61号住居址	南西隅	不明	×	PT Ⅱ	163.5	138.0	128.8	3030.0	卵状	0	1/8	40%	HSa	単独			−	
97	第61号住居址	No.15	Ⅰ	○	Ws	90.0	75.0	44.6	338.0	不明	2	1/8	50%	Sa	単独			−	
98	第79号住居址	南	不明	×	PT	88.4	55.1	48.6	175.5	不明	0	1/16	40%	HSa	単独			−	
99	第79号住居址	南東	不明	×	PT	72.5	50.2	33.3	98.7	偏平	0	1/16	40%	HSa	HSa18			−	
100	第79号住居址	南東	不明	×	PT	51.8	35.9	27.0	39.1	偏平	0	1/16	30%	HSa	HSa01			○	
101	第79号住居址	検出面	不明	×	P Ⅲ	140.5	93.5	68.5	842.0	卵状	1	1/2	60%	An	単独			−	
102	第63号住居址	No.3	Ⅰ	○	PT	155.5	85.5	48.5	704.0	不整形	0	1/2	70%	HSa	単独			−	
103	第63号住居址	No.5	Ⅰ	○	PTC	73.5	35.5	66.0	180.0	卵状	1	1/8	20%	Gr	Gr01			−	
104	第63号住居址	ピット22No.3	Ⅵ	○	PT	56.1	79.4	39.0	142.1	不明	0	1/16	0%	HSa	HSa19			−	
105	第65号住居址	覆土	不明	×	PT Ⅰ	80.5	72.0	61.0	556.0	板状	2	1/8	30%	Gr	単独			−	
106	第67号住居址	北	不明	×	PT	90.4	43.5	19.8	91.5	偏平	0	1/4	60%	HSa	HSa14	R17		○	
107	第67号住居址	南西	不明	×	PT	91.0	91.5	39.8	444.0	不整形	0	1/8	50%	HSa	単独			−	
108	第67号住居址	No.10	Ⅰ	○	PT	68.0	132.5	38.4	328.0	不明	0	1/4	60%	HSa	単独			−	
109	第67号住居址	No.21	Ⅱ	○	PT Ⅱ	123.5	98.0	62.7	900.0	偏平	1	1/4	60%	HSa	HSa20	R21		○	
110	第67号住居址	No.25	Ⅲ	○	PT Ⅱ	182.5	110.5	96.0	1574.0	不整形	0	1/2	60%	HSa	単独			−	
111	第67号住居址	No.32	Ⅲ	○	PTC	308.0	230.0	84.5	5600.0	偏平	1	1/2	80%	QPo	単独			−	
112	第67号住居址	No.36	Ⅰ	○	PT Ⅱ	101.0	96.5	55.1	504.0	偏平	1	1/4	40%	HSa	HSa20	R21		○	
113	第67号住居址	覆土	不明	×	PT	187.5	96.0	76.5	1164.0	板状	1	1/4	70%	Rh	単独			−	
114	第67号住居址	ベルト	不明	×	PTC	127.5	103.5	110.5	2060.0	卵状	1	1/4	70%	Sh	単独			−	
115	第69号住居址	No.6	Ⅰ	○	PT	71.5	90.0	45.1	234.8	不明	1	1/16	40%	HSa	単独			−	
116	第69号住居址	No.7	Ⅰ	○	PTC	143.0	149.5	58.4	1668.0	偏平	1	1/2	80%	HSa	HSa21	R22		○	
117	第69号住居址	No.8	Ⅰ	○	PTC	176.0	112.5	89.4	2660.0	偏平	1	1/8	50%	HSa	単独			−	
118	第69号住居址	No.9	Ⅱ	○	PT	130.0	167.5	86.2	2214.0	偏平	0	1/2	60%	HSa	単独			−	
119	第69号住居址	No.10	Ⅰ	○	PTC	213.5	190.0	107.8	4190.0	偏平	1	1/2	70%	HSa	単独			−	
120	第69号住居址	No.11	Ⅰ	○	PTC	91.0	121.0	54.9	554.0	偏平	1	1/2	70%	HSa	HSa21	R22		○	
121	第69号住居址	No.13	Ⅰ	○	PTC	72.5	95.0	52.2	360.0	不明	2	1/16	30%	HSa	単独			−	
122	第69号住居址	No.30	Ⅴ	○	P Ⅱ	140.9	86.7	82.2	1314.0	偏平	0	1/4	40%	HSa	HSa09	R13		○	
123	第69号住居址	No.31	Ⅴ	○	PT Ⅱ	90.1	72.3	37.9	1445.0	偏平	0	1/16	40%	HSa	HSa09	R13		○	
124	第69号住居址	No.32	Ⅴ	○	PT Ⅱ	63.9	52.2	10.3	30.8	偏平	0	1/16	50%	HSa	HSa09	R13		○	
125	第69号住居址	No.33	Ⅵ	○	PTC	232.5	160.5	101.6	4835.0	偏平	1	1/2	70%	HSa	単独			−	
126	第73号住居址	No.23	Ⅲ	○	PT Ⅰ	180.5	142.5	88.0	2625.0	不整形	1	1/2	80%	HSa	単独			−	
127	第73号住居址	No.24	Ⅲ	○	PTC	144.5	89.5	79.4	948.0	偏平	2	1/8	70%	Rh	単独			−	
128	第73号住居址	No.30	Ⅲ	○	PTC	145.0	71.0	62.5	878.0	偏平	2	1/2	70%	HSa	HSa05	R07		○	
129	第73号住居址	No.31	Ⅲ	○	PTC	100.0	177.5	33.5	324.0	不明	0	1/16	50%	QPo	単独			−	
130	第76号住居址	覆土	不明	×	PT	52.8	64.5	21.1	86.0	卵状	0	1/2	50%	HSa	単独			−	
131	第76号住居址	覆土	不明	×	PTC	94.5	83.0	41.8	416.0	偏平	1	1/2	80%	HSa	単独			−	
132	第76号住居址	No.2	Ⅰ	○	Ws	178.0	111.5	40.8	1172.0	不明	2	1/2	0%	Sa	単独			−	
133	第76号住居址	No.6	Ⅰ	○	PTC	114.0	136.5	101.0	1530.0	偏平	0	1/4	50%	HSa	HSa22	R23		○	
134	第76号住居址	No.7	Ⅰ	○	PTC	165.0	161.5	110.5	2830.0	偏平	1	1/2	60%	HSa	HSa22	R23		○	
135	第76号住居址	No.8	Ⅰ	○	PT	101.5	89.0	33.2	266.2	不整形	0	1/8	50%	HSa	単独			−	
136	第76号住居址	No.14	Ⅵ	○	PT	167.0	189.0	84.5	2700.0	偏平	2	1/8	40%	Sh	単独			−	
137	第76号住居址	No.15	Ⅳ	○	PTC	129.0	177.5	91.5	2640.0	偏平	3	1/8	40%	HSa	単独			−	
138	第76号住居址	No.16	Ⅰ	○	PTC	311.0	190.5	114.5	6400.0	偏平	1	1/2	60%	HSa	単独			−	
139	第76号住居址	No.19	Ⅰ	○	PT	158.0	130.5	81.0	2595.0	不整形	0	1/2	70%	HSa	単独			−	
140	第76号住居址	No.20	Ⅰ	○	PT	217.5	118.0	68.5	2028.0	偏平	1	1/2	80%	HSa	単独			−	
141	第76号住居址	No.31	Ⅵ	○	PTC	356.5	147.5	104.0	6600.0	棒状	1	1/2	70%	Gr	単独			−	
142	第79号住居址	覆土	不明	×	PT	69.5	76.5	23.4	112.5	偏平	1	1/16	50%	STu	単独			−	
143	第79号住居址	南東	不明	×	PT Ⅱ	115.4	58.9	44.3	160.1	棒状	0	1/8	40%	HSa	HSa23	R24		○	
144	第79号住居址	南東	不明	×	PT	93.9	80.0	57.9	536.0	不整形	0	1/4	50%	HSa	単独			−	
145	第79号住居址	No.11	Ⅲ	○	PT Ⅱ	105.0	82.0	69.4	742.0	卵状	0	1/2	80%	HSa	単独			−	
146	第79号住居址	No.22	Ⅰ	○	PT Ⅰ	135.5	166.5	80.0	2505.0	不整形	2	1/2	70%	Gr	単独			−	
147	第79号住居址	No.24	Ⅱ	○	PTC	140.5	100.4	102.6	1438.0	偏平	4	1/12	20%	HSa	HSa01	R01		○	
148	第79号住居址	No.30	Ⅴ～Ⅷ	○	PTC	299.0	200.5	156.0	11500.0	棒状	1	1/2	60%	Gr	単独			−	
149	第79号住居址	No.31	Ⅳ	○	PT Ⅱ	87.5	120.5	43.2	678.0	板状	2	1/4	70%	HSa	HSa24	R25	近接状態で出土	○	
150	第79号住居址	No.31	Ⅳ	○	PT Ⅱ	136.0	113.0	50.3	870.0	板状	2	1/4	70%	HSa	HSa24	R25	近接状態で出土	○	
151	第79号住居址	No.32	Ⅲ	○	PTC	118.5	141.0	77.0	1474.0	偏平	2	1/2	70%	HSa	HSa25	R26		○	
152	第79号住居址	No.40	Ⅱ	○	PT	110.4	47.2	38.6	194.7	不明	0	1/16	20%	HSa	HSa17			−	
153	第79号住居址	No.41	Ⅲ	○	PT Ⅱ	132.0	127.5	46.4	732.0	不明	1	1/16	30%	HSa	HSa26	R27		○	
154	第80号住居址	No.42	Ⅳ	○	PT Ⅱ	196.0	125.1	96.9	2043.1	偏平	0	1/8	60%	HSa	HSa27	R28	155と接合状態で1個体	○	
155	第80号住居址	No.42		−													欠番　154と接合状態で1個体	−	×
156	第79号住居址	No.45	Ⅲ	○	PT Ⅱ	214.0	157.0	96.0	2990.0	不整形	0	7/8	80%	HSa	HSa28	R29		○	
157	第79号住居址	No.55	Ⅳ	○	PT Ⅱ	143.2	125.7	73.4	896.0	偏平	0	1/8	40%	HSa	HSa27	R28		○	
158	第79号住居址	No.57	Ⅲ	○	PTC	99.6	95.0	79.7	824.0	偏平	2	1/16	30%	HSa	単独			−	
159	第79号住居址	No.59	Ⅴ～Ⅷ	○	PT	45.6	50.3	11.4	20.4	球状	1	1/16	50%	HSa	HSa16			−	
160	第79号住居址	No.63	Ⅳ	○	PTC	191.5	160.5	97.5	3760.0	偏平	2	1/2	80%	HSa	HSa25	R26		○	
161	第79号住居址	No.64	Ⅴ～Ⅷ	○	PT Ⅱ	376.4	215.1	159.5	15129.1	偏平	0	7/8	90%	HSa	単独			○	
162	第79号住居址	No.64		−													欠番　161と接合状態で1個体	○	×
163	第79号住居址	No.64		−													欠番　161と接合状態で1個体	○	×
164	第79号住居址	No.64		−													欠番　161と接合状態で1個体	○	×
165	第79号住居址	No.65	Ⅳ	○	PT Ⅱ	138.0	239.0	70.6	1404.0	不明	1	1/8	40%	HSa	HSa26	R27		○	
166	第79号住居址	No.66	Ⅴ～Ⅷ	○	PT Ⅱ	289.0	205.5	148.2	9650.0	偏平	0	1/2	70%	HSa	HSa27	R28	167と接合状態で1個体	○	
167	第79号住居址	No.66		−													欠番　166と接合状態で1個体	−	×
168	第79号住居址	No.67	Ⅴ～Ⅷ	○	PT Ⅱ	188.0	98.0	61.6	1344.0	棒状	0	1/2	70%	HSa	HSa23	R24		○	
169	第79号住居址	No.68	Ⅳ	○	PT Ⅱ	186.0	98.0	53.5	504.0	棒状	2	1/4	60%	HSa	HSa29	R30		○	
170	第79号住居址	No.69	Ⅴ～Ⅷ	○	PT Ⅱ	87.5	90.0	50.2	1572.0	棒状	2	3/4	80%	HSa	HSa29	R30		○	
171	第79号住居址	No.70	Ⅳ	○	PTC	51.1	62.5	24.7	74.0	偏平	4	1/16	20%	HSa	HSa03	R03		○	
172	第79号住居址	ベルト東	不明	×	PTC	78.9	70.6	100.6	502.0	偏平	3	1/12	40%	HSa	HSa01	R01		○	
173	第79号住居址	ベルト	不明	×	PT Ⅱ	106.5	52.3	25.6	186.2	偏平	0	1/16	50%	HSa	HSa02	R02		○	
174	第79号住居址	南東	不明	×	PT Ⅱ	80.3	76.0	27.0	169.5	不整形	0	1/8	50%	HSa	HSa28	R29		○	
175	第80号住居址	No.3	Ⅱ	○	PT Ⅰ	95.8	43.0	20.6	107.0	不明	2	1/8	0%	Sl	単独			−	
176	第80号住居址	No.14	Ⅳ	○	PT Ⅰ	68.0	74.5	60.8	392.0	偏平	3	1/16	40%	HSa	単独			−	
177	第80号住居址	No.20	Ⅳ	○	PT	42.7	39.4	29.7	48.4	偏平	1	1/16	40%	HSa	HSa18			−	
178	第80号住居址	竈	不明	×	PT	74.7	100.5	34.5	234.0	不整形	1	1/4	40%	Ch	単独			−	
179	第80号住居址	竈No.5	Ⅵ	○	PT Ⅱ	63.4	33.8	23.3	33.4	不明	0	1/16	50%	HSa	単独			−	
180	第80号住居址	竈No.12	Ⅵ	○	PT	37.0	55.0	8.5	18.8	棒状	4	1/16	50%	Gr	Gr04			−	
181	第78号住居址	No.3	Ⅲ	○	PTC	258.5	230.0	81.5	4030.0	板状	1	1/4	50%	Rh	単独			−	
182	排土	−		−													欠番　161と接合状態で1個体	○	×
183	第255号ピット	No.1		○	PT Ⅰ	114.0	142.5	110.8	1930.0	卵状	1	1/2	70%	HSa	単独			−	
184	第12号溝	覆土	不明	×	PT Ⅱ	91.0	71.0	52.9	392.0	卵状	0	1/2	70%	HSa	単独			−	
185	第12号溝	覆土	不明	×	F	211.9	96.6	120.1	2476.0	偏平	2	1/12	50%	HSa	HSa01	R01		○	
186	第12号溝	覆土	不明	×	PT	73.5	85.0	40.9	358.0	板状	3	1/8	20%	Rh	Rh01			−	
187	第12号溝	覆土	不明	×	F	151.7	90.3	41.6	498.0	偏平	2	1/12	40%	HSa	HSa01	R01		○	
188	第12号溝	覆土	不明	×	PT	119.0	100.2	58.0	788.0	球状	1	1/4	50%	HSa	HSa16	R19		○	
189	第12号溝	覆土	不明	×	PT	102.0	132.0	49.1	604.0	偏平	0	1/2	80%	HSa	単独			−	
190	第12号溝	覆土	不明	×	PT Ⅰ	106.5	80.0	69.0	580.0	偏平	1	1/16	40%	HSa	単独			−	

ID	出土遺構1	出土遺構2	層序	XYZ	器種	最大長	最大幅	最大厚	重量	礫形状	分割面	残存率	礫面	石材	母岩	接合	備考	図面	欠番
191	第12号溝	覆土	不明	×	PT I	70.0	69.5	24.5	127.8	偏平	3	1/16	50%	HSa	単独			−	
192	第12号溝	覆土	不明	×	PTC	67.0	58.5	32.1	159.8	偏平	1	1/16	30%	HSa	単独			−	
193	第12号溝	覆土	不明	×	PT	92.0	75.2	43.7	274.0	不整形	0	1/16	60%	HSa	単独			−	
194	第12号溝	覆土	不明	×	PT	60.0	71.5	51.6	165.0	偏平	0	1/16	30%	HSa	単独			−	
195	第12号溝	覆土	不明	×	PT	60.1	64.6	26.4	114.2	偏平	1	1/2	50%	HSa	単独			−	
196	第12号溝	覆土	不明	×	PT	64.8	100.3	29.0	186.9	不明	0	1/8	50%	HSa	単独			−	
197	第12号溝	覆土	不明	×	PT	91.5	42.0	31.7	152.5	偏平	1	1/2	70%	HSa	HSa30	R31		○	
198	第12号溝	覆土	不明	×	PT	77.0	34.5	30.2	77.0	偏平	0	1/2	70%	HSa	HSa30	R31		○	
199	第12号溝	覆土	不明	×	PT I	92.0	127.5	60.1	748.0	偏平	1	1/4	60%	HSa	単独			−	
200	第12号溝	覆土	不明	×	PT II	87.5	127.5	50.4	612.0	偏平	0	1/4	70%	HSa	単独			−	
201	第12号溝	覆土	不明	×	PT	127.0	62.5	38.3	380.0	不明	0	1/16	40%	HSa	単独			−	
202	第12号溝	覆土	不明	×	PT	75.5	81.3	81.0	264.2	不明	0	1/4	60%	HSa	単独			−	
203	第12号溝	覆土	不明	×	PT	82.0	92.8	26.5	167.9	不明	0	1/4	50%	HSa	単独			−	
204	第12号溝	覆土	不明	×	PT	86.9	76.4	25.4	175.7	偏平	0	1/8	50%	HSa	単独			−	
205	第12号溝	覆土	不明	×	PT	89.0	61.0	42.1	227.4	偏平	0	1/8	30%	HSa	単独			−	
206	第12号溝	覆土	不明	×	PT	86.1	54.5	36.5	186.8	不整形	0	1/2	70%	HSa	単独			−	
207	第12号溝	覆土	不明	×	PT	118.2	35.5	37.5	195.2	棒状	0	1/2	60%	HSa	単独			−	
208	第12号溝	覆土	不明	×	PT	87.3	21.5	22.2	81.0	棒状	2	1/4	40%	HSa	単独			−	
209	第12号溝	覆土	不明	×	PT	76.2	57.6	39.7	163.9	偏平	0	1/8	20%	HSa	単独			−	
210	第12号溝	覆土	不明	×	PT	50.7	46.3	37.9	154.6	棒状	1	1/2	70%	HSa	単独			−	
211	第12号溝	覆土	不明	×	PT	49.2	40.9	40.6	96.5	不整形	0	1/4	60%	HSa	単独			−	
212	第12号溝	覆土	不明	×	PT I	51.6	56.3	35.8	104.7	不明	2	1/16	20%	HSa	単独			−	
213	第12号溝	覆土	不明	×	PT I	64.5	62.0	22.6	83.0	不明	3	1/16	50%	Ho	単独			−	
214	第12号溝	覆土	不明	×	PT	63.2	49.6	67.5	155.0	不整形	0	1/16	40%	HSa	単独			−	
215	第12号溝	覆土	不明	×	PT	63.4	49.5	37.8	127.6	卵状	0	1/4	40%	HSa	単独			−	
216	第12号溝	覆土	不明	×	PT II	99.4	89.0	44.9	448.0	不明	0	1/8	10%	HSa	単独			−	
217	第12号溝	覆土	不明	×	PT I	134.5	9.0	44.7	748.0	不明	2	1/8	40%	HSa	単独			−	
218	第12号溝	覆土	不明	×	PT	63.1	75.6	56.7	292.7	不整形	1	1/4	60%	Sh	単独			−	
219	第12号溝	覆土	不明	×	PT	146.8	85.0	56.7	638.0	不整形	0	1/2	70%	HSa	単独			−	
220	第12号溝	No.7		○	PT I	114.0	95.9	116.5	1338.0	棒状	2	1/8	60%	HSa	単独			−	
221	第12号溝	No.10		○	PC	66.4	114.3	45.6	422.0	偏平	0	1/2	70%	HSa	単独			−	
222	第12号溝	No.12		○	PTC	88.0	80.0	110.0	922.0	偏平	1	1/16	40%	QPo	QPo01	R05		○	
223	第12号溝	No.13		○	PT II	115.0	94.5	65.1	706.0	不整形	0	1/2	70%	HSa	単独			−	
224	第12号溝	No.15		○	PT II	58.5	107.8	28.7	168.2	不明	0	1/16	20%	HSa	単独			−	
225	第12号溝	No.18		○	PT	145.5	172.5	55.5	1434.0	不明	0	1/16	50%	HSa	単独			−	
226	第12号溝	No.19		○	PT I	84.5	33.2	79.5	295.5	不明	2	1/16	50%	Gr	単独			−	
227	第12号溝	No.20		○	PTC	195.5	135.0	79.1	1934.0	偏平	1	1/4	70%	HSa	単独			−	
228	第12号溝	No.21		○	PT II	85.2	99.5	36.4	446.0	偏平	1	1/8	50%	HSa	単独			−	
229	第12号溝	No.22		○	PT	123.8	44.2	32.0	177.3	不明	0	1/8	40%	HSa	単独			−	
230	第12号溝	No.23		○	PTC	166.5	137.0	99.5	3515.0	棒状	2	1/4	70%	Gr	Gr04			−	
231	第12号溝	No.24		○	PT	132.5	90.0	75.0	776.0	不整形	2	1/4	50%	Rh	単独			−	
232	第12号溝	No.25		○	PT I	123.0	198.5	55.9	1478.0	不明	3	1/16	30%	HSa	単独			−	
233	第12号溝	No.26		○	PTC	102.0	86.5	70.0	812.0	偏平	2	1/8	40%	HSa	HSa11	R16		○	
234	第12号溝	No.27		○	PT I	78.9	102.6	31.6	386.0	偏平	1	1/2	80%	HSa	単独			−	
235	第12号溝	No.28		○	PT I	100.5	83.5	31.7	304.0	不整形	2	1/8	50%	Gr	Gr03	R15		○	
236	第12号溝	N18EW0	不明	×	PT	76.7	42.3	20.2	82.5	偏平	2	1/4	60%	HSa	単独			−	
237	第12号溝	N27W3	不明	×	PT I	128.0	147.5	78.5	1956.0	偏平	1	1/2	70%	Gr	単独			−	
238	第12号溝	N27W6	不明	×	PT I	79.3	54.9	33.7	153.3	偏平	1	1/16	0%	HSa	HSa01			○	
239	第12号溝	N27W6	不明	×	RF	25.9	32.5	4.6	3.1	不明	0	1/16	10%	Ch	単独			−	
240	第1号礫集中	No. 1		○	PT	111.9	129.3	81.3	1454.0	偏平	0	1/2	80%	HSa	単独			−	
241	グリッド	N18EW0	不明	×	PC	89.0	83.8	20.2	175.9	板状	0	1/2	60%	Sh	単独			−	
242	グリッド	N27−30EW0	不明	×	PT	73.5	112.5	49.4	404.0	不明	0	1/8	20%	HSa	HSa19			−	
243	グリッド	N27−30EW0	不明	×	PTC	119.5	67.5	34.0	191.2	不明	3	1/16	40%	HSa	単独			−	
244	グリッド	N31W30礫層	不明	×	F	46.6	73.8	13.8	37.0	不明	0	1/16	50%	HSa	単独			−	
245	グリッド	N31W30礫層	不明	×	PTC	48.3	47.9	40.6	95.0	不明	2	1/16	40%	HSa	単独			−	
246	グリッド	N36W33	不明	×	F	52.7	55.9	11.5	27.2	不明	0	1/16	50%	Ch	単独			−	
247	グリッド	N39W24	不明	×	PT	68.5	79.4	30.1	179.9	不明	0	1/8	50%	HSa	単独			−	
248	グリッド	N48W24No.2		○	PT	114.9	101.8	65.5	720.0	不整形	0	1/4	60%	HSa	単独			−	
249	グリッド	N48W27	不明	×	MF	11.0	23.8	5.3	0.9	不明	0	1/16	50%	Ob	単独			−	
250	グリッド	N51W33	不明	×	RF	63.5	59.8	17.0	57.0	不明	0	1/16	50%	Ch	単独			−	
251	グリッド	N54W24	不明	×	PT II	88.1	53.5	30.2	151.7	不明	2	1/16	40%	HSa	単独			−	
252	グリッド	N54W24	不明	×	PT	77.4	41.0	46.9	151.9	卵状	0	1/2	60%	HSa	単独			−	
253	グリッド	N54W24	不明	×	PT	64.5	67.9	34.2	202.0	不整形	0	1/2	70%	HSa	単独			−	
254	グリッド	N54W24	不明	×	PT	67.5	45.1	19.8	107.9	板状	2	1/2	80%	HSa	単独			−	
255	グリッド	N54W27	不明	×	PT II	66.5	62.6	32.9	262.9	板状	2	1/4	70%	HSa	単独			−	
256	グリッド	N54W27	不明	×	PT I	30.3	33.6	30.8	37.8	不明	2	1/16	40%	Qu	単独			−	
257	グリッド	N54W33No.2		○	PT	109.7	79.2	45.7	362.0	不整形	0	1/8	60%	HSa	単独			−	
258	グリッド	N54W30No.5		○	PT	127.0	39.7	49.5	287.6	棒状	0	1/2	60%	HSa	単独			−	
259	グリッド	N57W30No.2		○	PT I	158.0	94.5	61.0	666.0	不整形	0	1/4	50%	HSa	単独			−	
260	グリッド	N57W33No.2		○	PT	146.5	70.5	48.6	352.0	棒状	0	1/4	60%	HSa	単独			−	
261	グリッド	N57W33No.2		○	PT	76.5	134.3	85.1	1052.0	不整形	0	1/2	70%	HSa	単独			−	
262	グリッド	N72W36		−													欠番	−	×
263	第2号流路	N84W45	不明	×	F	117.1	155.0	58.8	1254.0	偏平	1	1/8	50%	HSa	単独			−	
264	検出面	N18W3	不明	×	PT I	152.9	113.9	109.2	2108.0	棒状	0	1/2	60%	HSa	単独			−	
265	検出面	EW0N21−24	不明	×	PTC	119.0	91.5	54.4	668.0	偏平	3	1/16	40%	HSa	単独			−	
266	検出面	EW0N21−24	不明	×	PT I	103.8	66.0	57.9	414.0	偏平	2	1/16	40%	HSa	単独			−	
267	検出面	EW0N21−24	不明	×	PT	73.3	64.9	50.2	200.0	不明	1	1/8	60%	HSa	単独			−	
268	検出面	−	不明	×	PT II	42.5	57.3	10.7	33.4	不明	3	1/16	50%	HSa	単独			−	
269	検出面	−	不明	×	PT	28.6	67.5	13.8	37.6	不明	1	1/16	30%	HSa	単独			−	
270	検出面	−	不明	×	RF	52.6	62.6	22.2	78.5	不明	1	1/16	60%	HSa	単独			−	
271	排土	−	不明	×	MF	11.0	19.0	2.8	0.5	不明	6	1/16	0%	Ob	単独			−	
272	排土	−	不明	×	PTC	73.2	53.8	79.8	400.0	偏平	4	1/16	30%	HSa	HSa03	R03		○	
273	排土	−		−													欠番　161と接合状態で1個体	○	×
274	排土	−	不明	×	PT	45.2	19.7	17.1	13.8	不明	2	1/16	40%	Sh	単独			−	
275	グリッド	N42W27		−													欠番	−	×
276	グリッド	N42W27		−													欠番	−	×
277	グリッド	N51W30	不明	×	PT II	58.5	57.0	44.9	148.0	不明	0	1/8	40%	HSa	単独			−	
278	排土	−	不明	×	PTC	235.0	221.5	89.0	4740.0	偏平	2	1/2	70%	HSa	単独			−	

第19表　平瀬遺跡ⅡAB実測図掲載個体属性一覧

ID	出土遺構1	出土遺構2	器種	最大長	最大幅	最大厚	重量	礫形状	分割面	残存率	礫面	石材	母岩	備考	図面
ⅡAB79	第11号住居址	No.3	PⅡ	39.1	37.6	10.4	17.4	不明	0	1/1	30%	Sa	単独	海星形石製品	○
ⅡAB80	第54号土坑	No.1	Su	66.0	41.5	10.3	49.2	不明	0	1/8	0%	Sl	単独	塼仏押型転用硯形石器	○

第４章　自然遺物分析

第１節　出土炭化材・炭化物

今回の調査では、A、C地区の住居址内を中心に多くの炭化物・炭化材がみられた。それらのうち遺存状況の比較的良好なものについて可能な限り分析し、樹種の判別を試みた。分析は森 義直氏による。

第19表　平瀬遺跡出土炭化材・炭化物一覧表

No.	サンプル名・注記				取上日	樹種	備考
1	平瀬	ⅡA	5住		980709	ヒノキ・ニレ	
2	平瀬	ⅡA	6住	SW	980723	クルミ材	
3	平瀬	ⅡA	11住		980724	ヤナギ	
4	平瀬	ⅡA	11住		980724	スギ	
5	平瀬	ⅡA	11住		980724	スギ	
6	平瀬	ⅡA	11住		980724	スギ	
7	平瀬	ⅡA	11住	カマド	980723	ヒノキ・クヌギ	
8	平瀬	ⅡA	11住	NE	980717	スギ・クルミ	
9	平瀬	ⅡA	11住	NE	980721	スギ・コナラ・クルミ	
10	平瀬	ⅡA	11住	NE	980721	アカマツ	
11	平瀬	ⅡA	11住	NE	980722	ヒノキ	
12	平瀬	ⅡA	11住	SE	980717	クルミ・スギ・ケヤキ	
13	平瀬	ⅡA	11住	SW	980717	ヤナギ・クルミ	
14	平瀬	ⅡA	11住	NW	980717	ヤナギ・クリ	
15	平瀬	ⅡA	11住	ベルトN	980722	ヤナギ・クリ・クルミ・モモ	
16	平瀬	ⅡA	11住	ベルトE	980722	ヤナギ、クルミ、クヌギ	
17	平瀬	ⅡA	30住	N	980721	スギ	
18	平瀬	ⅡA	30住	S	980722	コナラ	
19	平瀬	ⅡA	30住	S	980721	クヌギ・モミ	
20	平瀬	ⅡA	土集３坩内		980717	特になし	
21	平瀬	ⅡC	44住	SW	981002	落 コナラ	
22	平瀬	ⅡC	47住	NE	981002	落 ニレ	
23	平瀬	ⅡC	51住	No.8	981027	落 コナラと樹皮	
24	平瀬	ⅡC	51住	No.9	981027	コナラ片	
25	平瀬	ⅡC	51住	No.10	981027	針葉樹炭片	
26	平瀬	ⅡC	51住		981105	落 コナラ	
27	平瀬	ⅡC	52住	No.20	981218		記載なし
28	平瀬	ⅡC	52住	No.20	981218	スギ	
29	平瀬	ⅡC	52住	No.20	981218	針葉樹(スギ)とコナラ	
30	平瀬	ⅡC	52住	No.45	981219	コナラ	
31	平瀬	ⅡC	52住	No.45-2	981219	落 クリ材建築部材か	
32	平瀬	ⅡC	52住	SE覆土	981217		シカの足骨の骨片
33	平瀬	ⅡC	52住	SW覆土	981217	ヒノキ	
34	平瀬	ⅡC	52住		981028	コナラ片	
35	平瀬	ⅡC	52住		981028	針葉樹その他	
36	平瀬	ⅡC	52住		981028	針葉樹スギ材	
37	平瀬	ⅡC	52住		981028	コナラ片	
38	平瀬	ⅡC	55住	No.13	981107		サンドパイプ虫穴に鉄分が入ったもの
39	平瀬	ⅡC	55住	No.14	981107	炭の微小片	
40	平瀬	ⅡC	62住	S	981009	コナラ片？	
41	平瀬	ⅡC	63住	P7No.1	981118	全コナラ	
42	平瀬	ⅡC	63住	P9No.1	981120	白色の物質(石英粒、長石粒) 黒色の物質は何か不明気泡多しこの両者が混ざっている所あり従って同時に(何等かの目的)で(何かを作る)為に使った一部と推定される	
43	平瀬	ⅡC	63住		981111	コナラ	
44	平瀬	ⅡC	67住	No.22		コナラ	
45	平瀬	ⅡC	67住	No.31		コナラ	
46	平瀬	ⅡC	67住	No.35	981217	クリ	
47	平瀬	ⅡC	67住	No.38	981217	コナラ	
48	平瀬	ⅡC	67住	No.39	981217	コナラ	
49	平瀬	ⅡC	67住	ベルト	981215	コナラ	
50	平瀬	ⅡC	79住	No.2	981218	灰化、針葉樹片(多) コナラ片(少)	
51	平瀬	ⅡC	79住	No.5	981218	針葉樹片 コナラ片	
52	平瀬	ⅡC	79住	No.8	981218	スギ小片	
53	平瀬	ⅡC	79住	No.10	981218	スギ片等不明な針葉樹	
54	平瀬	ⅡC	79住	No.35	981219	スギ	
55	平瀬	ⅡC	79住	No.38	981219	針葉樹片 ヒノキ？	

No.	サンプル名・注記				取上日	樹種	備考
56	平瀬	ⅡC	79住	No.39	981219	針葉樹片 コナラ片	
57	平瀬	ⅡC	79住	No.39	981219	スギ	No.39の追加
58	平瀬	ⅡC	79住	No.53	981219	スギ	
59	平瀬	ⅡC	79住	No.53	981219	(構築材？) コナラ	
60	平瀬	ⅡC	79住	No.54	981219	コナラ	
61	平瀬	ⅡC	79住	No.54	981219	灰化ひどい コナラ？＋α	
62	平瀬	ⅡC	79住	No.54	981219	コナラ	
63	平瀬	ⅡC	79住	No.54	981219	スギ	
64	平瀬	ⅡC	79住	No.54	981221	灰化ひどい スギ？クリ？の小片	
65	平瀬	ⅡC	79住	SE覆土	981217	スギ	
66	平瀬	ⅡC	80住	P1No.1	981222	ヤマザクラ	
67	平瀬	ⅡC	P262	No.1	990118	特になし	灰中に微少炭化物が見られ洗って調べたが種子と断定できる物なし
68	平瀬	ⅡC	P263	No.1	980118	コナラ	
69	平瀬	ⅡC	N18EW0		981125	モミ	
70	平瀬	ⅡC	N45W24		990112	コナラの半炭化材	
71	平瀬	ⅡC	N48W33	No.1	990118	灰化ひどい落葉樹(コナラ？)	
72	平瀬	ⅡC	N51W30	No.1	990118	針葉樹の樹皮	
73	平瀬	ⅡC	N51W30	No.2	990118	灰中に澱粉質の破片あり	

第10表　平瀬遺跡樹種一覧

樹種	地区		樹種計	比率		
落葉樹	A	B		全体	A	C
クルミ	7	0	7	8．2%	20．0%	0．0%
ヤナギ	5	0	5	5．9%	14．3%	0．0%
クヌギ	3	0	3	3．5%	8．6%	0．0%
コナラ	2	25	27	31．8%	5．7%	50．0%
クリ	2	3	5	5．9%	5．7%	6．0%
ニレ	1	1	2	2．4%	2．9%	2．0%
ケヤキ	1	0	1	1．2%	2．9%	0．0%
ヤマザクラ	0	1	1	1．2%	0．0%	2．0%
落葉樹計	21	30	51	60．0%	60．0%	60．0%
針葉樹						
スギ	8	11	19	22．4%	22．9%	22．0%
モミ	2	1	3	3．5%	5．7%	2．0%
ヒノキ	3	2	5	5．9%	8．6%	4．0%
アカマツ	1	0	1	1．2%	2．9%	0．0%
不明	0	6	6	7．1%	0．0%	12．0%
針葉樹計	14	20	34	40．0%	40．0%	40．0%

総計	35	50	85			
	41%	59%				

第2節　出土炭化材放射性炭素年代測定結果

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

平瀬遺跡は、平安時代の9世紀末から中世の13世紀にかけての集落跡とされる。同時代の竪穴住居址81棟、掘立柱建物址2棟をはじめとして土坑、ピットなどが多数検出されている。また、土器、陶磁器、石器、石製品、土製品、銭貨、瓦片、鉄滓などの遺物が出土している。特に古瓦、緑釉陶器、仏教に関連すると考えられる遺物の出土から、本遺跡は寺院関連の遺跡である可能性が示唆されている。文献資料では平安時代末に存在した法住寺跡の推定地のひとつとされる。

今回の自然化学分析では、竪穴住居址の年代に関する資料を得るために竪穴住居址から検出された炭化材の放射性炭素年代測定を行う。また、材の用材選択を検討するために樹種同定を行う。

1．試料

試料は11号住居址から検出されたNo.1とNo.2の2点を放射性炭素年代測定および樹種同定に選択する。本試料は覆土中層から散発的に出土した土器、鉄器、炭化物の中の試料である。出土遺物の時期は10世紀と考えられ、住居の廃絶も同時期と考えられている。

2．分析方法

（1）放射性炭素年代測定

測定は、学習院大学放射性炭素年代測定研究室の協力を得た。なお、年代値の算出には放射性炭素の半減期としてLIBBYの半減期5,570年を使用した。また、各試料とも同位体効果の補正を行った。

（2）樹種同定

木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面を作成し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の特徴を観察し、種類を同定する。

3．結果

（1）放射性炭素年代測定

結果を第21表に示す。得られた放射性炭素年代値は、A.D.1950からの年数でみればNo.1が4世紀、No.2が8世紀頃になる。

（2）樹種同定

樹種同定結果を第21表に示す。炭化材は、針葉樹1種類(モミ属)、広葉樹1種類(アサダ)に同定された。各種類の特徴を以下に記す。

第21表　放射性炭素年代測定および樹種同定結果

試料名	試料	樹種	年代値	誤差(±)	δ 13C	測定番号
11号住居址No.1	炭化材	モミ属	1,580	50	－29.1	Gak-20428
11号住居址No.2	炭化材	アサダ	1,180	40	－28.1	Gak-20429

(1)年代値：1950年を基点とした値。同位体補正を行った値。

(2)誤差：標準偏差(ONE SIGMA)に相当する年代。

(3)δ 13C：試料炭素の13C/12C原子比を質量分析器で測定し、標準にPDBを用いて算出した。

・モミ属(Abies)　マツ科

仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やかで、晩材部は不明瞭。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は粗く、じゅず状末端壁が認められる。分野壁孔はスギ型で、1分野に1～4個。放射組織は単列。1～20細胞高。

・アサダ(Ostrya japonica Sarg.)　カバノキ科アサダ属

散孔材で、管孔は単独または放射方向に2～4個が複合して配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性～異性ＩＩＩ型、1～3細胞幅、1～30細胞高。

4．考察

（1）遺構の年代

今回の試料の検出が検出されたのは覆土中層からで、その共伴遺物が概ね10世紀代と考えられている。一方、今回得られた年代値は、共伴遺物から推定された年代よりNo.1が600年およびNo.2が約200年古い。

このことには、放射性炭素年代と暦年代の「ずれ」も考慮する必要がある。放射性炭素年代と樹木の年輪などにより確かめられた暦年代との間には過去における大気中の14C濃度変化などに起因する「ずれ」があることが知られており、

その「ずれ」は年代により数十年から数百年になることもある。最近では放射性炭素年代から暦年代に補正することも行われており、補正方法は欧米のデータに基づいて数種類ある。ただし、現時点では補正するためのデータも少なく、また、放射性炭素年代と暦年代が必ずしも１対１で対応するわけではなく年代によっては数100年以上の範囲にわたる複数の暦年代に対応する場合もある。また、今回の試料である炭化材の放射性炭素年代値は、試料となった木材の組織が形成された年代であり、木材が切り倒された年代や炭化、埋積した年代ではない。したがって、木材が大木の場合、その放射性炭素年代値は伐採年代よりも古い年代を示すことがある。さらに、今回の試料は覆土中層から検出されたもので必ずしも住居構築財ではなく、遺構周囲に存在した古い年代の材が埋積した可能性もある。

以上のことから、今回の結果は推定されている住居の年代を概ね支持するものといえるが、遺構の埋積状況および平安時代以前の本遺構周囲の状況も考慮した上で再検討したい。

（２）炭化材の樹種

11号住居址における炭化材の検出状況は住居の南壁近くから、№１と№２が縦方向に連続するように出土している。樹種同定の結果では、№１がモミ属、№２がアサダであった。このことから、２点が異なる部材に由来することは明らかである。これらの炭化材は、壁側から住居中央部に向って倒れたような形状を呈することから垂木などの構築材に由来している可能性もあるが、住居址全体における炭化材の検出状況を考慮すると構築材であるとは断定できない。

松本市内では、北方遺跡・南中遺跡で平安時代の住居構築材について樹種同定が行われている(神沢、1985)。その結果では、アカマツ(マツ属複維管束亜種)やヒノキ等の針葉樹材、アキニレ(ニレ属)、キハダ、クリ、ミズナラ(コナラ節)等の広葉樹材が確認されている。この結果は、今回の調査で針葉樹材と広葉樹材が混在して出土している結果とも調和的である。

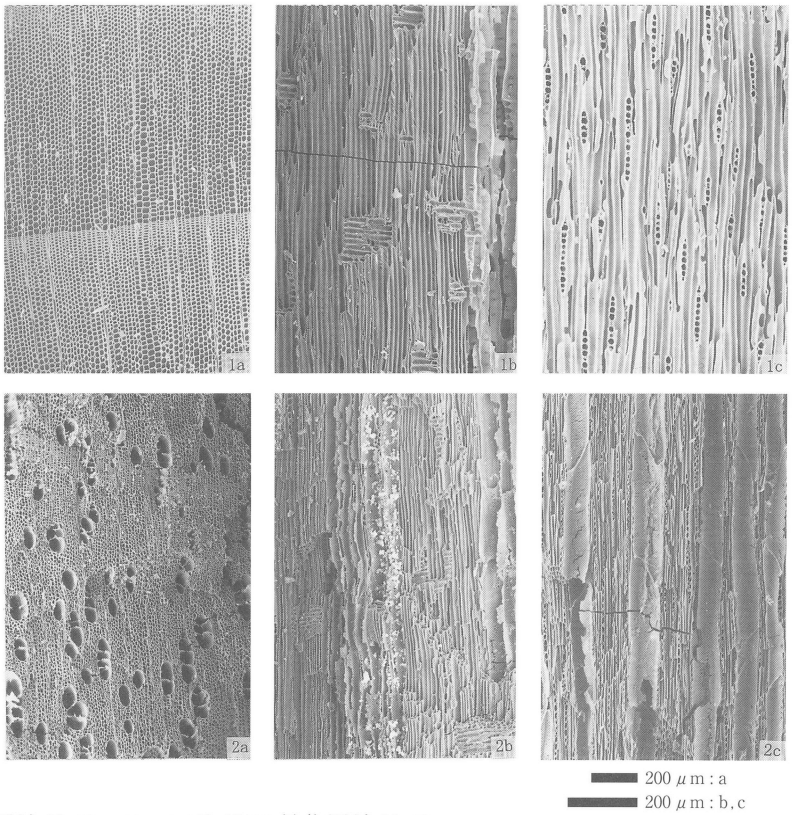
このような住居構築材は、関東地方における調査から、遺跡周辺の植生を反映することが指摘されている(高橋・高木、1994)。本遺跡や北方遺跡・南中遺跡の結果から、周辺にはモミ属等の針葉樹材、アサダ、クリ、コナラ節等の落葉広葉樹材が生育していたと考えられる。

引用文献

神沢昌二郎（1985）出土炭化物および木材について．松本市文化財調査報告№36「松本市島内遺跡群　北方遺跡・ 南中遺跡－緊急発掘調査報告書－」，p.39, 長野県中信土地改良事務所・松本市教育委員会.

高橋　敦・植木真吾（1994）樹種同定からみた住居構築材の用材選択．PALYNO, 2, p.5 － 18, パリノ・サーヴェイ株式会社

図版１　炭化材



１．モミ属(11号住居址 №1)、２．アサダ(11号住居址 №2)

a :木口、 b :柾目、 c :板目

第5章 調査のまとめ

平瀬遺跡の調査は今回で2回目である。以前からこの付近で平安時代の遺物が出土することは知られており、また文献上からも法住寺、平瀬城がこの周辺に存在していたことが知られている。平成8、9年度におこなわれた、平瀬緑地造成に先立つ第1次調査では、銅製三尊仏像、銅椀等といった仏教関連遺物が出土し、法住寺についてはその存在を示唆する資料を得ている。しかし寺院に直接関連した遺構は確認されなかった。今回の調査において検出できるのではないかということで、その確認を期待していた。

今回の調査においても、基壇等の寺院に直接関連する遺構の検出はされなかった。しかし、①平安時代から鎌倉時代にかけての集落の確認、②三尊仏像の彫刻された石製硯の出土、③古墳時代遺構(住居址・土器集中域等)の確認等という多大な成果を得ることができた。ここでは、これらの点を中心に簡単に考察してみたい。

①について、古くよりこの周辺は青磁、白磁といった輸入陶磁器片が出土しているところで、法住寺の位置は今回調査地の範囲内に収まるであろうと思われていた。そのため当初は寺院関連遺構の検出を期待していたが、確認された遺構は竪穴住居址を中心とするものであった。調査区南部を中心に76軒を確認している。これらは、古墳時代中期に属する1軒を除き、古代から中世にかけての集落を構成していたものとみられ、大きくは平安時代前期の9～10世紀に属するもの、平安時代末の11～12世紀に属するもの、鎌倉時代の13～14世紀に属するものと大別できるが、大半は11～13世紀、すなわち平安時代後期から鎌倉時代に属するとみられている。これは法住寺が文献上で確認されている養和2年(1182)前後を含む時期であるといえる。つまりこの集落は法住寺と同時に存在したものと考えるのが妥当であるといえる。このことから法住寺は、今回の調査区域内には存在せず、別の場所にあったという結論が導き出される。ただ、②がいわゆる塼仏の型だとすれば、それは直接寺院の装飾にかかわるものであり、そうした遺物が出土しているという点、破片ではあるが多くの布目瓦が出土しているという点、それに第2章第3節で述べた第1次調査結果を合わせて考えると、法住寺が建っていた場所は今回、前回調査地からそう遠い場所ではないように思われる。とすれば今回確認された集落跡は、法住寺の周囲に展開していたものとみてよい。では法住寺の位置はどこであろうか、もちろん規模が不明であるため、その収まる範囲も不明であるが、地名・伝承等から想定してみると、i 調査区の北東側隣接地、ここには、近年新しい道路の付け替えなどにより失われてしまったが経塚と思しき塚があったといわれ、その周辺から多くの土器(輸入陶磁器を含む)が出土したといわれ、また寺畑等の小字が散在している。ii 今回調査区及び川合鶴宮神社の南側隣接地、ここには「寺村」地籍が凡そ東西140m×南北190mの範囲で広がっており、近代までその地名を残している(大日本帝国陸地測量部大正2年発行1:25000地形図「豊科」)。と大きくはこの2ヶ所が考えられる。無論これらの範囲は未調査であり、結論については今後この周辺での調査結果を待つことになる。

平瀬城について、その存在の最後の時期については第2章第2節で述べたとおり文献に残っており、平瀬氏滅亡後、武田氏が平瀬城を安曇郡攻略の前線基地として使用していたことが知られる。しかしその位置についても、前回、今回ともに明らかにすることはできなかった。確認できた中世の遺構は、今回の調査ではA地区南部で検出した2軒の住居址と、B地区の2軒の住居址他、前回は1次A、Bの各1軒他である。いずれも遺物は少ないが、13～14世紀に帰属するとみられる青磁片、土師器皿、陶器片等が出土していることから、それらの遺構は鎌倉時代に属すると考える。文献に表われる平瀬城、すなわち武田氏が統治していた16世紀中頃～後半の時期(室町時代最末)の遺構は確認できていない。またその時期に該当する遺物も非常に少ない。通常戦国期の城(砦的なものを除く)は、平時の政庁施設及び居住空間である館と、合戦等有事の際に立て篭もる山城(詰めの城)で構成されている。平瀬城の場合、山城は平瀬川東の平瀬城(北の城、南の城)とされているが、館については正確な位置は不明である。前述の通り川合鶴宮神社境内が比定されているが、現在まで発掘調査は行われていないため不明である。本調査に先立って実施(平成10年6月25日)された神社の南東隣接地である平瀬川西町会公民館建設に伴う試掘調査においても何らの遺構、遺物を確認していない。ただ神社東側の土手下において、宅地造成基礎の掘り方内から、南北方向を指向し、西側の土手に並行した幅2mほどの溝の存在が確認されている。これが館を囲繞する堀のうち東側の一部分である可能性があるが、それについても調査を実施したわけではないので、ここで断言することはできない。いずれにせよ、今回の調査範囲は平瀬館跡部分には該当せず、その関連遺構を検出することはできなかった。

③について、現在まで、島内地区では古墳時代の遺構(古墳を除く)は見つかっていない。古墳は、坂下(泣坂)古墳群・下平瀬権現堂古墳が平瀬川東地区に、高松立石古墳が高松地区にそれぞれ存在している。高松立石古墳は、遺物から7世紀の古墳とみられている。坂下(泣坂)古墳群は、平成2年に周辺調査が実施されているが、遺構・遺物を得るに至っていない。この古墳の被葬者の集落を平瀬にもとめる見方もあるが、墳丘自体の調査が行われていないため